

本 編

目 次

I. 調査概要	1
II. 調査結果	
1. 東京湾に関する環境データ等の収集・整理	
(1) 気象	2
(2) 海象	6
(3) 地形	10
(4) 底質	12
(5) 水質	14
(6) 流入負荷量	25
(7) 生物生息状況	27
(8) 漁業	31
(9) 自然環境	35
(10) 水域の利用状況	37
(11) 東京湾の環境の変遷	41
(12) 東京湾の地形の変遷	45
(13) 東京湾沿岸の産業の変遷	48
(14) 東京湾沿岸の風土の変遷	58
(15) 海域区分の検討	62
2. 東京湾流域・海域における多様な主体との連携を推進するための課題の抽出	
2-1. 東京湾流域住民へのアンケート	
(1) アンケートの概要	64
(2) アンケート結果	75
1) 質問項目別整理結果	75
2) クロス集計結果	100
(3) アンケート結果の整理	142
2-2. 東京湾において活動するNPO等の市民団体へのアンケート	
(1) アンケートの概要	145
(2) アンケート結果	148
1) 質問項目別整理結果	158
2) クロス集計結果	177
(3) アンケート結果の整理	193
2-3. アンケート結果のまとめ	195
3. 順応的管理手法を導入した海域の事業実施方策の検討	
(1) 東京湾内で想定される水質環境改善方策の検討	199
(2) 順応的管理の目標設定の考え方	203
(3) 目標達成基準の設定の考え方の検討	207

(4) 多様な主体と連携した順応的管理の検討	239
(5) 順応的管理を導入した事業実施方策の検討	243
4. ケーススタディ	
(1) 検討対象	247
(2) 浚渫土砂の活用方策	248
5. 大都市圏の海の再生を効果的・効率的に推進する方策の検討	
(1) 東京湾における検討結果の概要	259
(2) 大都市圏の周辺海域の現状	264
(3) 大都市圏で海の再生をすすめるための施策	273
(4) 実現に向けての課題	275
添付資料ー1 東京湾流域住民アンケート用紙・説明資料	279
添付資料ー2 東京湾 NPO アンケート用紙・説明資料	299

I. 調査概要

1. 業務名

大都市圏を背後に持つ閉鎖性海域における効率的・効果的事業実施方策検討業務

2. 業務目的

東京湾では、水環境の再生に向けて東京湾再生推進会議が設置され、同会議が策定した東京湾再生のための行動計画に基づく取組が進められているところである。しかし、平成19年3月に行われた同計画の中間評価において、東京湾は再生の目標達成に至っておらず、さらなる施策を効率的・効果的に推進することが必要であるとされた。

海域における自然再生事業を効率的・効果的に実施するためには、自然環境の不確実性や合意形成の重要性を考慮し、事業実施中からモニタリングを継続的に実施し、その結果を当該事業にフィードバックさせる順応的管理が効果的手法の一つである。

本業務は、東京湾の水環境再生に向けて、順応的管理を導入した効率的・効果的な海域における自然再生事業の実施方策を検討し、大都市圏の海の再生を効率的・効果的に図る方策を取りまとめることを目的としたものである。

3. 業務期間

自 平成19年10月25日

至 平成20年3月21日

II. 調査結果

1. 東京湾に関する環境データ等の収集・整理

(1) 気象

図Ⅱ.1.1に東京湾周辺の気象状況、表Ⅱ.1.1に平年値と近年の平均値（2005～2007年）との比較を示す。

平年値（※1）で見ると、気温は各地点とも1月に6℃前後で最も低く、8月に26～27℃で最も高い季節変化を示している。降水量は各地点とも1月（40～60mm程度）で低く、9月（190～230mm程度）が高い。年間降水量では、千葉の1,293.8mmに対して、館山では1,757.4mmで最も高い。また、日照時間は、5月あるいは8月に高く、180～220時間程度である。各年代の気温、降水量および日照時間も概ね平年値と同様な季節変化を示している。

また、平年値と2005～2007年の平均値を比較すると、気温は各地点で0.4～0.8℃高い。降水量は東京、千葉および館山で若干多く、横浜で少ない。日照時間は東京、横浜および千葉でほとんど変わらず、館山で約7時間少ない。

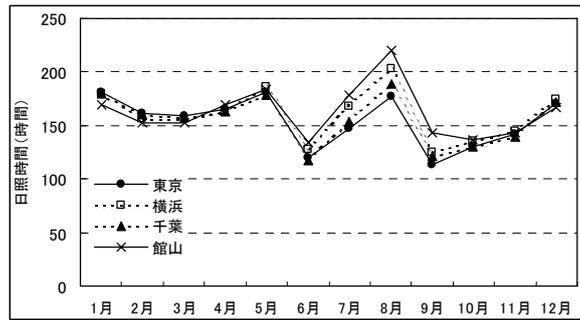
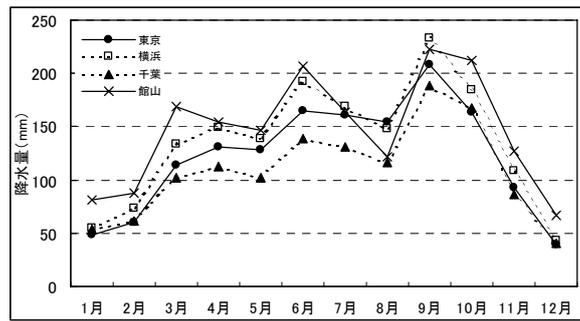
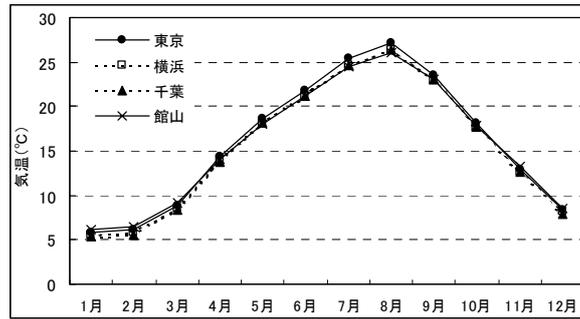
表Ⅱ.1.1 平年値との比較

地点	気温(°C)			降水量(mm)			日照時間(時間)		
	年平均値 (平年値)	2005～2007年		年合計値 (平年値)	2005～2007年		年平均値 (平年値)	2005～2007年	
		年平均値	平年値 との差		年合計値	平年値 との差		年平均値	平年値 との差
東京	15.9	16.5	0.6	1,466.8	1,518.0	51.2	153.9	154.1	0.2
横浜	15.5	16.1	0.6	1,628.7	1,577.2	-51.5	160.1	160.0	-0.1
千葉	15.4	16.1	0.8	1,299.5	1,410.2	110.7	155.1	156.0	0.9
館山	15.7	16.1	0.4	1,757.5	1,772.3	14.8	162.5	155.4	-7.1

注) 気象庁ホームページ (<http://www.jma.go.jp>) より、各項目の平年値（1971年～2000年）および平均値（2005～2007年）で表を作成した。

※1) 平年値は、その時々気象（気温、降水量、日照時間など）や天候（冷夏、暖冬、少雨、多雨など）を評価する基準として利用されるとともに、その地点の気候を表す値として用いられている。平年値は西暦年の末尾が1の年から数えて、連続する30年間について算出した累年平均値をいい、これをその統計期間に引き続く10年間使用し、10年ごとに更新している。従って、2001～2010年の間は、1971～2000年の資料から算出された平年値を使用する。

(平年値：1971年～2000年)

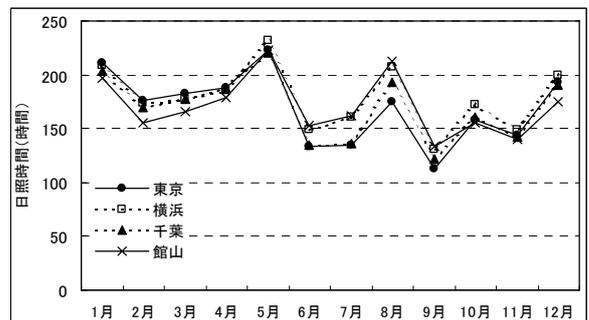
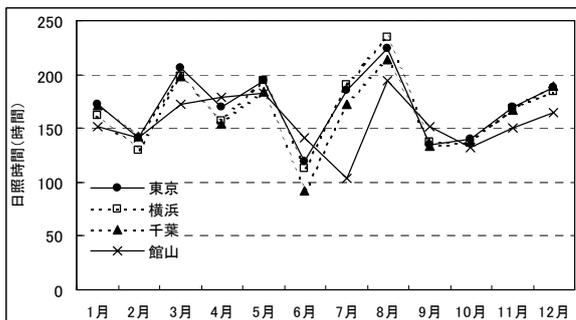
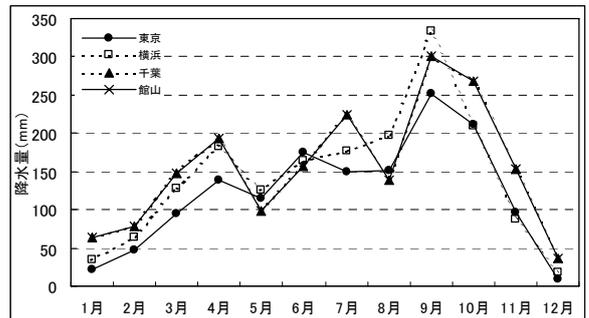
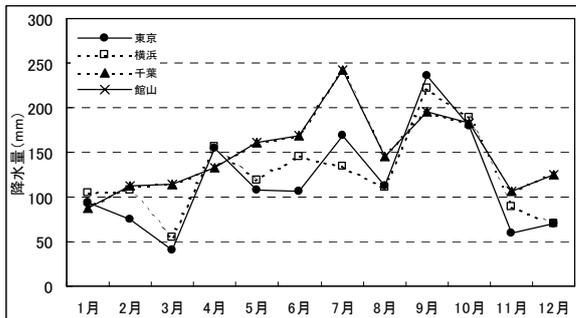
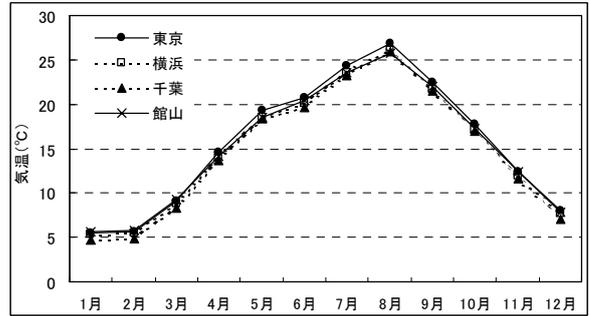
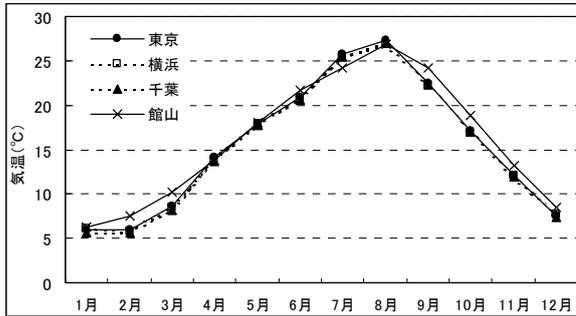


注) 気象庁ホームページ (<http://www.jma.go.jp>) より、
各項目の平年値 (1971年～2000年) でグラフを作成した。

図Ⅱ.1.1 (1) 東京湾周辺の気象状況

(平均値：1971年～1973年)

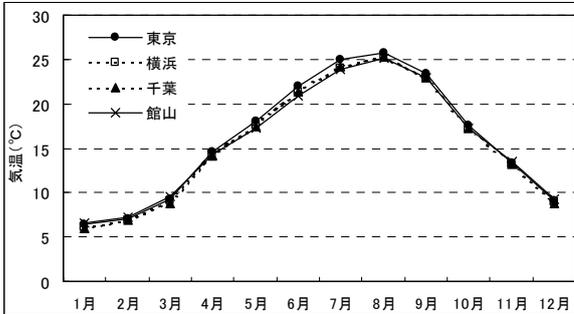
(平均値：1981年～1983年)



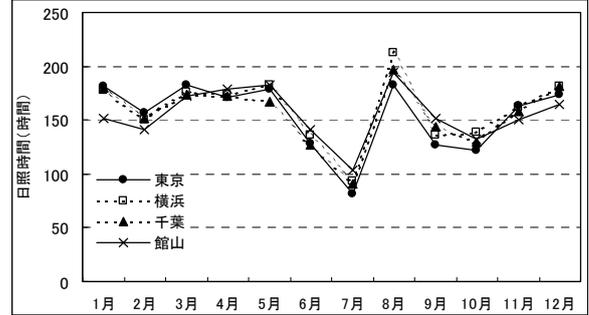
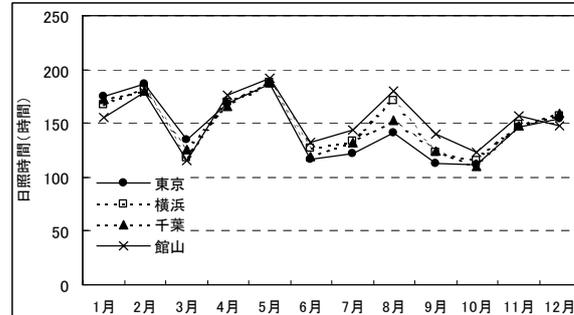
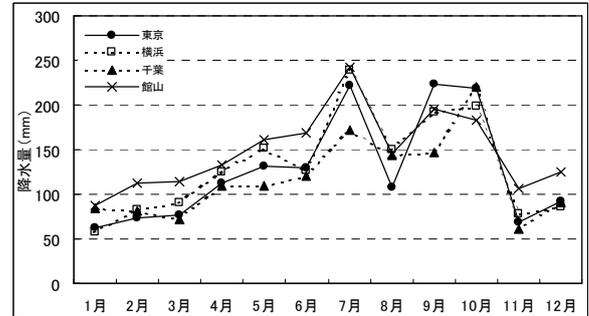
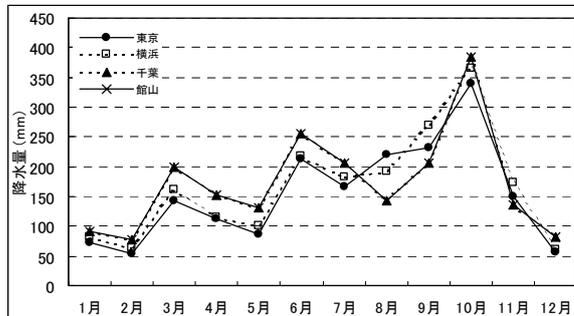
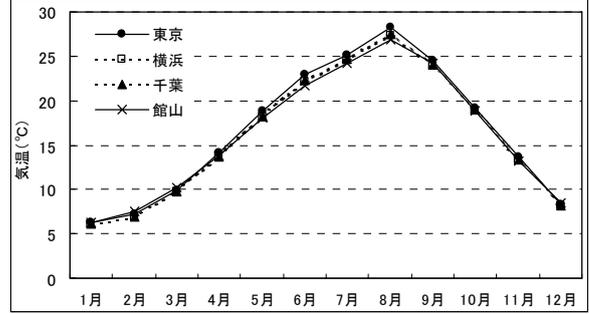
注) 気象庁ホームページ (<http://www.jma.go.jp>) より、項目別に各年代の平均値でグラフを作成した。

図Ⅱ.1.1 (2) 東京湾周辺の気象状況

(平均値：1991年～1993年)



(平均値：2005年～2007年)



注) 気象庁ホームページ (<http://www.jma.go.jp>) より、項目別に各年代の平均値でグラフを作成した。

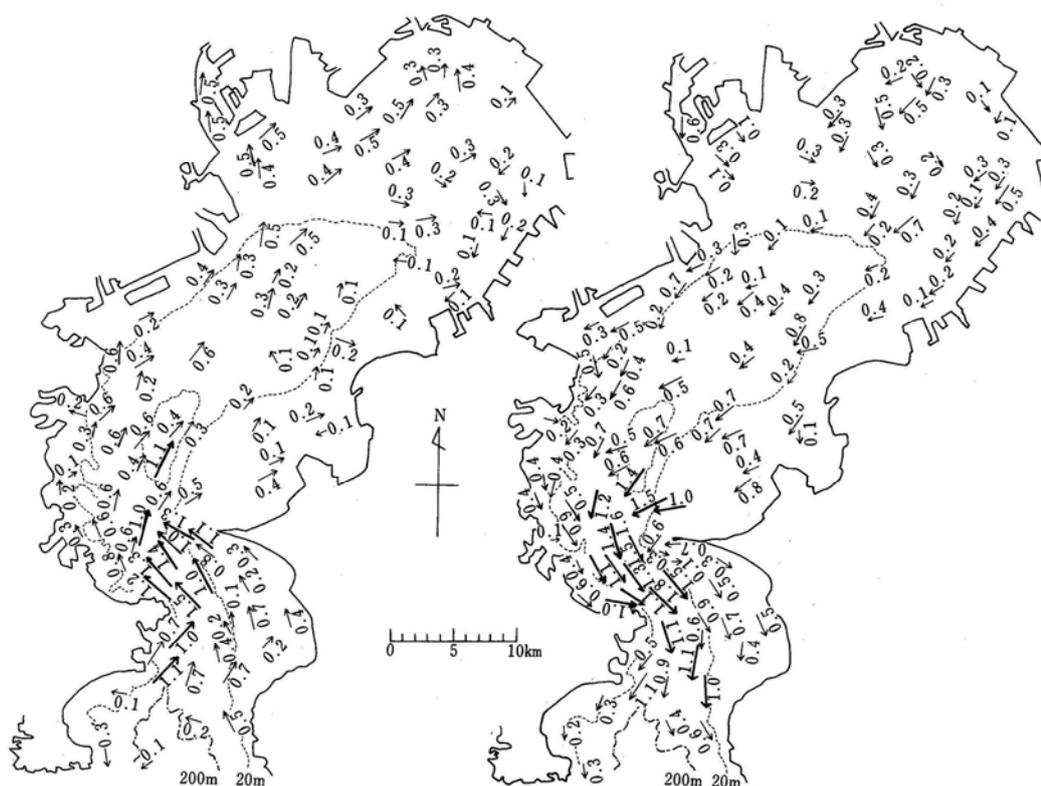
図Ⅱ.1.1 (3) 東京湾周辺の気象状況

(2) 海象

図Ⅱ.1.2に東京湾における潮流の状況(湾口最強時)、図Ⅱ.1.3に東京湾における平均流(1ヵ月間)、図Ⅱ.1.4に風と流れの関係、図Ⅱ.1.5に東京湾への淡水流入量の季節変化、図Ⅱ.1.6に東京湾における海水滞留時間の季節変化をそれぞれ示す。

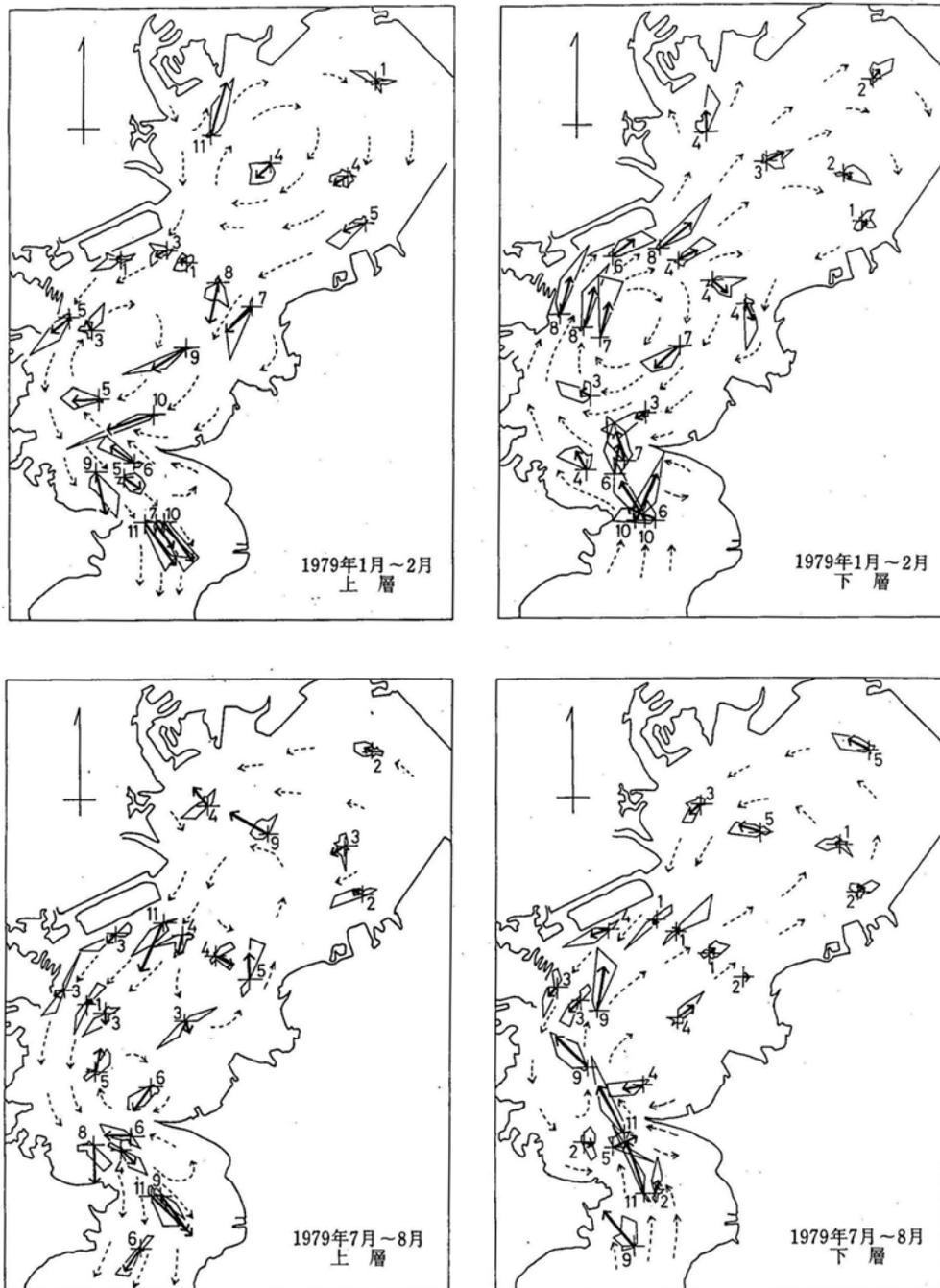
東京湾における潮位は1日2回の半日周潮が卓越していることに対応し、潮流も半日周潮流が卓越している。潮流は干潮から満潮まで湾内へ海水が流入して上げ潮となり、満潮後に干潮に向けて下げ潮となる。上げ潮および下げ潮とも概ね湾の主軸方向に沿っており、観音崎と富津岬間の狭窄した部分では1.5~2.0ノット(0.75~1.0m/s)の強い流れとなっている。

平均流(1ヵ月間)は、湾奥部では冬季(1~2月)には北寄りの季節風の卓越により時計回りの還流、夏季(7~8月)には南西の季節風により反時計回りの還流がそれぞれみられる。



出典：東京湾の地形・地質と水(1993)，貝塚爽平，築地書館

図Ⅱ.1.2 東京湾における潮流の状況(湾口最強時)

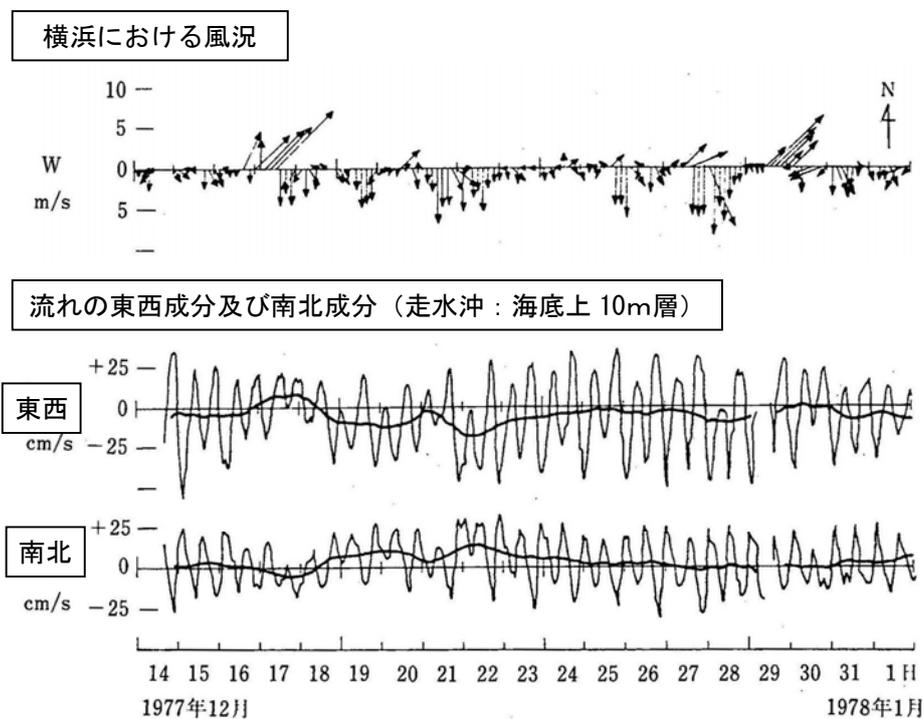


出典：東京湾の地形・地質と水（1993），貝塚爽平，築地書館

図Ⅱ.1.3 東京湾における平均流（1ヵ月間）

図Ⅱ.1.4は東京湾口に位置する走水沖の海底上10m層（水深：65m）の流れと横浜の風況を比較したものである。走水沖では地形的に北西が湾内への流入、南東が流出の方向となる。

恒流（太い実線）と風の変動をみると、北風が強まると湾内へ流入する流れが大きくなり、南寄りの風が強まると流出となっている。このときには上層の流れは観測されていないが、別の観測によれば、上層の流れは北寄りの風では流出、南寄りの風では流入の傾向が認められる。このことから東京湾の流れは風の影響を強く受けていることが示唆された。



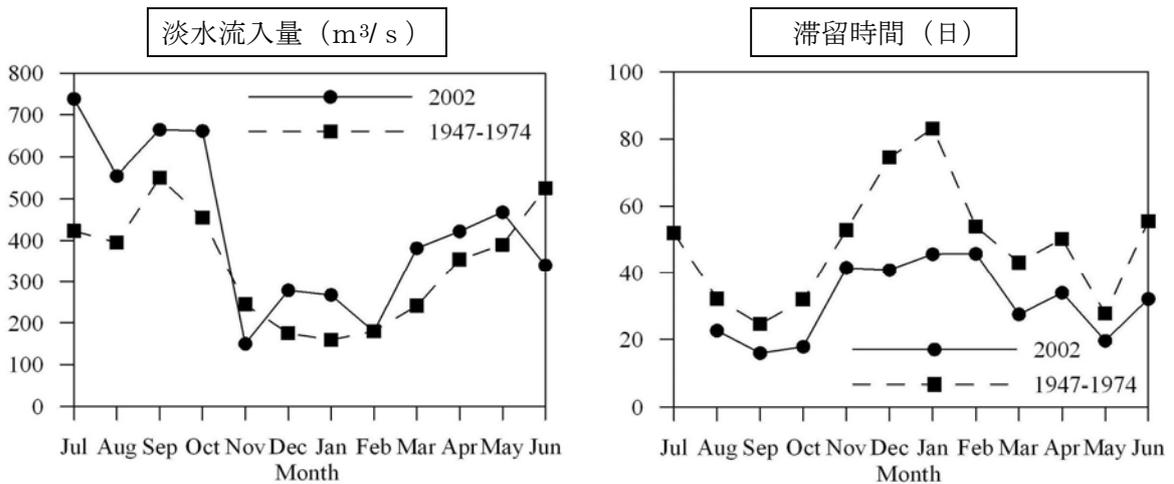
出典：東京湾の地形・地質と水（1993），貝塚爽平，築地書館

注）太い実線は恒流を示す。東西成分は東が正、南北成分は北が正である。

図Ⅱ.1.4 風と流れの関係

1947年から1974年の海水滞留時間の年平均値は48日であるのに対して、2002年の年平均値は31日であり、17日（35%）の減少を示した。海水滞留時間が減少したことは海水交換が活発になったことを意味する。

この海水滞留時間の減少は、都市化に伴う淡水流入量の増加（流域外からの導水量の増加）および海域面積の減少（河口循環流の強化）によるものと推測された。ただし、2002年の結果は単年の結果であるため、降水量の年変動成分を含んでいることを留意すべきである。



出典：岡田知也ほか，東京湾における淡水流入量および海水の滞留時間の長期変化，土木学会論文集B，Vol. 63，No. 1，p67-72，2007

図Ⅱ.1.5 東京湾への淡水流入量および海水滞留時間の季節変化

(3) 地形

図Ⅱ.1.6に海底地形図を示す。

東京湾の範囲は房総半島先端の洲崎と三浦半島の剣崎を結んだ以北と定義されている。さらに、富津岬と対岸の観音崎を結んだ北側を東京内湾、南側を東京外湾とし、区別して取り扱われることが多い。

東京内湾の海底地形は単調で、湾奥から湾口に向かって緩やかに深くなっている。横浜の本牧と富津岬の間に水深が20m以浅の浅瀬（中ノ瀬）があり、その以北の水深は30mより浅く、平坦な海底地形をしている。また、東京外湾の浦賀水道付近の海底地形は急峻で複雑であり、千葉県側の富津岬の南北には比較的広い範囲の浅瀬がみられるが、神奈川県側では等深線が込み合い、岸よりには根や礁、小島が散在している。

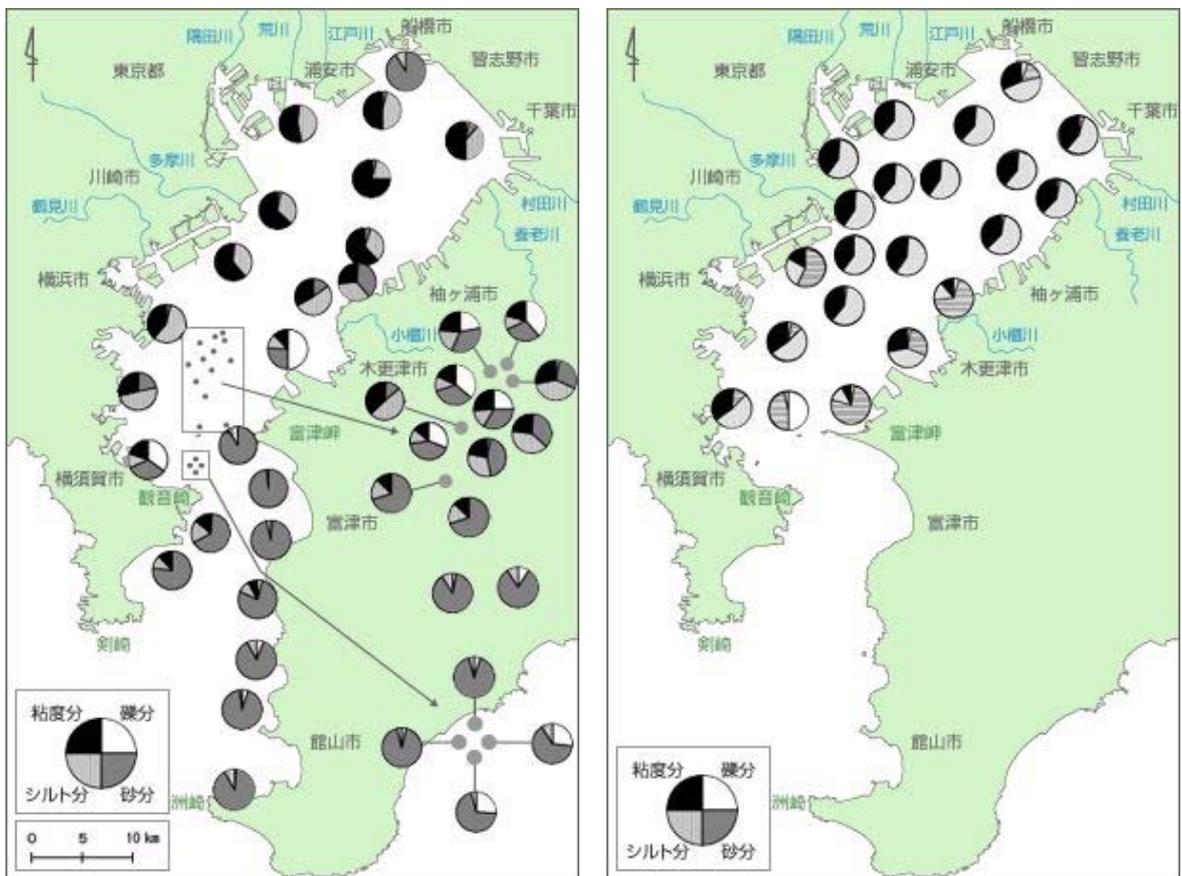
(4) 底質

図Ⅱ.1.7～図Ⅱ.1.8に底質の粒度組成およびCOD分布をそれぞれ示す。

東京内湾の中央～奥部はシルト・粘土分が多く、有機物が集積していることが認められる。この有機物が分解される過程で多量の酸素を消費し、夏季の下層における貧酸素化の一因となっている。また、有機物の集積域は、図Ⅱ.1.9(2)に示すD0が2mg/l以下(貧酸素水)の分布域と概ね一致している。

(平成6年8月)

(平成14年8月)



出典：東京湾口航路海域環境調査報告書，1995，運輸省第二港湾建設局京浜港工事事務所
国土交通省国土技術政策総合研究所資料，2002

図Ⅱ.1.7 底質（粒度組成）分布

(昭和 52 年 9 月)



(平成 6 年 8 月)



(平成 14 年 8 月)



出典：東京湾口航路海域環境調査報告書, 1995,
運輸省第二港湾建設局京浜港工事事務所
国土交通省国土技術政策総合研究所資料, 2002

図 II. 1. 8 底質 (COD) 分布

(5) 水質

①水質

図Ⅱ.1.9に水質の水平分布変化、図Ⅱ.1.10に湾奥、湾央および湾口における水質季節変化をそれぞれ示す。なお、水質季節変化の湾奥、湾央および湾口における測点は、公共用水域水質測定結果の測点を使用し、表Ⅱ.1.2に示すとおりとした。

表Ⅱ.1.2 水質季節変化の測点位置

測点名	公共用水域		類型
	水域名	地点名	
湾奥測点	東京湾 (12)	東京湾10	B
湾央測点	東京湾 (16)	中の瀬北	A
湾口測点	東京湾 (17)	浦賀沖	A

東京湾の湾奥部では、流入汚濁負荷量が大きく、湾の形状から海水交換が小さいため、全体的な傾向として湾奥部に向かい水質（COD、D₀、T-N および T-P）が悪い。また、1982～1984年度と2000～2002年度を比較すると、CODに関しては改善が認められるが、D₀、T-NおよびT-Pはほとんど変わっていない。

上層のCODは夏季に高く、冬季に低い季節変化を示す。下層は上層に比較して濃度レベルは低く、季節変化も小さい。また、年度別にみると、湾奥および湾央の上層では他の年度に比較して濃度レベルが高い。

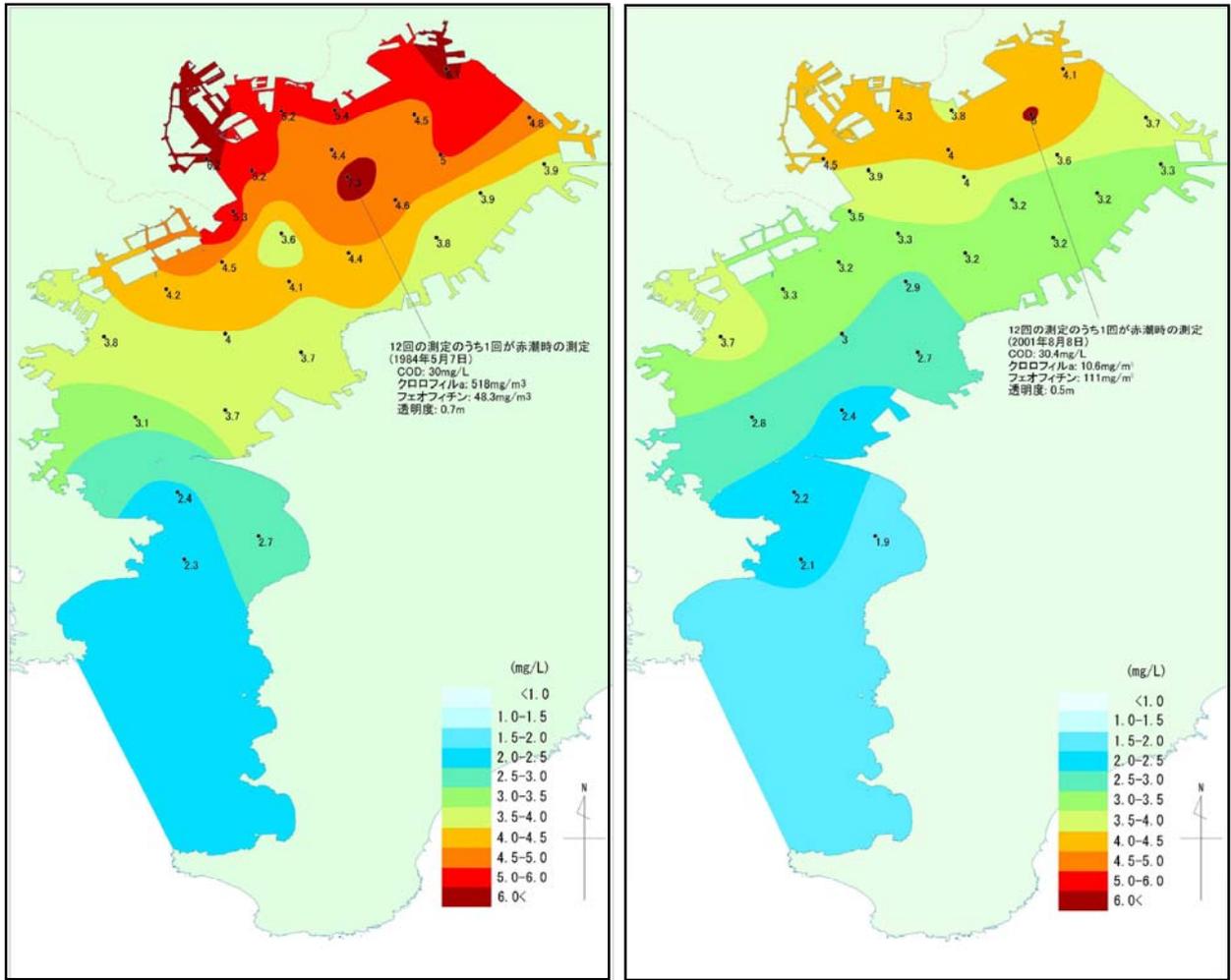
D₀は上層での顕著な季節変化はみられない。下層では春から夏にかけて低くなり、秋から冬には高くなる。湾奥では7月から9月にはD₀が2mg/l以下となる場合もみられる。この夏季における下層の貧酸素化は、1) 成層の発達に伴って生じる鉛直混合阻害による溶存酸素の下層への供給抑制および、2) 下層における内部生産による有機物と底泥中の有機物の分解で消費される酸素量が大きいことに起因する。湾奥における夏季の貧酸素状況に改善傾向はみられない。

T-Nについては、上層および下層とも顕著な季節変化はみられない。年度別にみると、全体としての濃度レベルに大きな差はない。また、T-Pについても顕著な季節変化、年度による濃度レベルの差はない。

COD

(1982～1984 年度の上層平均)

(2000～2002 年度の上層平均)



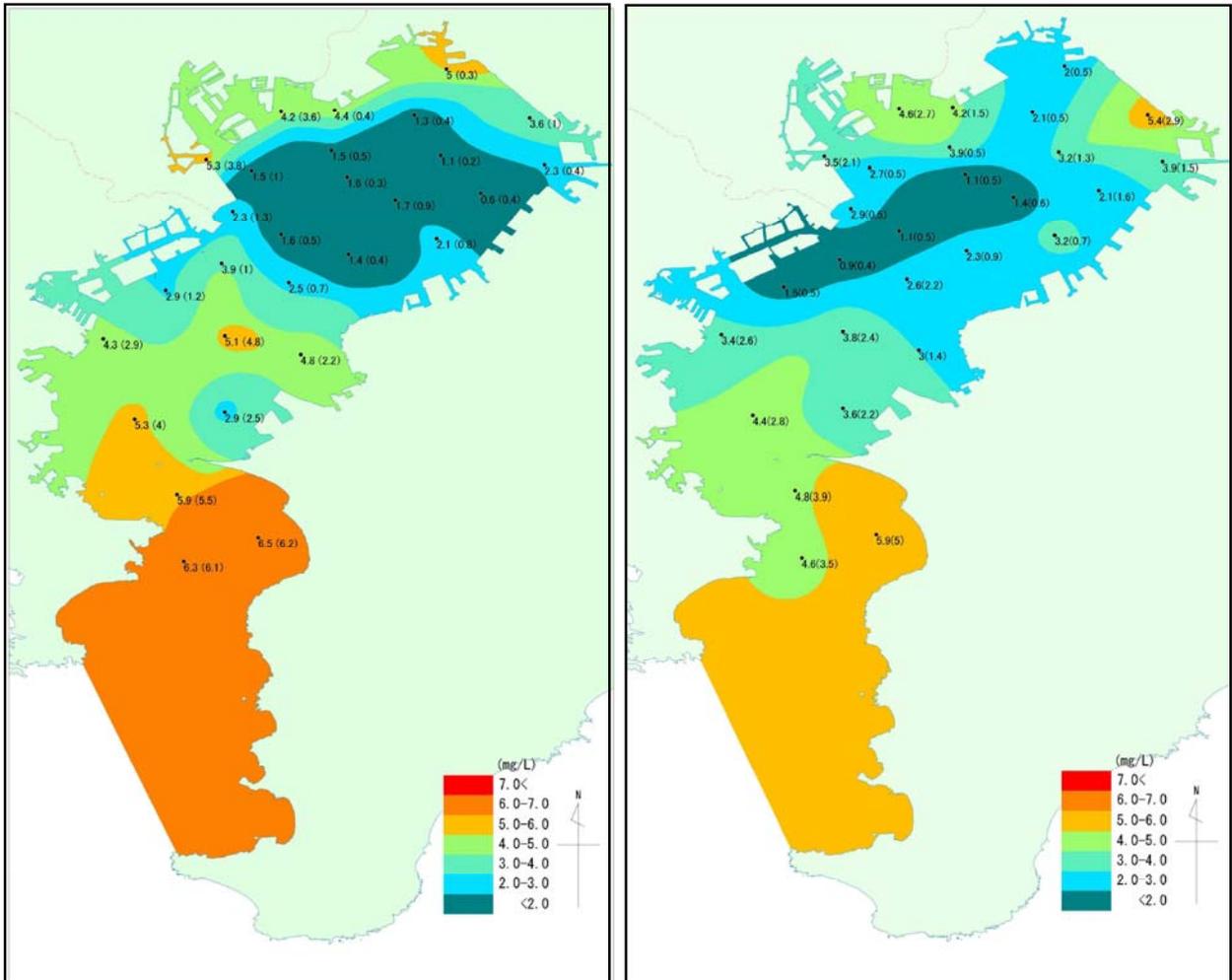
出典：中央環境審議会水環境部会
水生生物保全環境基準類型指定専門委員会（第7回）資料，2007年1月30日

図Ⅱ.1.9 (1) 水質（COD）の水平分布変化

DO

(1982～1984 年度の下層平均)

(2000～2002 年度の下層平均)



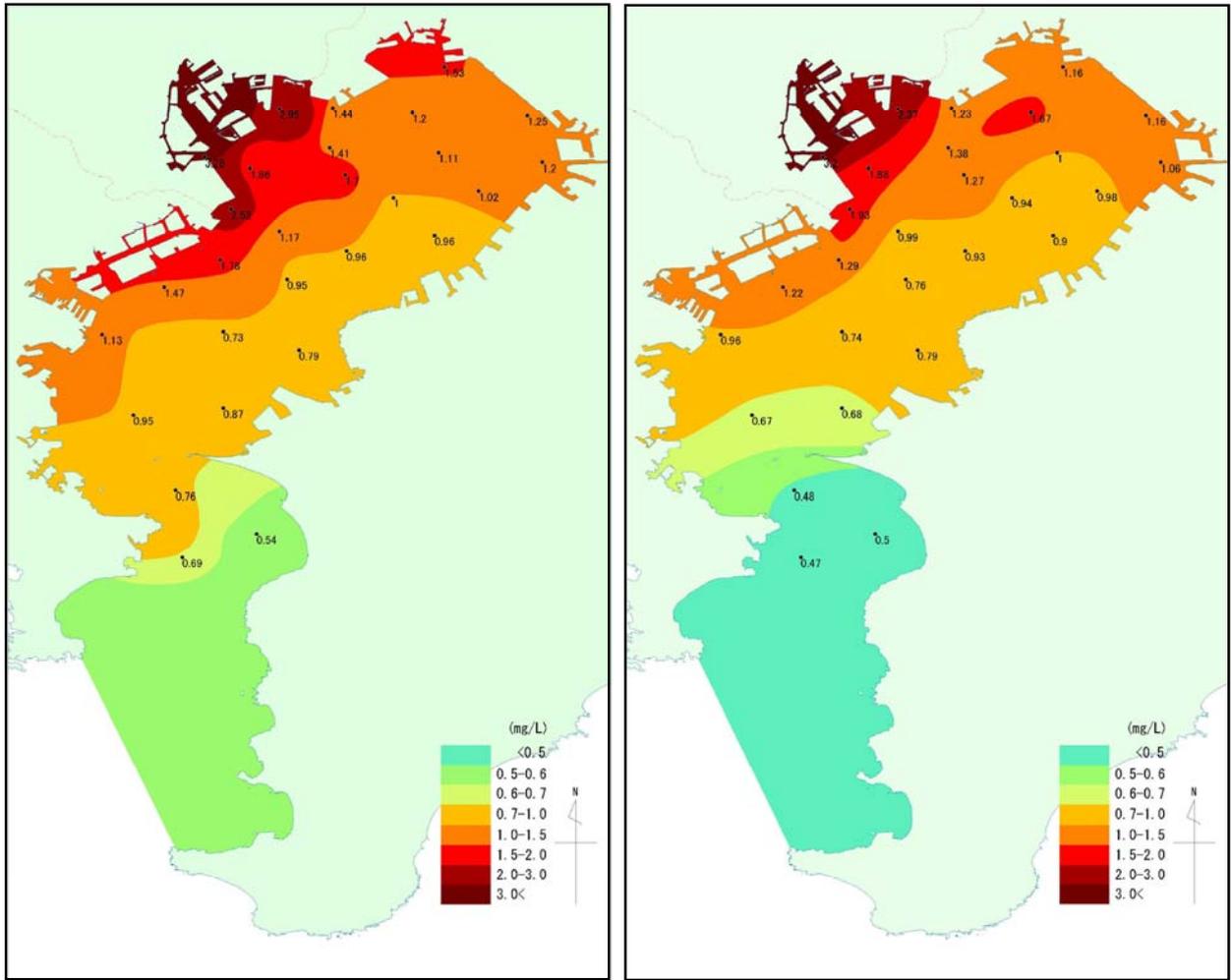
出典：中央環境審議会水環境部会
水生生物保全環境基準類型指定専門委員会（第7回）資料，2007年1月30日

図Ⅱ.1.9 (2) 水質（DO）の水平分布変化

T-N

(1982~1984 年度の上層平均)

(2000~2002 年度の上層平均)



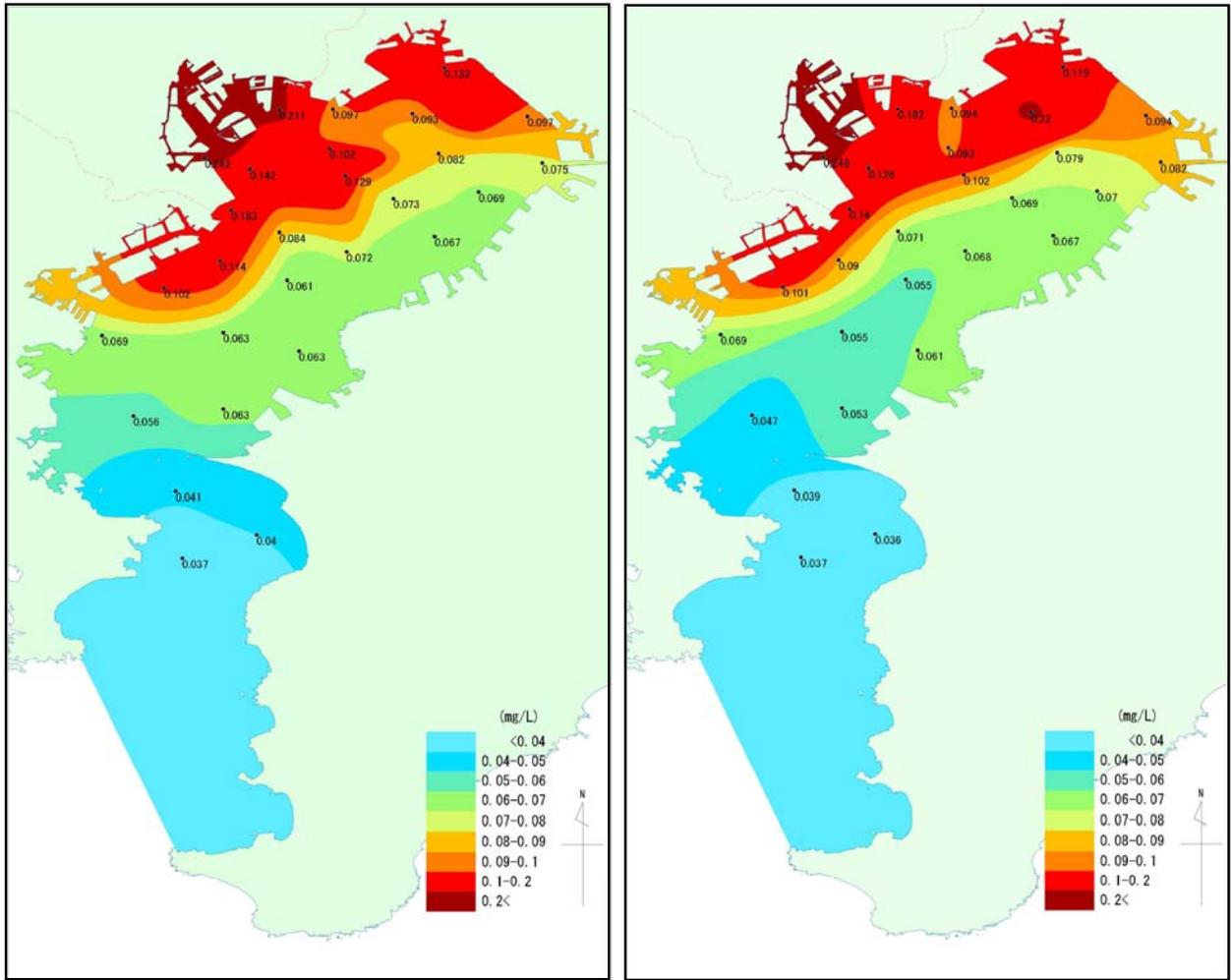
出典：中央環境審議会水環境部会
水生生物保全環境基準類型指定専門委員会（第7回）資料，2007年1月30日

図Ⅱ.1.9 (3) 上層水質（T-N）の水平分布変化

T-P

(1982~1984 年度の上層平均)

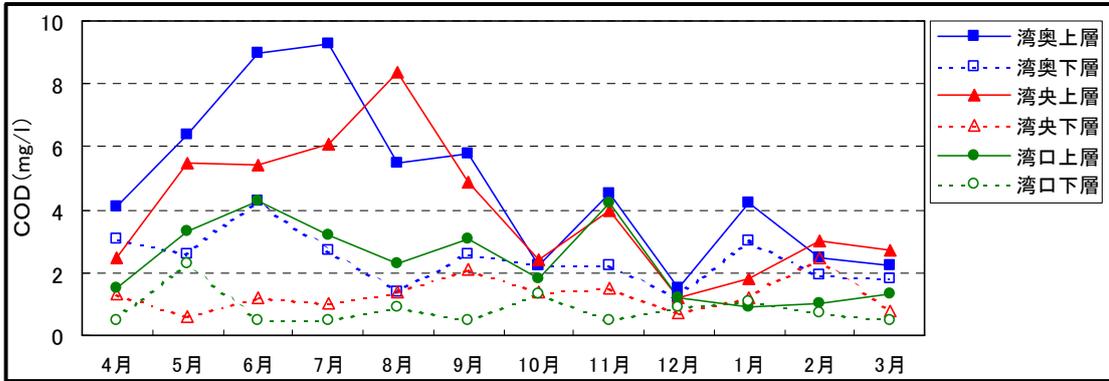
(2000~2002 年度の上層平均)



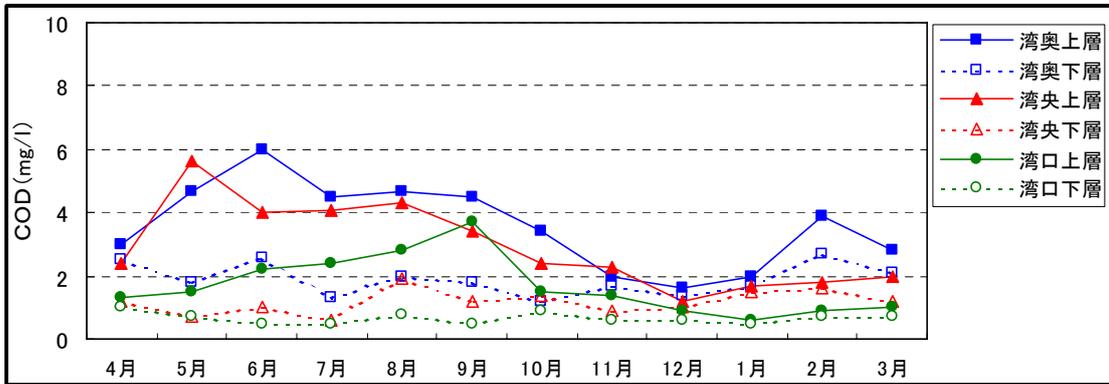
出典：中央環境審議会水環境部会
水生生物保全環境基準類型指定専門委員会（第7回）資料，2007年1月30日

図Ⅱ.1.9 (4) 上層水質 (T-P) の水平分布変化

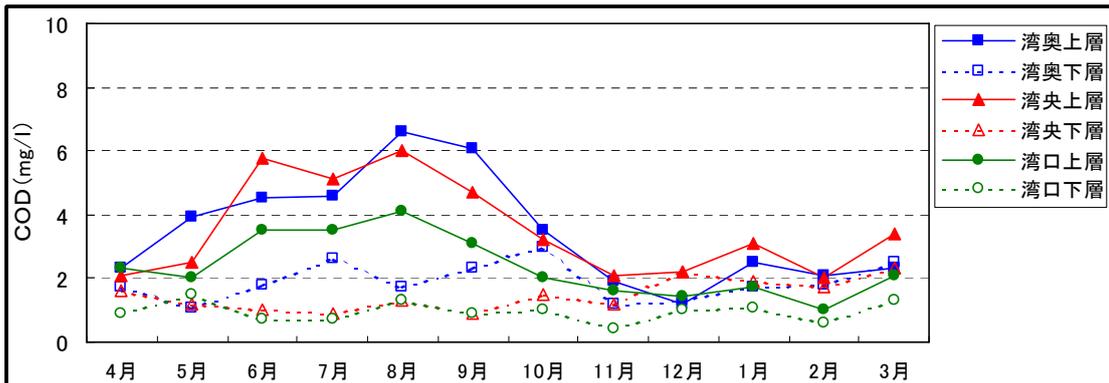
1981年4月～1982年3月



1993年4月～1994年3月



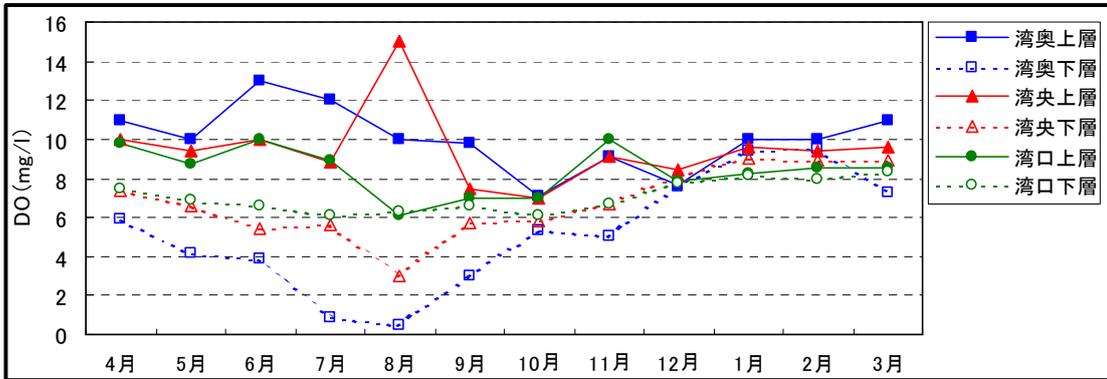
2005年4月～2006年3月



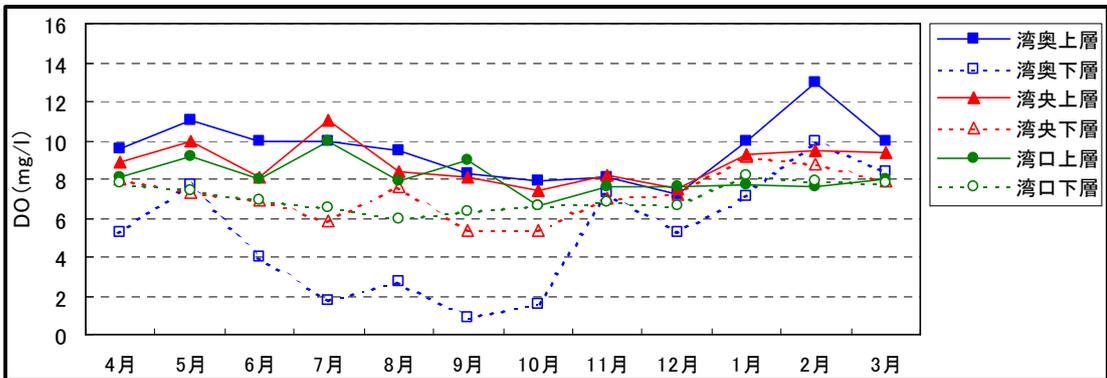
注) 環境 GIS ホームページ (www-gis.nies.go.jp) より、各項目の公共用水域水質測定結果を用いてグラフを作成した。

図Ⅱ.1.10 (1) 湾奥, 湾央および湾口における水質季節変化 (COD)

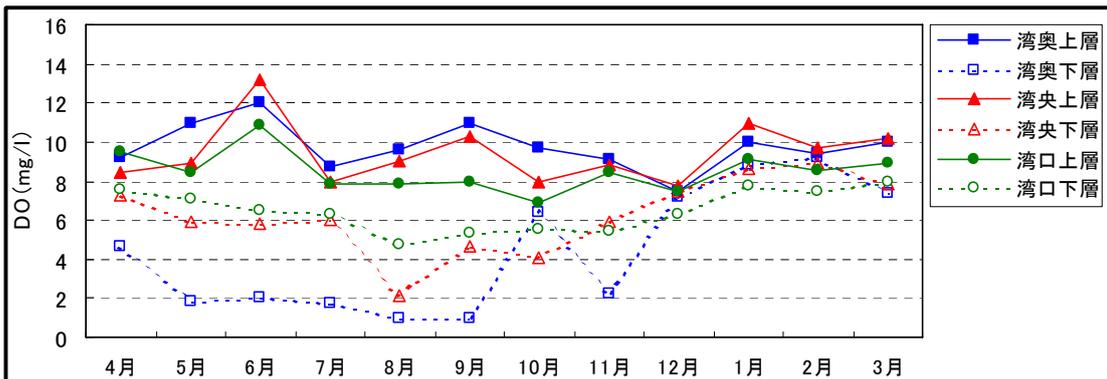
1981年4月～1982年3月



1993年4月～1994年3月



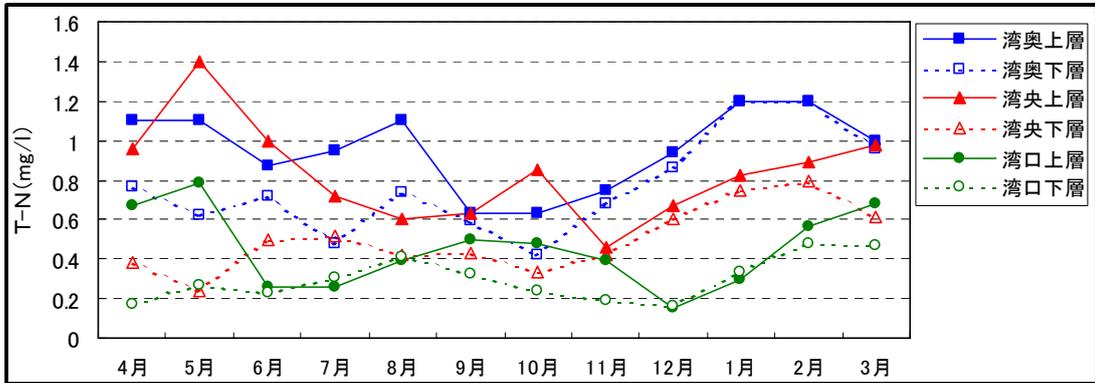
2005年4月～2006年3月



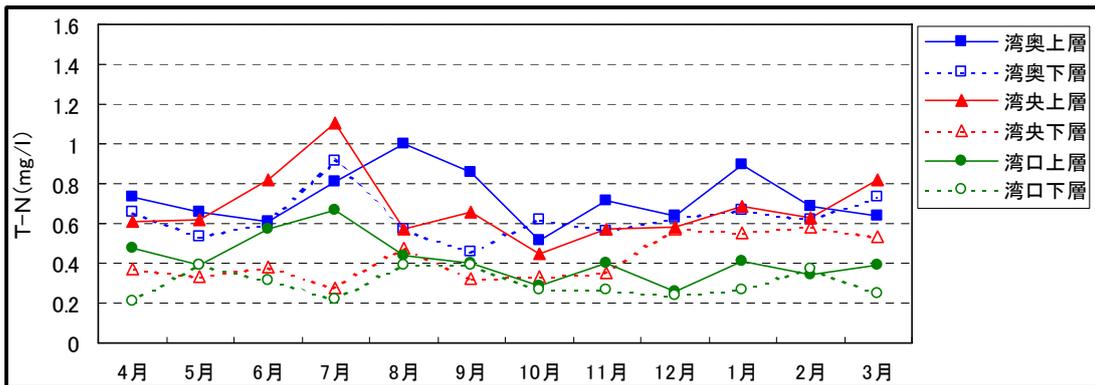
注) 環境 GIS ホームページ (www-gis.nies.go.jp) より、各項目の公共用水域水質測定結果を用いてグラフを作成した。

図Ⅱ.1.10 (2) 湾奥, 湾央および湾口における水質季節変化 (DO)

1995年4月～1996年3月

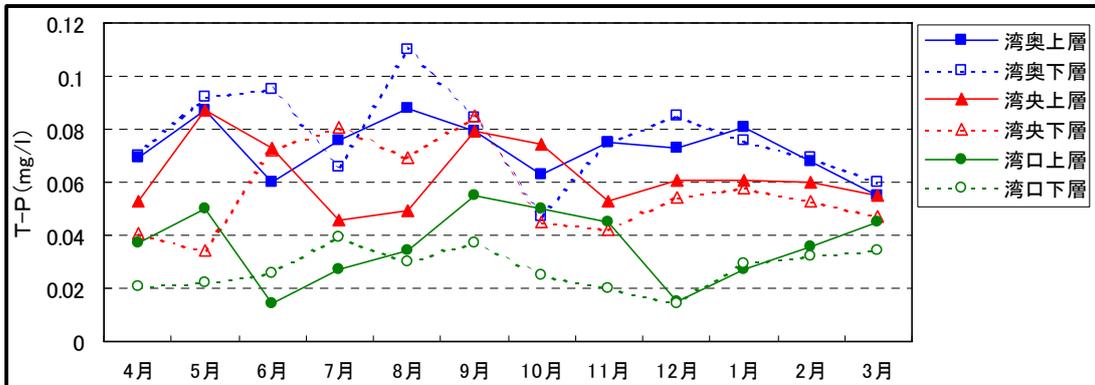


2005年4月～2006年3月

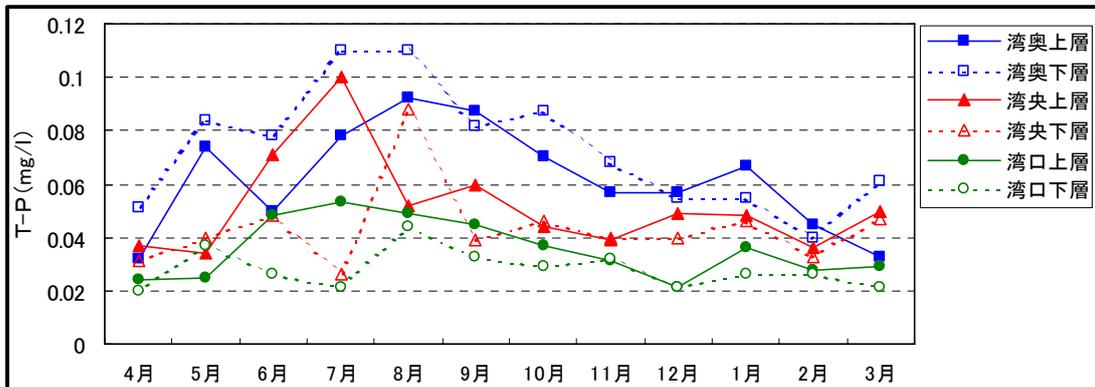


注) 環境 GIS ホームページ (www-gis.nies.go.jp) より、各項目の公共用水域水質測定結果を用いてグラフを作成した。

図Ⅱ.1.10 (3) 湾奥, 湾央および湾口における水質季節変化 (T-N)



2005年4月～2006年3月



注) 環境 GIS ホームページ (www-gis.nies.go.jp) より、各項目の公共用水域水質測定結果を用いてグラフを作成した。

図Ⅱ.1.10 (4) 湾奥, 湾央および湾口における水質季節変化 (T-P)

②赤潮・青潮

表Ⅱ.1.3に各都県の赤潮判定の目安、表Ⅱ.1.4に赤潮および青潮の発生回数をそれぞれ示す。

赤潮判定の目安は各都県で若干異なる。

東京湾奥部では赤潮の発生が慢性化しており、特に夏季は赤潮状態が定常化している。赤潮は海域への窒素・リンの流入による富栄養化、陸水や降雨による塩分低下等により発生すると言われており、内湾で内部生産される二次汚染物質として水質汚濁の原因となっている。

近年の赤潮発生回数は35～60回程度で改善傾向はみられない。また、平成16年度における東京都海域での赤潮は、*Skeletonema costatum*や*Thalassiosira* spp.などが優占している(※1)。これらの種は、瀬戸内海などで養殖ハマチの大量斃死の原因となる*Chattonella*属に含まれる有害成分は持っていない。

東京湾では陸域からの汚濁負荷に加え、赤潮等の内部生産により、夏季の成層期には底層水の貧酸素化が生じる。この貧酸素水が、湾奥の千葉県沿岸で北東風が連吹すると底層から湧昇して青潮が発生する。このような従来の青潮のほか、平成16年度には初めて羽田沖および横浜市沿岸で8月18日に観測されたため、千葉県海域での発生回数1回に羽田沖および横浜市沿岸での発生回数1回を加えて2回とした。

近年の青潮発生回数は2～5回である。

表Ⅱ.1.3 各都県の赤潮判定の目安

項目	千葉県	東京都	神奈川県
色	オリーブ色～茶色	茶褐色, 黄褐色, 緑褐色	茶褐色, 黄褐色, 緑褐色等に準ずる色
透明度	1.5m以下	概ね1.5m以下	概ね2m以下
クロロフィルa	50 μ g/l以上 (SCORR/UNESCO法)	50mg/m ³ 以上 (吸光光度法及び LORENZEN法に準ず る方法)	50 μ g/l以上 (蛍光法)
DO	150%以上	—	—
pH	8.5以上	—	—
赤潮プランクトン	—	顕微鏡で多量に存在していることが確認できる。	顕微鏡で多量に存在していることが確認できる。

※1 東京湾水質調査報告書(平成16年度), 平成18年3月, 東京湾岸自治体環境保全会議

表Ⅱ.1.4 赤潮および青潮の発生回数

(赤 潮) 単位：回

区 分	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度
千葉県海域	16	28	31	16	12	29	12
東京都海域	19	20	20	19	16	18	18
神奈川県海域	4	10	9	7	6	12	5

注) 神奈川県の発生回数は、漁業者等からの通報に基づくものであり、神奈川県海面で発生した全ての赤潮を表記したものではない。

(青 潮) 単位：回

区 分	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度
発生回数	4	2	5	4	3	2	2

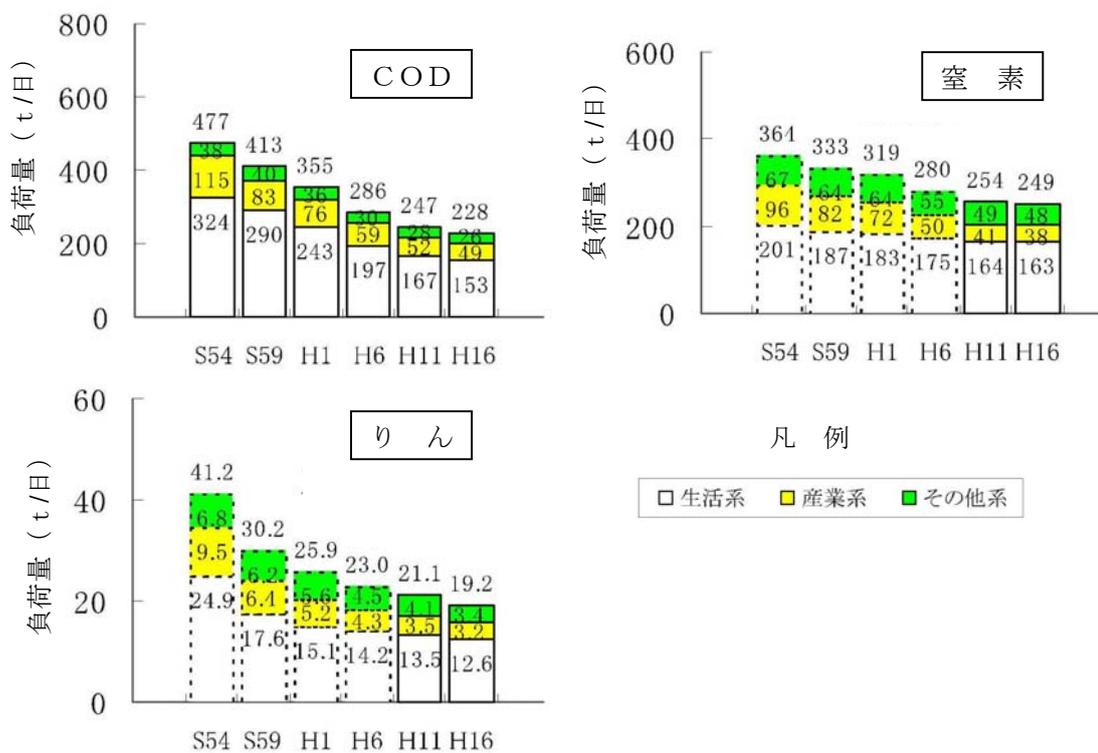
注) 局所規模の青潮を除く。

出典：東京湾水質調査報告書（平成 16 年度），平成 18 年 3 月，
東京湾岸自治体環境保全会議

②流入汚濁負荷量の変化

図Ⅱ. 1. 12 に東京湾流入汚濁負荷量の推移を示す。

COD、窒素およびりんの流入負荷量は減少傾向にある。ただし、平成16年度の負荷量は削減目標値である。



注1) 「第6次水質総量規制の在り方について(答申)平成17年5月 中央環境審議会」より作成。

注2) 点線の棒グラフは関係都県による推計値。平成16年度の負荷量は削減目標値

図Ⅱ. 1. 12 東京湾流入汚濁負荷量の推移

(7) 生物生息状況

①魚類

図Ⅱ. 1. 13 に魚類分布の水域区分、表Ⅱ. 1. 5 に水域別魚類一覧をそれぞれ示す。

出現種のうち、全水域で記録されたものは、マイワシ、サツパ、コノシロ、カタクチイワシ、スズキ、マアジ、ボラ、マサバといった東京湾の内外を広く回遊する種と、アカエイ、マアナゴ、メバル、マゴチ、アイナメ、テンジクダイ、シロギス、シログチ、ハタテヌメリ、コモチジャコ、アカハゼ、スジハゼ、イシガレイ、マコガレイ、ゲンコ、アミメハギなど東京湾の魚類相を特徴づける内湾性の種を含む 35 種であった。

2 水域に渡って記録されたのは 60 種であった。そのほとんどは、中・南部に分布域をもつもので、ヌタウナギ、ホシザメ、ホウボウ、トラギス科 3 種など普通種であるが季節的な北部水域への分布拡大を行わないものや、ダイナンギンポやカサゴなど岩礁への依存が強いもの、アカムツ、ホタルジャコ、カガミダイのようなやや深みに生息するものなどが含まれている。また、北・中部から記録されたものは 6 種のみで、湾奥部に主産卵場をもち、湾内で生活史を完結するギンポとマハゼが含まれている。

いずれか 1 水域のみで記録された種は 129 種で、そのうち北部水域のみの種は、本来は沿岸浅所で生活し偶発的に出現したと考えられるメナダ、ナベカ、クサフグと、移動性が大きいサワラの 4 種のみであった。毎年、夏季を中心として北部水域に形成される貧酸素水塊により、6～9 月にはほとんどの種の分布が中部水域以南に集中することからも、北部水域だけに特異的に現れる種はないと考えられる。また、中部だけ、南部だけで記録されている種は本州太平洋沿岸に広く分布する種で、それぞれ 61 種、64 種であった。

②アサリおよび底生生物

表Ⅱ. 1. 6 に干潟におけるアサリおよび底生生物の生息状況を示す。

干潟においてアサリの生息数が多いのは、自然干潟では盤洲干潟、三番瀬および野島海岸、人工干潟では海の公園があげられる。

底生生物の優占種は多毛類が多く、アサリやシズクガイもみられる。

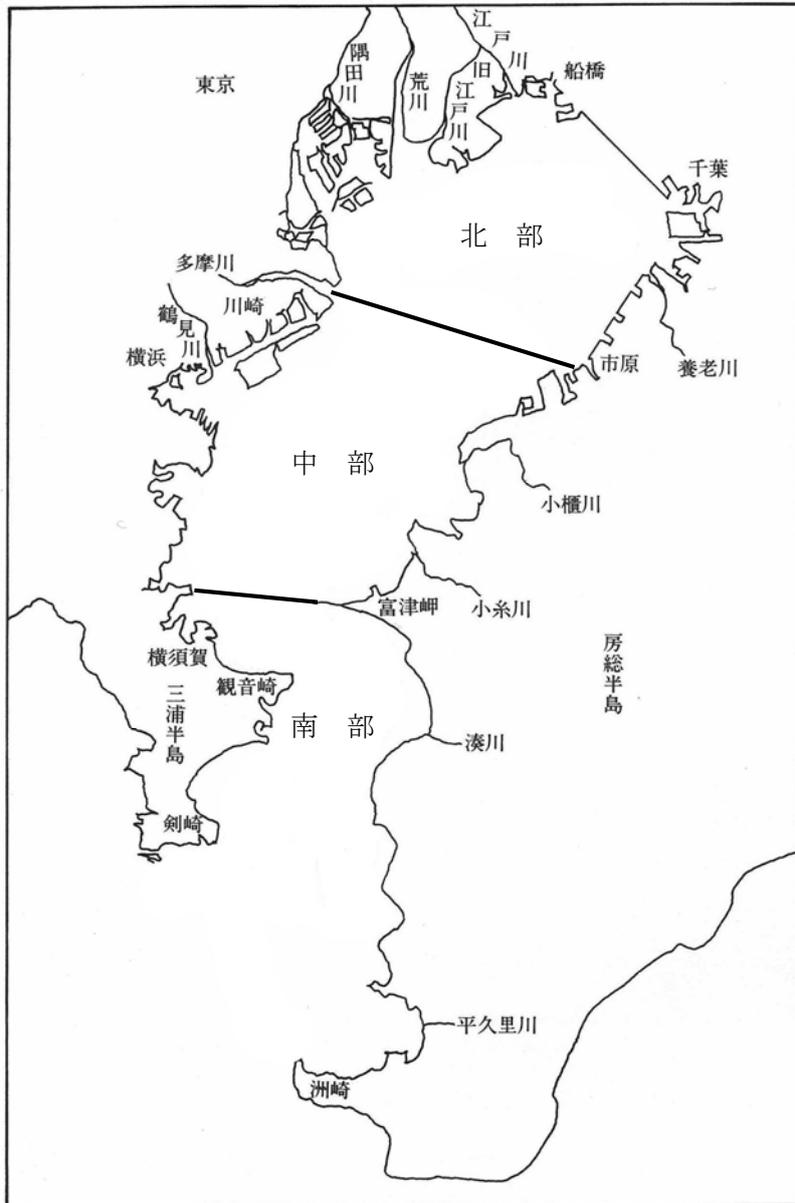


図 II. 1. 13 魚類分布の水域区分

表II. 1. 5

水域別魚類一覧

種名	北部		中部		南部	
	*	+	*	+	*	+
スタウナギ			*		*	
ギンザメ			*		*	
ホシザメ			*		*	
シロザメ			*		*	
トチザメ			*		*	
カスザメ			*		*	
カンギエイ			*		*	
コモンカスベ			*		*	
アカエイ			*		*	
トビエイ			*		*	
アミウツボ			*		*	
ムラサキウミヘビ			*		*	
ダシウミヘビ			*		*	
スリウミヘビ			*		*	
ホウチウミヘビ			*		*	
ゴテンアナゴ			*		*	
マアナゴ			*		*	
クロアナゴ			*		*	
ハモ			*		*	
シギウナギ			*		*	
ウルメイワシ			*		*	
キビナゴ			*		*	
マイワシ			*		*	
サツバ			*		*	
コノシロ			*		*	
カタクチイワシ			*		*	
ネズミギス			*		*	
イワナ属の一種			*		*	
サケ			*		*	
サクラマス			*		*	
ヒメ			*		*	
トカゲエソ			*		*	
マエソ			*		*	
オキエソ			*		*	
ミスズナギ			*		*	
エンソイソイナメ			*		*	
チゴダラ			*		*	
ヒメダラ			*		*	
サイウオ			*		*	
トウジン			*		*	
シネイダチウオ			*		*	
キアンコウ			*		*	
アンコウ			*		*	
イザリウオ			*		*	
アカダツ			*		*	
ハマダツ			*		*	
サンマ			*		*	
リュウダツノツカイ			*		*	
キンメダイ			*		*	
ハシキンメ			*		*	
マツカサウオ			*		*	
ムラサキチャチブリ			*		*	
カガミダイ			*		*	
マトウダイ			*		*	
ヨウジウオ			*		*	
ヒラキヨウジ			*		*	
オオウミウマ			*		*	
タカクラダツ			*		*	
サンゴダツ			*		*	
ハチ			*		*	
ヒレナガサゴ			*		*	
イヌサゴ			*		*	
コクサゴ			*		*	
クサフササゴ			*		*	
ニセサゴ			*		*	
ユメサゴ			*		*	
オオサゴ			*		*	
メバル			*		*	
イゴダカホアリ			*		*	
ホウボウ			*		*	
カナド			*		*	
ヒレボシカナガシラ			*		*	
ソコカナガシラ			*		*	
マゴチ			*		*	
イネゴチ			*		*	
セミホウボウ			*		*	
アテナメ			*		*	
クサバシカジカ			*		*	
セトカジカ			*		*	
グンゴウオ			*		*	
スナヒクニン			*		*	
クサウオ			*		*	
スズキ			*		*	
オオクサチイシナギ			*		*	
ヒメスミクイウオ			*		*	
オオメハタ			*		*	
ホタルジヤコ			*		*	
アカムツ			*		*	
マハタ			*		*	
キモシロ			*		*	
キリンハタ			*		*	
コトヒキ			*		*	
シマイサキ			*		*	
チカメキン			*		*	
キントキ			*		*	
テウボウイシモチ			*		*	
テウジクダイ			*		*	
シロギス			*		*	
アカアマダイ			*		*	
ムツ			*		*	
スギ			*		*	
イカカツオ			*		*	
コバンアジ			*		*	
マアジ			*		*	
モロ			*		*	
メアジ			*		*	
イトヒキアジ			*		*	
カイワリ			*		*	
シイラ			*		*	
ヒイラギ			*		*	
ホキイラギ			*		*	
オキイラギ			*		*	
シマカツオ			*		*	
ヒゲソリダイ			*		*	
コシヨウダイ			*		*	
イトヨリダイ			*		*	
ヤマカガシ			*		*	
クサフダ			*		*	
ヒラマシ			*		*	
クサフダ			*		*	
アサギ			*		*	
シロサバフダ			*		*	
マンボウ			*		*	
ヤマカガシ			*		*	
クサフダ			*		*	
ヒラマシ			*		*	
クサフダ			*		*	
アサギ			*		*	
シロサバフダ			*		*	
マンボウ			*		*	

注) * は文献、+ は著者の確認による。

出典：東京湾の生物誌，築地書館，1997年

表Ⅱ.1.6 干潟におけるアサリおよび底生生物の生息状況

	調査年	アサリの生息状況		優占種			文献名	
		個体数 (個体数/m)	湿重量 (g/m)	第一優占種	第二優占種	第三優占種		
自然干潟	野島海岸	1996/10～2000/06	0～1,000	0～1,500	-	-	-	佐々木克之(2001):東京湾口部全沢湾におけるアサリ再生産の的的条件、中央水研ニュースNo.27
	多摩川河口	2000/04、2000/09	20(4月) 7(9月)	6.7(4月) 27.3(9月)	Paraprionospio sp. type A	シズクガイ(4月) イトゴカイ(9月)	ウミサゴムシ(4月) ハオカキゴカイ(9月)	東京都環境局環境評価部(2002):平成12年度 水生生物調査結果報告書、547pp.
	森ヶ崎	2000/04、2000/09	***	***	ゴカイ	Pseudopolydora sp. (4月) イトゴカイ科(9月)	イトゴカイ科(4月) Melita sp.(9月)	東京都環境局環境評価部(2002):平成12年度 水生生物調査結果報告書、547pp.
	三枚洲(浅場)	2000/04、2000/09	*** (4月) 40 (9月)	*** (4月) 16.3 (9月)	Paraprionospio sp. type A	シズクガイ(4月) スゴカイイソメ(9月)	紐形動物門(4月) ハオカキゴカイ(9月)	東京都環境局環境評価部(2002):平成12年度 水生生物調査結果報告書、547pp.
	三番瀬	1990/10	20～827	0.4～1,122.1	アサリ、バカガイ、 シオフキガイがこの 海域を代表する 底生生物	-	-	沼田眞、風呂田利夫(1997):東京湾の生物誌、築地書館、pp.55-66
	谷津干潟	1986/12/10～ 1987/01/29	50	1.26	アシナゴカイ	イトメ	ドロクダムシ(甲殻類)の1種	風呂田利夫、鈴木嘉平(1999):東京湾奥部谷津干潟の1986-87年冬期における底質環境ならびにマクロベントスの生息状況と垂直分布、日本ベントス学会誌、54、pp.36-43
	盤洲干潟	1995/02、1995/06 1995/10、1995/03	16～3,168	***	アサリ(6月)	ウミナ(6月)	フタバシラガイ(6月)	細川泰史、木部英治、三好英一、桑江朝比呂、古川恵太(1996):盤洲干潟(小櫃川河口付近)におけるアサリによる濾水能力分布調査、港湾技術研究所資料、844
富津干潟	1974/05/01	4～72	-	イボキサゴ	アサリ	ウミナ ホトトギスガイ	沼田眞、風呂田利夫(1997):東京湾の生物誌、築地書館、pp.66-68	
人工干潟	海の公園	1996/10～2000/06	200～1,800	0～2,000	-	-	-	佐々木克之(2001):東京湾口部全沢湾におけるアサリ再生産の的的条件、中央水研ニュースNo.27
	羽田沖浅場	2000/04、2000/09	***	***	Paraprionospio sp. type A	紐形動物門(4月) Lumbrineris longifolia(9月)	シズクガイ	東京都環境局環境評価部(2002):平成12年度 水生生物調査結果報告書、547pp.
	東京港野島公園	2000/04、2000/09	133(4月) 33(9月)	40.1(4月) 30.1(9月)	Pseudopolydora sp. (4月) アサリ(9月)	アサリ(4月) ゴカイ(9月)	Paraprionospio sp. type A(4月) タテジマフジボ(9月)	東京都環境局環境評価部(2002):平成12年度 水生生物調査結果報告書、547pp.
	大井ふ頭 中央海浜公園	2000/05～2001/01	-	-	優占種の記述はないが、マガキ、ゴカイ、フナムシが確認されている。	-	-	大田区都市環境部環境保全課 編(2000):海域環境監視、平成12年度水質関係調査報告書、pp.33-113.
	葛西海浜公園	2000/04、2000/09	7(4月) *** (9月)	60.9(4月) *** (9月)	イトゴカイ科(4月) ゴカイ(9月)	Glycinde sp(4月) イトゴカイ科(9月)	Pseudopolydora sp. (4月) シオフキガイ(9月)	東京都環境局環境評価部(2002):平成12年度 水生生物調査結果報告書、547pp.
	船橋海浜公園					(三番瀬を参照)		
稲毛海浜公園	1991/09、1992/02	-	-	2回の調査で多毛類が優占(全出現種の約85%)	-	-	沼田眞、風呂田利夫(1997):東京湾の生物誌、築地書館、pp.209-211	

(注1) 第一～第三優占種は、個体数密度の高い順とした。
(注2) *** は調査されたが、生物が確認されていない。
(注3) - は優占種等を決定できるデータなし。

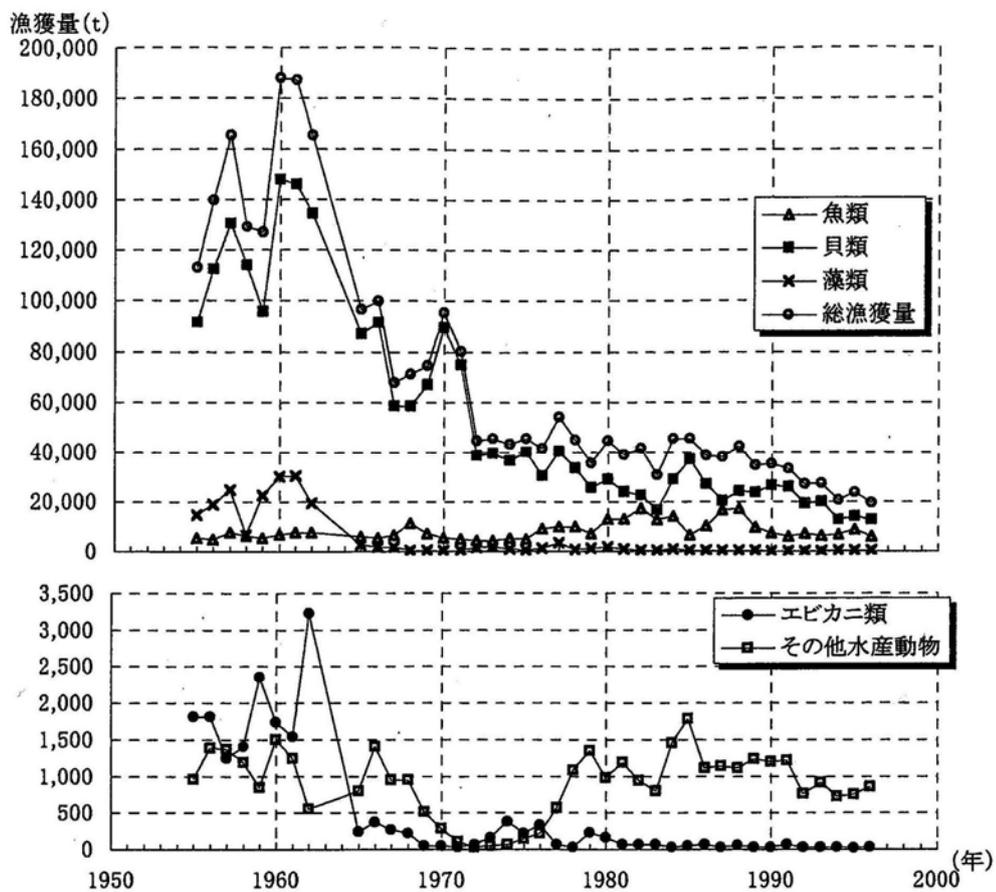
出典:「干潟ネットワークの再生に向けて(2004年)」
国土交通省港湾局・環境省自然環境局

(8) 漁業

図Ⅱ.1.14、表Ⅱ.1.7に東京湾における漁獲量、図Ⅱ.1.15に漁業就業者数の動向をそれぞれ示す。

東京湾における総漁獲量は1960年の約19万トンピークに1970年代前半にかけて激減し、4万トン前後となった。この間、埋立ての進行に伴う漁業権の放棄や漁家の減少がこの漁獲量減少に影響している。また、汚染に弱い甲殻類（エビ、カニ）や頭足類（イカ、タコ）の減少も著しく、生物からみて環境の悪化が進行したことを示している。1970年代後半から1980年代は4万トン前後で推移していたが、1990年代には減少し、1996年には約2万トンとなった。

内湾における漁業就業者数は、1965年（昭和38年）では20,057人であったが、1978年（昭和53年）までの15年間に激減し、5,957人となった。その後、減少率は小さくなり、2003年（平成15年）では3,542人である。一方、外湾では内湾ほど減少の割合は大きくないものの、1965年（昭和38年）の5,138人に対して、2003年（平成15年）では1,372人である。



○漁獲量について

- 水域: 神奈川県は川崎市～横浜市各漁業協同組合、東京都は江戸川区～大田区の各漁業協同組合
千葉県は浦安～下洲各漁業協同組合
- 集計方法: 1963年以前については属地集計(生産物が採捕された水域の漁獲量)
1964年以降は属人集計(漁業地区ごとに集計された漁獲量)
- 対象漁法: 対象水域(東京湾)で行われている全ての漁法

出典: 東京湾環境データブック (2000年11月), 東京湾港湾連携推進協議会

図Ⅱ.1.14 東京湾における漁獲量の動向

表Ⅱ.1.7 東京湾における漁獲量の動向

区分	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1965	1966
魚類	5,217	4,696	7,478	6,087	5,217	6,783	7,652	7,652	5,913	5,217
貝類	91,304	112,522	130,435	113,913	95,652	147,826	146,087	134,435	86,957	91,304
藻類	14,609	18,783	24,696	6,609	22,609	30,087	30,261	19,478	2,609	1,739
総漁獲量	113,043	139,826	165,391	129,217	126,957	187,826	186,957	165,391	96,522	100,000
エビカニ類	1,814	1,814	1,241	1,400	2,355	1,737	1,540	3,226	235	369
その他水産動物	955	1,381	1,368	1,190	840	1,495	1,247	547	795	1,406
合計	113,899	139,195	165,218	129,199	126,673	187,928	186,787	165,339	96,509	100,036

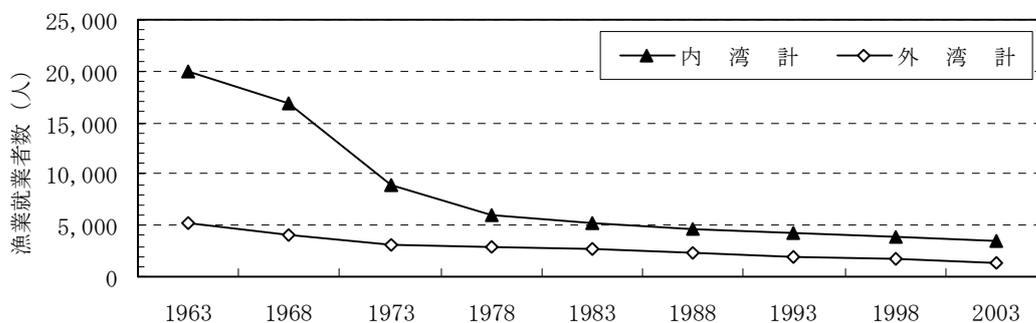
区分	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976
魚類	6,435	11,304	6,957	5,217	4,870	4,348	4,348	5,043	4,696	8,870
貝類	58,435	58,435	66,957	89,391	74,957	38,609	39,478	36,696	40,000	30,435
藻類	1,739	348	174	174	348	1,391	1,565	870	348	1,217
総漁獲量	67,826	71,304	74,609	95,304	80,174	44,348	45,391	43,130	45,217	41,391
エビカニ類	267	223	51	51	32	64	159	382	223	331
その他水産動物	948	948	509	286	108	32	45	64	146	223
合計	67,824	71,258	74,647	95,120	80,314	44,443	45,595	43,054	45,413	41,075

区分	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986
魚類	9,739	9,739	7,130	12,870	13,043	17,217	12,696	14,087	6,435	10,261
貝類	40,348	33,391	25,565	29,043	23,826	22,609	16,522	29,043	37,043	26,957
藻類	3,478	522	1,043	1,739	870	348	348	870	157	157
総漁獲量	54,087	44,696	35,478	44,348	38,957	41,217	30,609	45,391	45,217	38,435
エビカニ類	64	25	229	159	64	64	64	25	45	64
その他水産動物	573	1,082	1,349	974	1,184	935	795	1,451	1,782	1,107
合計	54,202	44,759	35,317	44,785	38,986	41,173	30,424	45,476	45,461	38,545

区分	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996
魚類	16,696	17,217	9,565	7,446	5,939	6,980	6,147	6,802	8,596	5,914
貝類	20,174	24,174	23,652	26,472	25,743	19,135	20,089	12,639	14,114	12,622
藻類	157	157	157	136	135	125	133	202	179	256
総漁獲量	38,087	42,261	34,609	35,282	33,096	27,033	27,322	20,520	23,711	19,434
エビカニ類	32	57	32	27	62	26	28	30	15	24
その他水産動物	1,139	1,107	1,235	1,195	1,218	758	911	721	747	858
合計	38,197	42,712	34,640	35,276	34,376	27,817	28,261	21,271	24,473	20,316

区分	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
魚類	6,718	5,357	7,771	6,523	5,544	5,846	5,376
貝類	11,912	16,102	13,710	12,784	10,828	11,898	12,408
藻類	214	203	203	203	203	203	263
総漁獲量	18,844	21,662	21,684	19,510	16,575	17,947	18,047
エビカニ類	26	312	312	125	10	37	14
その他水産動物	714	1,038	1,060	613	105	483	439
合計	19,584	23,012	23,056	20,248	16,690	18,467	18,500

出典：神奈川農林水産年報、1957～2005、関東農政局神奈川統計事務所 編
 東京農林水産統計年報、1957～2005、関東農政局統計情報部 編
 千葉農林水産統計年報、1957～2005、関東農政局千葉統計情報部 編



区分	第3次	第4次	第5次	第6次	第7次	第8次	第9次	第10次	第11次
	1963	1968	1973	1978	1983	1988	1993	1998	2003
千葉県(内湾)	17,089	14,414	7,424	4,662	4,088	3,665	3,137	2,822	2,637
千葉県(外湾)	4,089	3,329	2,278	2,126	1,977	1,639	1,352	1,220	936
東京都(内湾)	873	464	820	647	575	485	497	498	387
神奈川県(内湾)	2,095	1,904	679	648	595	574	583	576	518
神奈川県(外湾)	1,049	794	750	811	704	714	567	536	436
内湾計	20,057	16,782	8,923	5,957	5,258	4,724	4,217	3,896	3,542
外湾計	5,138	4,123	3,028	2,937	2,681	2,353	1,919	1,756	1,372
東京湾計	25,195	20,905	11,951	8,894	7,939	7,077	6,136	5,652	4,914

(内湾) 神奈川県：川崎～横須賀市走水大津、千葉県：浦安～富津市下洲、東京都：大田区～江戸川区
(外湾) 神奈川県：横須賀市鴨居～三浦市松輪、千葉県：富津市大佐和～館山市

出典：第3次漁業センサス（昭和38年11月1日調査）第3報，1965，農林省農林経済局統計調査部
第4次漁業センサス（昭和43年11月1日調査）第2報，1970，農林省農林経済局統計調査部
第5次漁業センサス（昭和48年11月1日調査）第3報，1975，農林省農林経済局統計情報部
第6次漁業センサス（昭和53年11月1日調査）第3報，1980，農林水産省統計情報部
第7次漁業センサス（昭和58年11月1日調査）第3報，1985，農林水産省統計情報部
第8次漁業センサス（昭和63年11月1日調査）第3報，1990，農林水産省統計情報部
第9次漁業センサス（平成5年11月1日調査）第3報，1995，農林水産省統計情報部
第10次漁業センサス（平成10年11月1日調査）第3報，2000，農林水産省統計情報部
第11次漁業センサス（平成15年11月1日調査）第3報，2005，農林水産省統計情報部

図Ⅱ.1.15 東京湾における漁業就業者数の動向

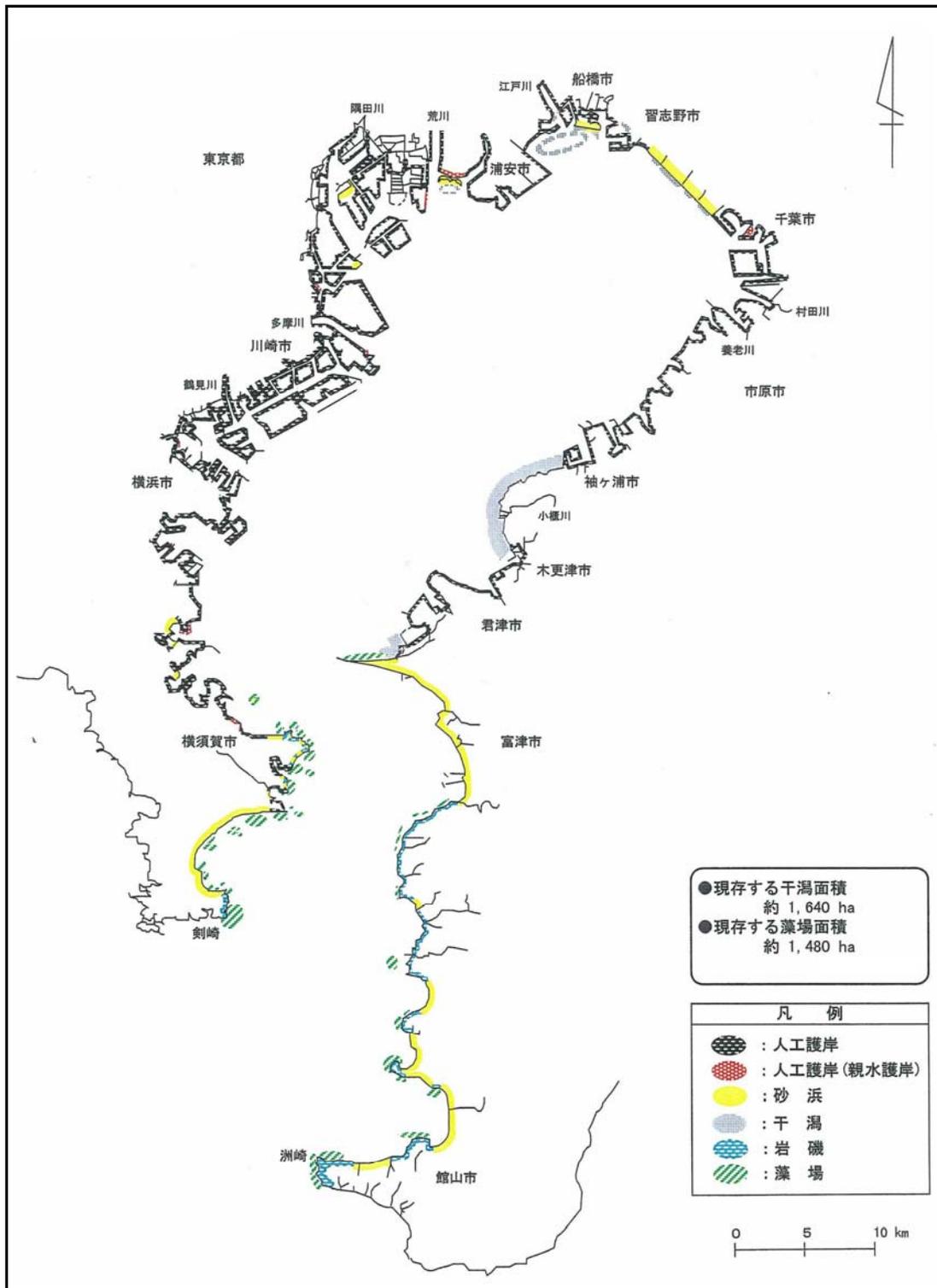
(9) 自然環境

①藻場・干潟

図Ⅱ.1.16 に藻場・干潟等の分布状況を示す。

東京内湾の干潟としては、東京都葛西沖の三枚洲、千葉県行徳および船橋沖の三番瀬、千葉県谷津の谷津干潟および千葉県木更津の盤洲干潟がある。

東京内湾の藻場は神奈川県猿島および観音崎周辺、富津岬北側沿岸にあり、東京外湾では、神奈川県の横須賀市観音崎～三浦市剣崎および千葉県の富津市竹岡～館山市洲崎の沿岸に点在している。



出典：東京湾環境データブック (2000年11月), 東京湾港湾連携推進協議会

図 II. 1. 16 藻場・干潟等の分布状況

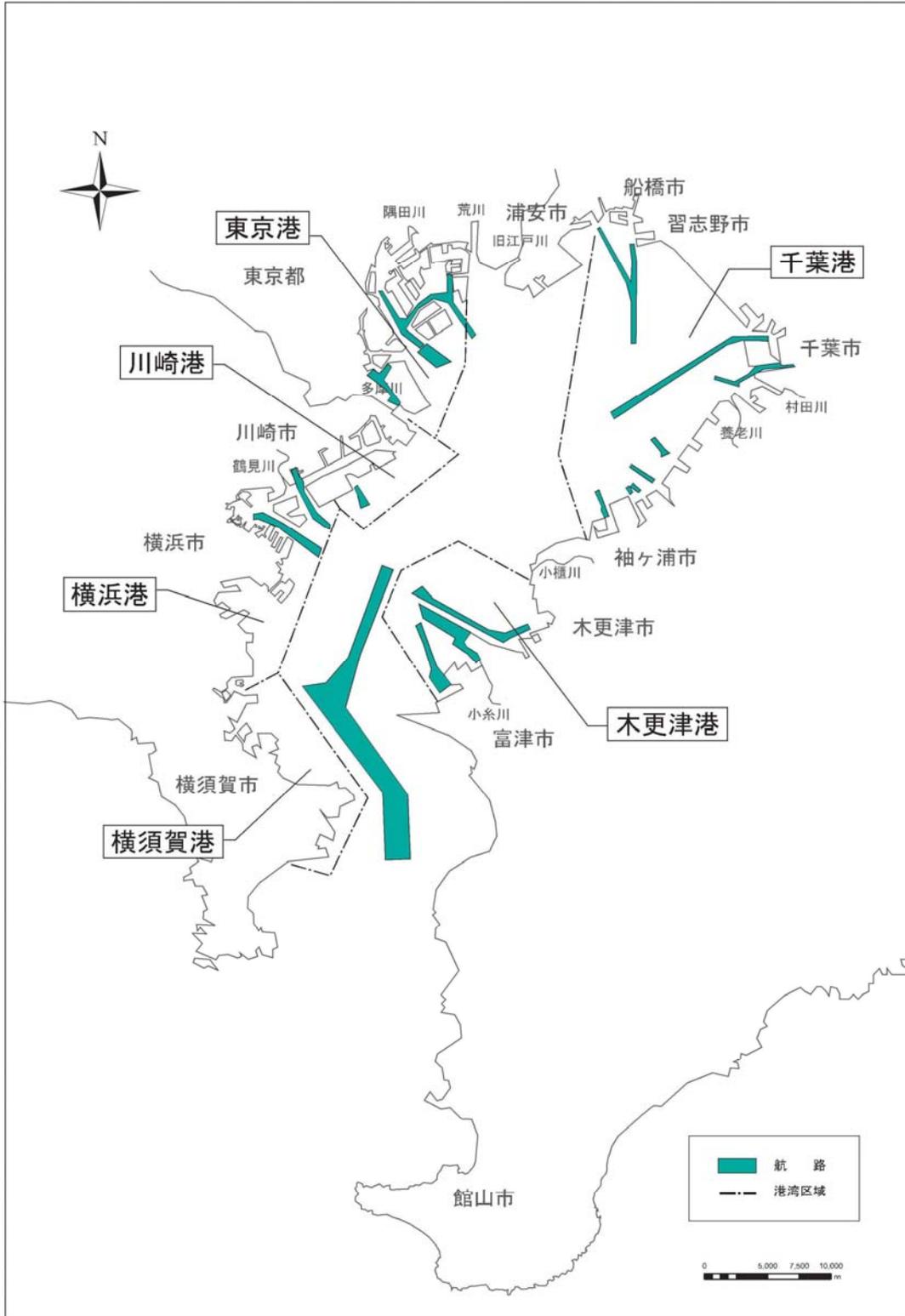
(10) 水域の利用状況

図Ⅱ.1.17 に東京湾における港湾区域・航路設定状況、図Ⅱ.1.18 に東京湾における漁業権設定状況、図Ⅱ.1.19 に東京湾における海水浴場と潮干狩り場の変遷をそれぞれ示す。

東京湾の東京・神奈川側には東京港、川崎港、横浜港および横須賀港、千葉側には千葉港および木更津港に港湾区域が設定されている。また、航路は各港湾区域に設定されている外、東京湾湾口部には中ノ瀬航路および浦賀水道航路がある。

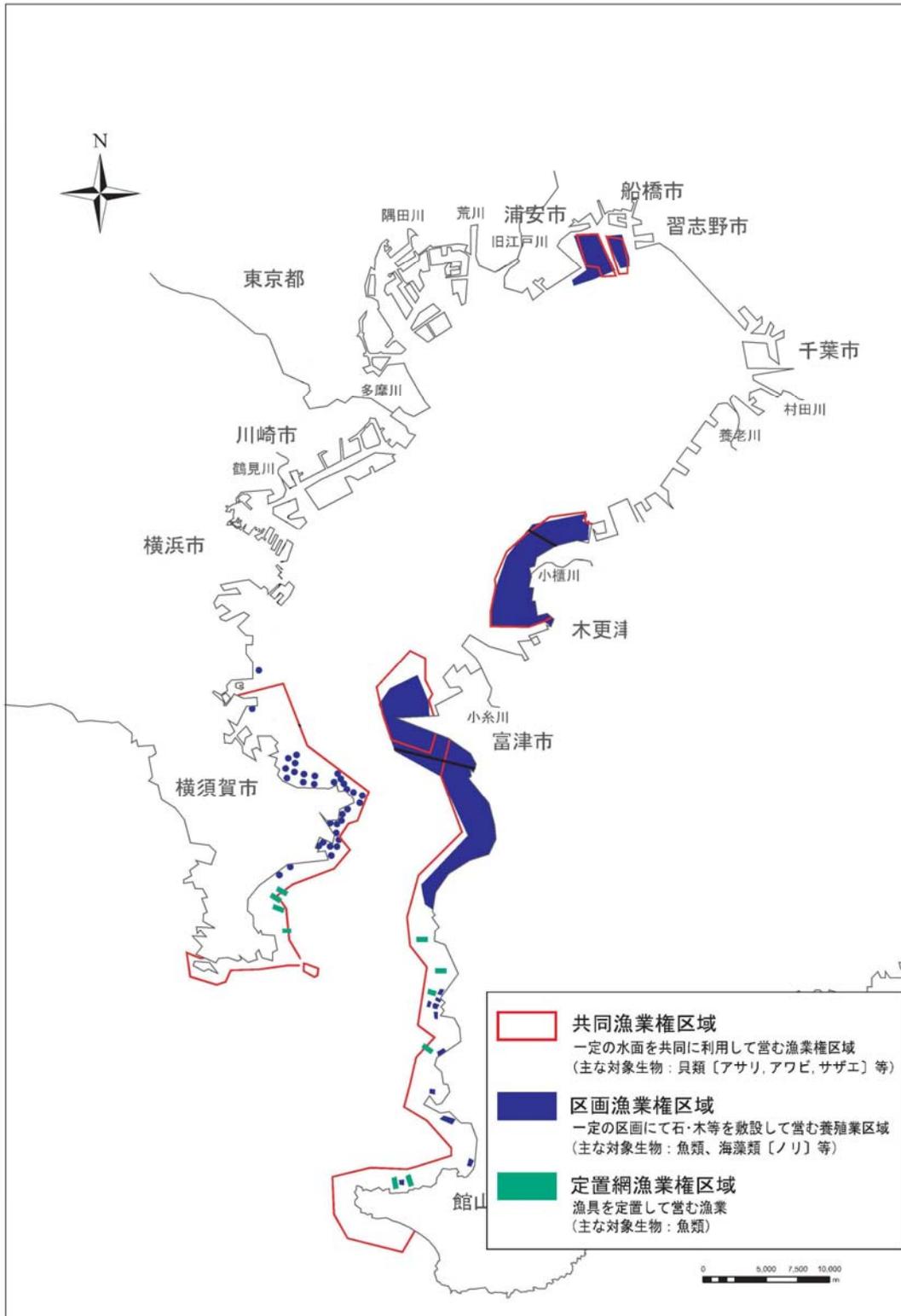
東京湾の内湾では、船橋市および木更津市前面に共同漁業権および区画漁業権が設定されている。湾口から外湾にかけては、横須賀市～三浦市と富津市～館山市に共同漁業権、区画漁業権および定置漁業権が設定されている。

東京湾における海水浴場および潮干狩り場は、1950年では湾奥にも多く、東京都にも葛西、台場、大森および羽田に潮干狩り場がみられる。1960年では湾奥の千葉県側の海水浴場および潮干狩り場は存続しているが、東京都～川崎市にはみられない。1980年では湾奥の海水浴場および潮干狩り場はほとんどなくなり、湾口部の横須賀市～三浦市、木更津市～富津市が主体となった。



出典：中央環境審議会水環境部会
水生生物保全環境基準類型指定専門委員会（第7回）資料，2007年1月30日

図Ⅱ.1.17 東京湾における港湾区域・航路設定状況



出典：中央環境審議会水環境部会

水生生物保全環境基準類型指定専門委員会（第7回）資料，2007年1月30日

図Ⅱ.1.18 東京湾における漁業権設定状況

(11) 東京湾の環境の変遷

①水質の経年変化

図Ⅱ. 1. 20 に東京湾の主要流入河川水質 (BOD)、図Ⅱ. 1. 21 に東京湾における海域水質項目の類型別経年変化、表Ⅱ. 1. 8 に水質経年変化グラフの地点名、表Ⅱ. 1. 9 に東京湾における環境基準達成率の推移をそれぞれ示す。

主要流入河川の水質 (BOD) は、年変動はあるものの、改善傾向にある。

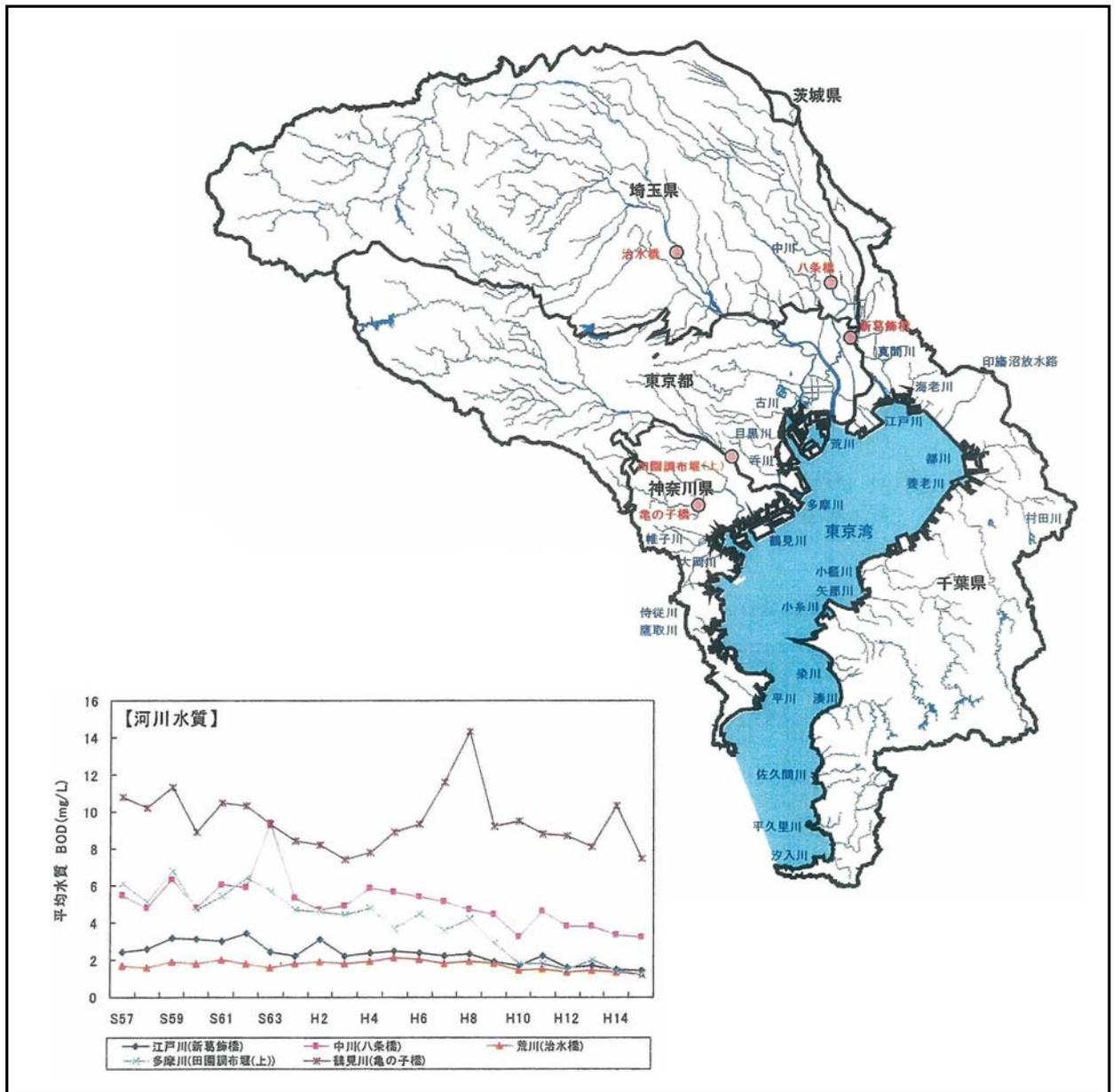
海域の水質は、COD では 1980～1985 年に比較して近年の濃度レベルは減少しており、改善傾向が認められる。このことは下水道の整備および排水規制が徹底したことにより河川起源の有機物量が減少したことに起因すると考えられる。

DO に関しては顕著な傾向はなく、概ね 7.0～8.0mg/l で推移している。また、T-N および T-P は、若干ではあるが濃度レベルが減少している。

COD の環境基準達成率は、概ね 60%以上で推移している。T-N は年々、高くなっており、平成 17 年度以降では 60%以上となった。T-P は平成 15～16 年度は 69%と高いが、その外の年度では 30～50%程度である。

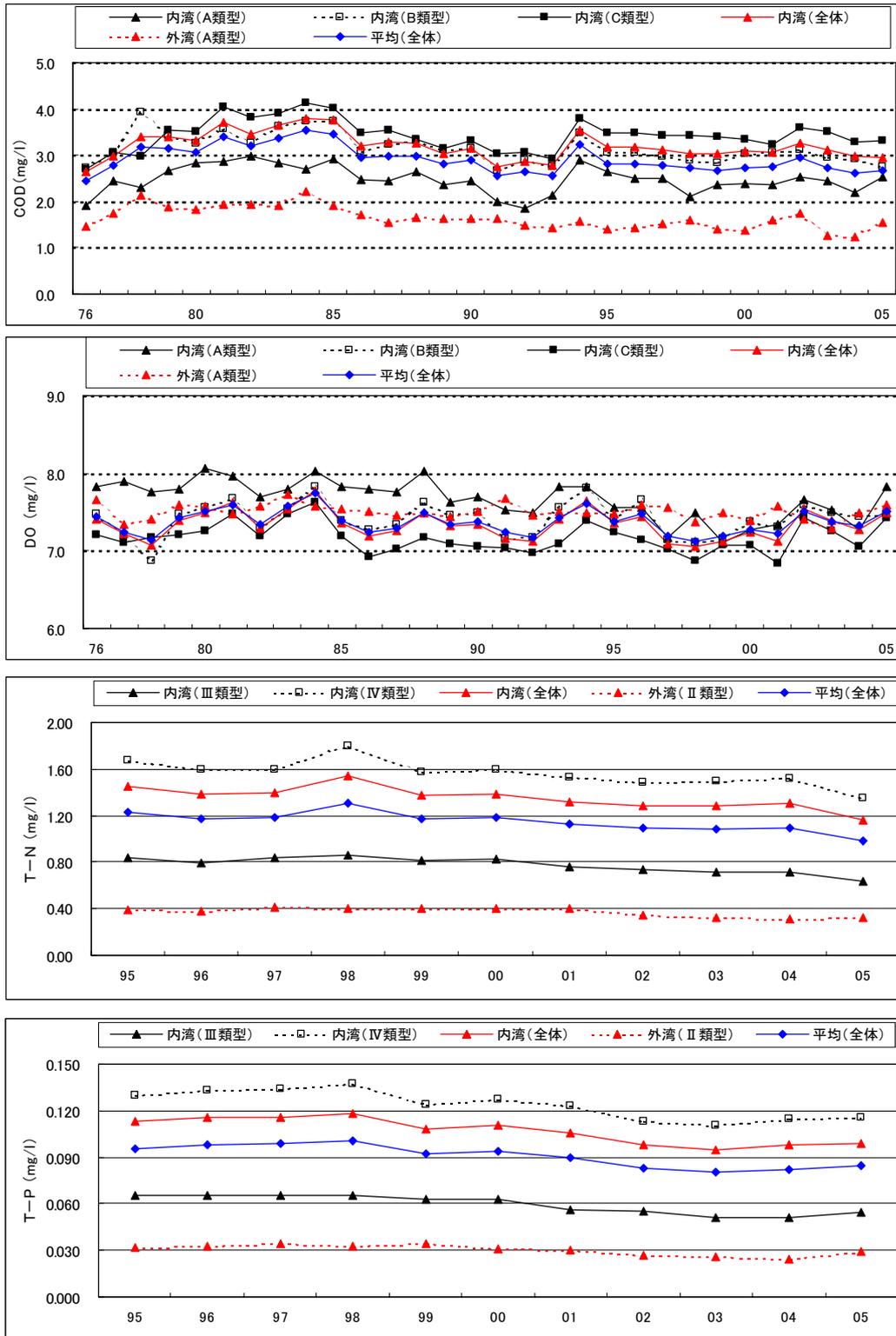
表Ⅱ. 1. 8 水質経年変化グラフの地点名

測点名	水域名	地点名
内湾(A類型)	東京湾(16)	東京湾 13
	東京湾(16)	中の瀬北
	東京湾(16)	中の瀬南
内湾(B類型)	千葉港(乙)	東京湾 9
	東京湾(9)	東京湾 1
	東京湾(9)	東京湾 3
	東京湾(11)	東京湾 4
	東京湾(12)	東京湾 10
	東京湾(12)	東京湾 15
	東京湾(12)	東京湾 18
	東京湾(9)	St-8
	東京湾(11)	St-22
	東京湾(11)	St-25
	東京湾(12)	St-35
	東京湾(12)	東扇島沖 (千島町沖)
	東京湾(12)	扇島沖
	東京湾(12)	本牧沖
	東京湾(13)	大津湾
内湾(C類型)	千葉港(甲)	東京湾 5
	千葉港(甲)	東京湾 7
	千葉港(甲)	東京湾 12
	東京湾(4)	東京湾 2
	東京湾(5)	St-5
	東京湾(5)	St-6
	東京湾(5)	St-11
	東京湾(5)	St-23
	東京湾(6)	鶴見川河口先
	東京湾(6)	横浜港内
	東京湾(7)	磯子沖
外湾(A類型)	東京湾(8)	夏島沖
	東京湾(17)	東京湾 19
	東京湾(17)	東京湾 20
	東京湾(17)	東京湾 21
	東京湾(17)	東京湾 27
	東京湾(17)	東京湾 28
	東京湾(17)	第三海堡東
	東京湾(17)	浦賀沖
東京湾(17)	鵜崎沖	



出典：東京湾流域別下水道整備総合計画に関する基本方針策定調査報告書（案）
 （平成 19 年 7 月 11 日），東京湾流域別下水道整備総合計画委員会

図Ⅱ.1.20 東京湾の主要流入河川水質（BOD）



注) 環境 GIS ホームページ (www-gis.nies.go.jp) より、各項目の公共用水域水質測定結果を用いてグラフを作成した。

図 II. 1. 21 東京湾における海域水質項目の類型別経年変化

表Ⅱ.1.9 東京湾における環境基準達成率の推移

(COD)

		年 度										最近10年間の 平均値
		平成 9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
東京 湾	平均値 (mg/L)	2.9	2.9	2.8	2.9	2.9	3.0	2.8	2.8	2.8	2.7	2.9 mg/L
	A 類 型	2.1	2.2	2.0	2.0	2.1	2.1	2.0	1.9	2.2	2.0	
	B 類 型	2.9	2.8	2.8	2.9	2.9	3.0	2.8	2.8	2.7	2.7	
	C 類 型	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.4	3.2	3.1	3.2	3.0	
	環境基準点総数①	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	
	基準値を満たす 環境基準点数 ②	32	28	30	32	33	29	31	31	31	30	
②/① (%)		65	57	61	65	67	59	63	63	61		

(全窒素)

		年 度										最近10年間の 平均値
		平成 9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
東京 湾	平均値 (mg/L)	0.93	0.95	0.91	0.92	0.89	0.85	0.82	0.80	0.71	0.70	0.85 mg/L
	I 類 型	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	II 類 型	0.46	0.47	0.44	0.44	0.43	0.37	0.36	0.36	0.37	0.33	
	III 類 型	0.87	0.86	0.85	0.85	0.80	0.78	0.75	0.75	0.63	0.63	
	IV 類 型	1.1	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	0.89	0.89	
	環境基準点総数①	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	
基準値を満たす 環境基準点数 ②	5	8	9	8	9	11	14	15	20	21		
②/① (%)		16	25	28	25	28	34	44	47	66		

(全燐)

		年 度										最近10年間の 平均値
		平成 9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
東京 湾	平均値 (mg/L)	0.074	0.072	0.069	0.070	0.070	0.065	0.060	0.059	0.064	0.066	0.067 mg/L
	I 類 型	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	II 類 型	0.038	0.038	0.038	0.035	0.034	0.030	0.029	0.028	0.032	0.045	
	III 類 型	0.069	0.067	0.067	0.065	0.060	0.059	0.054	0.055	0.061	0.061	
	IV 類 型	0.090	0.088	0.083	0.086	0.091	0.082	0.075	0.074	0.078	0.078	
	環境基準点総数①	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	
基準値を満たす 環境基準点数 ②	10	13	15	12	15	14	22	22	15	15		
②/① (%)		31	41	47	38	47	44	69	69	47		

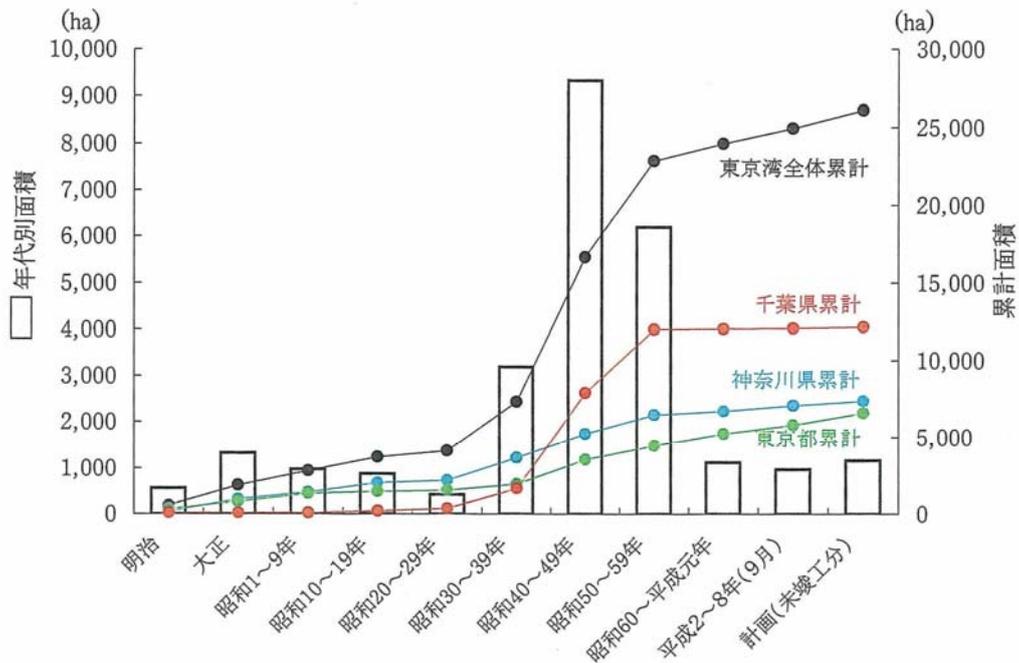
出典：平成18年度 公共用水域水質測定結果（平成19年12月），環境省 水・大気環境局

(12) 東京湾の地形の変遷

図Ⅱ. 1. 22 に東京湾における埋立地面積の変遷、図Ⅱ. 1. 23 に東京湾における埋立地の変遷、図Ⅱ. 1. 24 に東京湾における自然海岸の変遷をそれぞれ示す。

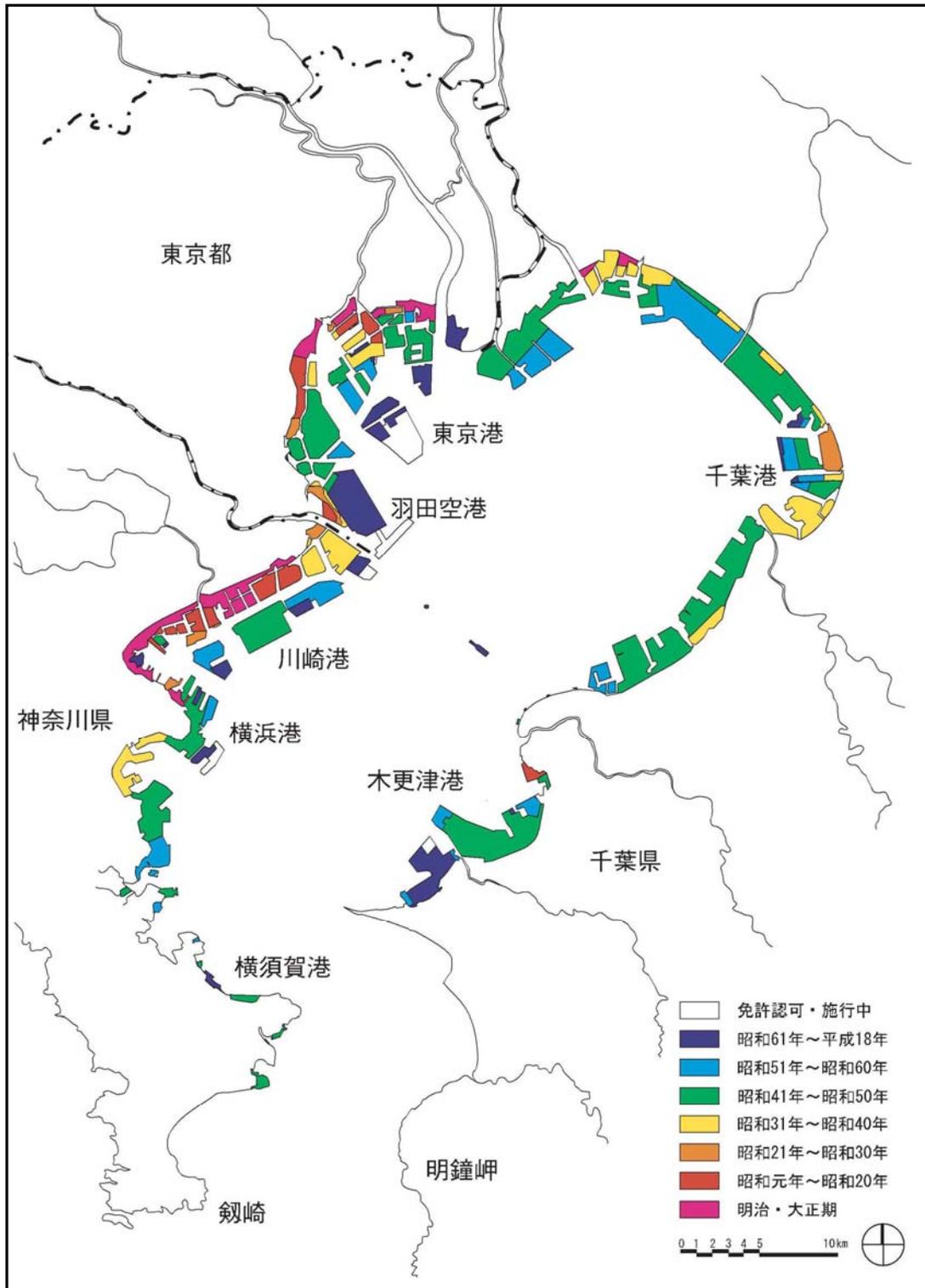
東京湾における埋立地面積は、昭和40年から50年代にかけての大規模な埋立てを経て、東京湾水面の約20%に相当する約25,000haとなっている。

現在の東京内湾の海岸はほとんどが人工海岸であり、昭和30年以降に約123kmの自然海岸が消滅したことになる。



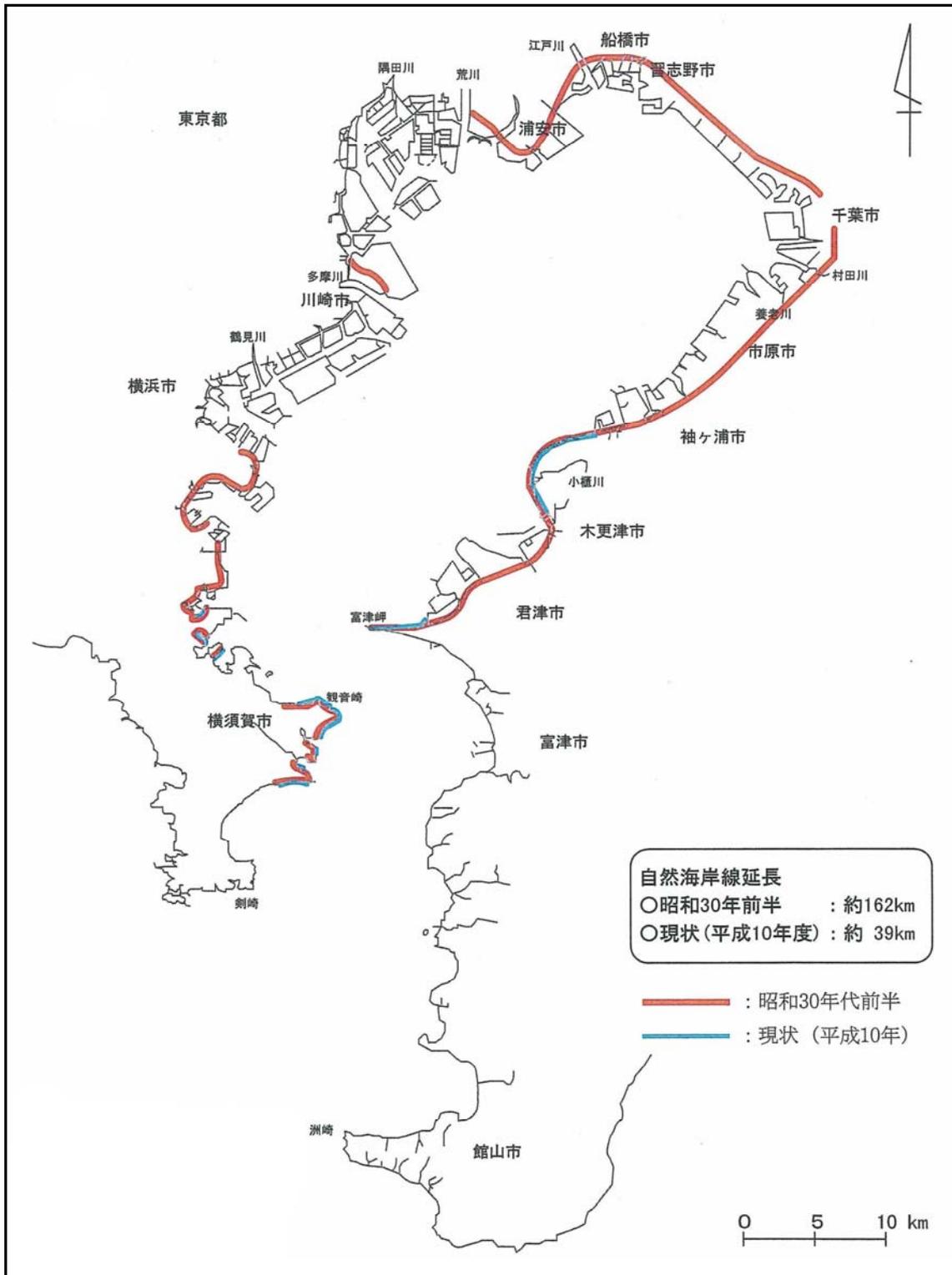
出典：東京湾環境データブック（2000年11月），東京湾港湾連携推進協議会

図Ⅱ. 1. 22 東京湾における埋立地面積の変遷



出典：平成 19 年版 首都圏白書（平成 19 年 6 月），国土交通省

図 II. 1. 23 東京湾における埋立地の変遷



出典：東京湾環境データブック（2000年11月），東京湾港湾連携推進協議会

図Ⅱ.1.24 東京湾における自然海岸の変遷

(13) 東京湾沿岸の産業の変遷

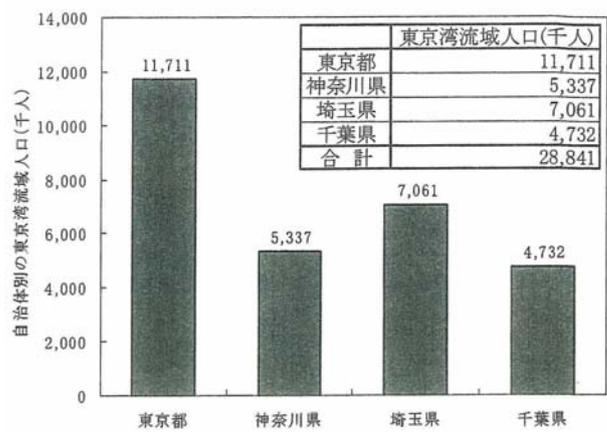
図Ⅱ. 1. 25 に東京湾流域内人口分布状況、図Ⅱ. 1. 26 に市町村別人口密度の推移、図Ⅱ. 1. 27 に自治体別人口経年変化および将来人口、表Ⅱ. 1. 10 に製造品出荷額の推移、表Ⅱ. 1. 11 に産業別事業所数および従業者数の推移をそれぞれ示す。

東京湾流域内の人口は平成 12 年では約 2,884 万人である。また、市町村別の人口密度についてみると、1965 年では 8,000 人/km² のエリアは概ね東京 23 区内に限られていたが、近年では東京郊外や隣接する神奈川県、千葉県に広がりつつある。

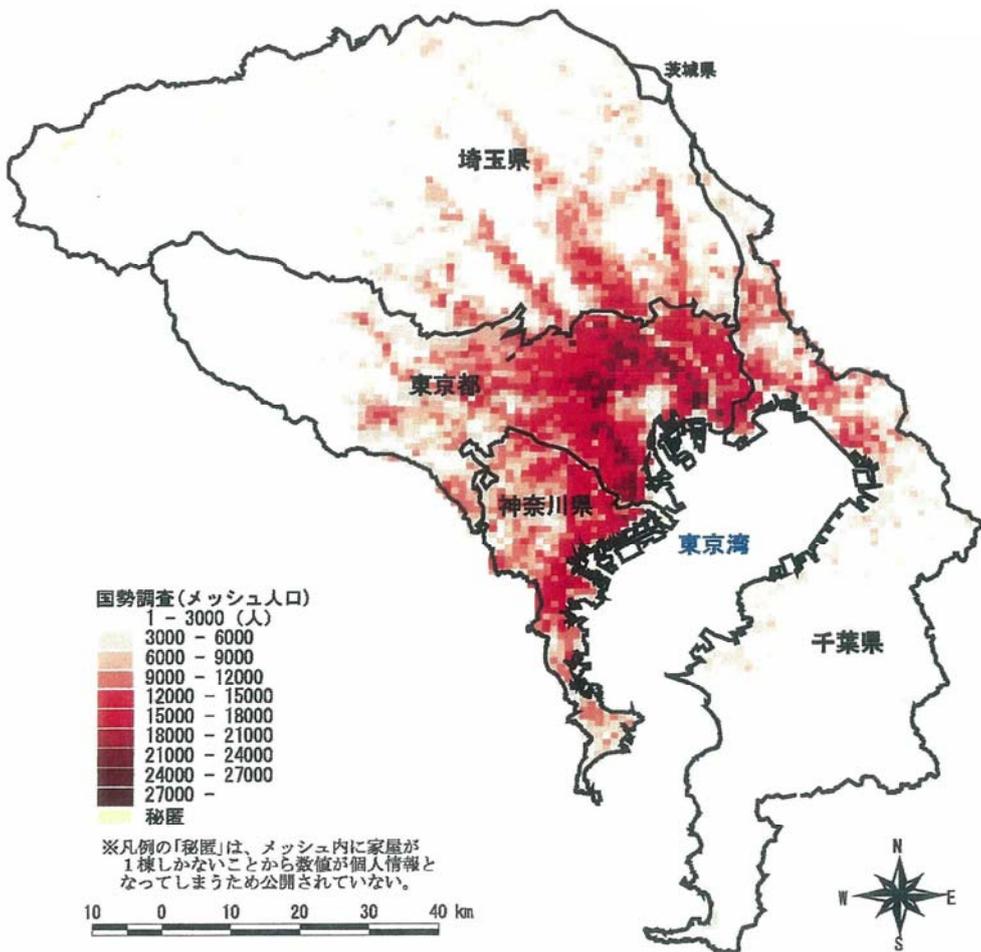
自治体別人口経年変化は戦後の高度成長期には人口は急増したが、近年は鈍化傾向にある。将来人口は東京都では 2020 年（平成 32 年）、神奈川県では 2015 年（平成 27 年）、埼玉県および千葉県では 2010 年（平成 22 年）をピークに減少すると予測されている。

各都県の製造品出荷額は国内企業物価指数をデフレーターとして、平成 12 年の物価を基準に算出した結果をみると、埼玉県、東京都および神奈川県は平成 2 年をピークに減少しているが、千葉県は平成 2 年以降も増加傾向にある。

各都県の産業別事業所数および従業者数は近年、減少傾向にあったが、平成 18 年は、平成 16 年に比較して産業別事業所数および従業者数とも増加した。



自治体別の東京湾流域内人口（平成 12 年）

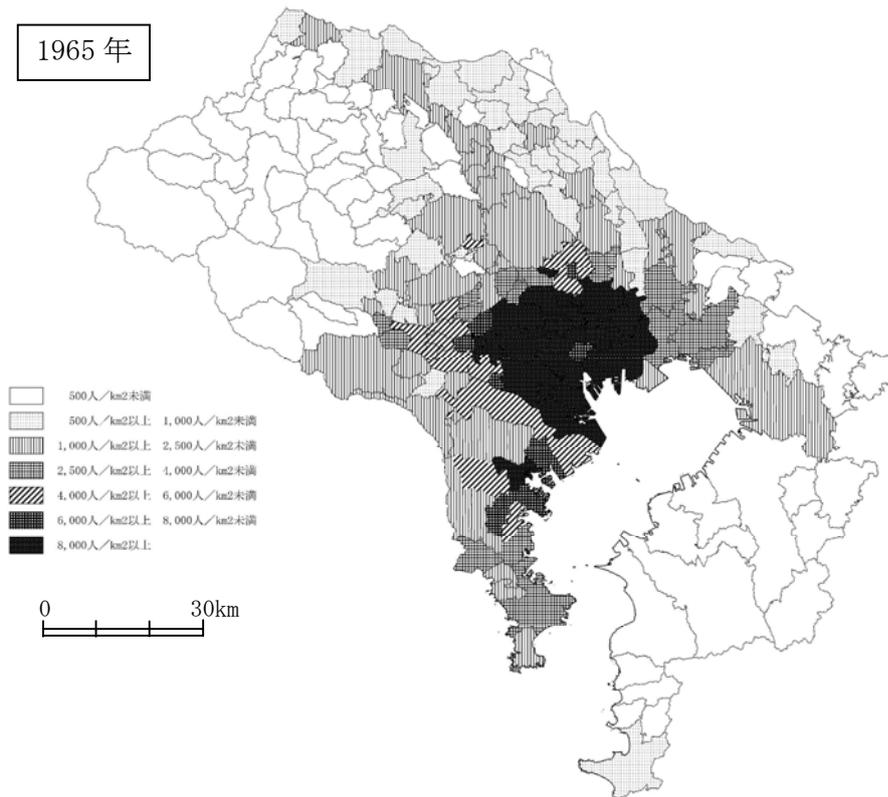


東京湾流域内人口分布（平成 12 年，1km メッシュ）

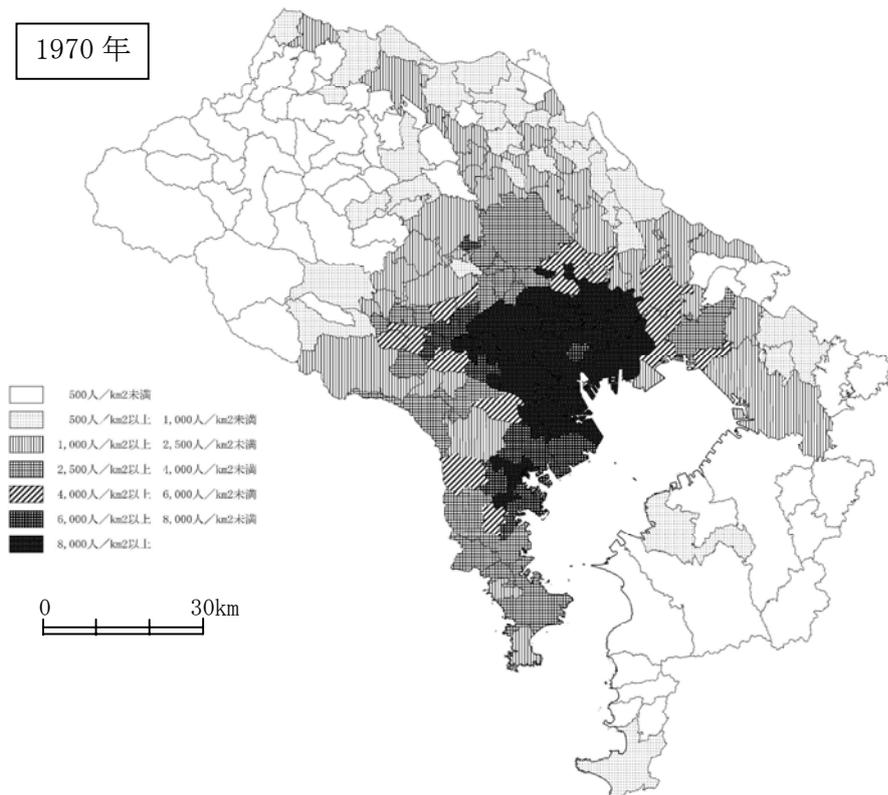
出典：東京湾流域別下水道整備総合計画に関する基本方針策定調査報告書（案）（平成 19 年 7 月 11 日），東京湾流域別下水道整備総合計画委員会

図Ⅱ. 1. 25 東京湾流域内人口分布状況

1965年

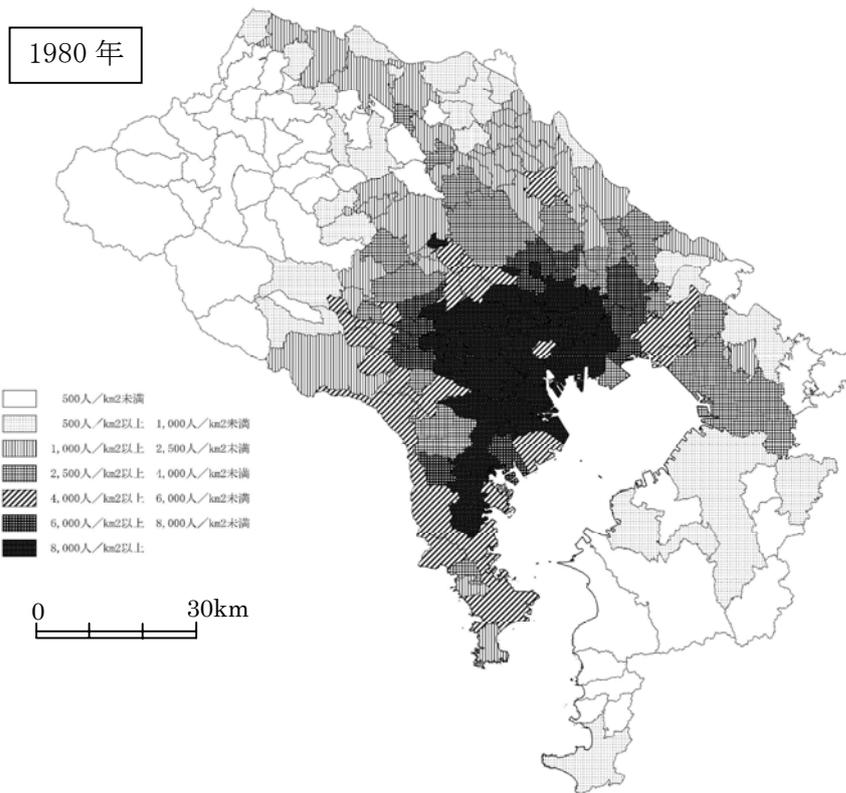
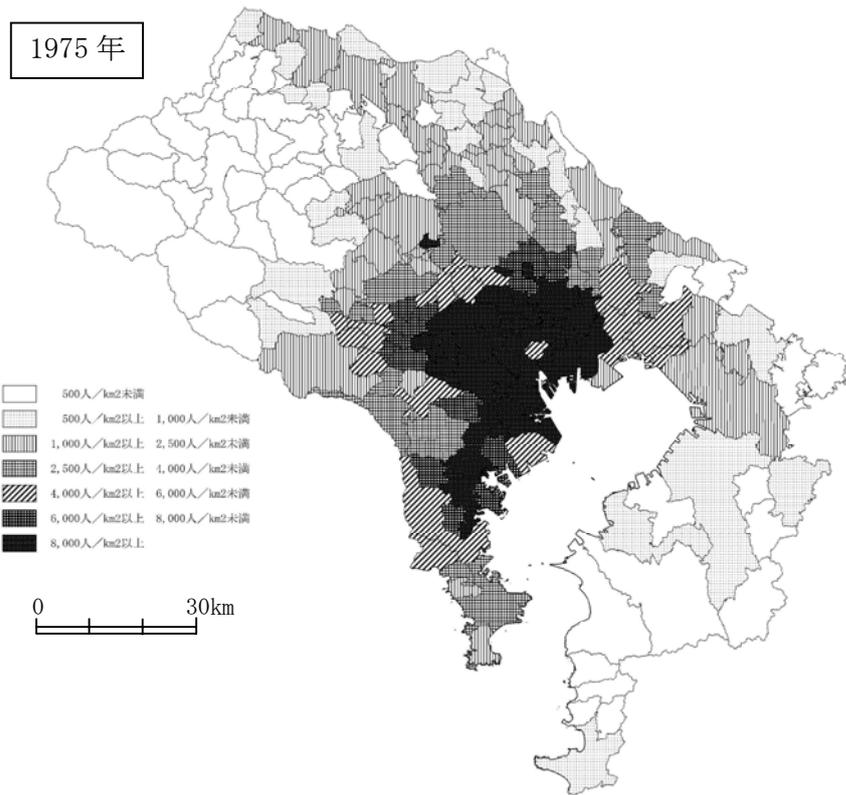


1970年



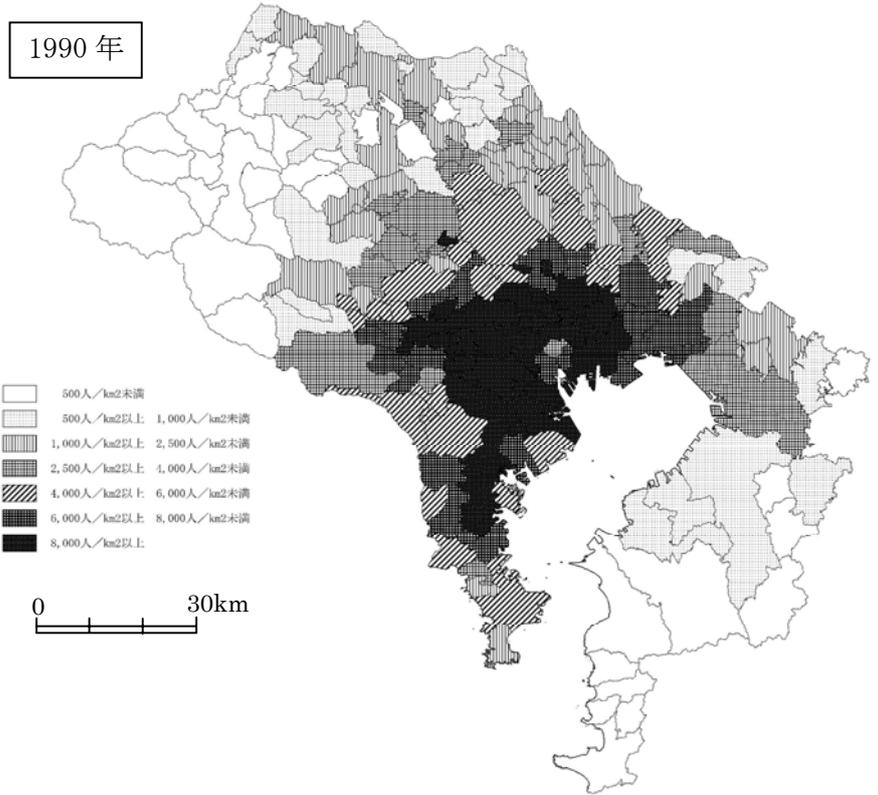
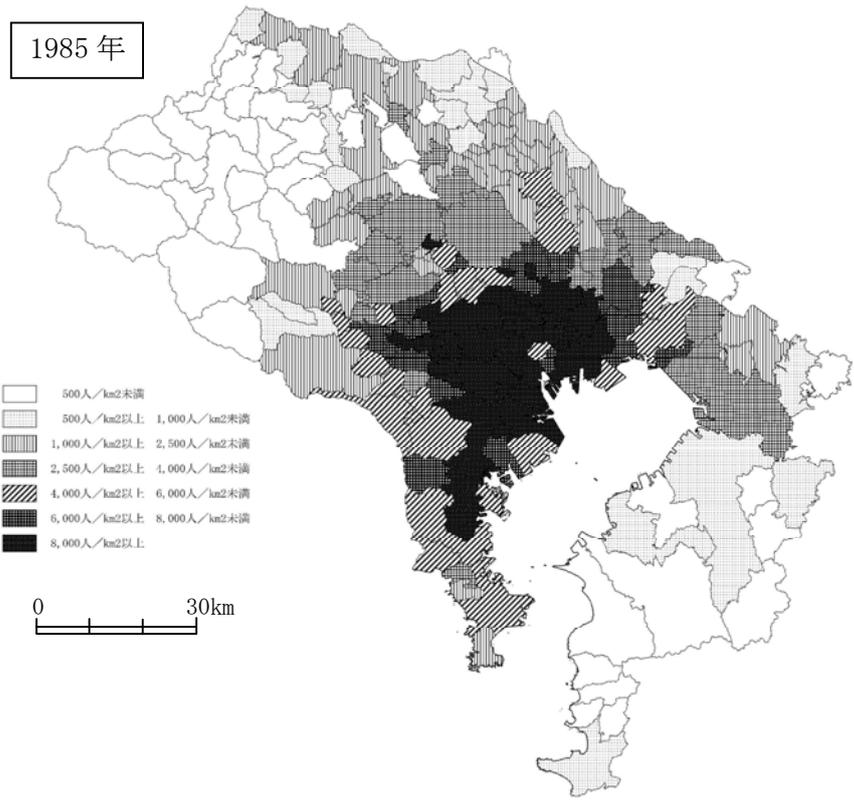
注) 第10回～第18回国勢調査のデータより作成した。

図Ⅱ.1.26 (1) 市町村別人口密度の推移



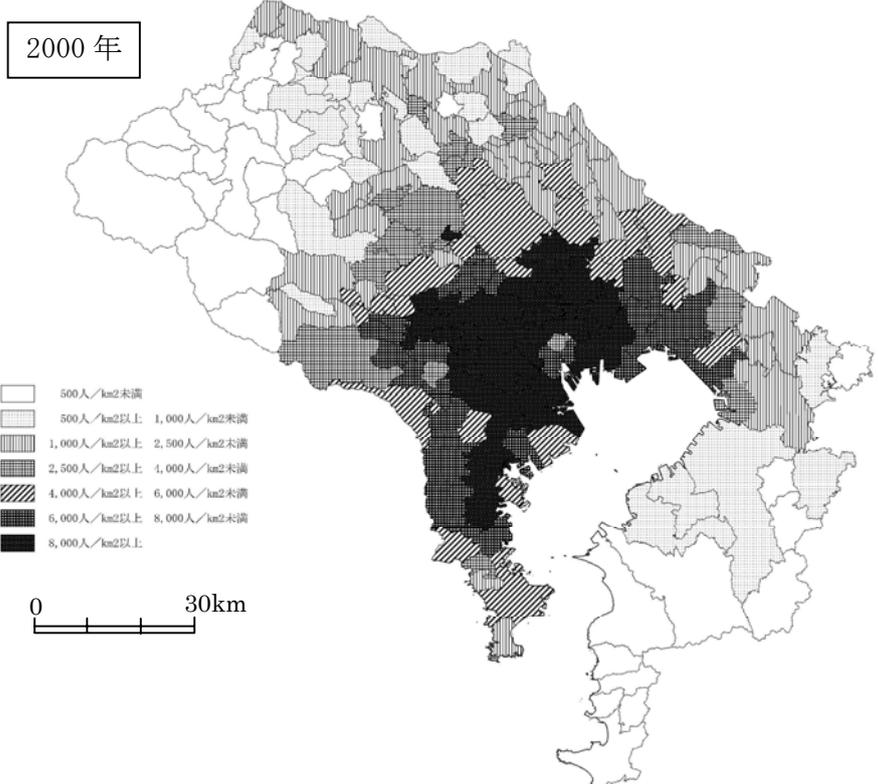
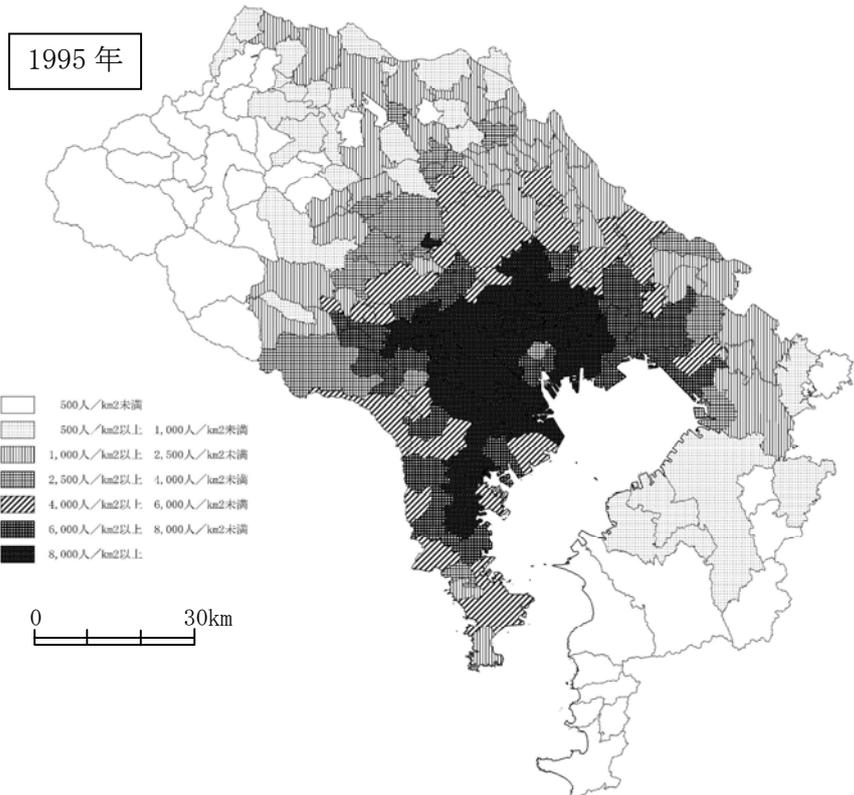
注) 第10回～第18回国勢調査のデータより作成した。

図Ⅱ.1.26 (2) 市町村別人口密度の推移



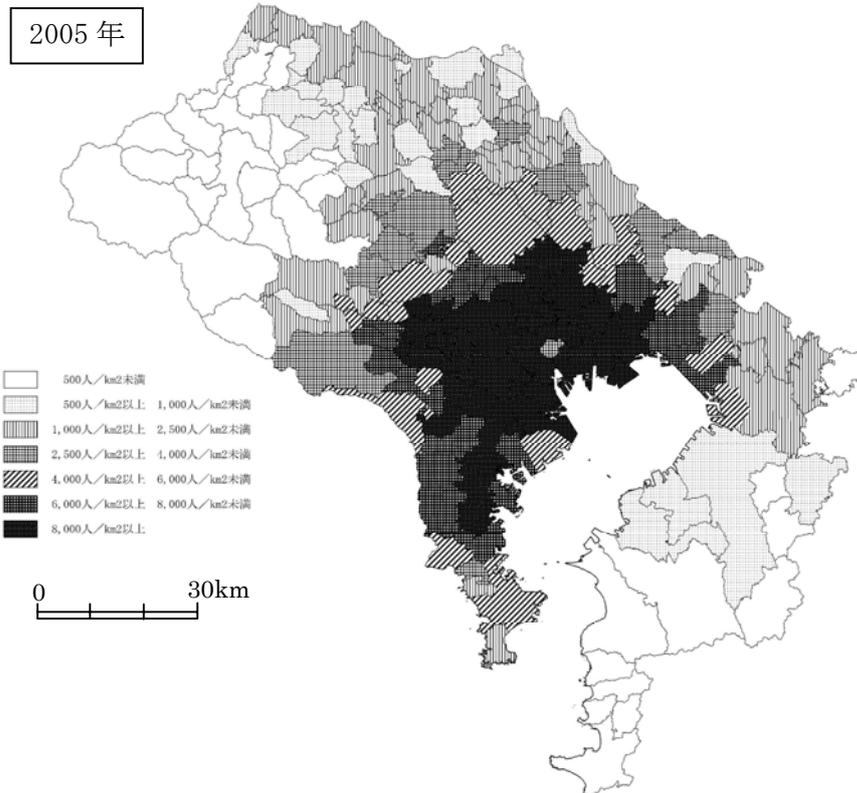
注) 第10回～第18回国勢調査のデータより作成した。

図Ⅱ.1.26 (3) 市町村別人口密度の推移



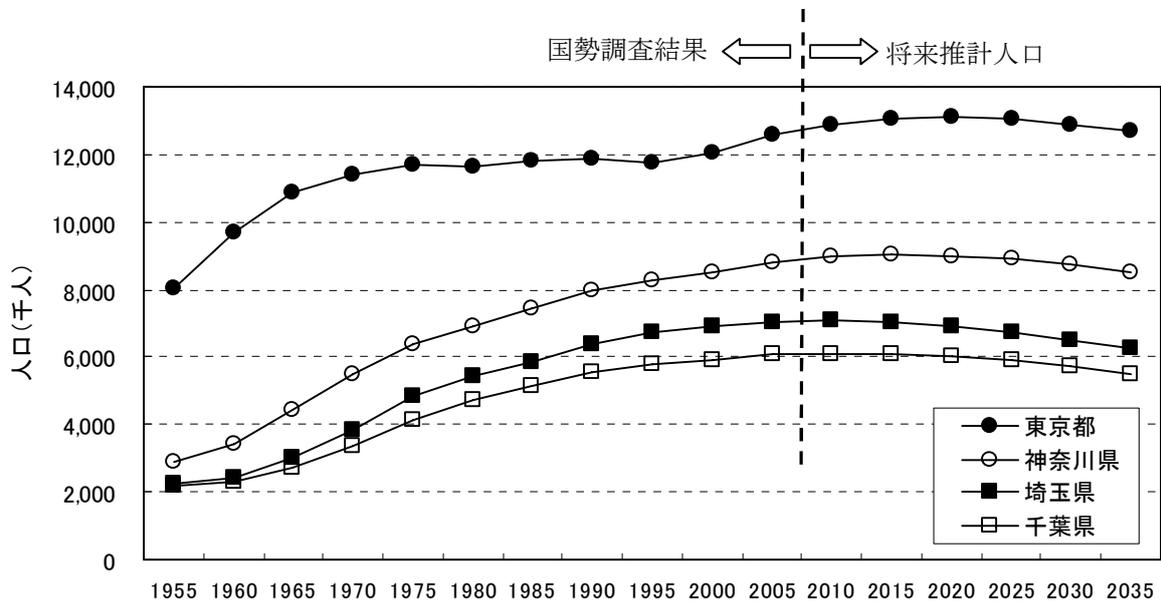
注) 第10回～第18回国勢調査のデータより作成した。

図Ⅱ.1.26 (4) 市町村別人口密度の推移



注) 第10回～第18回国勢調査のデータより作成した。

図Ⅱ.1.26 (5) 市町村別人口密度の推移



(国勢調査による人口)

単位：千人

区 分	1955	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005
東京都	8,037	9,684	10,869	11,408	11,674	11,618	11,829	11,856	11,774	12,064	12,577
神奈川県	2,919	3,443	4,431	5,472	6,398	6,924	7,432	7,980	8,246	8,490	8,792
埼玉県	2,263	2,431	3,015	3,866	4,821	5,420	5,864	6,405	6,759	6,938	7,054
千葉県	2,205	2,306	2,702	3,367	4,149	4,735	5,148	5,555	5,798	5,926	6,056

(将来推計人口)

単位：千人

区 分	2010	2015	2020	2025	2030	2035
東京都	12,906	13,059	13,104	13,047	12,905	12,696
神奈川県	8,962	9,018	8,993	8,896	8,737	8,525
埼玉県	7,082	7,035	6,923	6,752	6,527	6,258
千葉県	6,108	6,087	6,008	5,879	5,706	5,498

出典：国勢調査結果の時系列データ，総務省統計局
日本の都道府県別将来推計人口（平成19年5月推計）
国立社会保障・人口問題研究所

図Ⅱ.1.27 自治体別人口経年変化および将来人口

表Ⅱ.1.10 製造品出荷額の推移

(デフレーターなし)

単位：百万円

区 分	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
昭和50年	5,193,348	5,577,853	11,487,281	12,051,723
昭和55年	9,549,050	9,898,688	17,295,270	20,318,010
昭和60年	12,828,491	11,107,536	18,977,888	25,003,516
平成2年	16,997,615	12,187,161	22,846,260	28,044,836
平成7年	15,205,348	11,594,875	19,679,155	24,143,815
平成12年	14,474,033	11,457,331	17,959,034	21,727,608
平成17年	13,937,170	12,147,864	11,003,076	19,451,281

出典：工業統計表(昭和50年～平成7年), 通商産業大臣官房調査統計部

工業統計表(平成12年～17年), 経済産業省経済産業政策局調査統計部

(デフレーターあり)

単位：百万円

区 分	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
昭和50年	5,990,020	6,433,510	13,249,460	13,900,488
昭和55年	8,420,679	8,729,002	15,251,561	17,917,116
昭和60年	11,253,062	9,743,452	16,647,271	21,932,909
平成2年	15,694,935	11,253,150	21,095,346	25,895,508
平成7年	14,606,483	11,138,208	18,904,088	23,192,906
平成12年	14,474,033	11,457,331	17,959,034	21,727,608
平成17年	14,265,271	12,433,842	11,262,104	19,909,192

(デフレーター)

年 次	国内企業物価指数
昭和50年	86.7
昭和55年	113.4
昭和60年	114.0
平成 2年	108.3
平成 7年	104.1
平成12年	100.0
平成17年	97.7

出典：「国内企業物価指数」日本銀行調査統計局

注) 平成12年を100とする。

表Ⅱ. 1. 11 自治体別産業別事業所数および従業者数

単位：従業者数 1,000人

区 分	埼玉県		千葉県		東京都		神奈川県		
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	
総 数	昭和50年	177,070	1,311	139,091	1,075	680,815	6,582	235,292	2,205
	昭和56年	230,165	1,769	184,578	1,474	790,521	7,574	287,700	2,642
	昭和61年	255,841	2,055	201,368	1,674	797,483	7,957	307,306	2,957
	平成3年	270,604	2,402	212,598	1,978	777,470	8,777	322,774	3,387
	平成8年	271,066	2,408	208,557	1,956	759,517	8,416	320,549	3,277
	平成11年	260,667	2,276	199,206	1,842	712,997	7,602	306,259	3,080
	平成13年	259,792	2,361	200,094	1,935	711,021	8,056	302,217	3,118
	平成16年	238,628	2,244	186,824	1,831	664,562	7,753	284,658	2,968
	平成18年	254,835	2,567	194,817	2,053	690,556	8,705	288,962	3,332
農林漁業	393	4,584	637	7,794	355	3,615	464	4,088	
鉱 業	35	707	76	858	79	2,650	38	377	
建 設 業	26,779	174,782	19,832	144,675	43,157	447,963	26,430	207,353	
製 造 業	33,466	527,125	12,191	258,058	63,104	897,472	21,096	515,304	
電気・ガス・熱供給・水道業	270	9,283	281	10,914	451	31,038	288	13,783	
情報通信業	1,424	31,775	997	27,681	21,326	759,290	2,475	97,931	
運輸業	5,895	168,001	4,482	126,910	20,435	407,456	7,066	184,871	
卸売・小売業	62,866	536,074	53,034	460,754	176,284	1,852,456	73,298	676,842	
金融・保険業	2,963	49,989	2,582	44,747	9,830	357,847	3,373	59,681	
不動産業	13,975	45,148	10,468	35,546	51,676	248,743	25,160	78,880	
飲食店、宿泊業	30,846	204,174	27,534	189,659	100,909	776,562	41,340	308,347	
医療、福祉	15,458	234,444	13,132	205,624	40,143	583,353	20,225	329,442	
教育、学習支援業	11,665	141,594	9,026	127,098	20,343	405,225	12,628	189,668	
複合サービス事業	1,184	23,843	1,280	23,563	2,693	60,947	1,437	31,168	
サービス業 (他に分類されないもの)	46,375	343,762	37,947	319,386	137,639	1,633,418	52,391	545,239	
公務 (他に分類されないもの)	1,241	71,773	1,318	69,254	2,132	236,835	1,253	89,381	

出典：平成8～16年 事業所・企業統計調査，総務省統計局

(14) 東京湾沿岸の風土の変遷

①東京内湾における昭和30年代の風景

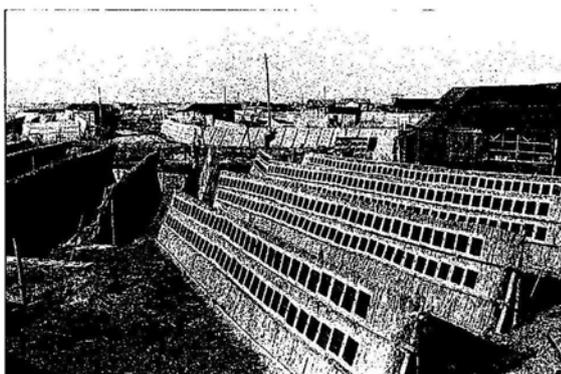
a. 浦安

浦安では埋立が進む前の昭和30年代には遠浅の海でアサリ、ハマグリを対象とした貝類漁業や海苔養殖が盛んに行われていた。現在でも漁業者は激減したものの、底引き網漁業が営まれている。



出典：小泉定弘写真集「浦安 1965-1972」，リトルギャラリー

図Ⅱ.1.28 船だまり（浦安，昭和30年代）



出典：小泉定弘写真集「浦安 1965-1972」，リトルギャラリー

図Ⅱ.1.29 海苔の天日干し（浦安，昭和30年代）

b. 羽田・大森

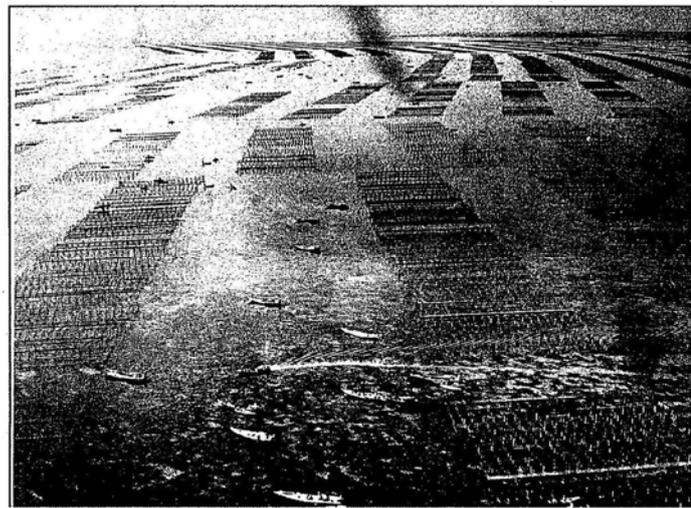
羽田は羽田空港のイメージが強いが、かつては漁業の盛んな地区であった。現在でも、漁業者は極めて少ないが、腰まきと呼ばれる漁法でアサリを獲っている。

大森では昭和 30 年代まで海苔養殖が行われていた。



出典：消えた干潟とその漁業「特別展 写真が語る東京湾」, 大田区郷土博物館

図 II. 1. 30 海苔の収穫（大森, 昭和 30 年代）



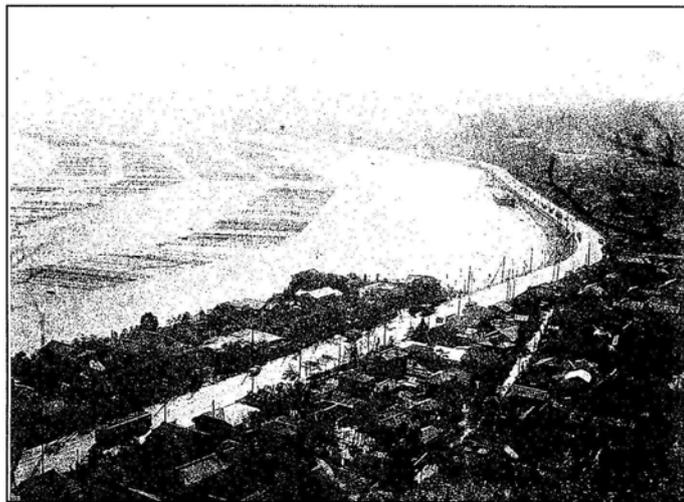
出典：消えた干潟とその漁業「特別展 写真が語る東京湾」, 大田区郷土博物館

図 II. 1. 31 海苔ひび（大森, 昭和 30 年代）

c. 横浜本牧・金沢

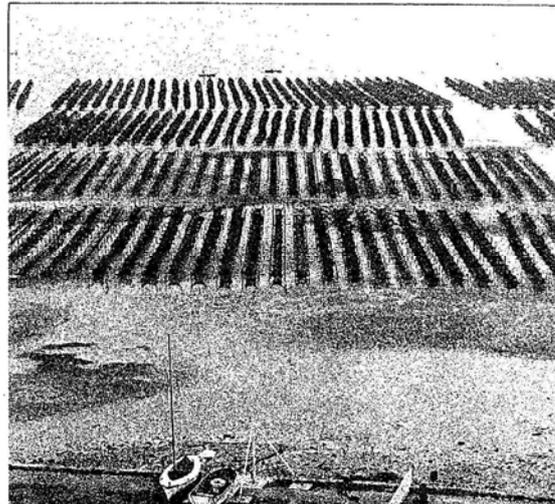
本牧および金沢地区では昭和 30 年代には海苔養殖、漁業が盛んであった。現在でも漁業者は少なくなったが、底引き網やアナゴ筒などの漁業が行われている。また、金沢地区では、かつての生産量と比較にならないが、区画漁業権が設定され海苔養殖が行われている。

(本牧地区)



出典：横浜みなとの唄，神奈川新聞社，かなしん出版

(金沢地区)



出典：太陽と潮騒と緑の丘，翔べ金沢区，金沢区

図Ⅱ.1.32 海苔ひび（昭和 30 年代）

②アオギス釣り

アオギスはかつて東京湾をはじめ、三河湾（三重県）、和歌浦（和歌山県）、吉野川河口（徳島県）、別府湾・豊前海（大分県）、宇部市厚東川河口（山口県）、北九州市沿岸（福岡県）、吹上浜（鹿児島県）などに生息していたキス科最大の魚類である。

かつては浦安を中心とした東京湾沿岸の干潟・浅海域は、脚立を下ろして釣るアオギス脚立釣りの本場であり、初夏の風物詩であった。

戦前、戦後にかけて盛んであった脚立釣りであるが、昭和 30 年代に入ると次第に釣場が東京から、千葉県側に移っていった。昭和 40 年代になると、アオギスの姿は東京湾各地で急速に消えていった。

アオギス脚立釣りは、浦安では昭和 30 年代後半、船橋で昭和 41 年頃、袖ヶ浦（長浦）や君津（青堀）では昭和 43 年頃を最後に見られなくなった。



注) 浦安市郷土博物館ホームページ (<http://kyoiku.city.urayasu.chiba.jp>)
より転載

図 II. 1. 33 アオギスの脚立釣り

(15) 海域区分の検討

これまでに整理した東京湾の自然条件や社会条件に基づいて、海域の類型化を行った。

海域を類型化するにあたっては、水質、底質等の環境条件のほか、生物の生息状況や、生物生息の基盤となり多様な機能をもつ干潟や藻場、親水性などを考慮する必要があるが、検討対象範囲を東京湾の内湾（富津岬～観音崎以北海域）とし、表Ⅱ.1.12に示した指標項目によって類型化を行った。

内湾域は、4種類5水域に区分された。湾中央湾奥（東京都・横浜市・川崎市沿岸域）と湾中央湾奥（千葉県市原・袖ヶ浦沿岸域）は、アクセス性等一部に違いはあるものの、同じ種類のゾーンとした。

類型化したゾーン区分を図Ⅱ.1.34に示す。

表Ⅱ.1.12 海域区分にあたって考慮した項目

項目	内容
海岸線の状況	埋立地の存在
浅海域の状況	-10m以浅水域の面的な広がり 自然海浜、人工海浜の有無
水質	水生生物への影響が大きい貧酸素水塊の影響の程度
底質	性状（泥、砂泥、岩など）
生物	遊泳力の大きい生物種は考慮しない 定着性の生物は、藻場・干潟・浅海域の分布で代用
漁業	漁業権の有無 など
親水性	水際線へのアクセスの程度、海水浴場等の有無を考慮

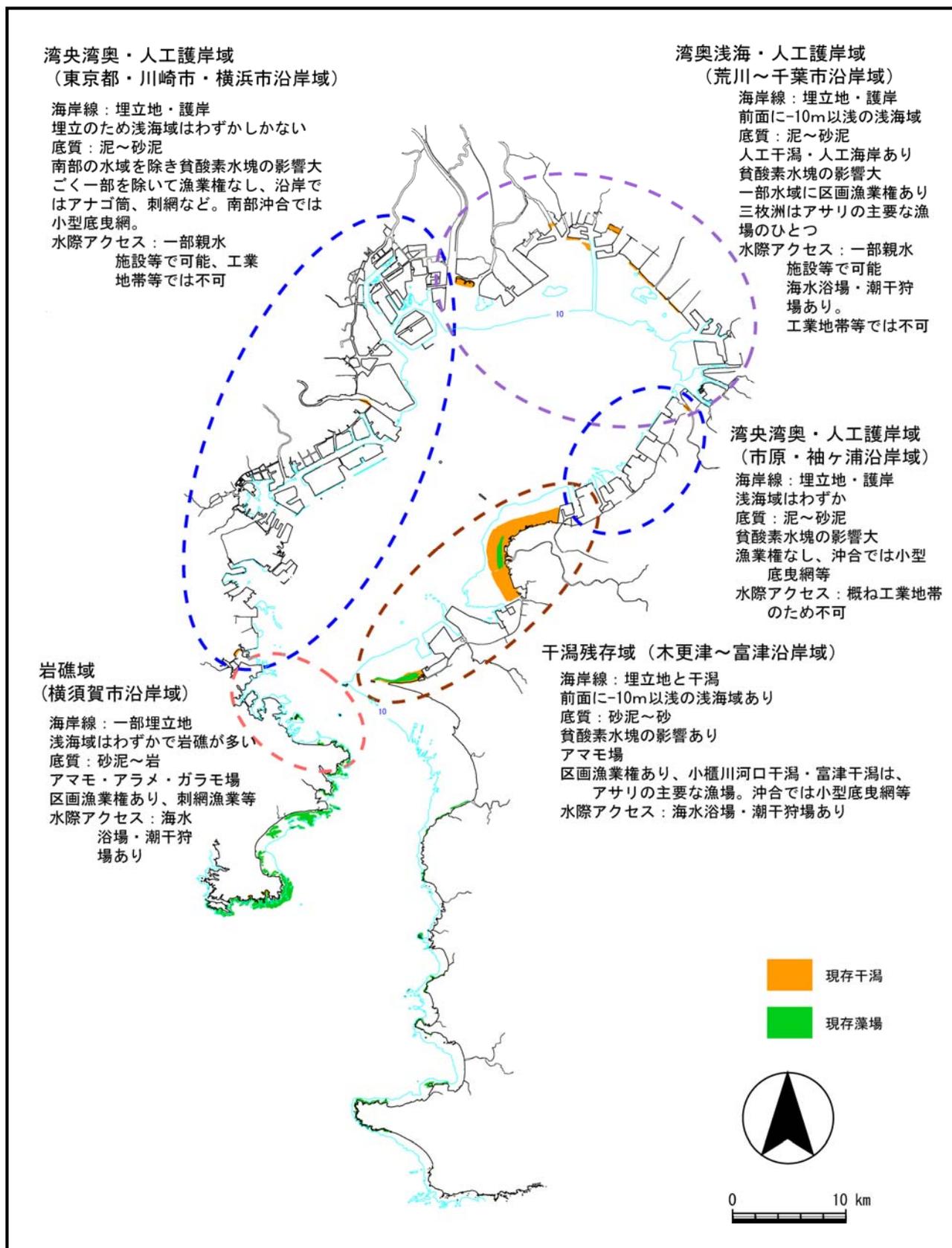


図 II. 1. 34 東京湾 (内湾) のゾーン区分

2. 東京湾流域・海域における多様な主体との連携を推進するための課題の抽出

2-1. 東京湾流域住民へのアンケート

(1) アンケートの概要

1) アンケート手法等の検討

① アンケートの目的

東京湾では、「東京湾再生推進会議」が策定した行動計画に基づく取り組みを行っているところであるが、その中間評価によると現状は目標達成に至っておらず、一層の施策を効率的・効果的に実施することが必要であるとされている。

そのため、流域住民の方々の東京湾に対する意識を把握し、今後の施策の立案に反映することが重要であるという認識に至った。

以上のことから、東京湾流域の住民にアンケートを実施した。

② アンケート手法の検討

アンケートは一般に政治や社会認識、消費動向等を住民がどのように認識しているかを把握し、行政施策やマーケティングにおける基礎資料として活用する。

アンケート手法は、直接被験者である住民に聞き取る手法から、間接的に聞き取る方法があり、以下に各手法を示す。

表Ⅲ.2.1 アンケート手法の根拠

調査方法	訪問留置調査	訪問留置調査	郵送調査	電話	Web調査
名簿	(住民台帳閲覧等)	(エリアサンプリング)	(ボランティアパネル等)	(ボランティアパネル等)	(ボランティアパネル等)
費用	高 >	高 >	中 >	中 >	安
実査期間	2ヶ月 >	1ヶ月 >=	1ヶ月 >	2週間 >	1週間
サンプルの代表性	高 >=	高 >	中 >	低 =	低
質問量	標準8頁程度	標準8頁程度	標準8頁程度	max20分	標準8頁程度
実施可能性	公益性があれば可能	可能	可能	可能	可能

訪問留置調査は、アンケートを直接被験者の住民に手渡し、その後回収する方法である。この方法では50%以上の回収が見込まれ、有効回答率も高く精度も良いが、調査員を派遣し、記入回答を確認する等の手間とコストがかかる。

郵送調査では、調査員を派遣することなく実施できるため、コストは縮減可能であるが、対面依頼による協力要請の即時補足ができないなどの理由で一般に、20～30%と回答率は低いものとなることがある。

緊急な世論調査等で用いられている電話調査（RDD）はランダムに電話をかけて、設問に答えてもらうものであり、コストは低い。この方法では設問に要する時間が限定されるとともに、近年の携帯電話の普及により固定電話の加入者層が高いため、回答に偏向が見られることもある。

WEB調査は近年簡易な手法として用いられているが、調査範囲を限定できないことや、被験者層が必ずしも明確にならないことから、回答に対する信頼性が低い。

以上を勘案し、郵送法によるアンケート手法を採用した。

2) サンプルング等の検討

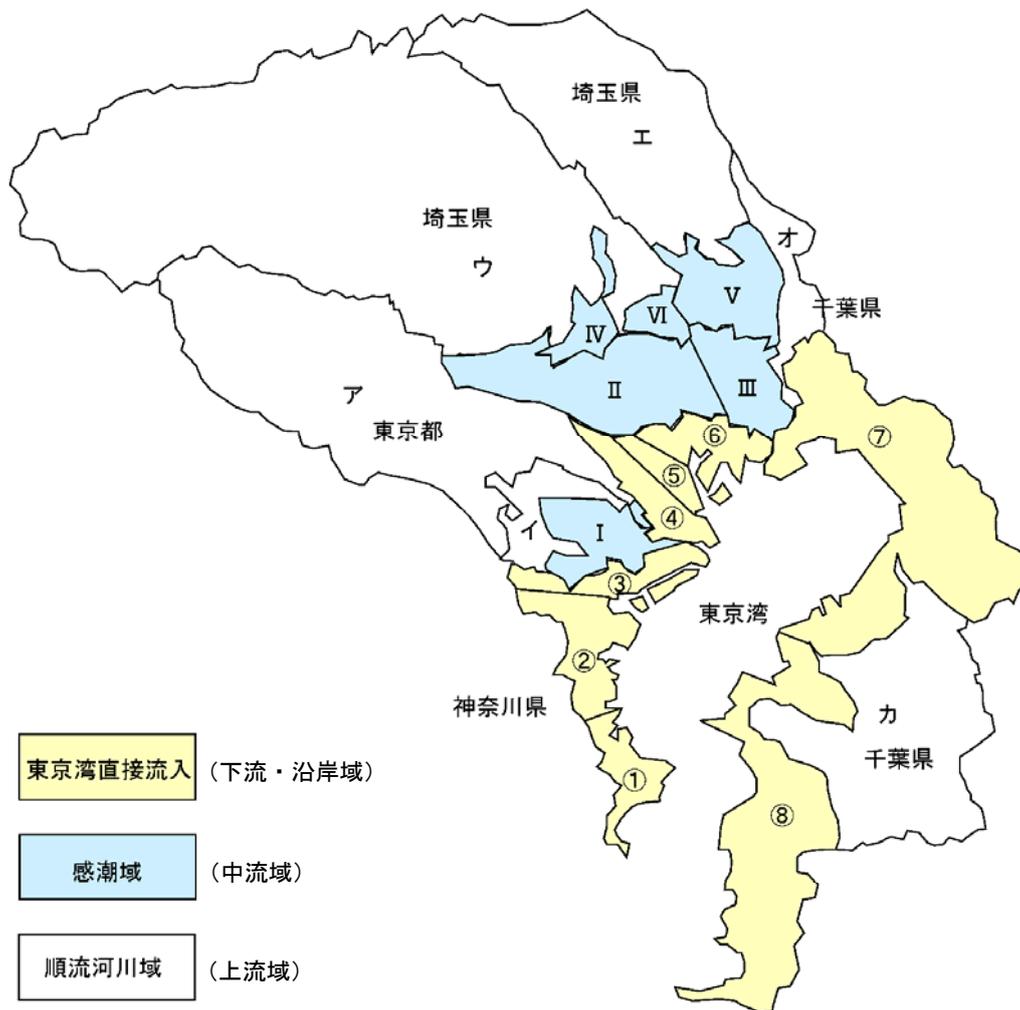
① サンプルングの対象

東京湾流域内とし、対象者は20才以上69才未満とする。流域人口は2900万に対して、約2000万人が対象となる。（平成17年国勢調査人口）

神奈川県	329万人
東京都	847万人
埼玉県	484万人
千葉県	337万人
計	1997万人

② ブロック区分の設定

東京湾への意識を把握し、東京湾再生の行政施策に反映させるため、サンプルリングの対象となるブロックを直接東京湾と接している箇所、干満の影響がある箇所、淡水箇所に区分した。各ブロックの調査人口が概ね均衡していることで、3つのブロック間の意識を把握することが可能である。本図Ⅲ. 2. 1にブロック区分を示す。



東京湾直接流入(下流・沿岸域)		感潮域(中流域)		順流河川域(上流域)	
①神奈川外湾	32万人	I 多摩川・鶴見川系	107万人	ア多摩川系	174万人
②神奈川内湾	117万人	II 荒川系	231万人	イ鶴見川系	40万人
③多摩川・鶴見川系	33万人	III 中川・綾瀬川・江戸川系	146万人	ウ荒川系	195万人
④多摩川系	107万人	IV 荒川系1	77万人	エ中川・綾瀬川系	107万人
⑤東京単独系	72万人	V 中川・綾瀬川系	60万人	オ江戸川系	82万人
⑥荒川・中川・綾瀬川・隅田川・江戸川系	116万人	VI 荒川系2	46万人	カ千葉単独系	47万人
⑦千葉内湾	200万人				
⑧千葉外湾	8万人				
計	644万人	計	667万人	計	645万人

図Ⅲ. 2.1 ブロック区分

③サンプリング手法の検討

アンケート実施に向けたサンプルを抽出するためのサンプリング手法は、次の2手法とすることとした。

a. 選挙人名簿について

有権者対象の世論調査や、選挙の情勢調査などの抽出名簿には選挙人名簿を利用する。選挙人名簿を住民台帳と比べると、世帯内の位置情報がないこと、年齢が20歳以上の個人のみ名簿であることが特徴である。従って「世帯主」や「主婦」、あるいは「単身世帯」などを条件とする調査や、「高校生以上」といった対象者条件の調査には使用できない。選挙人名簿は原則としては投票所単位に整理されているため、訪問調査などで第一次抽出単位とする地点の広がり大きく異なることがない。

選挙人名簿には住民台帳のような閲覧手数料の規定がなく、閲覧それ自体には費用負担はない。選挙人名簿は国政選挙や地方選挙があると、その前一定期間は閲覧ができない。また、選挙人名簿も配列が50音順や生年月日順のために地域を限定した抽出が困難な場合もある。

b. 住民台帳について

従来は、世論調査・社会調査・市場調査などの調査対象抽出には、住民基本台帳を利用してきた。住民台帳は名前・住所・生年月日のほか世帯主との続柄も参照できるため、きわめて高品質のサンプリングが可能な名簿である。一方、個人情報保護の強いうねりの中で住民台帳の利用は公益性の高い目的以外では困難になってきている。

国の機関の調査であれば、当該機関の責任者の閲覧申請書の提出、調査機関への委任状あるいは契約書の写し等の提示が行なわれれば、閲覧が認められる可能性は高い。しかし、住民台帳の電子化とともに、従来は台帳が地域・町丁字や番地順の配列であったものが、氏名や世帯主名の50音順となったり、生年月日順としたりするところも増え、多段無作為抽出により調査地点を決め、調査員を出向させるタイプの調査には困難になりつつある。

④サンプリングの精度について

a. 設定サイズについて

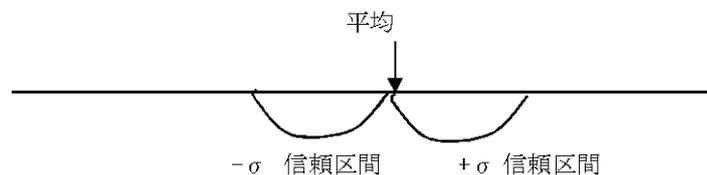
調査で問題にする精度は、母集団推計の対象が世帯の水道の使用量のよう
に数量で調査されているものであれば、信頼係数を95% ($k = 2$) として

$$\sigma = k * \text{SQR} \left(\frac{(N-n)}{(N-1)} * \sigma^2 / n \right)$$

また、意見に対する「賛成」「反対」のような比率で示されれば、次式から求められる。

$$\sigma = k * \text{SQR} \left(\frac{(N-n)}{(N-1)} * P(1-P) / n \right)$$

普通、調査では質問がひとつということはないので、調査のサンプル数を考える場合は、そのなかで最も重要な項目について、要求される精度からサンプルサイズを決めることになる。



平均の場合、 $\text{相対精度} = \text{信頼区間} / \text{平均}$ を考え、この相対精度を0.1程度、信頼係数kは、2（95%）とするのが、一般的である。

精度の式中、右辺の先頭 $(N-n) / (N-1)$ は母集団サイズ：Nが数千にもなれば1と見なせるとして計算を割愛する。

b. 比率の標準誤差(95%の信頼幅)

比率pの標準誤差は次式で計算できる。ただしPは母集団における比率であるが、不明なので標本値pで代用する（nがある程度大きいとき）。

$$\sigma_p = \sqrt{P(1-P) / n} \quad \left(\frac{(N-n)}{(N-1)} \doteq 1 \text{ とする} \right)$$

もし調査対象者数が400人でその中の20%がある製品の使用者であったとすると、上式から使用率の標準誤差は約2%（ $\sqrt{0.2 \times 0.8 / 400}$ ）と計算することができる。信頼区幅95%の場合その約2倍の誤差で、母集団における使用率が区間16～24%内にあることが確率95%で保証される。

表Ⅲ. 2. 2サンプルサイズ別標準誤差

比率	50	100	150	200	250	300	350	400	450	1500
0										
0.05	0.060	0.043	0.035	0.030	0.027	0.025	0.023	0.021	0.020	0.011
0.10	0.083	0.059	0.048	0.042	0.037	0.034	0.031	0.029	0.028	0.015
0.15	0.099	0.070	0.057	0.049	0.044	0.040	0.037	0.035	0.033	0.018
0.20	0.111	0.078	0.064	0.055	0.050	0.045	0.042	0.039	0.037	0.020
0.25	0.120	0.085	0.069	0.060	0.054	0.049	0.045	0.042	0.040	0.022
0.30	0.127	0.090	0.073	0.064	0.057	0.052	0.048	0.045	0.042	0.023
0.35	0.132	0.093	0.076	0.066	0.059	0.054	0.050	0.047	0.044	0.024
0.40	0.136	0.096	0.078	0.068	0.061	0.055	0.051	0.048	0.045	0.025
0.45	0.138	0.098	0.080	0.069	0.062	0.056	0.052	0.049	0.046	0.025
0.50	0.139	0.098	0.080	0.069	0.062	0.057	0.052	0.049	0.046	0.025
0.55	0.138	0.098	0.080	0.069	0.062	0.056	0.052	0.049	0.046	0.025
0.60	0.136	0.096	0.078	0.068	0.061	0.055	0.051	0.048	0.045	0.025
0.65	0.132	0.093	0.076	0.066	0.059	0.054	0.050	0.047	0.044	0.024
0.70	0.127	0.090	0.073	0.064	0.057	0.052	0.048	0.045	0.042	0.023
0.75	0.120	0.085	0.069	0.060	0.054	0.049	0.045	0.042	0.040	0.022
0.80	0.111	0.078	0.064	0.055	0.050	0.045	0.042	0.039	0.037	0.020
0.85	0.099	0.070	0.057	0.049	0.044	0.040	0.037	0.035	0.033	0.018
0.90	0.083	0.059	0.048	0.042	0.037	0.034	0.031	0.029	0.028	0.015
0.95	0.060	0.043	0.035	0.030	0.027	0.025	0.023	0.021	0.020	0.011
1.00										

c. 平均値の標準誤差

標本の抽出方法にはいろいろあるが、単純な無作為抽出法では平均値mの標準誤差を次式で計算できる。ただし σ_m は平均値の標準誤差、nは調査対象数、 σ は母集団の個別データの標準偏差（調査データから推定）。

$$\sigma_m = \sigma / \sqrt{n}$$

この値を用いて「標本平均の前後に標準誤差の1.96倍の幅をとると、母集団平均がその中に入る確率は95%である」と言い切ることができる。この範囲のことを信頼区間と呼び、その中に入る確率を信頼係数と呼んでいる。もし信頼係数を99%にしたければ標準誤差の2.58倍の幅をとればよい。

⑤サンプリングの手順

流域内の20才以上69才以下の男女を対象とし、層化2段無作為抽出法により行った。

a. 1段目の抽出

調査エリアを沿川流域（下水道排水域）と、東京湾河口からの距離圏で層化し、各層の人口数に応じた調査地点数を配分し、町丁字別人口累積表に基づき調査対象地点系統抽出した。

基本的な最小分析単位を上記の排水域×距離圏を勘案した20程度のブロックと考え、各ブロックが最低でも50程度の回収サイズになるような標本設計を考える。のべ回収ミニマム＝ $50 \times 20 = 1000$ 件とする。

期待回収率を郵送法の場合で30%程度とおくと、配布数は3500程度が必要となる。

各ブロック内にはブロック内の人口の分布状況に応じて、5地点を系統抽出する。

（回収目標10件／地点×5地点／ブロック×20ブロック＝1000）

（抽出数35件／地点×5地点／ブロック×20ブロック＝3500）

b. 2段目の抽出

下記a、bの3つの手法を併用する「ミックスモードサンプリング」を行った。

a. 当該地点の選挙人名簿から無作為抽出。

b. 選挙人名簿の閲覧が不能の場合、当該地点の住民台帳から無作為抽出する。

a, bの抽出名簿に従い依頼状を事前送付の上郵送調査法にて実施する場合の回収率は20～30%を見込むことができる。

⑥サンプル地点の抽出

前述までの検討より、サンプル地点を抽出した。抽出した100地点を表Ⅲ.2.3に示す。

表Ⅲ.2.3 サンプル地点

地点一連番号	県	市区町村	ブロック	ブロック区分	名称	地点一連番号	県	市区町村	ブロック	ブロック区分	名称	
1						51						
2	神奈川県	横須賀市	1	①	神奈川外湾	52	東京都	足立区	11	Ⅲ	中川・綾瀬川・江戸川系	
3						53						
4						54		葛飾区				
5						55						
6	神奈川県	三浦市	2	②	神奈川内湾	56	埼玉県	さいたま市 中央区	12	Ⅳ	荒川系1	
7		横浜市 神奈川区				さいたま市 大宮区						
8		横浜市 中区				戸田市						
9		横浜市 港南区				朝霞市						
10		横浜市 旭区				新座市						
11		横浜市 磯子区				草加市						
12	神奈川県	横浜市 鶴見区	3	③	多摩川・鶴見川系	61	埼玉県	越谷市	13	Ⅴ	中川・綾瀬川系	
13						62						
14						63		八潮市				
15						64		吉川市				
16	東京都	大田区	4	④	東京単独①	65	東京都	蕨市	14	Ⅵ	荒川系2	
17		66										
18		67										
19		68										
20		69										
21		70				川口市						
22	港区	5	⑤	東京単独②		71	東京都	鳩ヶ谷市	15	ア	多摩川系	
23	品川区					72						
24	目黒区					73						
25	渋谷区					74						
26	中央区					75						
27	江東区					76						
28	神奈川県	江戸川区	6	⑥	荒川・中川・綾瀬川・隅田川・江戸川系	77	神奈川県	横浜市 緑区	16	イ	鶴見川系	
29						78		横浜市 青葉区				
30						79		川崎市 高津区				
31						80		川崎市 多摩区				
32	千葉県	千葉市 中央区	7	⑦	千葉内湾	81	埼玉県	さいたま市 北区	17	ウ	荒川系	
33		千葉市 稲毛区				82						
34		市川市				83						
35		船橋市				84						
36		習志野市				85						
37		館山市				86						
38	神奈川県	横浜市 港北区	8	⑧	千葉外湾	87	千葉県	日高市	18	エ	中川・綾瀬川系	
39						富津市		88				
40						南房総市		89				
41						鋸南町		90				
42	神奈川県	横浜市 都筑区	9	Ⅰ	多摩川・鶴見川系	91	千葉県	松戸市	19	オ	江戸川系	
43						横浜市 幸区		92				
44						川崎市 幸区		93				
45						川崎市 中原区		94				
46	東京都	新宿区	10	Ⅱ	荒川系	95	千葉県	川崎市 多摩区	20	カ	千葉単独系	
47		杉並区				96						
48		北区				97						
49		練馬区				98						
50		三鷹市				99						
						100						

3) アンケート項目の検討

流域住民の東京湾に関する環境問題の意識や港湾局の東京湾再生への取り組み、行政との連携の可能性に着目し、アンケート項目および内容を設計した。また、アンケートに答えてもらうための説明資料を作成した。なお、アンケート用紙はA4版で11頁とした。

① アンケートの目的と設問の考え方

a. 目的

東京湾流域住民は、日常生活の排水等を河川や下水道を通して東京湾に直接および間接的に流入させ、東京湾の水質（水環境）へのインパクトを与えている存在である。一方、行政は東京湾の水質改善や環境整備において港湾並びに下水道事業を推進し、環境改善に努めている。このようなことから、東京湾流域住民に対して、東京湾への認識や理解を得るとともに、行政の施策を円滑に推進していくために、意識調査を実施する。

b. 設問の考え方

設問は大きく8項目に分類・設定した。基本的には東京湾の水質を基軸に環境や利用、生物、行政施策や連携意識を把握し、今後の行政施策に反映するものとしている。

表Ⅲ.2.4 住民アンケート設問の考え方

設問	考え方
Q 1	被験者の 属性 並びに東京湾への 認識 を把握するために設定した。一般的な属性の他、生活との接点、来訪頻度や利用目的から東京湾への認識を把握する。
Q 2	被験者の東京湾への 関心度 を把握するために設定した。全体的な東京湾のイメージ、環境問題への認識を把握し、個別問題として利用、水質、生物、利用、近づきやすさの認識を把握する。
Q 3	被験者の 日常生活と東京湾との関わり を把握するために設定した。東京湾との関わり度合い、水質汚濁の原因と解決策の考えを把握する。
Q 4	東京湾の将来像への考え方を把握するために設定した。望むべき姿、水質のあり方、利用要望を把握する。
Q 5	東京湾に対する 行政の取り組み を被験者が理解・認識しているかを把握するために設定した。東京湾再生推進会議の存在、現在の施策、今後必要な施策について把握する。
Q 6	行政と住民の 連携の意識 を把握するために設定した。行政との連携意識の有無、連携する上での問題点等を把握する。
Q 7	港湾事業 に対する住民の意識を把握するために設定した。港湾事業の認識、必要とされる施策などを把握する。
Q 8	東京湾の改善に向けて、 下水道事業 の認識や下水道整備による東京湾再生の姿等を把握する。

②アンケートの設計

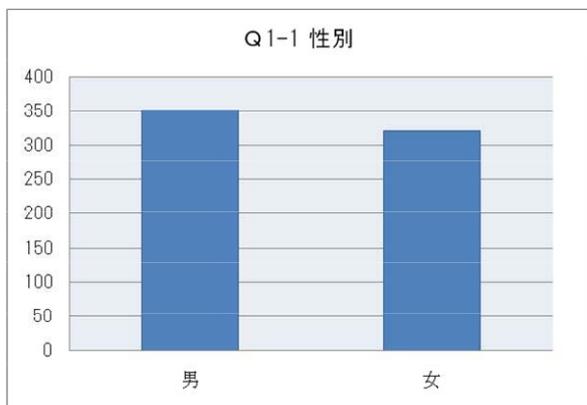
前頁の考え方に基づき、アンケートを設計した。また、アンケートに対して理解を得るための説明資料を作成した。使用したアンケート調査票および説明資料を巻末資料－1に添付する。

(2) アンケート結果

1) 質問項目別整理結果

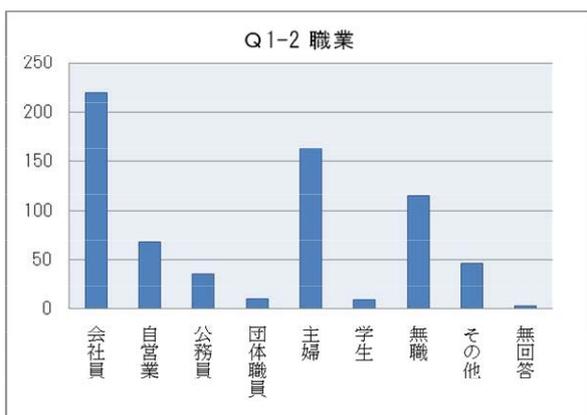
Q1 あなたご自身についてお伺いします。該当する箇所に○を付けてください。

Q1-1 性別を教えてください。



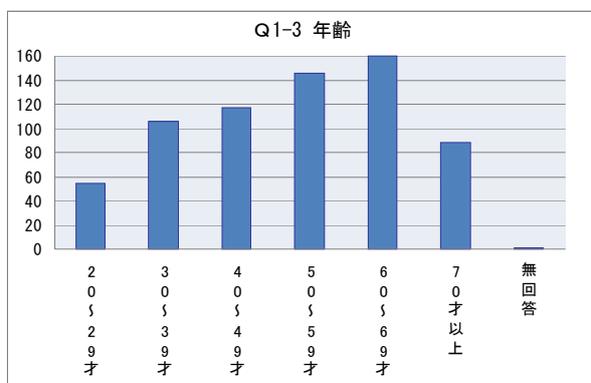
・回答者の男女比はほぼ同程度である。

Q1-2 職業を教えてください。



・会社員からの回答が最も多く、次に主婦が多い。

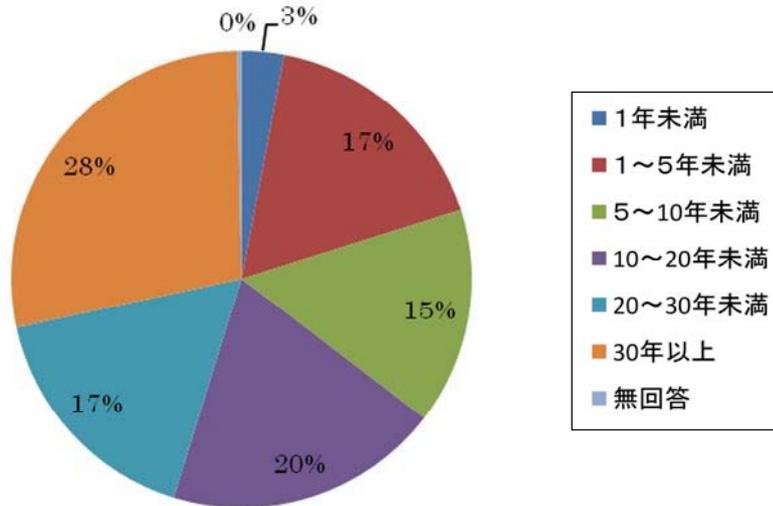
Q1-3 年齢を教えてください。



・60代からの回答が最も多く、50代、40代と年齢が下がるにしたがって回答が少なくなっている。

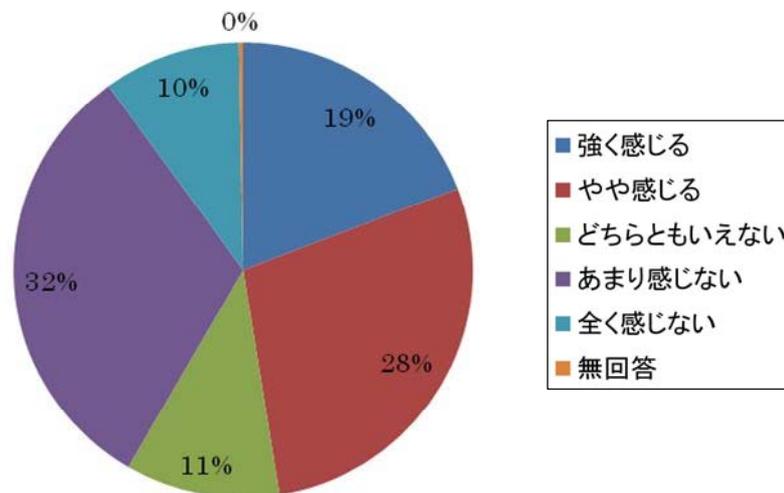
Q1-4 現在のお住まいの居住年数を教えてください。

- ・ 30年以上が最も多く、次いで10～20年未満となっている。



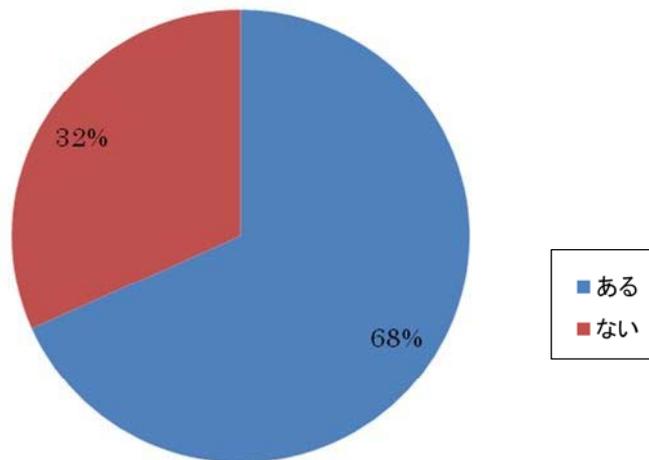
Q1-5 日常生活で東京湾を身近に感じますか。

- ・ あまり感じないが最も多いが、強く感じるとやや感じるを合わせると5割近くになり、全体として身近に感じている方が多い。



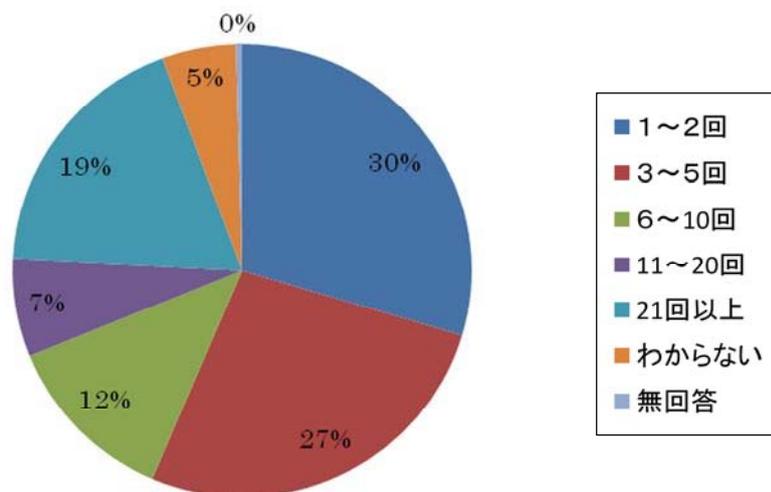
Q1-6 過去1年間に東京湾に行ったことがありますか。

- ・ 約7割の方が過去1年間に東京湾と訪れている。



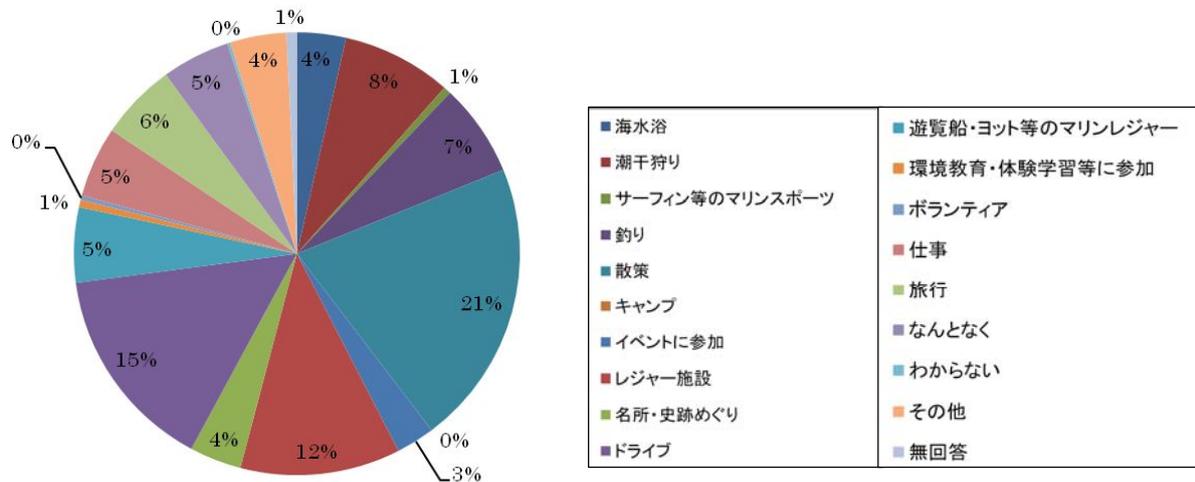
Q1-6-1 東京湾に行ったことがある方は何回行きましたか。1つだけ○印をつけてください。

- ・ 年間1～2回が最も多く、次いで3～5回となっている。21回以上の訪問も多い。



Q1-6-2 東京湾に行った目的は何ですか。○印をつけてください。(最大3つ)

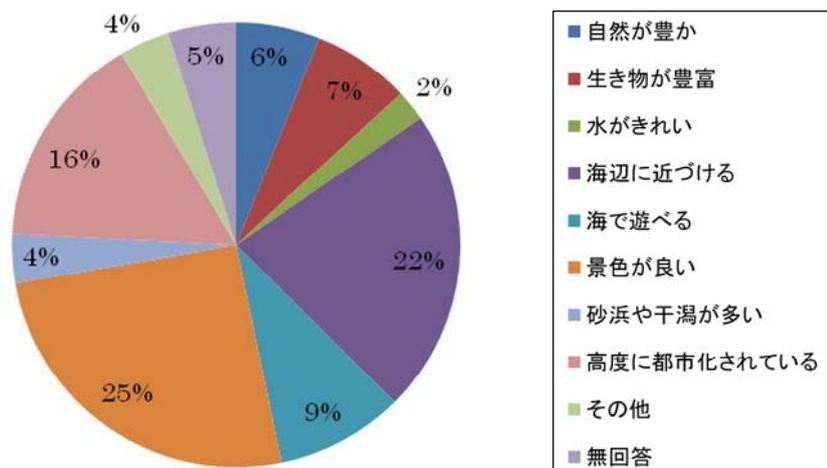
- ・ 散策が最も多く、次いでドライブ、レジャー施設となっている。



Q2 あなたが感じている東京湾についてお伺いします。

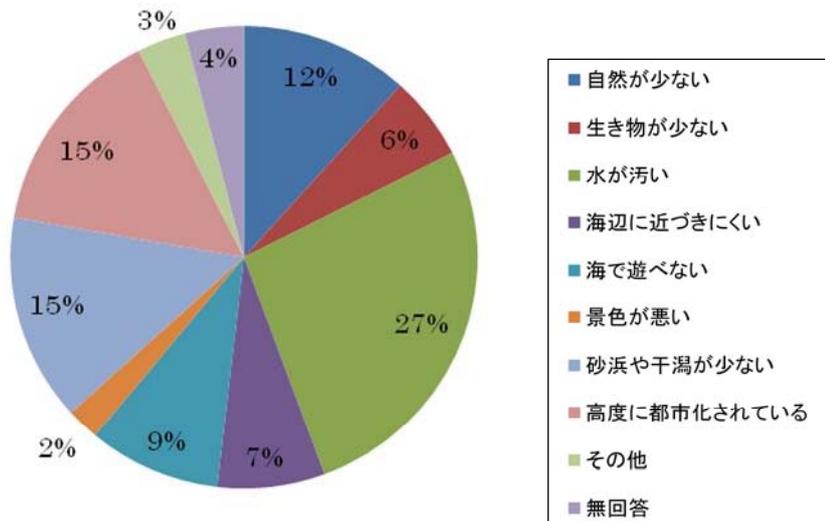
Q2-1 東京湾のどのようなところが好きですか。○印をつけてください。(最大3つ)

- ・ 景色が良いが最も多く、次いで海辺に近づける、高度に都市化されているとなっている。



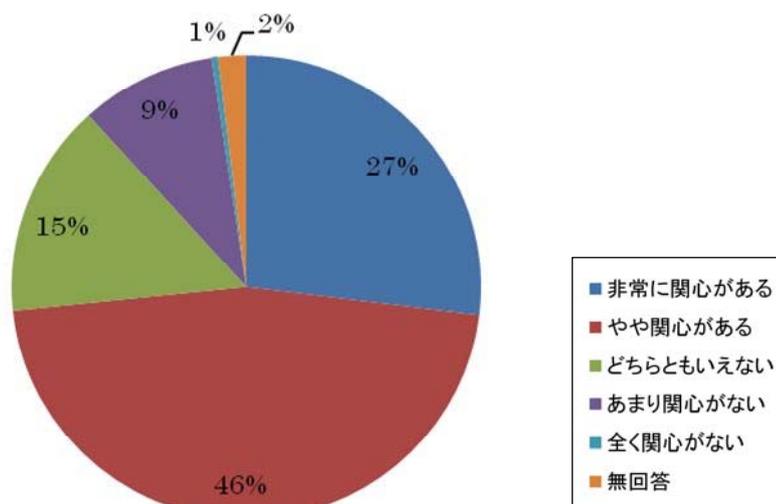
Q2-2 東京湾のどのようなところが嫌いですか。○印をつけてください。(最大3つ)

- ・ 水が汚いが最も多く、次いで高度に都市化されている、砂浜や干潟が少ないとなっている。



Q2-3 東京湾の環境問題に関心がありますか。1つだけ○印をつけてください。

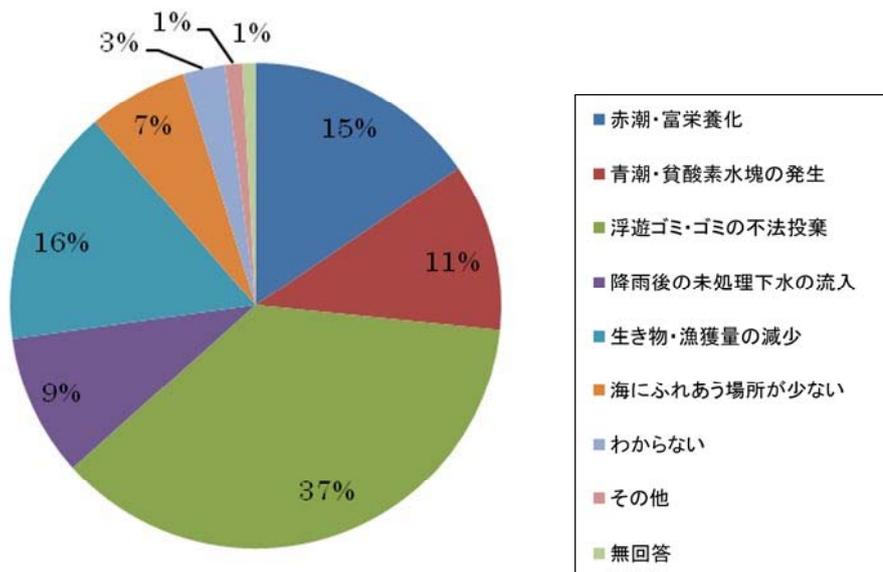
- ・ やや関心がある、次いで関心があるとなっている。
- ・ 7割以上の方が東京湾の環境問題に関心を持っている。



Q2-4 東京湾の環境問題で深刻だと思うものは何ですか。○印をつけてください。

(最大3つ)

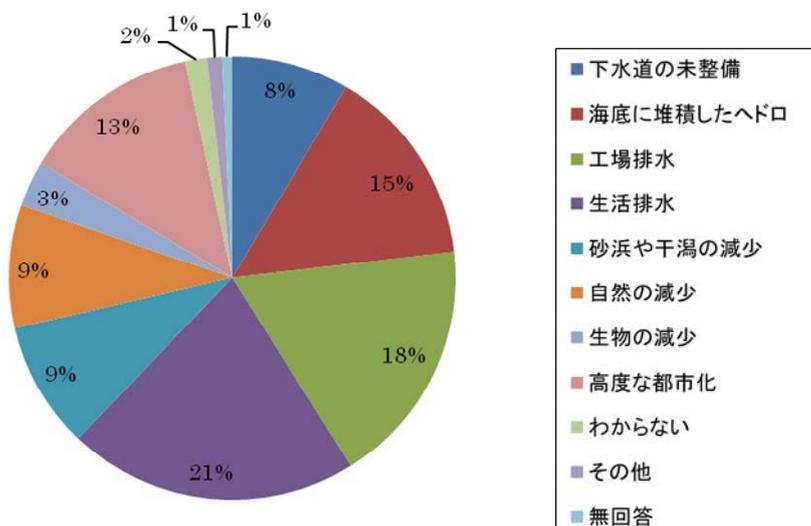
- ・ 浮遊ゴミ・ゴミの不法投棄が最も多く、次いで生き物・漁獲量の減少、赤潮・富栄養化となっている。
- ・ ゴミ問題への関心が高い。



Q2-5 東京湾の環境が悪化している原因は何と考えていますか。○をつけてください。

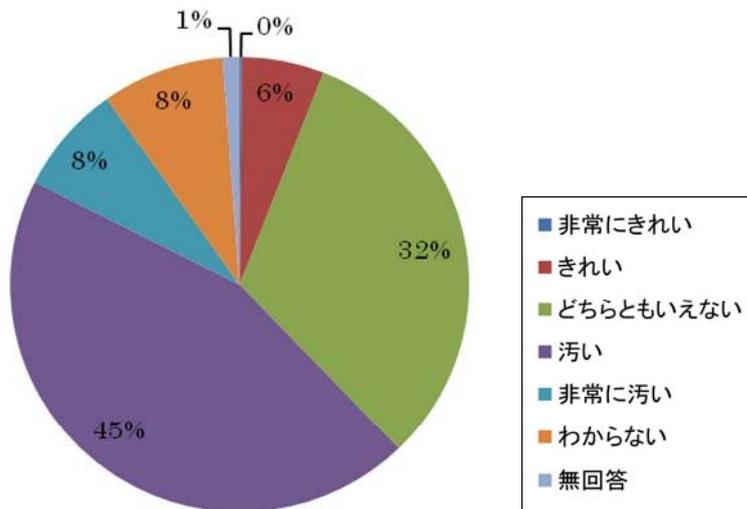
(最大3つ)

- ・ 生活排水が最も多く、次いで工場排水、海底に堆積したヘドロとなっている。
- ・ 陸域からの排水が原因と考えている方が多い。



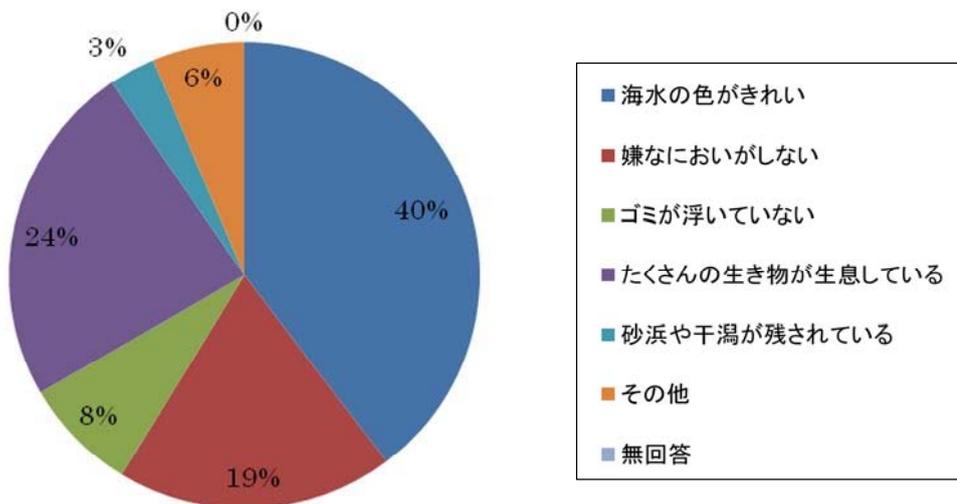
Q2-6 東京湾の水質をどのように思いますか。1つだけ○印をつけてください。

- ・ 5割以上の方が汚いと感じている。



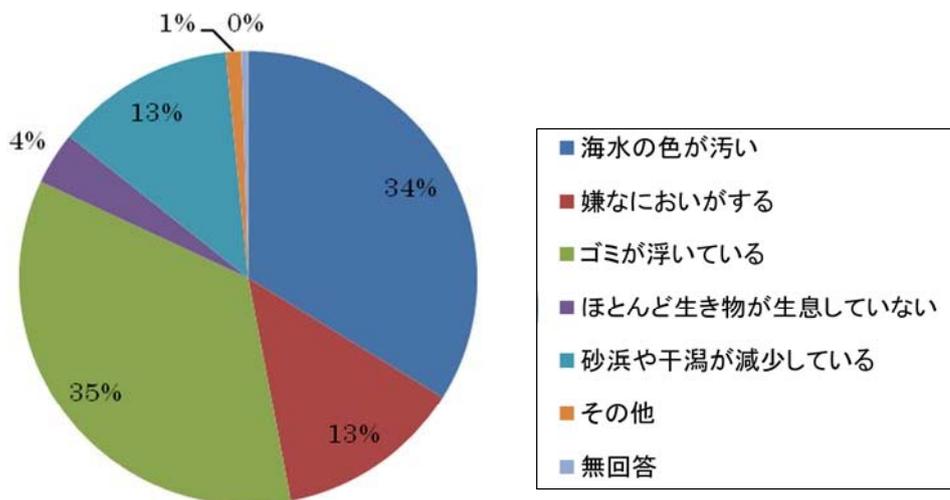
Q2-6-1 Q2-6で「非常にきれい」もしくは「きれい」とお答えした方におたずねします。きれいと感じる理由は何ですか。○印をつけてください。(最大2つ)

- ・ 海水の色がきれいが多く、次いでたくさんの生き物が生息している、嫌なおいがないとなっている。



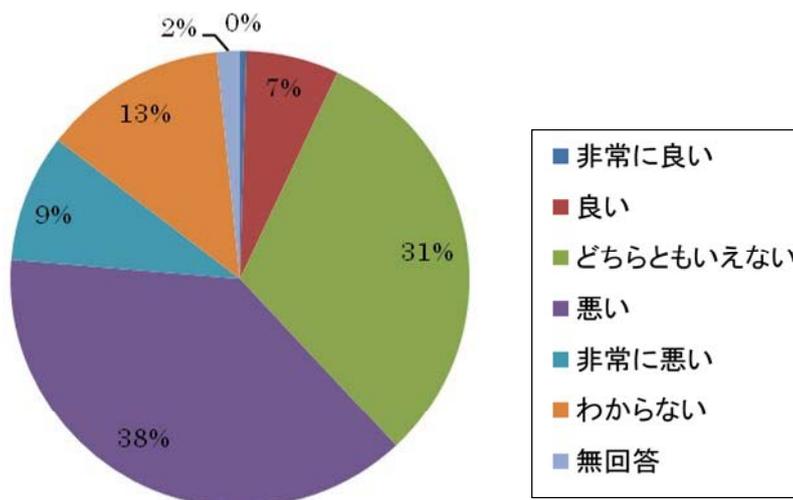
Q2-6-2 Q2-6で「汚い」もしくは「非常に汚い」とお答えした方におたずねします。きたないと感じる原因は何と考えていますか。○印をつけてください。(最大2つ)

- ・ ゴミが浮いているが最も多く、次いで海水の色が汚いとなっている。
- ・ 見た目で汚いと感じている方が多い。



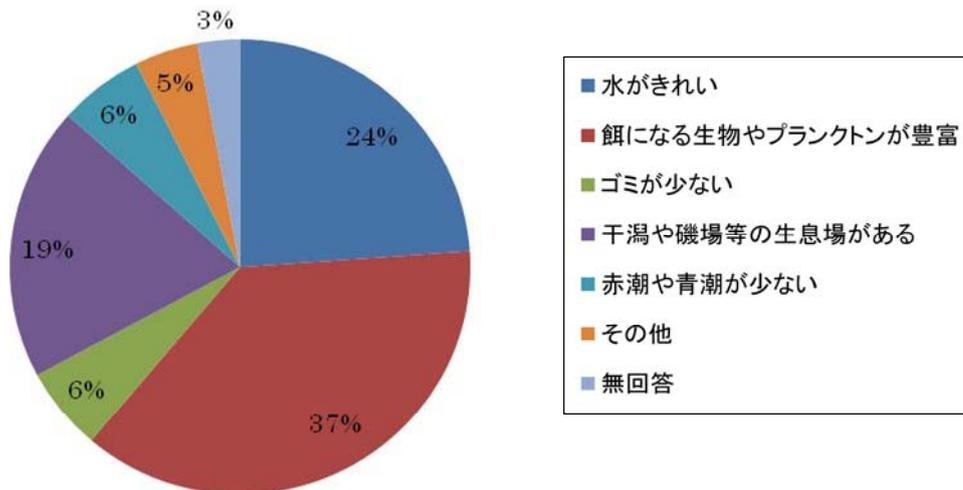
Q2-7 東京湾の生き物の生息環境についてどのように思いますか。1つだけ○印をつけてください。

- ・ 約5割の方が悪いと感じている。



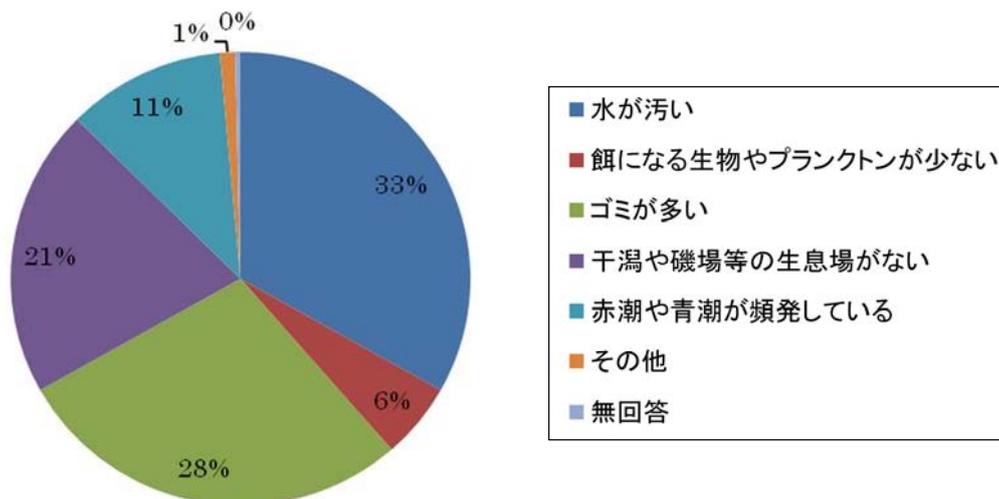
Q2-7-1 Q2-7で「非常に良い」もしくは「良い」とお答えした方におたずねします。
 良いと感じる理由は何ですか。○印を付けてください。(最大2つ)

- ・ 餌になる生物やプランクトンが豊富が最も多く、次いで水がきれい、干潟や磯場等の生息場があるとなっている。



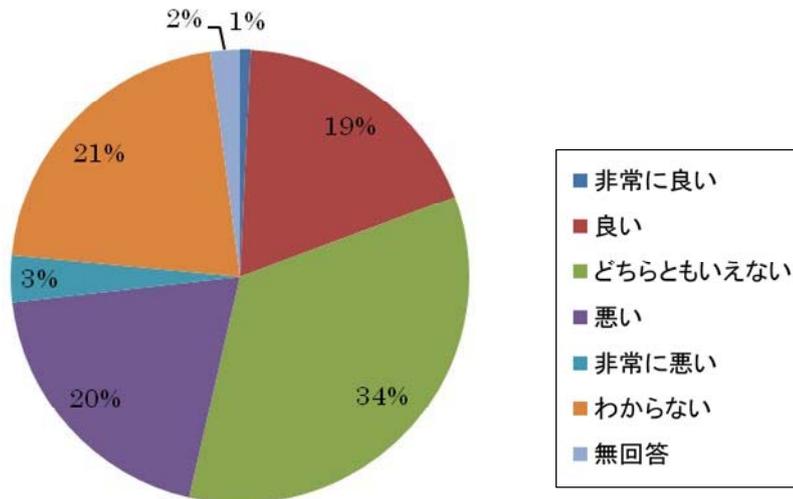
Q-2-7-2 Q-2-7で「悪い」もしくは「非常に悪い」とお答えした方におたずねします。
 悪いと感じる理由は何ですか。○印を付けてください。(最大2つ)

- ・ 水が汚いが最も多く、次いでゴミが多い、干潟や磯場等の生息場がないとなっている。
- ・ 見た目で生き物の生息環境が悪いと感じている方が多い。



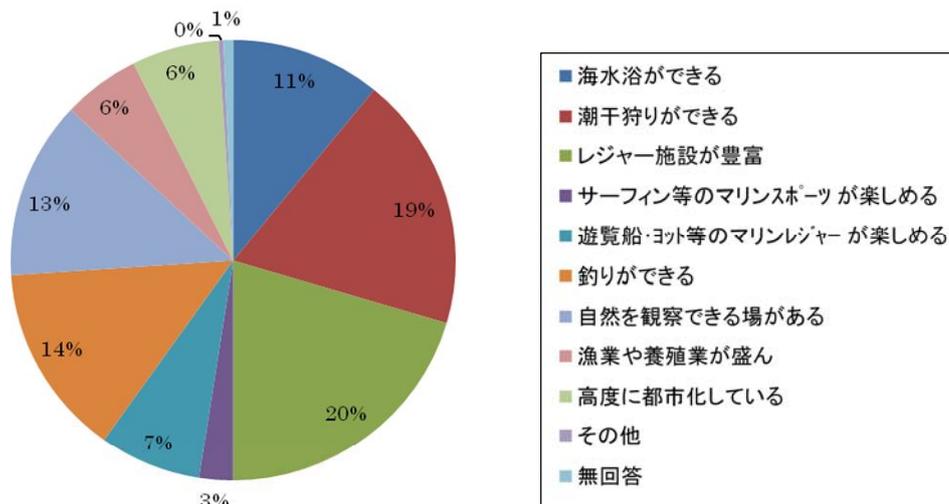
Q2-8 人々による東京湾の利用状況についてどのように感じていますか。1つだけ○印をつけてください。

- ・ 良い、悪いの回答が半々であり、どちらともいえない、わからないが約半数を占めている。



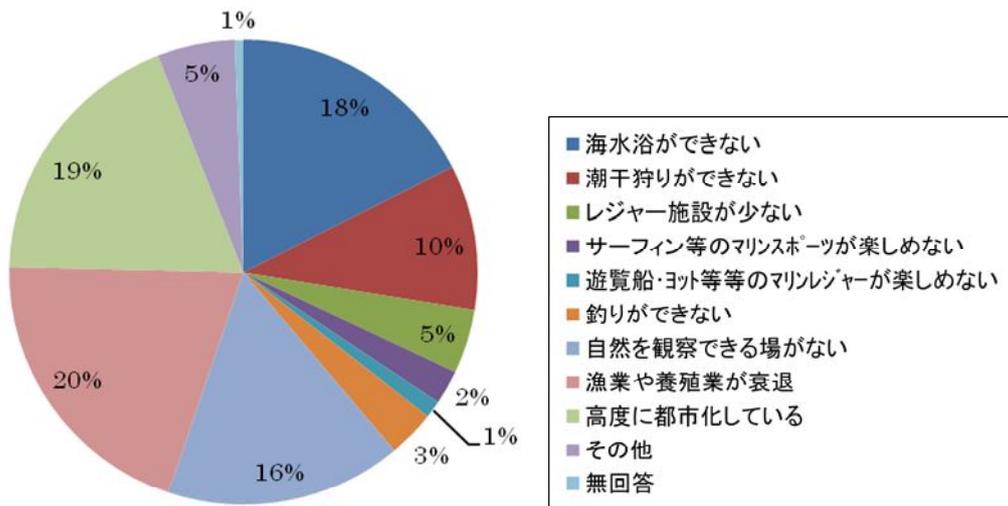
Q2-8-1 Q2-8で「非常に良い」もしくは「良い」とお答えした方におたずねします。どのようなところが良いと感じますか。

- ・ レジャー施設が豊富が最も多く、次いで潮干狩りができる、釣りができるとなっている。



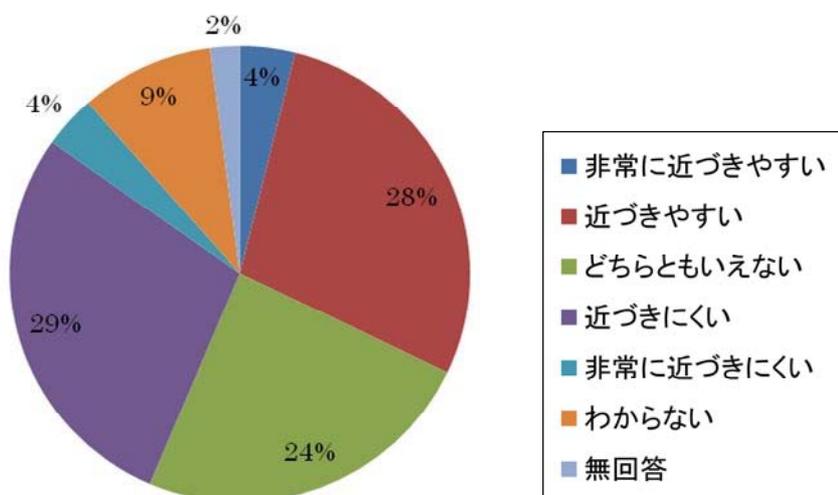
Q2-8-2 Q2-8で「悪い」もしくは「非常に悪い」とお答えした方におたずねします。どのようなところが悪いと感じますか。○印を付けてください。(最大3つ)

- ・ 漁業や養殖業が衰退しているが最も多く、次いで高度に都市化している、海水浴ができないとなっている。



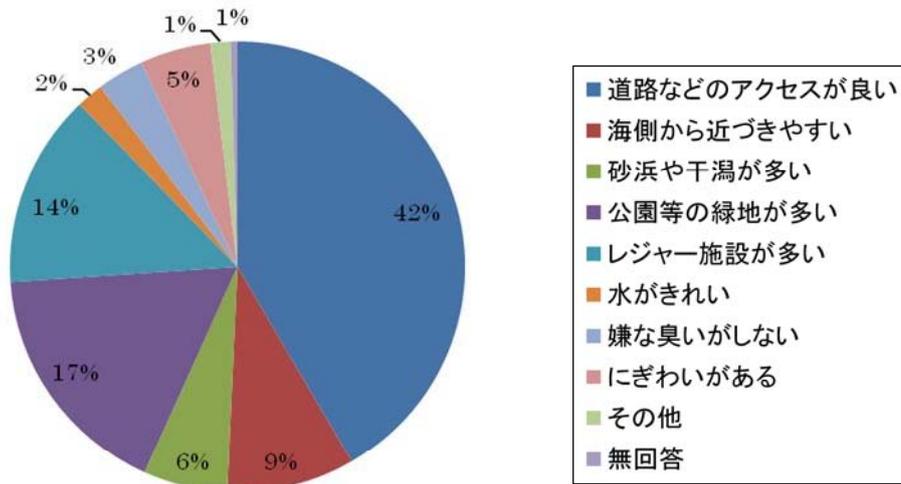
Q2-9 東京湾の海辺への近づきやすさについてどう思いますか。1つだけ○印をつけてください。

- ・ 近づきやすいと近づきにくいとが半々である。



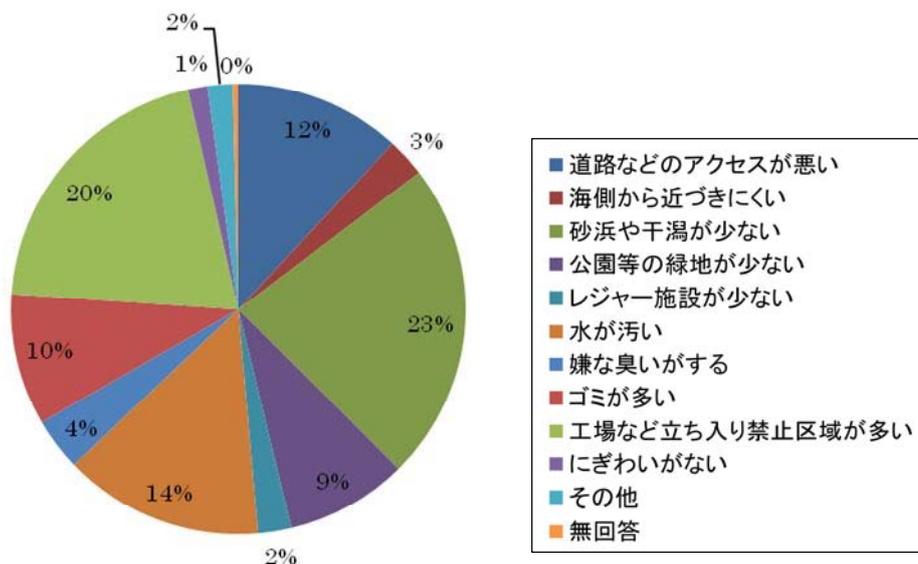
Q2-9-1 Q2-9で「非常に近づきやすい」もしくは「近づきやすい」とお答えした方におたずねします。どうして近づきやすいと感じるのですか。○印をつけてください。
(最大3つ)

- ・ 道路などのアクセス良いが最も多く、次いで公園等の緑地が多い、レジャー施設が多いとなっている。



Q2-9-2 Q2-9で「近づきにくい」もしくは「非常に近づきにくい」とお答えした方におたずねします。どうして近づきにくいと感じるのですか。○印をつけてください。
(最大3つ)

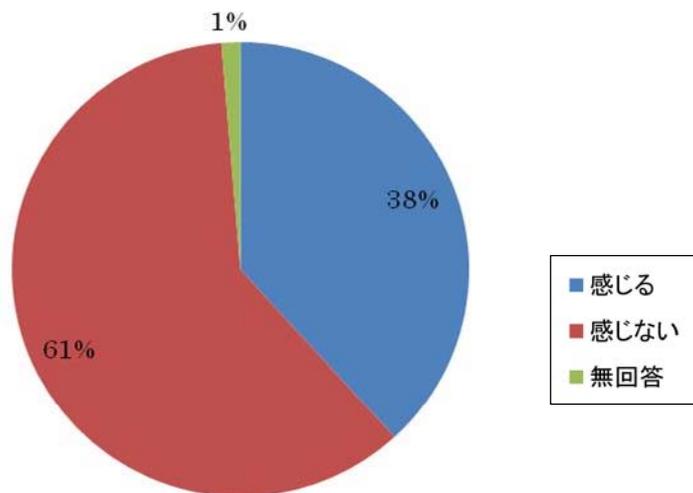
- ・ 砂浜や干潟が少ないが最も多く、次いで工場など立ち入り禁止区域が多いとなっている。



Q3 あなたの日常生活と東京湾との関わりについてお伺いします。

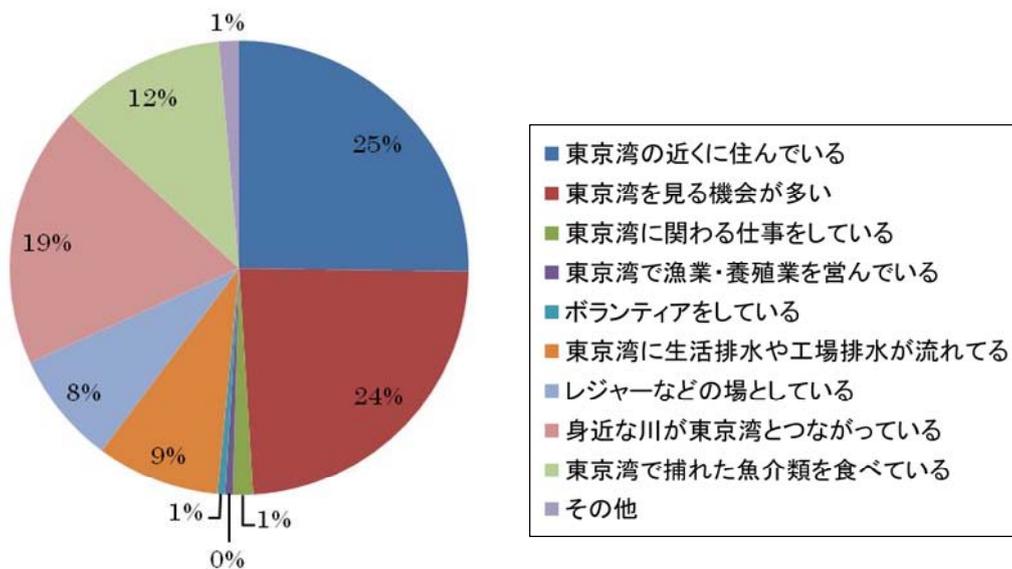
Q3-1 日常生活で東京湾との関わりを感じますか。1つだけ○印をつけてください。

- ・ 感じない人が6割を占めている。



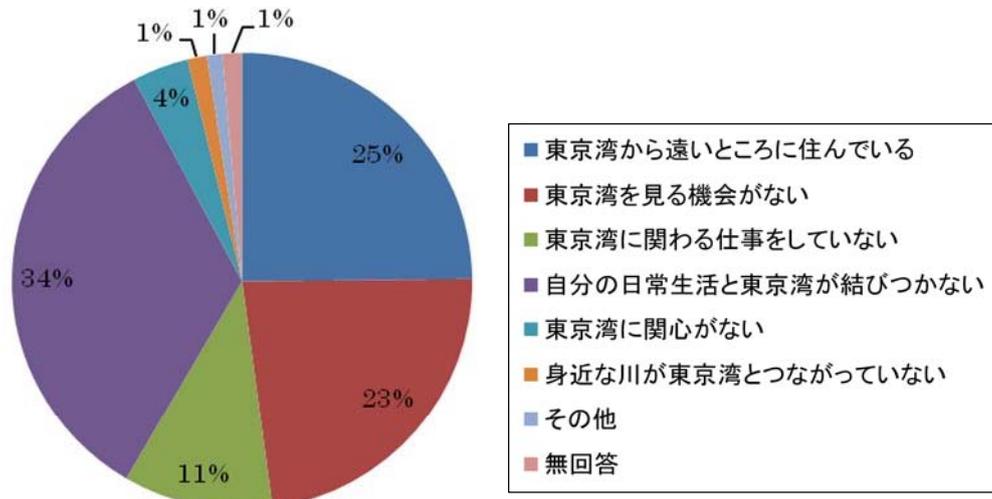
Q3-1-1 Q3-1で「感じる」とお答えした方におたずねします。東京湾との関わりを感じる理由は何ですか。○印を付けてください。(最大3つ)

- ・ 東京湾の近くに住んでいる、と東京湾を見る機会が多い、が約5割を占め、次いで身近な河川が東京湾とつながっているとなっている。



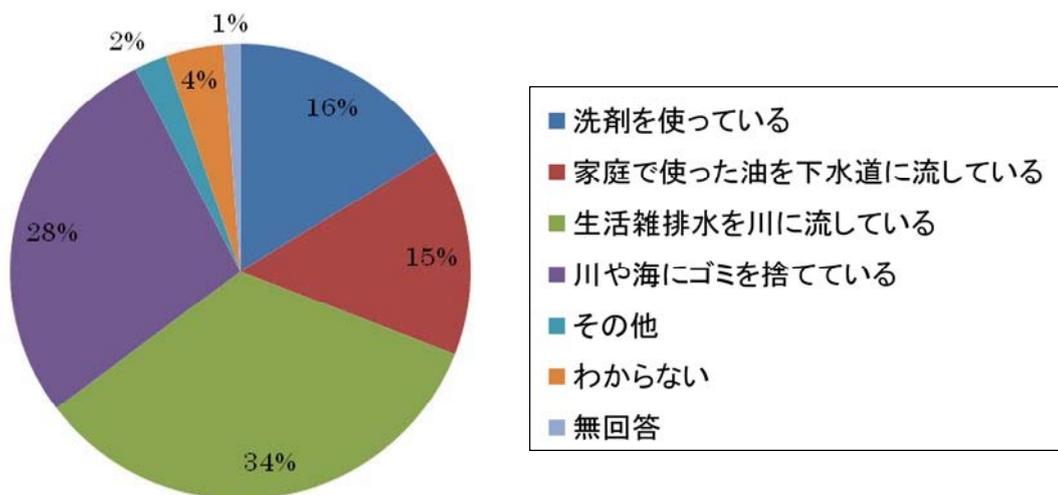
Q3-1-2 Q3-1で「感じない」とお答えした方におたずねします。東京湾との関わりを感じない理由は何ですか。○印を付けてください。(最大3つ)

- ・ 自分の日常生活と東京湾が結びつかないが最も多く、次いで東京湾から遠いところに住んでいる、東京湾を見る機会がないとなっている。



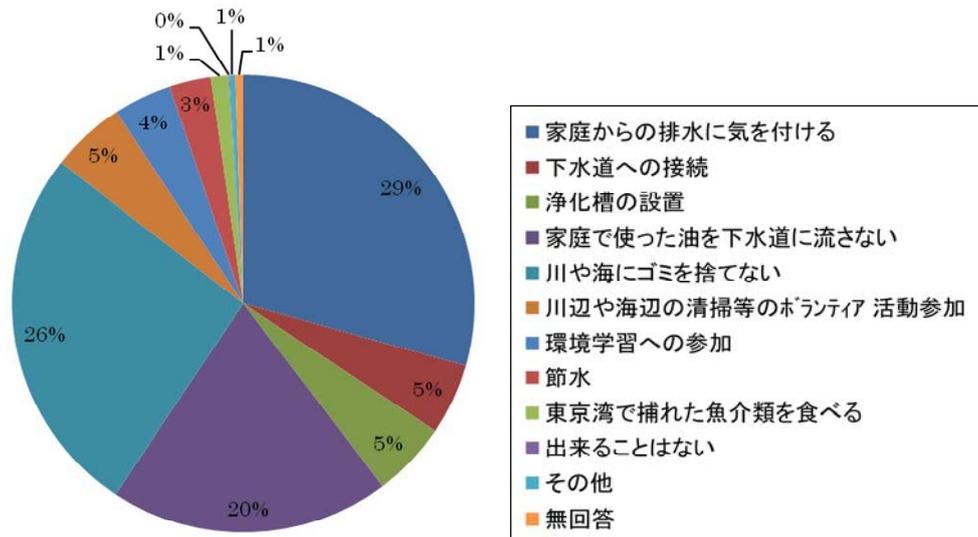
Q3-2 日常生活で東京湾の水質を悪くしている原因は何だと思いますか。○印を付けてください。(最大2つ)

- ・ 生活雑排水を川に流しているが最も多く、次いで川や海にゴミを捨てているとなっている。
- ・ 家庭からの排水を原因と考えている方が多い。



Q3-2-1 東京湾の水質を良くしていくためにあなたが出来ることは何だと思えますか。○印を付けてください。(最大3つ)

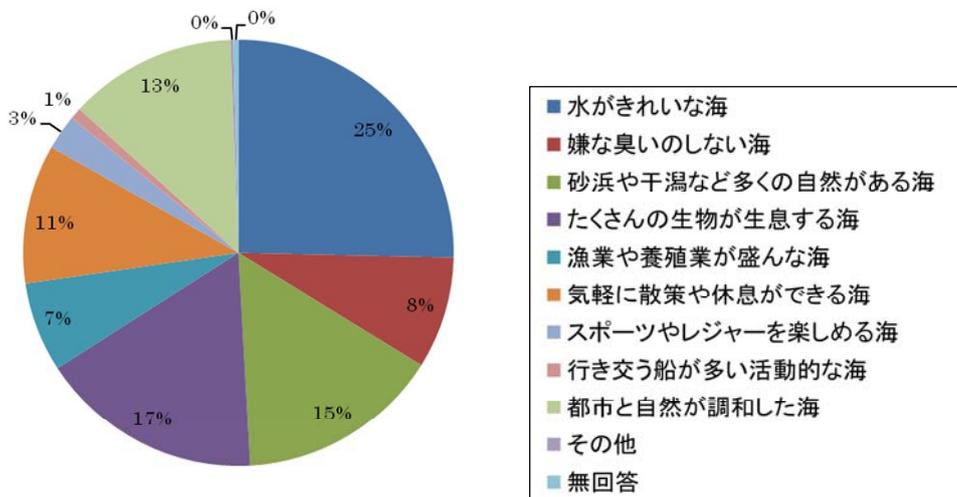
- ・ 家庭からの排水に気をつけるが最も多く、次いで川や海にゴミを捨てない、家庭で使った油を下水道へ流さないとなっている。
- ・ 家庭からの排水対策ができると考えている方が多い。



Q4 あなたが望む東京湾についてお伺いします。

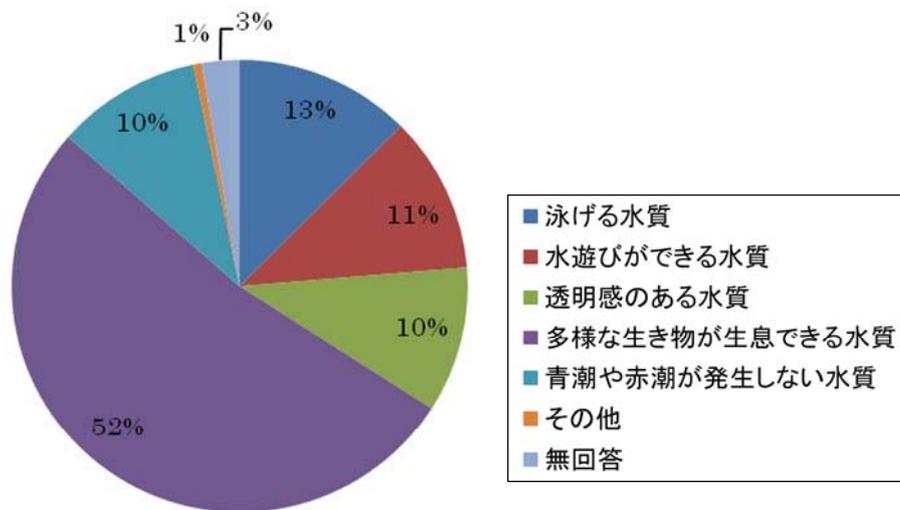
Q4-1 あなたが望む東京湾の将来像はどのような海ですか。○印をつけてください。(最大3つ)

- ・ 水がきれいな海が最も多く、次いでたくさんの生物が生息する海、砂浜や干潟など多くの自然がある海となっている。



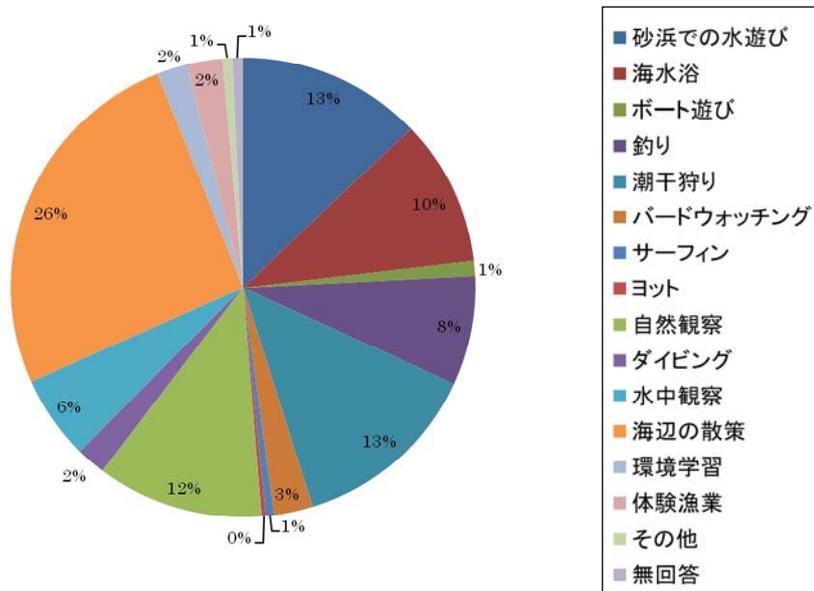
Q4-2 東京湾が望む東京湾の水質はどれですか。1つだけ○印をつけてください。

- ・ 多様な生き物が生息できる水質が約5割を占めている。



Q4-3 水質が良くなった東京湾でどのようなことを楽しみたいですか。○印をつけてください。(最大3つ)

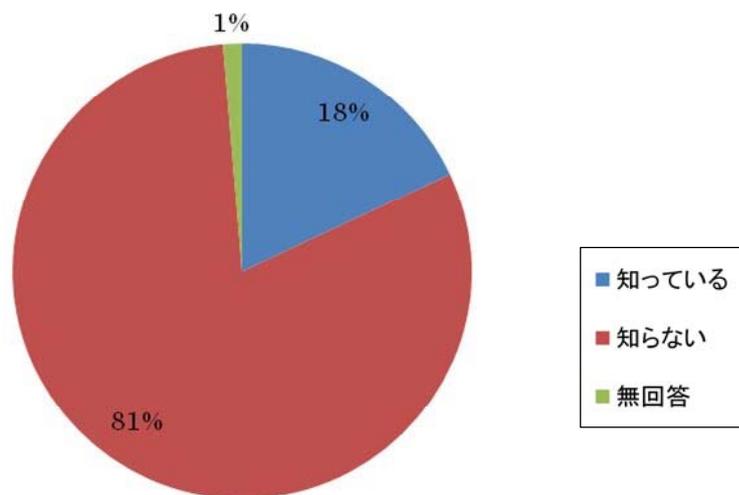
- ・ 海辺の散策が最も多く、次いで砂浜での水遊び、潮干狩り、自然観察となっている。



Q5 行政の取り組みについてお伺いします。

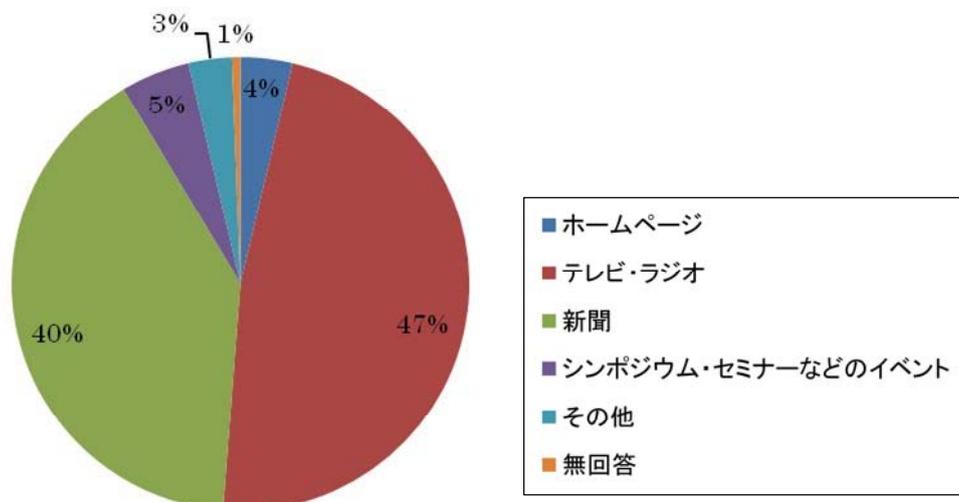
Q5-1 東京湾に関する省庁、地方公共団体が「東京湾再生推進会議」を設置して、東京湾再生に取り組んでいることを知っていますか。

- ・ 約8割が東京湾再生の取り組みを認識していない。



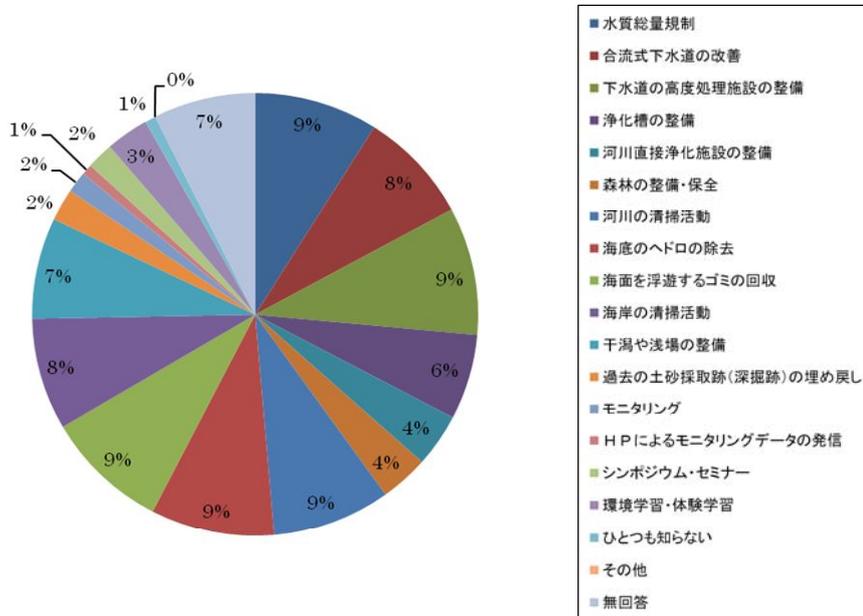
Q5-1-1 Q5-1で「知っている」と答えた方におたずねします。どのようなかたちで東京湾再生の取組を知りましたか。○印をつけてください。(最大2つ)

- ・ テレビ・ラジオ、新聞を通して取り組みを知った方が約9割を占めている。



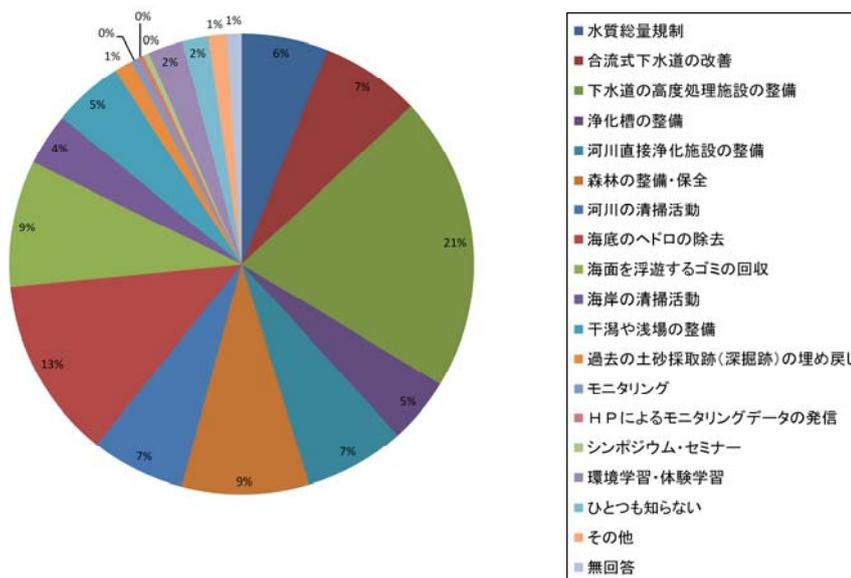
Q5-1-2 Q5-1で「知っている」と答えた方におたずねします。東京湾再生の取組のうち、どの取組を知っていますか。○印をつけてください。(最大3つ)

- 水質総量規制、下水道の高度処理施設の整備、河川の清掃活動、海底のヘドロの除去、海面を浮遊するゴミの回収が多いが、大きな差は見られない。



Q5-2 東京湾再生のために行政が積極的に行うべき取組はどれだと考えますか。○印をつけてください。(最大3つ)

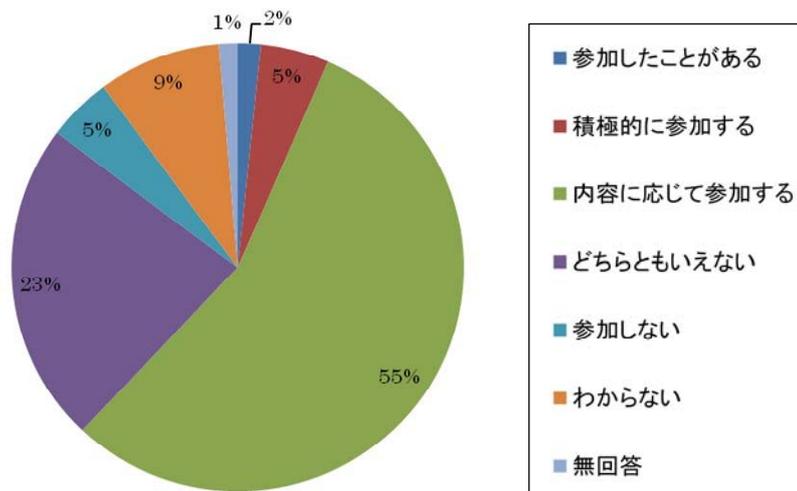
- 下水道の高度処理施設の整備が最も多く、次いで海底のヘドロの除去、森林の整備、海面に浮遊するゴミの回収となっている。



Q6 東京湾における行政の取り組みへの参加についておたずねします。

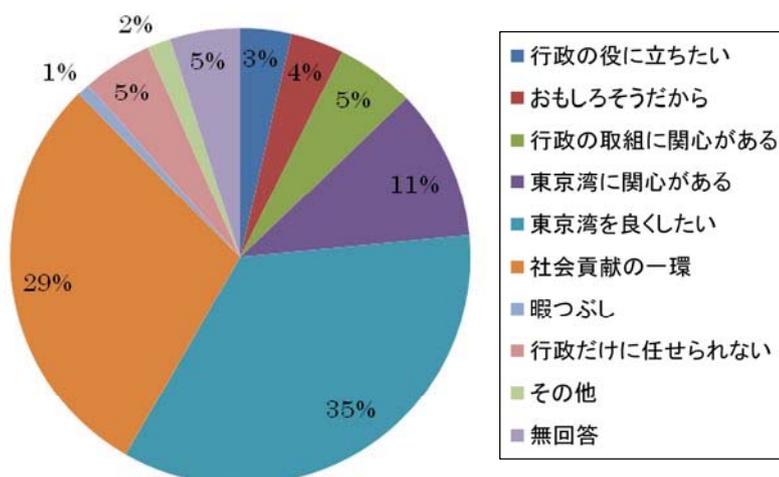
Q6-1. 行政の取り組みに参加を呼びかけられたらどうしますか。1つだけ○印を付けてください。

- ・ 内容に応じて参加するが最も多く、どちらともいえないが次いで多い。
- ・ 参加の意思をもっている方が多い。



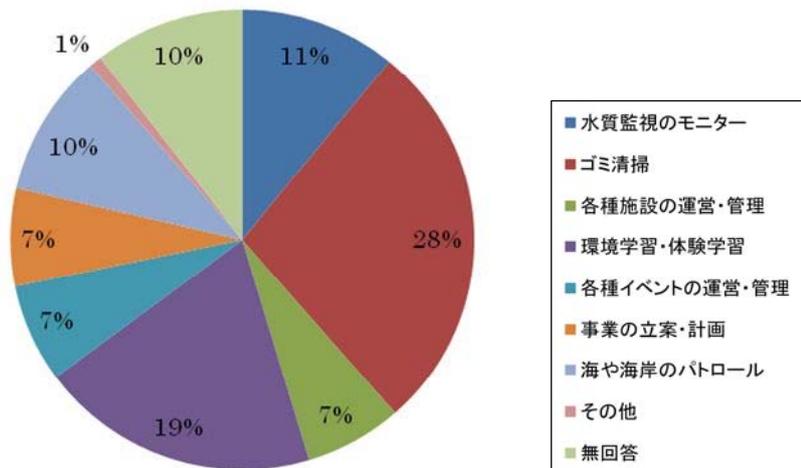
Q6-1-1 Q6-1で「参加したことがある」、「積極的に参加する」もしくは「内容に応じて参加する」と答えた方におたずねします。参加した（する）理由は何ですか。○印をつけてください。（最大3つ）

- ・ 東京湾を良くしたいが最も多く、次いで社会貢献の一環となっている。



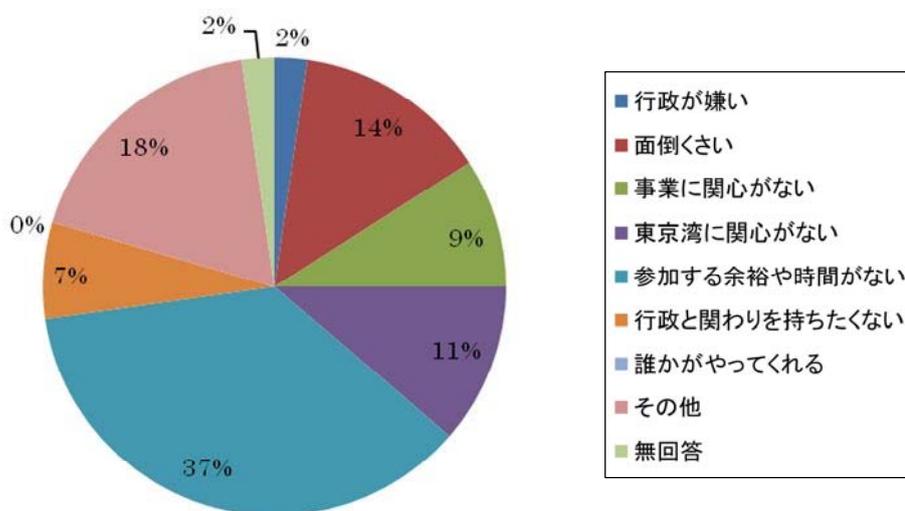
Q6-1-2 Q6-1で「参加したことがある」、「積極的に参加する」もしくは「内容に応じて参加する」と答えた方におたずねします。どのような取組に参加しました（したいです）か。○印をつけてください。（最大3つ）

- ・ ゴミ清掃が最も多く、次いで環境学習・体験学習、水質監視のモニター、海や海岸のパトロールとなっている。



Q6-1-3 Q6-1で「参加しない」と答えた方におたずねします。参加しないのはどうしてですか。○印をつけてください。（最大3つ）

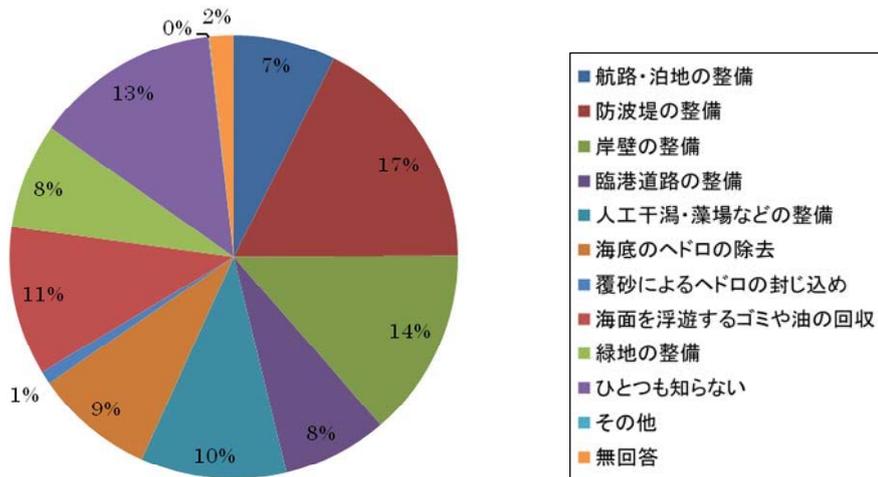
- ・ 参加する余裕や時間がないが最も多く、次いで面倒くさい、東京湾に関心がないとなっている。



Q7 東京湾における港湾整備についておたずねします。

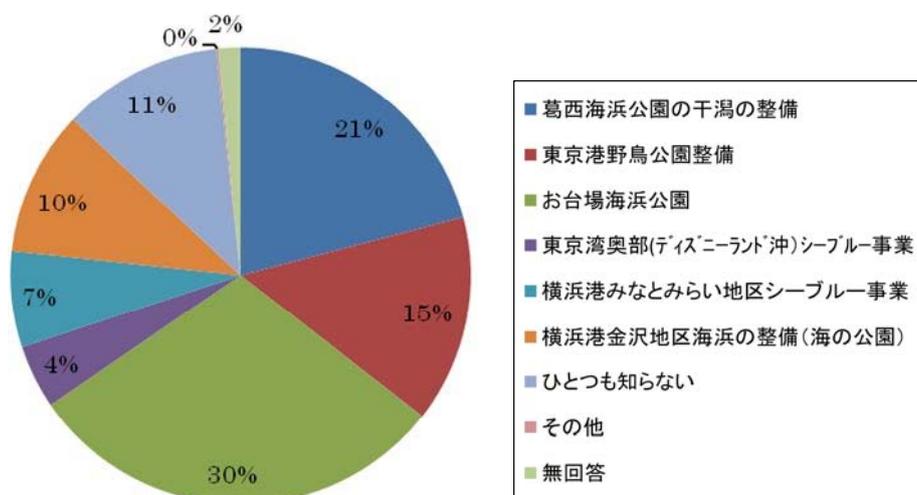
Q7-1 港湾整備事業のうちどれを知っていますか。知っているものすべてに○印を付けてください。

- ・ 防波堤の整備が最も多く、次いで岸壁の整備、海面を浮遊するゴミや油の回収となっている。一つも知らないも多い。



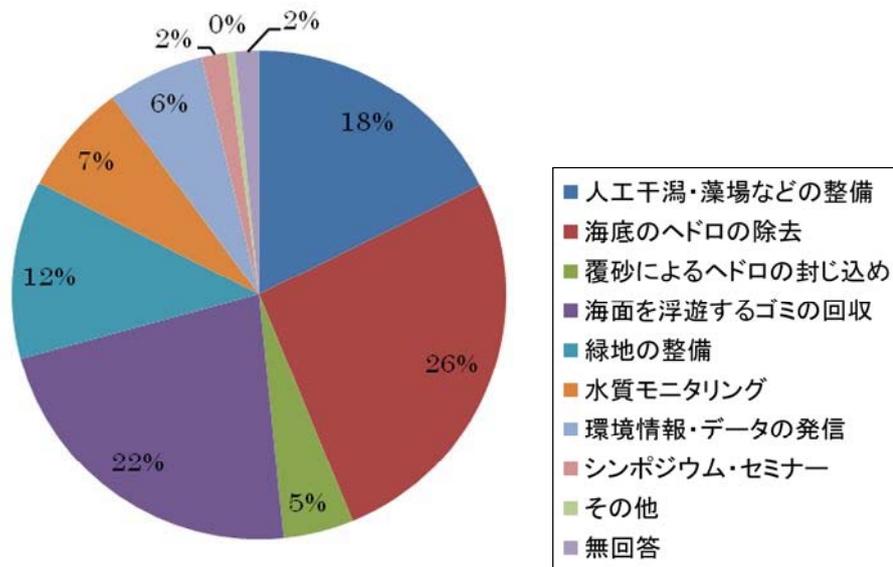
Q7-2 港湾整備の一環として行われた下記のうち、どれを知っていますか。知っているものすべてに○印を付けてください。

- ・ お台場海浜公園が最も多く、次いで葛西海浜公園の干潟の整備、東京港野鳥公園整備となっている。



Q7-3 東京湾再生のために港湾ではどのような取組を積極的に実施するべきだと思いますか。○印を付けてください。(最大3つ)

- ・ 海底のヘドロの除去が最も多く、次いで海面を浮遊するゴミの回収、人工干潟・藻場などの整備となっている。



Q7-4 その他、港湾における環境行政に関してご意見をお寄せください。

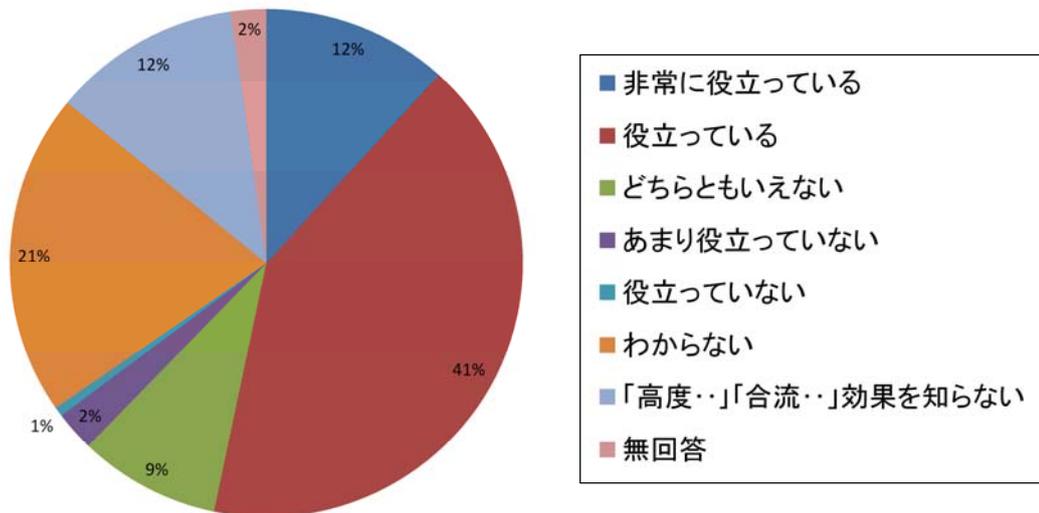
意見を集約すると以下のとおりである。

- ・ 国民に向けた東京湾に関する様々な情報の提供不足、事業のPRが不足している。
- ・ 海辺に近寄れる水際、水質の改善、生物の多様性の確保が必要である。
- ・ 行政の自己満足で事業を実施している。
- ・ 環境教育等、東京湾全体を学ぶ場が必要である。
- ・ 環境行政として遅れている。
- ・ 利用マナーの向上を図る周知が必要である。
- ・ 港湾行政自体がわかりづらい。

Q8 東京湾における下水道整備についておたずねします。

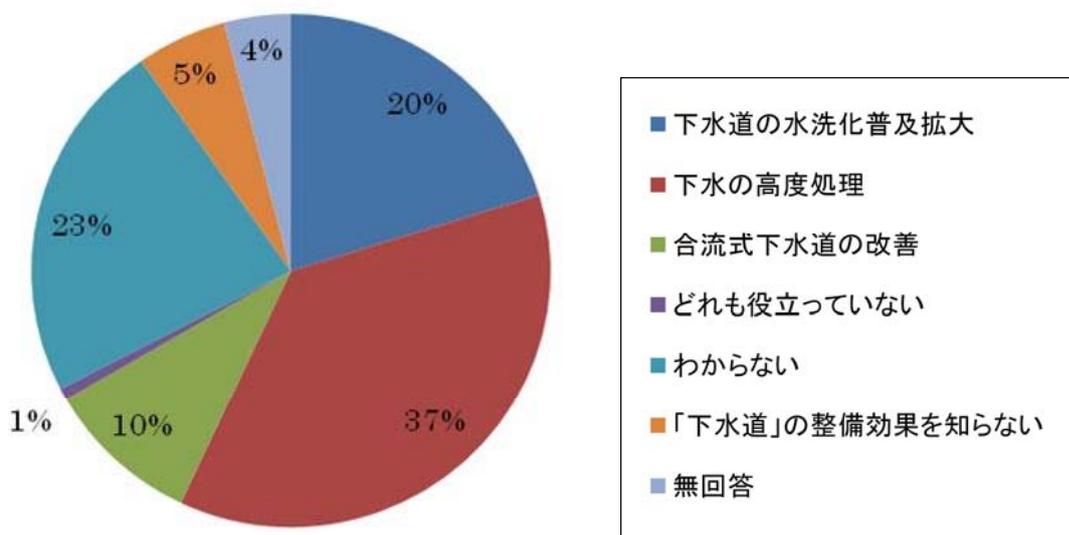
Q8-1 あなたの街や東京湾における下水を高度処理する施設の整備や、合流式下水道の改善が、東京湾再生にどの程度役に立っているとおもいますか。1つだけ○印を付けてください。

- ・ 役立っていると感じていると感じている方が約5割を占めている。



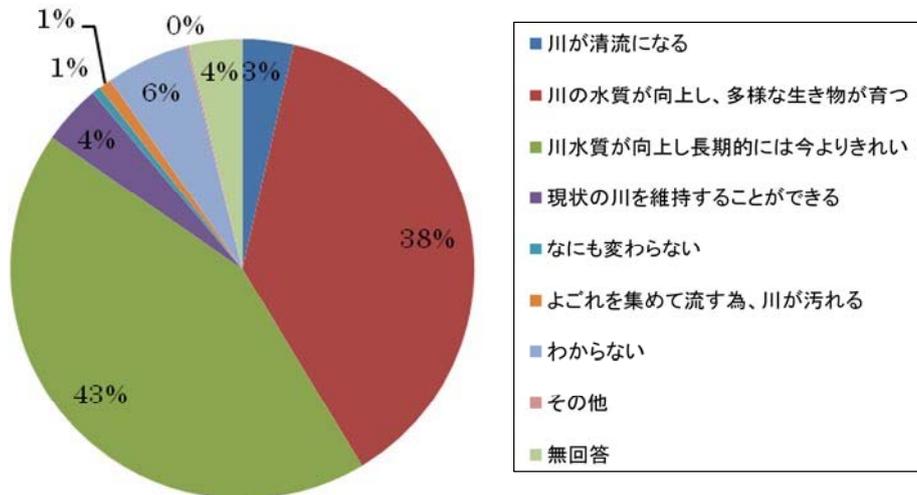
Q8-2 あなたの街の水環境保全を目的とした下水道事業のなかで、どのような施策が東京湾再生に一番役に立っているとおもいますか。1つだけ○印を付けてください。

- ・ 下水の高度処理が最も多く、次いで下水道の水洗普及拡大となっている。わからないも多い。



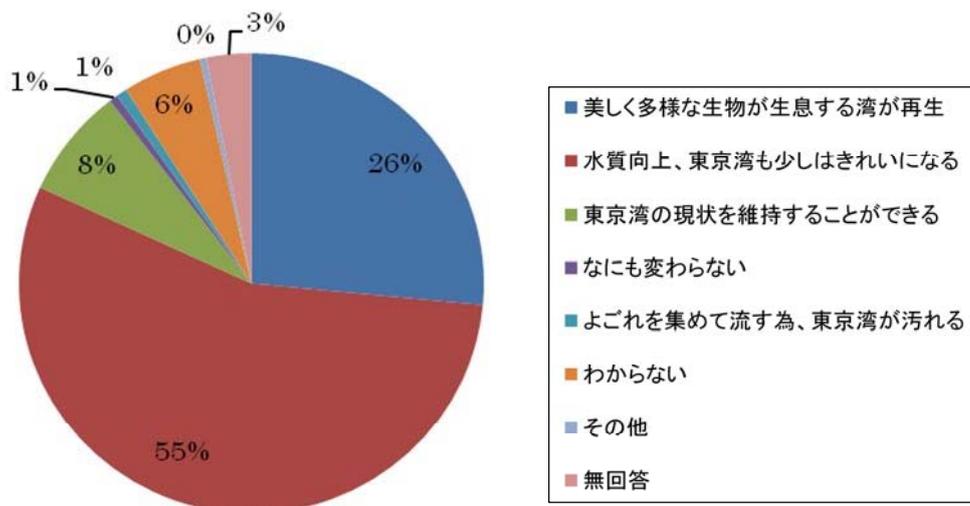
Q8-2-1 あなたの街で下水道が整備されると川はどのように変わるとお考えですか。

- ・ 川の水質が向上し長期的には今よりきれいになるが最も多く、次いで川の水質が向上し、多様な生き物が育つとなっている。



Q8-2-2 あなたの街で下水道が整備されると東京湾はどのように変わるとお考えですか。

- ・ 水質向上、東京湾も少しはきれいになるが最も多く、次いで美しく多様な生物が生息する湾が再生となっている。



Q8-3 その他、東京湾流域における下水道整備に関してご意見をお寄せください。

意見を集約すると以下のとおりである。

- ・合流域の改善や高度処理化を進めていく必要がある。
- ・排水規制の強化を進める必要がある。
- ・河川の水質改善が東京湾の改善につながる。
- ・下水道全体のPRをもっと進めていく必要がある。
- ・下水道が未整備の上流部等にもっと重点的に整備していく必要がある。

2) クロス集計結果

①集計の概要

質問項目別の集計結果について、以下の分析軸毎の回答数についてクロス集計を行った。

- ・ 東京湾への関心度の高さ、親近度の高さ
- ・ 都県別、流域ブロック別、河川の上・中・下流別、順応的管理検討に向けた類型区分別

集計結果は一覧表として示し、各表中には回答数の順を以下の色分けで表示した。

- ・ 黄：最も回答数が多かったもの
- ・ 赤：2番目に回答数が多かったもの
- ・ 青：3番目に回答数が多かったもの

表中には、「関心度の高さ」等の評価軸毎の回答総数に対する比率をパーセンテージで示しており、統計処理に伴う信頼性を記号で付している。各記号の意味は下表のとおりである。

▲	1%水準で有意差：極めて高い傾向	▼	1%水準で有意差：極めて低い傾向
△	5%水準で有意差：高い、多い	▽	5%水準で有意差：低い、少ない
↑	10%水準で有意差：やや高い	↓	10%水準で有意差：やや低い
∴	20%水準で有意差：わずかに高い	∴	20%水準で有意差：わずかに低い

5%水準で有意差とは、比率の差を検定したところ100回の調査のうち5回は真の値を外すことがあるが、95回は差があると判断して良い、ということを示す。

たとえば、東京湾に出かけた経験ありとするものの比率は全体結果69.8%と比べて、東京湾直接流入は80.6%はかなり（▲＝有意差1%）高く、順流河川域はかなり（▼＝有意差1%）低いことを示す。

②東京湾への関心度・親近度による集計結果

○性別による差異

- ・親近度・関心度ともに男性が高く、女性が低い傾向を示している。

		Q1-1 性別			
		サンプル数	男	女	無回答
基本 分析 軸 1	全 体	672 100.0	351 52.2	321 47.8	-
	エリア) 東京湾直接流入	325 100.0	179 55.1	146 44.9	-
	感潮域	166 100.0	88 53.0	78 47.0	-
	順流河川域	181 100.0	84 46.4	97 53.6	-
	親近度) 強く感じる	129 100.0	90 ▲ 69.8	39 ▼ 30.2	-
	やや感じる	190 100.0	101 53.2	89 46.8	-
	どちらともいえない	73 100.0	36 49.3	37 50.7	-
	あまり感じない	213 100.0	98 ↓ 46.0	115 ↑ 54.0	-
	全く感じない	65 100.0	25 ▽ 38.5	40 △ 61.5	-
	関心感) 非常に関心がある	181 100.0	129 ▲ 71.3	52 ▼ 28.7	-
	やや関心がある	312 100.0	157 50.3	155 49.7	-
	どちらともいえない	100 100.0	31 ▼ 31.0	69 ▲ 69.0	-
	あまり関心がない	63 100.0	23 ▽ 36.5	40 △ 63.5	-
	全く関心がない	3 100.0	2 66.7	1 33.3	-
	関心感小計) 非常に+やや関心がある	493 100.0	286 △ 58.0	207 ▽ 42.0	-
	どちらともいえない	100 100.0	31 ▼ 31.0	69 ▲ 69.0	-
	あまり+全く関心がない	66 100.0	25 ▽ 37.9	41 △ 62.1	-

表中の赤：一番高い 黄：二番目に高い 青：3番目に高い

以下各クロス表中は同様の表示。

○深刻と考える東京湾の環境問題

- ・ 親近度：その強さに関係なく「浮遊ゴミ・ゴミの不法投棄」を最も深刻な環境問題と捉えている。2番目の選択肢は、親近度が高い層で「赤潮・富栄養化」、低い層では「生き物・漁獲量の減少」となっている。
- ・ 関心度：関心の有無に関係なく「浮遊ゴミ・ゴミの不法投棄」を深刻な環境問題と捉えている。2番目の選択肢は、親近度が高い層で「赤潮・富栄養化」、親近度が低い層では「生き物・漁獲量の減少」をあげている。ただし、全く関心がないと回答した住民は3サンプルのみであるが、内2サンプルが「わからない」としており、東京湾の環境問題を認識していないこととなっている。

		Q2-4 東京湾での深刻な環境問題									
		サンプル数	赤潮・富栄養化	青潮・貧酸素水塊の発生	浮遊ゴミ・ゴミの不法投棄	降雨後の未処理下水の流入	生き物・漁獲量の減少	海にふれあう場所が少ない	わからない	その他	無回答
基本分析軸1	全体	672	214	154	508	130	219	91	38	16	12
		100.0	31.8	22.9	75.6	19.3	32.6	13.5	5.7	2.4	1.8
	エリア) 東京湾直接流入	325	106	73	249	59	111	49	13	8	2
		100.0	32.6	22.5	76.6	18.2	34.2	15.1	∴ 4.0	2.5	∴ 0.6
	感潮域	166	51	34	124	36	57	14	12	3	9
		100.0	30.7	20.5	74.7	21.7	34.3	↓ 8.4	7.2	1.8	▲ 5.4
	順流河川域	181	57	47	135	35	51	28	13	5	1
		100.0	31.5	26.0	74.6	19.3	28.2	15.5	7.2	2.8	0.6
	親近度) 強く感じる	129	48	27	104	31	46	14	-	7	2
		100.0	∴ 37.2	20.9	∴ 80.6	∴ 24.0	35.7	10.9	▼ -	△ 5.4	1.6
	やや感じる	190	72	56	151	32	61	32	3	4	3
		100.0	↑ 37.9	△ 29.5	79.5	16.8	32.1	∴ 16.8	▽ 1.6	2.1	1.6
	どちらともいえない	73	17	17	55	18	26	7	3	2	2
		100.0	∴ 23.3	23.3	75.3	24.7	35.6	9.6	4.1	2.7	2.7
	あまり感じない	213	61	40	154	37	63	30	19	3	5
		100.0	28.6	∴ 18.8	72.3	17.4	29.6	14.1	△ 8.9	1.4	2.3
	全く感じない	65	14	14	44	12	22	8	13	-	-
		100.0	↓ 21.5	21.5	∴ 67.7	18.5	33.8	12.3	▲ 20.0	-	-
	関心感) 非常に関心がある	181	78	58	143	42	76	30	-	6	1
		100.0	▲ 43.1	▲ 32.0	79.0	∴ 23.2	▲ 42.0	16.6	▼ -	3.3	0.6
やや関心がある	312	102	71	249	70	93	43	8	9	2	
	100.0	32.7	22.8	↑ 79.8	∴ 22.4	29.8	13.8	▽ 2.6	2.9	∴ 0.6	
どちらともいえない	100	25	17	73	10	29	14	12	1	-	
	100.0	∴ 25.0	∴ 17.0	73.0	▽ 10.0	29.0	14.0	▲ 12.0	1.0	∴ -	
あまり関心がない	63	8	7	39	8	19	4	16	-	-	
	100.0	▼ 12.7	▽ 11.1	▽ 61.9	∴ 12.7	30.2	↓ 6.3	▲ 25.4	-	-	
全く関心がない	3	-	-	1	-	1	-	2	-	-	
	100.0	-	-	↓ 33.3	-	33.3	-	▲ 66.7	-	-	
関心感小計)非常に+やや関心がある	493	180	129	392	112	169	73	8	15	3	
	100.0	△ 36.5	↑ 26.2	△ 79.5	↑ 22.7	34.3	14.8	▼ 1.6	3.0	▽ 0.6	
どちらともいえない	100	25	17	73	10	29	14	12	1	-	
	100.0	∴ 25.0	∴ 17.0	73.0	▽ 10.0	29.0	14.0	▲ 12.0	1.0	∴ -	
あまり+全く関心がない	66	8	7	40	8	20	4	18	-	-	
	100.0	▼ 12.1	▽ 10.6	▼ 60.6	∴ 12.1	30.3	↓ 6.1	▲ 27.3	-	-	

○東京湾の環境が悪化している原因

- ・親近度：強くまたはやや感じる層、およびどちらともいえないとしている層で「生活排水」が最も多く、次いで「工場排水」、「海底に堆積したヘドロ」の順となっている。あまり親近度を感じない層では、2番目までは左記同様であるものの、3番目として「高度な都市化」が挙げられている。全く親近感がない層では、「工場排水」が1番となり、次いで「生活排水」、「高度な都市化」の順となっている。
- ・関心度：全く関心がない層を除いて、「生活排水」を一番にあげている。原因の2番目・3番目に挙げられているものは「工場排水」、「高度な都市化」、および「ヘドロ」である。
- ・東京湾環境悪化の原因としては親近度・関心度に関わりなく「水質」に関する事項が挙げられている。

		Q2-5 東京湾の環境が悪化している原因											
		サンプル数	下水道の未整備	海底に堆積したヘドロ	工場排水	生活排水	砂浜や干潟の減少	自然の減少	生物の減少	高度な都市化	わからない	その他	無回答
基本分析軸1	全体	672 100.0	140 20.8	241 35.9	297 44.2	346 51.5	152 22.6	149 22.2	55 8.2	213 31.7	26 3.9	18 2.7	12 1.8
	エリア) 東京湾直接流入	325 100.0	71 21.8	113 34.8	138 42.5	167 51.4	77 23.7	80 24.6	29 8.9	103 31.7	11 3.4	10 3.1	3 0.9
	感潮域	166 100.0	28 16.9	63 38.0	74 44.6	93 56.0	35 21.1	29 17.5	13 7.8	59 35.5	7 4.2	3 1.8	6 ↑ 3.6
	順流河川域	181 100.0	41 22.7	65 35.9	85 47.0	86 47.5	40 22.1	40 22.1	13 7.2	51 28.2	8 4.4	5 2.8	3 1.7
	親近度) 強く感じる	129 100.0	38 △ 29.5	45 34.9	47 ↓ 36.4	64 49.6	41 △ 31.8	29 22.5	10 7.8	38 29.5	1 ↓ 0.8	6 △ 4.7	3 2.3
	やや感じる	190 100.0	37 19.5	79 ↑ 41.6	85 44.7	97 51.1	43 22.6	48 25.3	19 10.0	54 28.4	2 ▽ 1.1	4 2.1	3 1.6
	どちらともいえない	73 100.0	15 20.5	28 38.4	32 43.8	39 53.4	20 27.4	14 19.2	4 5.5	21 28.8	2 2.7	2 2.7	3 △ 4.1
	あまり感じない	213 100.0	38 17.8	71 33.3	94 44.1	109 51.2	38 ↓ 17.8	47 22.1	15 7.0	81 △ 38.0	14 △ 6.6	5 2.3	3 1.4
	全く感じない	65 100.0	12 18.5	17 △ 26.2	39 △ 60.0	36 55.4	9 ↓ 13.8	10 △ 15.4	7 10.8	18 27.7	7 △ 10.8	1 1.5	-
	関心感) 非常に関心がある	181 100.0	53 △ 29.3	81 △ 44.8	75 41.4	89 49.2	62 △ 34.3	37 20.4	16 8.8	59 32.6	1 ▽ 0.6	7 3.9	1 0.6
	やや関心がある	312 100.0	67 21.5	109 34.9	140 44.9	169 54.2	64 20.5	72 23.1	21 6.7	108 34.6	6 ↓ 1.9	11 3.5	2 △ 0.6
	どちらともいえない	100 100.0	11 ▽ 11.0	39 39.0	48 48.0	52 52.0	17 △ 17.0	19 19.0	10 10.0	28 28.0	9 △ 9.0	-	1 ↓ 1.0
	あまり関心がない	63 100.0	8 △ 12.7	11 ▽ 17.5	29 46.0	32 50.8	7 ▽ 11.1	18 28.6	7 11.1	16 25.4	10 △ 15.9	-	-
	全く関心がない	3 100.0	1 33.3	1 33.3	3 ↑ 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	-	1 33.3	-	-	-
	関心感(小計) 非常に+やや関心がある	493 100.0	120 ↑ 24.3	190 38.5	215 43.6	258 52.3	126 △ 25.6	109 22.1	37 7.5	167 33.9	7 ▼ 1.4	18 △ 3.7	3 ▽ 0.6
	どちらともいえない	100 100.0	11 ▽ 11.0	39 39.0	48 48.0	52 52.0	17 △ 17.0	19 19.0	10 10.0	28 28.0	9 △ 9.0	-	1 ↓ 1.0
	あまり+全く関心がない	66 100.0	9 △ 13.6	12 ▼ 18.2	32 48.5	33 50.0	8 ▽ 12.1	19 △ 28.8	7 10.6	17 25.8	10 △ 15.2	-	-

○東京湾に望む将来像

- ・親近度：強さに関わりなく「水がきれいな海」が1番目に挙げられており、次いで「生物の生息」、3番目が「砂浜や干潟」となっている。
- ・関心度：高さに関係なく「水がきれいな海」が1番目に挙げられている。非常にまたはやや関心がある層、およびどちらともいえないと回答している層では、お2番目に「生物の生息」、3番目に「砂浜や干潟」が挙げられているが、両者の差は小さい。あまりまたはまったく関心がない層では、回答が分散する傾向を示している。
- ・親近感、関心度に関わりなく水のきれいな東京湾を望む傾向が顕著である。

		Q4-1 望む東京湾の将来像											
		サンプル数	水がきれいな海	嫌な臭いのしない海	砂浜や干潟など多くの自然がある海	たくさんの生物が生息する海	漁業や養殖業が盛んな海	気軽に散策や休息ができる海	スポーツやレジャーを楽しめる海	行き交う船が多い活動的な海	都市と自然が調和した海	その他	無回答
基本分析軸1	全体	672 100.0	466 69.3	156 23.2	281 41.8	308 45.8	125 18.6	194 28.9	49 7.3	16 2.4	232 34.5	4 0.6	7 1.0
	エリア) 東京湾直接流入	325 100.0	234 72.0	78 24.0	130 40.0	151 46.5	57 17.5	102 31.4	23 7.1	6 1.8	105 32.3	2 0.6	4 1.2
	感潮域	166 100.0	113 68.1	35 21.1	76 45.8	76 45.8	32 19.3	49 29.5	12 7.2	5 3.0	55 33.1	1 0.6	1 0.6
	順流河川域	181 100.0	119 65.7	43 23.8	75 41.4	81 44.8	36 19.9	43 23.8	14 7.7	5 2.8	72 39.8	1 0.6	2 1.1
	親近度) 強く感じる	129 100.0	87 67.4	28 21.7	57 44.2	60 46.5	29 22.5	42 32.6	12 9.3	2 1.6	41 31.8	1 0.8	2 1.6
	やや感じる	190 100.0	127 66.8	49 25.8	80 42.1	85 44.7	31 16.3	52 27.4	14 7.4	8 4.2	69 36.3	-	3 1.6
	どちらともいえない	73 100.0	42 57.5	15 20.5	34 46.6	41 56.2	17 23.3	21 28.8	5 6.8	3 4.1	28 38.4	-	-
	あまり感じない	213 100.0	154 72.3	49 23.0	86 40.4	90 42.3	38 17.8	60 28.2	11 5.2	3 1.4	79 37.1	2 0.9	2 0.9
	全く感じない	65 100.0	55 84.6	15 23.1	24 36.9	31 47.7	9 13.8	18 27.7	6 9.2	-	14 21.5	1 1.5	-
	関心感) 非常に関心がある	181 100.0	125 69.1	31 17.1	85 47.0	97 53.6	48 26.5	58 32.0	16 8.8	4 2.2	55 30.4	1 0.6	2 1.1
	やや関心がある	312 100.0	217 69.6	71 22.8	130 41.7	131 42.0	51 16.3	95 30.4	19 6.1	8 2.6	122 39.1	1 0.3	4 1.3
	どちらともいえない	100 100.0	72 72.0	37 37.0	39 39.0	41 41.0	14 14.0	24 24.0	5 5.0	2 2.0	34 34.0	2 2.0	-
	あまり関心がない	63 100.0	43 68.3	16 25.4	16 25.4	28 44.4	8 12.7	15 23.8	8 12.7	2 3.2	19 30.2	-	1 1.6
	全く関心がない	3 100.0	3 100.0	-	1 33.3	3 100.0	-	-	1 33.3	-	-	-	-
	関心感小計) 非常に+やや関心がある	493 100.0	342 69.4	102 20.7	215 43.6	228 46.2	99 20.1	153 31.0	35 7.1	12 2.4	177 35.9	2 0.4	6 1.2
	どちらともいえない	100 100.0	72 72.0	37 37.0	39 39.0	41 41.0	14 14.0	24 24.0	5 5.0	2 2.0	34 34.0	2 2.0	-
	あまり+全く関心がない	66 100.0	46 69.7	16 24.2	17 25.8	31 47.0	8 12.1	15 22.7	9 13.6	2 3.0	19 28.8	-	1 1.5

○東京湾に望む水質

- ・ 親近度：強さに関係なく「多様な生物が生息できる水質」が最も多く、2番目の回答数の約2倍から約4倍となっている。2番目、3番目となる回答は分散しており、親近度の強さとの相関は見られない。
- ・ 関心度：全く関心がない層を除いて「多様な生物が生息できる水質」が最も多く、2番目の回答数の約2倍から約3倍となっている。2番目、3番目となる回答は分散しているが、関心がある層では「泳げる水質」および「水遊びができる水質」に集中しており、水と触れられる水質を望む傾向がみられる。

		Q4-2 望む東京湾の水質							
		サンプル数	泳げる水質	水遊びができる水質	透明感のある水質	多様な生き物が生息できる水質	青潮や赤潮が発生しない水質	その他	無回答
基本分析軸1	全 体	672 100.0	84 12.5	75 11.2	70 10.4	352 52.4	69 10.3	4 0.6	18 2.7
	エリア) 東京湾直接流入	325 100.0	45 13.8	30 9.2	34 10.5	170 52.3	33 10.2	3 0.9	10 3.1
	感潮域	166 100.0	20 12.0	27 △ 16.3	16 9.6	81 48.8	18 10.8	-	4 2.4
	順流河川域	181 100.0	19 10.5	18 9.9	20 11.0	101 55.8	18 9.9	1 0.6	4 2.2
	親近度) 強く感じる	129 100.0	15 11.6	10 7.8	11 8.5	68 52.7	18 ∴ 14.0	-	7 ↑ 5.4
	やや感じる	190 100.0	27 14.2	23 12.1	18 9.5	98 51.6	18 9.5	1 0.5	5 2.6
	どちらともいえない	73 100.0	5 ∴ 6.8	6 8.2	8 11.0	46 ↑ 63.0	6 8.2	1 1.4	1 1.4
	あまり感じない	213 100.0	26 12.2	28 13.1	21 9.9	109 51.2	24 11.3	1 0.5	4 1.9
	全く感じない	65 100.0	11 16.9	8 12.3	12 △ 18.5	29 44.6	3 ∴ 4.6	1 1.5	1 1.5
	関心感) 非常に関心がある	181 100.0	30 ↑ 16.6	20 11.0	16 8.8	90 49.7	21 11.6	1 0.6	3 1.7
	やや関心がある	312 100.0	32 10.3	32 10.3	30 9.6	180 ↑ 57.7	26 8.3	3 1.0	9 2.9
	どちらともいえない	100 100.0	13 13.0	14 14.0	9 9.0	48 48.0	13 13.0	-	3 3.0
	あまり関心がない	63 100.0	9 14.3	5 7.9	13 ▲ 20.6	28 44.4	6 9.5	-	2 3.2
	全く関心がない	3 100.0	-	1 33.3	2 ▲ 66.7	- ↓ -	-	-	-
	関心感小計)非常に+やや関心がある	493 100.0	62 12.6	52 10.5	46 9.3	270 54.8	47 9.5	4 0.8	12 2.4
	どちらともいえない	100 100.0	13 13.0	14 14.0	9 9.0	48 48.0	13 13.0	-	3 3.0
	あまり+全く関心がない	66 100.0	9 13.6	6 9.1	15 ▲ 22.7	28 ∴ 42.4	6 9.1	-	2 3.0

○東京湾再生への取組みの認知

- ・親近度、関心度に関わりなく「知らない」が65%～100%を占めており、行政機関による取組みへの認知度は低く、特に親近度・関心度が低い層で認知されていない割合が大きい。

		Q5-1 東京湾再生への取組みの認知			
		サンプル数	知っている	知らない	無回答
基本 分析 軸 1	全 体	672 100.0	121 18.0	542 80.7	9 1.3
	エリア) 東京湾直接流入	325 100.0	56 17.2	263 80.9	6 1.8
	感潮域	166 100.0	28 16.9	136 81.9	2 1.2
	順流河川域	181 100.0	37 20.4	143 79.0	1 0.6
	親近度) 強く感じる	129 100.0	40 ▲ 31.0	86 ▼ 66.7	3 2.3
	やや感じる	190 100.0	42 ▲ 22.1	143 ▼ 75.3	5 ▲ 2.6
	どちらともいえない	73 100.0	11 15.1	61 83.6	1 1.4
	あまり感じない	213 100.0	19 ▼ 8.9	194 ▲ 91.1	- ↓ -
	全く感じない	65 100.0	9 13.8	56 86.2	- -
	関心感) 非常に関心がある	181 100.0	57 ▲ 31.5	119 ▼ 65.7	5 ↑ 2.8
	やや関心がある	312 100.0	52 16.7	257 82.4	3 1.0
	どちらともいえない	100 100.0	9 ▼ 9.0	90 ▲ 90.0	1 1.0
	あまり関心がない	63 100.0	3 ▼ 4.8	60 ▲ 95.2	- -
	全く関心がない	3 100.0	- -	3 100.0	- -
	関心感小計) 非常に+やや関心がある	493 100.0	109 ▲ 22.1	376 ▼ 76.3	8 1.6
	どちらともいえない	100 100.0	9 ▼ 9.0	90 ▲ 90.0	1 1.0
	あまり+全く関心がない	66 100.0	3 ▼ 4.5	63 ▲ 95.5	- -

○再生への取組みの認知度

- ・ 親近度・関心度に関わりなく回答は分散しており、それぞれの回答数の差は小さい。また、親近度・関心度が低い層では取組みそのものへの認知度が低いいため、回答数が小さい。
- ・ 親近度・関心度が高い層で1番目に挙げられている回答は、「下水道高度処理施設の整備」、「河川の清掃活動」、「海底のヘドロ除去」、「海面を浮遊するゴミの回収」、「海岸の清掃活動」といった項目である。

		Q5-1-2 東京湾再生の取組の認知事項														
		サンプル数	水質総量規制	合流式下水道の改善	下水道の高度処理施設の整備	浄化槽の整備	河川直接浄化施設の整備	森林の整備・保全	河川の清掃活動	海底のヘドロの除去	海面を浮遊するゴミの回収	海岸の清掃活動	干潟や浅場の整備	過去の土砂採取跡(深層跡)の埋め戻	モニタリング	HPIによるモニタリングデータの発信
基本分析軸1	全体	121	23	21	24	16	10	9	22	23	23	21	19	6	4	2
		100.0	19.0	17.4	19.8	13.2	8.3	7.4	18.2	19.0	19.0	17.4	15.7	5.0	3.3	1.7
	エリア) 東京湾直接流入	56	12	11	10	9	3	4	9	10	9	9	11	3	2	1
		100.0	21.4	19.6	17.9	16.1	5.4	7.1	16.1	17.9	16.1	16.1	19.6	5.4	3.6	1.8
	感潮域	28	6	4	5	-	4	2	4	4	9	4	2	1	1	1
		100.0	21.4	14.3	17.9	▽	14.3	7.1	14.3	14.3	↑ 32.1	14.3	7.1	3.6	3.6	3.6
	順流河川域	37	5	6	9	7	3	3	9	9	5	8	6	2	1	-
		100.0	13.5	16.2	24.3	18.9	8.1	8.1	24.3	24.3	13.5	21.6	16.2	5.4	2.7	-
	親近度) 強く感じる	40	10	9	11	8	3	2	6	8	7	6	10	3	1	1
		100.0	25.0	22.5	27.5	20.0	7.5	5.0	15.0	20.0	17.5	15.0	↑ 25.0	7.5	2.5	2.5
	やや感じる	42	7	7	8	3	5	6	10	7	6	7	4	2	1	-
		100.0	16.7	16.7	19.0	7.1	11.9	↑ 14.3	23.8	16.7	14.3	16.7	9.5	4.8	2.4	-
	どちらともいえない	11	1	3	-	1	1	-	-	1	2	2	2	-	1	1
		100.0	9.1	27.3	↓	9.1	9.1	-	-	9.1	18.2	18.2	18.2	-	9.1	↑ 9.1
	あまり感じない	19	4	-	3	3	-	1	3	5	5	4	2	1	1	-
		100.0	21.1	▽	15.8	15.8	▽	5.3	15.8	26.3	26.3	21.1	10.5	5.3	5.3	-
	全く感じない	9	1	2	2	1	1	-	9	2	3	2	1	-	-	-
		100.0	11.1	22.2	22.2	11.1	11.1	-	33.3	22.2	33.3	22.2	11.1	-	-	-
	関心感) 非常に関心がある	57	13	12	15	11	7	3	9	15	10	15	11	2	2	1
		100.0	22.8	21.1	26.3	↑ 19.3	12.3	5.3	15.8	↑ 26.3	17.5	↑ 26.3	19.3	3.5	3.5	1.8
やや関心がある	52	8	9	8	4	2	5	11	6	11	5	8	2	1	1	
	100.0	15.4	17.3	15.4	7.7	3.8	9.6	21.2	↑ 11.5	21.2	↑ 9.6	15.4	3.8	1.9	1.9	
どちらともいえない	9	1	-	1	-	-	-	1	2	2	1	-	2	1	-	
	100.0	11.1	▽	11.1	-	-	-	11.1	11.1	22.2	22.2	11.1	▽	↑ 22.2	↑ 11.1	
あまり関心がない	3	1	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
	100.0	33.3	-	-	33.3	↑ 33.3	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	
全く関心がない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
関心感小計)非常に+やや関心がある	109	21	21	23	15	9	8	20	21	21	20	19	4	3	2	
	100.0	19.3	19.3	21.1	13.8	8.3	7.3	18.3	19.3	19.3	18.3	17.4	3.7	2.8	1.8	
どちらともいえない	9	1	-	1	-	-	-	1	2	2	1	-	2	1	-	
	100.0	11.1	▽	11.1	-	-	-	11.1	11.1	22.2	22.2	11.1	▽	↑ 22.2	↑ 11.1	
あまり+全く関心がない	3	1	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
	100.0	33.3	-	-	33.3	↑ 33.3	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	

○行政が行うべき取組み

- ・ 親近度、関心度に関わりなく、「下水道の高度処理施設の整備」が最も多い。
- ・ 親近度：強さに関わりなく、2番目の回答は「海底のヘドロの除去」となっている。
- ・ 関心度：関心がある層およびどちらともいえないとしている層では、2番目の回答は「ヘドロの除去」となっており、関心がない層では回答が分散している。

		Q5-2 行政が積極的に行うべき取組														
		サンプル数	水質総量規制	合流式下水道の改善	下水道の高度処理施設の整備	浄化槽の整備	河川直接浄化施設の整備	森林の整備・保全	河川の清掃活動	海底のヘドロの除去	海面を浮遊するゴミの回収	海岸の清掃活動	干潟や浅場の整備	過去の土砂採取跡(深掘跡)の埋め戻し	モニタリング	HPIによるモニタリングデータの発信
基本分析軸1	全 体	672 100.0	104 15.5	120 17.9	357 53.1	79 11.8	121 18.0	153 22.8	113 16.8	219 32.6	153 22.8	63 9.4	84 12.5	22 3.3	8 1.2	8 1.2
	エリア) 東京湾直接流入	325 100.0	52 16.0	52 16.0	173 53.2	32 9.8	56 17.2	78 24.0	48 14.8	97 29.8	71 21.8	34 10.5	41 12.6	10 3.1	6 1.8	4 1.2
	感潮域	166 100.0	27 16.3	28 16.9	88 53.0	18 10.8	33 19.9	33 19.9	27 16.3	68 △ 41.0	42 25.3	11 6.6	22 13.3	7 4.2	1 0.6	2 1.2
	順流河川域	181 100.0	25 13.8	40 22.1	96 53.0	29 ↑ 16.0	32 17.7	42 23.2	38 21.0	54 29.8	40 22.1	18 9.9	21 11.6	5 2.8	1 0.6	2 1.1
	親近度) 強く感じる	129 100.0	29 △ 22.5	28 21.7	66 51.2	14 10.9	20 15.5	34 26.4	26 20.2	36 27.9	22 17.1	15 11.6	20 15.5	7 5.4	2 1.6	1 0.8
	やや感じる	190 100.0	33 17.4	27 14.2	104 54.7	20 10.5	31 16.3	47 24.7	27 14.2	63 33.2	56 △ 29.5	20 10.5	28 14.7	4 2.1	2 1.1	3 1.6
	どちらともいえない	73 100.0	9 12.3	14 19.2	43 58.9	11 15.1	18 24.7	15 20.5	18 ↑ 24.7	21 28.8	18 24.7	3 4.1	8 11.0	3 4.1	1 1.4	1 1.4
	あまり感じない	213 100.0	28 13.1	42 19.7	106 49.8	27 12.7	33 15.5	48 22.5	34 16.0	79 37.1	44 20.7	19 8.9	26 12.2	5 2.3	2 0.9	3 1.4
	全く感じない	65 100.0	4 ▽ 6.2	9 13.8	38 58.5	7 10.8	18 △ 27.7	7 ▽ 10.8	7 10.8	20 30.8	13 20.0	6 9.2	2 ▽ 3.1	2 3.1	1 1.5	-
	関心感) 非常に関心がある	181 100.0	38 △ 21.0	39 21.5	109 56.9	21 11.6	34 18.8	44 24.3	32 17.7	60 33.1	41 22.7	15 8.3	30 ↑ 16.6	8 4.4	2 1.1	1 0.6
	やや関心がある	312 100.0	41 13.1	52 16.7	177 56.7	35 11.2	56 17.9	82 26.3	56 17.9	106 34.0	75 24.0	27 8.7	39 12.5	11 3.5	5 1.6	4 1.3
	どちらともいえない	100 100.0	11 11.0	21 21.0	47 47.0	15 15.0	15 15.0	14 ▽ 14.0	16 16.0	36 36.0	19 19.0	8 8.0	7 ↓ 7.0	2 2.0	1 1.0	2 2.0
	あまり関心がない	63 100.0	7 11.1	5 ▽ 7.9	24 38.1	7 11.1	13 20.6	11 17.5	6 9.5	13 ▽ 20.6	16 25.4	11 △ 17.5	3 ↓ 4.8	1 1.6	-	1 1.6
	全く関心がない	3 100.0	1 33.3	-	2 66.7	-	1 33.3	-	-	2 66.7	-	1 33.3	1 33.3	-	-	-
	関心感小計) 非常に+やや関心がある	493 100.0	79 16.0	91 18.5	280 56.8	56 11.4	90 18.3	126 25.6	88 17.8	166 33.7	116 23.5	42 8.5	69 14.0	19 3.9	7 1.4	5 1.0
	どちらともいえない	100 100.0	11 11.0	21 21.0	47 47.0	15 15.0	15 15.0	14 ▽ 14.0	16 16.0	36 36.0	19 19.0	8 8.0	7 ↓ 7.0	2 2.0	1 1.0	2 2.0
	あまり+全く関心がない	66 100.0	8 12.1	5 ▽ 7.6	26 39.4	7 10.6	14 21.2	11 16.7	6 9.1	15 ↓ 22.7	16 24.2	12 △ 18.2	4 6.1	1 1.5	-	1 1.5

○行政からの呼びかけへの対応

- ・親近度：強さに関係なく「内容に応じて参加する」が最も多く、親近度が高い層ほどやや多くなる傾向を示している。2番目の回答数は、強く感じる層では「積極的に参加する」となっているが、他の層では「どちらともいえない」が挙げられている。
- ・関心度：関心がある層およびどちらともいえないとしている層では「内容に応じて参加する」が最も多く、あまり関心がない層では「どちらともいえない」が最も多い。2番目の回答として、非常に監視がある層では「積極的に参加する」が挙げられているが、3番目である「どちらともいえない」との差は小さい（回答数差=1）。なお、関心がある層では1番目の回答（内容に応じて参加する）が2番目の約3倍から約4倍となるのに対し、どちらともいえない層以下では回答数の差が小さくなっている。

		Q6-1 取組への参加呼びかけへの対応							
		サンプル数	参加したことがある	積極的に参加する	内容に応じて参加する	どちらともいえない	参加しない	わからない	無回答
基本 分析軸 1	全 体	672 100.0	11 1.6	33 4.9	373 55.5	156 23.2	31 4.6	59 8.8	9 1.3
	エリア) 東京湾直接流入	325 100.0	9 ∴ 2.8	20 6.2	179 55.1	73 22.5	9 ∴ 2.8	29 8.9	6 1.8
	感潮域	166 100.0	- ↓ -	5 3.0	96 57.8	41 24.7	9 5.4	14 8.4	1 0.6
	順流河川域	181 100.0	2 1.1	8 4.4	98 54.1	42 23.2	13 ↑ 7.2	16 8.8	2 1.1
	親近度) 強く感じる	129 100.0	8 ▲ 6.2	18 ▲ 14.0	75 58.1	16 ▼ 12.4	3 2.3	6 ↓ 4.7	3 2.3
	やや感じる	190 100.0	3 1.6	9 4.7	112 58.9	47 24.7	4 ↓ 2.1	10 ↓ 5.3	5 ∴ 2.6
	どちらともいえない	73 100.0	- -	- ↓ -	39 53.4	23 ↑ 31.5	2 2.7	8 11.0	1 1.4
	あまり感じない	213 100.0	- ↓ -	2 ▼ 0.9	117 54.9	55 25.8	14 ∴ 6.6	25 ∴ 11.7	- ↓ -
	全く感じない	65 100.0	- -	4 6.2	28 ▽ 43.1	15 23.1	8 ▲ 12.3	10 ↑ 15.4	- -
	関心感) 非常に関心がある	181 100.0	5 2.8	25 ▲ 13.8	110 ∴ 60.8	24 ▼ 13.3	4 ∴ 2.2	8 ▽ 4.4	5 ↑ 2.8
	やや関心がある	312 100.0	6 1.9	6 ▽ 1.9	193 △ 61.9	66 21.2	13 4.2	26 8.3	2 0.6
	どちらともいえない	100 100.0	- ∴ -	- ▽ -	43 ▽ 43.0	40 ▲ 40.0	3 3.0	13 ∴ 13.0	1 1.0
	あまり関心がない	63 100.0	- -	1 1.6	18 ▼ 28.6	23 △ 36.5	10 ▲ 15.9	10 △ 15.9	1 1.6
	全く関心がない	3 100.0	- -	- -	1 33.3	1 33.3	1 △ 33.3	- -	- -
	関心感小計) 非常に+やや関心がある	493 100.0	11 2.2	31 ∴ 6.3	303 ▲ 61.5	90 ▼ 18.3	17 3.4	34 ∴ 6.9	7 1.4
	どちらともいえない	100 100.0	- ∴ -	- ▽ -	43 ▽ 43.0	40 ▲ 40.0	3 3.0	13 ∴ 13.0	1 1.0
	あまり+全く関心がない	66 100.0	- -	1 1.5	19 ▼ 28.8	24 △ 36.4	11 ▲ 16.7	10 ↑ 15.2	1 1.5

○参加したい取組み

- ・ 親近度：層別に関わりなく「ゴミ清掃」が最も多く、親近度が強い層ほどその割合が高くなる傾向にあり、親近度が弱い層では回答が分散している。
- ・ 関心度：高さに関わりなく「ゴミ清掃」が最も多く、層間の差は小さい。2番目の回答としては、各層とも「環境学習・体験学習」が挙げられている。なお、全く関心がない層では有効な回答が得られていない(回答数=1)。

		Q6-1-2 参加した・したい取組									
		サンプル数	水質監視のモニター	ゴミ清掃	各種施設の運営・管理	環境学習・体験学習	各種イベントの運営・管理	事業の立案・計画	海や海岸のパトロール	その他	無回答
基本分析軸 1	全 体	417 100.0	74 17.7	187 44.8	46 11.0	132 31.7	47 11.3	46 11.0	68 16.3	6 1.4	71 17.0
	エリア) 東京湾直接流入	208 100.0	33 15.9	93 44.7	26 12.5	54 ↓ 26.0	30 ∴ 14.4	25 12.0	40 19.2	2 1.0	40 19.2
	感潮域	101 100.0	18 17.8	42 41.6	11 10.9	40 ↑ 39.6	8 7.9	9 8.9	14 13.9	2 2.0	16 15.8
	順流河川域	108 100.0	23 21.3	52 48.1	9 8.3	38 35.2	9 8.3	12 11.1	14 13.0	2 1.9	15 13.9
	親近度) 強く感じる	101 100.0	19 18.8	50 49.5	10 9.9	18 ▼ 17.8	12 11.9	14 13.9	20 19.8	1 1.0	22 21.8
	やや感じる	124 100.0	18 14.5	58 46.8	10 8.1	45 36.3	14 11.3	5 ▽ 4.0	17 13.7	2 1.6	21 16.9
	どちらともいえない	39 100.0	5 12.8	14 35.9	8 ↑ 20.5	14 35.9	5 12.8	7 ∴ 17.9	9 23.1	-	5 12.8
	あまり感じない	119 100.0	24 20.2	51 42.9	13 10.9	47 ↑ 39.5	11 9.2	15 12.6	18 15.1	2 1.7	18 15.1
	全く感じない	32 100.0	8 25.0	13 40.6	5 15.6	7 21.9	5 15.6	5 15.6	3 9.4	1 3.1	5 15.6
	関心感) 非常に関心がある	140 100.0	27 19.3	65 46.4	19 13.6	42 30.0	17 12.1	22 ↑ 15.7	31 ↑ 22.1	1 0.7	20 14.3
	やや関心がある	205 100.0	32 15.6	92 44.9	19 9.3	66 32.2	23 11.2	16 ∴ 7.8	31 15.1	3 1.5	39 19.0
	どちらともいえない	43 100.0	11 ∴ 25.6	18 41.9	5 11.6	15 34.9	5 11.6	6 14.0	2 ▽ 4.7	1 2.3	6 14.0
	あまり関心がない	19 100.0	4 21.1	7 36.8	2 10.5	5 26.3	1 5.3	1 5.3	1 ∴ 5.3	-	5 26.3
	全く関心がない	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	1 ▲ 100.0	-
	関心感小計)非常に+やや関心がある	345 100.0	59 17.1	157 45.5	38 11.0	108 31.3	40 11.6	38 11.0	62 18.0	4 1.2	59 17.1
	どちらともいえない	43 100.0	11 ∴ 25.6	18 41.9	5 11.6	15 34.9	5 11.6	6 14.0	2 ▽ 4.7	1 2.3	6 14.0
	あまり+全く関心がない	20 100.0	4 20.0	7 35.0	2 10.0	5 25.0	1 5.0	1 5.0	1 ∴ 5.0	1 ∴ 5.0	5 25.0

○港湾事業に関する認知

- ・ 親近度：感じている層では、「防波堤の整備」、「岸壁の整備」および「人工干潟・藻場などの整備」の順となっており、親近度が低い層では「ひとつも知らない」が最も多い。
- ・ 関心度：非常にまたはやや関心がある層では「防波堤の整備」が最も多く、次いで「岸壁の整備」が挙げられている。非常に関心がある層では3番目の回答数として「人工干潟・藻場などの整備」が挙げられているものの、やや関心ある層では「ひとつも知らない」が3番目となり、どちらともいえない以下では「ひとつも知らない」が最も多い回答となっている。

		Q7-1 港湾整備事業の認知												
		サンプル数	航路・泊地の整備	防波堤の整備	岸壁の整備	臨港道路の整備	人工干潟・藻場などの整備	海底のヘドロの除去	覆砂によるヘドロの封じ込め	海面を浮遊するゴミや油の回収	緑地の整備	ひとつも知らない	その他	無回答
基本分析軸1	全体	672 100.0	110 16.4	262 39.0	205 30.5	113 16.8	157 23.4	129 19.2	14 2.1	162 24.1	115 17.1	199 29.6	1 0.1	26 3.9
	エリア) 東京湾直接流入	325 100.0	54 16.6	137 42.2	105 32.3	45 13.8	73 22.5	60 18.5	5 1.5	75 23.1	52 16.0	98 30.2	-	10 3.1
	感潮域	166 100.0	25 15.1	53 31.9	45 27.1	38 22.9	37 22.3	34 20.5	3 1.8	41 24.7	32 19.3	54 32.5	-	7 4.2
	順流河川域	181 100.0	31 17.1	72 39.8	55 30.4	30 16.6	47 26.0	35 19.3	6 3.3	46 25.4	31 17.1	47 26.0	1 0.6	9 5.0
	親近度) 強く感じる	129 100.0	30 23.3	69 53.5	53 41.1	19 14.7	40 31.0	32 24.8	7 5.4	35 27.1	29 22.5	22 17.1	-	3 2.3
	やや感じる	190 100.0	37 19.5	84 44.2	68 35.8	33 17.4	58 30.5	45 23.7	4 2.1	53 27.9	27 14.2	40 21.1	-	9 4.7
	どちらともいえない	73 100.0	18 24.7	29 39.7	20 27.4	21 28.8	13 17.8	11 15.1	1 1.4	19 26.0	17 23.3	22 30.1	-	2 2.7
	あまり感じない	213 100.0	19 8.9	62 29.1	49 23.0	30 14.1	39 18.3	31 14.6	2 0.9	45 21.1	36 16.9	79 37.1	1 0.5	10 4.7
	全く感じない	65 100.0	5 7.7	17 26.2	14 21.5	10 15.4	6 9.2	9 13.8	-	10 15.4	6 9.2	35 53.8	-	2 3.1
	関心感) 非常に関心がある	181 100.0	44 24.3	99 54.7	77 42.5	40 22.1	63 34.8	54 29.8	9 5.0	52 28.7	41 22.7	31 17.1	1 0.6	5 2.8
	やや関心がある	312 100.0	52 16.7	123 39.4	101 32.4	49 15.7	77 24.7	57 18.3	5 1.6	78 25.0	58 18.6	79 25.3	-	16 5.1
	どちらともいえない	100 100.0	8 8.0	24 24.0	15 15.0	15 15.0	11 11.0	16 16.0	-	17 17.0	10 10.0	47 47.0	-	3 3.0
	あまり関心がない	63 100.0	3 4.8	11 17.5	7 11.1	8 12.7	3 4.8	2 3.2	-	10 15.9	4 6.3	37 58.7	-	-
	全く関心がない	3 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3 100.0	-	-
	関心感小計) 非常に+やや関心がある	493 100.0	96 19.5	222 45.0	178 36.1	89 18.1	140 28.4	111 22.5	14 2.8	130 26.4	99 20.1	110 22.3	1 0.2	21 4.3
	どちらともいえない	100 100.0	8 8.0	24 24.0	15 15.0	15 15.0	11 11.0	16 16.0	-	17 17.0	10 10.0	47 47.0	-	3 3.0
	あまり+全く関心がない	66 100.0	3 4.5	11 16.7	7 10.6	8 12.1	3 4.5	2 3.0	-	10 15.2	4 6.1	40 60.6	-	-

○港湾整備事業の具体例に対する認知度

- ・親近度：その強さに関わりなく「お台場海浜公園」が最も多く、全く親近感のない層を除いて2番目が「葛西海浜公園」、3番目が「東京港野鳥公園」の順となっている。全く関心がない層では、2番目の回答数に「ひとつも知らない」が挙げられている。
- ・関心度：全く関心がない層を除いて、「お台場海浜公園」の回答数が最も多い。非常にまたはやや関心がある層では、次いで「葛西海浜公園」、「東京港野鳥公園」の順となっているが、これら以外の層では「ひとつも知らない」が2番目の回答数となっている。

		Q7-2 港湾整備の一環での事項認知									
		サンプル数	葛西海浜公園の干潟の整備	東京港野鳥公園整備	お台場海浜公園	東京湾奥部(テイズーランド沖)シーブルー事業	横浜港みなとみらい地区シーブルー事業	横浜港金沢地区海浜の整備(海の公園)	ひとつも知らない	その他	無回答
基本分析軸1	全体	672 100.0	280 41.7	196 29.2	401 59.7	60 8.9	91 13.5	138 20.5	151 22.5	2 0.3	21 3.1
	エリア) 東京湾直接流入	325 100.0	107 ▼ 32.9	93 28.6	171 ▼ 52.6	23 7.1	42 12.9	88 ▲ 27.1	83 ∴ 25.5	2 0.6	9 2.8
	感潮域	166 100.0	83 △ 50.0	54 32.5	111 ↑ 66.9	19 11.4	21 12.7	28 16.9	32 19.3	-	6 3.6
	順流河川域	181 100.0	90 △ 49.7	49 27.1	119 ↑ 65.7	18 9.9	28 15.5	22 ▼ 12.2	36 19.9	-	6 3.3
	親近度) 強く感じる	129 100.0	57 44.2	46 ∴ 35.7	73 56.6	9 7.0	20 15.5	43 ▲ 33.3	23 17.8	1 0.8	3 2.3
	やや感じる	190 100.0	92 ↑ 48.4	63 33.2	117 61.6	25 △ 13.2	26 13.7	46 24.2	33 ↓ 17.4	-	7 3.7
	どちらともいえない	73 100.0	32 43.8	24 32.9	49 ∴ 67.1	8 11.0	10 13.7	11 15.1	15 20.5	-	2 2.7
	あまり感じない	213 100.0	79 ∴ 37.1	54 25.4	128 60.1	12 ↓ 5.6	27 12.7	35 ∴ 16.4	54 25.4	1 0.5	6 2.8
	全く感じない	65 100.0	18 ▼ 27.7	7 ▼ 10.8	32 ↓ 49.2	6 9.2	7 10.8	2 ▼ 3.1	26 ▲ 40.0	-	3 4.6
	関心感) 非常に関心がある	181 100.0	99 ▲ 54.7	70 ▲ 38.7	117 ∴ 64.6	17 9.4	29 16.0	45 ∴ 24.9	30 ↓ 16.6	1 0.6	6 3.3
	やや関心がある	312 100.0	135 43.3	94 30.1	196 62.8	27 8.7	43 13.8	68 21.8	59 ∴ 18.9	1 0.3	11 3.5
	どちらともいえない	100 100.0	29 ▼ 29.0	18 ▼ 18.0	48 ▼ 48.0	7 7.0	11 11.0	16 16.0	34 ▲ 34.0	-	3 3.0
	あまり関心がない	63 100.0	9 ▼ 14.3	8 ▼ 12.7	30 ↓ 47.6	8 12.7	6 9.5	6 ▼ 9.5	26 ▲ 41.3	-	-
	全く関心がない	3 100.0	1 33.3	-	1 33.3	-	-	-	1 33.3	-	1 ▲ 33.3
	関心感小計) 非常に+やや関心がある	493 100.0	234 ▲ 47.5	164 ▲ 33.3	313 ↑ 63.5	44 8.9	72 14.6	113 ∴ 22.9	89 ▼ 18.1	2 0.4	17 3.4
	どちらともいえない	100 100.0	29 ▼ 29.0	18 ▼ 18.0	48 ▼ 48.0	7 7.0	11 11.0	16 16.0	34 ▲ 34.0	-	3 3.0
	あまり+全く関心がない	66 100.0	10 ▼ 15.2	8 ▼ 12.1	31 ▼ 47.0	8 12.1	6 9.1	6 ▼ 9.1	27 ▲ 40.9	-	1 1.5

○港湾事業で積極的に実施すべき取組み

- ・親近度：どちらともいえないとする層を除き、「海底のヘドロの除去」が最も多い。どちらともいえないとする層では、「海面を浮遊するゴミの回収」が最も多くなっている。なお、各層とも1番目から3番目までの回答は、「海底のヘドロの除去」、「海面を浮遊するゴミの回収」および「人工干潟・藻場などの整備」の3項目に集中している。
- ・関心度：非常にまたはやや関心がある層、およびどちらともいえないとする層では、「海底のヘドロの除去」が最も多く、次いで「海面を浮遊するゴミの回収」、「人工干潟・藻場などの整備」の順となっており、関心度の高い層ほどヘドロ除去の回答数が多くなる。一方、関心が薄い層では回答が分散する傾向にある。

		Q7-3 積極的に実施すべき取組											
		サンプル数	人工干潟・藻場などの整備	海底のヘドロの除去	覆砂によるヘドロの封じ込め	海面を浮遊するゴミの回収	緑地の整備	水質モニタリング	環境情報・データの発信	シンポジウム・セミナー	その他	無回答	
基本分析軸1	全体	672	292	433	76	370	195	122	105	28	8	26	
		100.0	43.5	64.4	11.3	55.1	29.0	18.2	15.6	4.2	1.2	3.9	
	エリア	東京湾直接流入	325	139	196	38	178	94	65	49	12	6	14
		100.0	42.8	60.3	11.7	54.8	28.9	20.0	15.1	3.7	1.8	4.3	
		感潮域	166	76	124	16	94	41	28	24	6	-	6
		100.0	45.8	74.7	9.6	56.6	24.7	16.9	14.5	3.6	-	-	3.6
		順流河川域	181	77	113	22	98	60	29	32	10	2	6
		100.0	42.5	62.4	12.2	54.1	33.1	16.0	17.7	5.5	1.1	1	3.3
		親近度) 強く感じる	129	67	78	17	63	35	20	23	3	4	8
		100.0	51.9	60.5	13.2	48.8	27.1	15.5	17.8	2.3	3.1	6.2	
		やや感じる	190	81	122	20	107	45	38	30	7	2	8
		100.0	42.6	64.2	10.5	56.3	23.7	20.0	15.8	3.7	1.1	4.2	
		どちらともいえない	73	28	46	13	51	26	10	9	1	-	-
		100.0	38.4	63.0	17.8	69.9	35.6	13.7	12.3	1.4	-	-	1
		あまり感じない	213	98	145	21	115	75	42	28	11	-	5
		100.0	46.0	68.1	9.9	54.0	35.2	19.7	13.1	5.2	-	2.3	
		全く感じない	65	16	40	5	34	14	11	14	6	2	5
		100.0	24.6	61.5	7.7	52.3	21.5	16.9	21.5	9.2	3.1	7.7	
		関心感) 非常に関心がある	181	93	125	23	103	48	28	33	5	4	6
		100.0	51.4	69.1	12.7	56.9	26.5	15.5	18.2	2.8	2.2	3.3	
	やや関心がある	312	138	205	39	167	95	61	47	14	3	13	
	100.0	44.2	65.7	12.5	53.5	30.4	19.6	15.1	4.5	1.0	4.2		
	どちらともいえない	100	37	61	8	59	31	14	15	7	1	1	
	100.0	37.0	61.0	8.0	59.0	31.0	14.0	15.0	7.0	1.0	1.0		
	あまり関心がない	63	17	31	5	33	15	17	9	2	-	5	
	100.0	27.0	49.2	7.9	52.4	23.8	27.0	14.3	3.2	-	7.9		
	全く関心がない	3	1	3	1	2	1	-	-	-	-	-	
	100.0	33.3	100.0	33.3	66.7	33.3	-	-	-	-	-		
	関心感小計)非常に+やや関心がある	493	231	330	62	270	143	89	80	19	7	19	
	100.0	46.9	66.9	12.6	54.8	29.0	18.1	16.2	3.9	1.4	3.9		
	どちらともいえない	100	37	61	8	59	31	14	15	7	1	1	
	100.0	37.0	61.0	8.0	59.0	31.0	14.0	15.0	7.0	1.0	1.0		
	あまり+全く関心がない	66	18	34	6	35	16	17	9	2	-	5	
	100.0	27.3	51.5	9.1	53.0	24.2	25.8	13.6	3.0	-	7.6		

○東京湾再生に対する下水道の役割への認識

- ・親近度：全く親近感がない層を除いて、「役立っている」が最も多い。強く感じている層では「非常に役立っている」が2番目の回答数であり、やや感じている層でも「非常に役立っている」が3番目の回答数となっている。一方、やや感じる、どちらともいえない、あまり感じない、の各層では、2番目の回答数に「わからない」が挙げられており、全く親近感がない層ではこれが最も多い回答となっている。
- ・関心度：非常におよびやや関心があるとする層では、「役立っている」の回答数が最も多いものの、どちらともいえない以下では「わからない」が最も多い。ただし、これら関心度が低い層でも、2番目に多い回答は「役立っている」となっている。

		Q8-1 下水施設整備・改善の役立ち									
		サンプル数	非常に役立っている	役立っている	どちらともいえない	あまり役立っていない	役立っていない	わからない	「高度・」 「合流・」 「効果」を知らない	無回答	加重平均
基本 分析 軸 1	全 体	672 100.0	79 11.8	279 41.5	60 8.9	17 2.5	4 0.6	138 20.5	80 11.9	15 2.2	0.94
	エリア) 東京湾直接流入	325 100.0	44 13.5	134 41.2	36 11.1	8 2.5	2 0.6	59 18.2	34 10.5	8 2.5	0.94
	感潮域	166 100.0	15 9.0	75 45.2	16 9.6	3 1.8	-	38 22.9	16 9.6	3 1.8	0.94
	順流河川域	181 100.0	20 11.0	70 38.7	8 4.4	6 3.3	2 1.1	41 22.7	30 16.6	4 2.2	0.94
	親近度) 強く感じる	129 100.0	27 ▲20.9	62 ▲48.1	10 7.8	4 3.1	2 ▲1.6	10 ▼7.8	11 8.5	3 2.3	1.03
	やや感じる	190 100.0	27 14.2	84 44.2	21 11.1	4 2.1	-	30 ▲15.8	19 10.0	5 2.6	0.99
	どちらともいえない	73 100.0	6 8.2	27 37.0	13 ▲17.8	2 2.7	-	18 ▲24.7	5 ▲6.8	2 2.7	▲0.77
	あまり感じない	213 100.0	16 ▼7.5	85 39.9	14 6.6	6 2.8	2 0.9	50 23.5	35 ▲16.4	5 2.3	0.87
	全く感じない	65 100.0	2 ▼3.1	20 ▲30.8	2 ▼3.1	1 1.5	-	30 ▲46.2	10 15.4	-	0.92
	関心感) 非常に関心がある	181 100.0	40 ▲22.1	81 44.8	12 6.6	6 3.3	2 1.1	19 ▼10.5	18 9.9	3 1.7	▲1.07
	やや関心がある	312 100.0	32 10.3	155 ▲49.7	26 8.3	8 2.6	2 0.6	46 ▼14.7	35 11.2	8 2.6	0.93
	どちらともいえない	100 100.0	1 ▼1.0	22 ▼22.0	13 ▲13.0	1 1.0	-	43 ▲43.0	18 ▲18.0	2 2.0	▼0.62
	あまり関心がない	63 100.0	3 ▼4.8	15 ▼23.8	8 12.7	2 3.2	-	24 ▲38.1	9 14.3	2 3.2	▼0.68
	全く関心がない	3 100.0	-	1 33.3	-	-	-	2 ▲66.7	-	-	1.00
	関心感小計) 非常に+やや関心がある	493 100.0	72 ▲14.6	236 ▲47.9	38 7.7	14 2.8	4 0.8	65 ▼13.2	53 10.8	11 2.2	0.98
	どちらともいえない	100 100.0	1 ▼1.0	22 ▼22.0	13 ▲13.0	1 1.0	-	43 ▲43.0	18 ▲18.0	2 2.0	▼0.62
	あまり+全く関心がない	66 100.0	3 ▼4.5	16 ▼24.2	8 12.1	2 3.0	-	26 ▲39.4	9 13.6	2 3.0	▼0.69

○東京湾再生に役立つと考える下水道事業

- ・ 親近度：層別に関わりなく、「下水の高度処理」が最も多い回答数となっている。2番目以下の回答数では、親近度を感じている層では「下水道の水洗化普及」が2番目、「わからない」が3番目となっているのに対し、どちらともいえない、およびあまり感じない層では、「わからない」が2番目、「下水道の水洗化普及」が3番目となっている。なお、親近感がない層では「下水の高度処理」と「わからない」の回答が同数となっている。
- ・ 関心度：非常に、およびやや関心がある層では「下水の高度処理」が最も多く、次いで「下水道の水洗化普及」となっている。一方、どちらともいえない、および、あまり関心がない層では「わからない」が最も多く、次いで「下水の高度処理」、「下水道の水洗化普及」が挙げられている。
- ・ 親近度・関心度ともに、「わからない」を除く回答は「下水の高度処理」と「下水道の水洗化普及」に集中している。

		Q8-2 一番役立つと思う施策							
		サンプル数	下水道の水洗化普及拡大	下水の高度処理	合流式下水道の改善	どれも役立っていない	わからない	「下水道」の整備効果を知らない	無回答
基本分析軸1	全体	672	136	247	65	5	153	38	28
		100.0	20.2	36.8	9.7	0.7	22.8	5.7	4.2
	エリア) 東京湾直接流入	325	65	118	33	3	80	10	16
		100.0	20.0	36.3	10.2	0.9	24.6	▽ 3.1	4.9
	感潮域	166	31	71	16	-	31	12	5
		100.0	18.7	∴ 42.8	9.6	-	18.7	7.2	3.0
	順流河川域	181	40	58	16	2	42	16	7
		100.0	22.1	∴ 32.0	8.8	1.1	23.2	↑ 8.8	3.9
	親近度) 強く感じる	129	40	41	15	2	17	5	9
		100.0	▲ 31.0	31.8	11.6	1.6	▼ 13.2	3.9	∴ 7.0
	やや感じる	190	36	78	26	-	33	7	10
		100.0	18.9	41.1	↑ 13.7	-	↓ 17.4	3.7	5.3
	どちらともいえない	73	17	23	6	-	20	5	2
		100.0	23.3	31.5	8.2	-	27.4	6.8	2.7
	あまり感じない	213	35	79	18	2	57	16	6
		100.0	∴ 16.4	37.1	8.5	0.9	∴ 26.8	7.5	2.8
	全く感じない	65	8	25	-	1	25	5	1
		100.0	∴ 12.3	38.5	▼ -	1.5	▲ 38.5	7.7	1.5
	関心感) 非常に関心がある	181	46	76	29	-	18	4	8
		100.0	↑ 25.4	∴ 42.0	▲ 16.0	-	▼ 9.9	▽ 2.2	4.4
やや関心がある	312	67	124	29	4	53	22	13	
	100.0	21.5	39.7	9.3	1.3	▼ 17.0	7.1	4.2	
どちらともいえない	100	10	29	4	-	47	8	2	
	100.0	▽ 10.0	∴ 29.0	↓ 4.0	-	▲ 47.0	8.0	2.0	
あまり関心がない	63	8	15	3	1	28	3	5	
	100.0	∴ 12.7	▽ 23.8	∴ 4.8	1.6	▲ 44.4	4.8	∴ 7.9	
全く関心がない	3	1	-	-	-	1	1	-	
	100.0	33.3	∴ -	-	-	33.3	△ 33.3	-	
関心感小計) 非常に+やや関心がある	493	113	200	58	4	71	26	21	
	100.0	∴ 22.9	↑ 40.6	∴ 11.8	0.8	▼ 14.4	5.3	4.3	
どちらともいえない	100	10	29	4	-	47	8	2	
	100.0	▽ 10.0	∴ 29.0	↓ 4.0	-	▲ 47.0	8.0	2.0	
あまり+全く関心がない	66	9	15	3	1	29	4	5	
	100.0	∴ 13.6	▽ 22.7	∴ 4.5	1.5	▲ 43.9	6.1	∴ 7.6	

○下水道整備による河川の変化

- ・親近度：強く感じている層では、「川の水質が向上し、多様な生き物が育つ」が最も多く、次いで「川の水質が向上し長期的には今よりきれいになる」、大きく離れて3番目に「現状の皮を維持することができる」となっている。一方、やや感じるとする層以下では、「川の水質が向上し長期的には今よりきれいになる」、「川の水質が向上し、多様な生き物が育つ」、大きく離れて「わからない」の順となっている。層別に関わりなく、2つの選択肢に集中する傾向がみられる。
- ・関心度：非常に関心がある層では、「川の水質が向上し、多様な生き物が育つ」が最も多く、次いで「川の水質が向上し長期的には今よりきれいになる」が挙げられ、大きく離れて「川が清流になる」が3番目に挙げられている。やや関心がある層以下では、「川の水質が向上し長期的には今よりきれいになる」、「川の水質が向上し、多様な生き物が育つ」、大きく離れて「わからない」の順となっている。
- ・親近度・関心度ともに、層別に関わりなく2つの選択肢に集中する傾向がみられる。

		Q8-2-1 下水道整備による川の変化									
		サンプル数	川が清流になる	川の水質が向上し、多様な生き物が育つ	川水質が向上し長期的には今よりきれい	現状の川を維持することができる	なにも変わらない	よごれを集めて流す為、川が汚れる	わからない	その他	無回答
基本分析軸1	全体	672 100.0	24 3.6	254 37.8	291 43.3	28 4.2	4 0.6	6 0.9	39 5.8	1 0.1	25 3.7
	エリア) 東京湾直接流入	325 100.0	11 3.4	113 34.8	157 ↑ 48.3	11 3.4	1 0.3	3 0.9	17 5.2	-	12 3.7
	感潮域	166 100.0	6 3.6	63 38.0	71 42.8	7 4.2	1 0.6	2 1.2	11 6.6	-	5 3.0
	順流河川域	181 100.0	7 3.9	78 43.1	63 ▽ 34.8	10 5.5	2 1.1	1 0.6	11 6.1	1 0.6	8 4.4
	親近度) 強く感じる	129 100.0	4 3.1	61 △ 47.3	44 ▽ 34.1	7 5.4	1 0.8	2 1.6	4 3.1	-	6 4.7
	やや感じる	190 100.0	6 3.2	80 42.1	83 43.7	4 2.1	1 0.5	1 0.5	8 4.2	-	7 3.7
	どちらともいえない	73 100.0	1 1.4	22 30.1	39 ↑ 53.4	3 4.1	-	-	5 6.8	-	3 4.1
	あまり感じない	213 100.0	9 4.2	76 35.7	97 45.5	10 4.7	1 0.5	1 0.5	12 5.6	1 0.5	6 2.8
	全く感じない	65 100.0	4 6.2	14 21.5	28 43.1	4 6.2	1 1.5	2 ↑ 3.1	9 ▲ 13.8	-	3 4.6
	関心感) 非常に関心がある	181 100.0	8 4.4	88 48.6	65 ▽ 35.9	7 3.9	-	2 1.1	3 ▽ 1.7	-	8 4.4
	やや関心がある	312 100.0	7 2.2	110 35.3	148 △ 47.4	13 4.2	2 0.6	3 1.0	18 5.8	1 0.3	10 3.2
	どちらともいえない	100 100.0	4 4.0	30 30.0	45 45.0	6 6.0	1 1.0	1 1.0	9 9.0	-	4 4.0
	あまり関心がない	63 100.0	5 ↑ 7.9	19 30.2	29 46.0	1 1.6	-	-	7 ↑ 11.1	-	2 3.2
	全く関心がない	3 100.0	-	-	-	1 △ 33.3	-	-	1 △ 33.3	-	1 ▲ 33.3
	関心感小計) 非常に+やや関心がある	493 100.0	15 3.0	198 40.2	213 43.2	20 4.1	2 0.4	5 1.0	21 4.3	1 0.2	18 3.7
	どちらともいえない	100 100.0	4 4.0	30 30.0	45 45.0	6 6.0	1 1.0	1 1.0	9 9.0	-	4 4.0
	あまり+全く関心がない	66 100.0	5 ↑ 7.6	19 28.8	29 43.9	2 3.0	-	-	8 △ 12.1	-	3 4.5

○下水道整備による東京湾の変化

- ・親近度：層別に関わりなく「水質が向上し、東京湾も少しはきれいになる」の回答数が最も多く、次いで「美しく多様な生物が生息する東京湾が再生する」となっている。親近感のない層を除いて、回答数はこの2つに集中する傾向が見られ、強くおおよびやや感じる層では、大きく離れて3番目に「東京湾の現状を維持することができる」が挙げられている。どちらともいえないとする層では、上位2選択肢から大きく離れて「わからない」が挙げられ、あまり関心がない層以下では「東京湾の現状を維持することができる」が3番目となっている。
- ・関心度：回答数が少ない「全く関心がない」層を除いて、「水質が向上し、東京湾も少しはきれいになる」の回答数が最も多く、次いで「美しく多様な生物が生息する東京湾が再生する」となっている。関心があるとする層おおよびどちらともいえないとする層では、大きく離れて3番目に「東京湾の現状を維持することができる」が挙げられ、あまり関心がない層では「わからない」が3番目の回答数となっている。
- ・親近度・関心度ともに、層別に関わりなく水質が向上し、東京湾も少しはきれいになる」と「美しく多様な生物が生息する東京湾が再生する」に回答が集中する傾向がみられる。

		Q8-2-2 下水道整備による東京湾の変化								
		サンプル数	美しく多様な生物が生息する湾が再生	水質向上、東京湾も少しはきれいになる	東京湾の現状を維持することができる	なにも変わらない	よごれを集めて流す為、東京湾が汚れる	わからない	その他	無回答
基本分析軸1	全体	672 100.0	178 26.5	372 55.4	52 7.7	4 0.6	5 0.7	37 5.5	3 0.4	21 3.1
	エリア) 東京湾直接流入	325 100.0	80 24.6	186 57.2	28 8.6	1 0.3	2 0.6	17 5.2	1 0.3	10 3.1
	感潮域	166 100.0	43 25.9	98 59.0	8 4.8	-	-	9 5.4	1 0.6	5 3.0
	順流河川域	181 100.0	55 30.4	88 48.6	16 8.8	3 1.7	1 0.6	11 6.1	1 0.6	6 3.3
	親近度) 強く感じる	129 100.0	45 34.9	65 50.4	8 6.2	1 0.8	1 0.8	5 3.9	-	4 3.1
	やや感じる	190 100.0	56 29.5	103 54.2	16 8.4	-	1 0.5	6 3.2	1 0.5	7 3.7
	どちらともいえない	73 100.0	23 31.5	36 49.3	5 6.8	1 1.4	-	7 9.6	-	1 1.4
	あまり感じない	213 100.0	43 20.2	137 64.3	12 5.6	1 0.5	2 0.9	11 5.2	1 0.5	6 2.8
	全く感じない	65 100.0	11 16.9	30 46.2	11 16.9	1 1.5	1 1.5	7 10.8	1 1.5	3 4.6
	関心感) 非常に関心がある	181 100.0	68 37.6	82 45.3	15 8.3	1 0.6	2 1.1	5 2.8	1 0.6	7 3.9
	やや関心がある	312 100.0	74 23.7	187 59.9	22 7.1	2 0.6	1 0.3	16 5.1	2 0.6	8 2.6
	どちらともいえない	100 100.0	17 17.0	61 61.0	8 8.0	1 1.0	2 2.0	7 7.0	-	4 4.0
	あまり関心がない	63 100.0	13 20.6	36 57.1	6 9.5	-	-	7 11.1	-	1 1.6
	全く関心がない	3 100.0	-	-	1 33.3	-	-	1 33.3	-	1 33.3
	関心感小計) 非常に+やや関心がある	493 100.0	142 28.8	269 54.6	37 7.5	3 0.6	3 0.6	21 4.3	3 0.6	15 3.0
	どちらともいえない	100 100.0	17 17.0	61 61.0	8 8.0	1 1.0	2 2.0	7 7.0	-	4 4.0
	あまり+全く関心がない	66 100.0	13 19.7	36 54.5	7 10.6	-	-	8 12.1	-	2 3.0

③都県別・流域ブロック別・上・中・下流別・順応的管理検討に向けた類型区分別の集計結果

○東京湾への親近感

- ・都県別：東京都・埼玉県では「あまり感じない」、神奈川県・千葉県では「やや感じる」が最も多い回答数となっている。なお、「強く感じる」は千葉県で2番目、東京都・神奈川県で2番目に挙げられている。
- ・流域ブロック別：鶴見川、多摩川、荒川、中川・綾瀬川および江戸川の河川ブロック、並びに東京単独ブロック（東京23区を中心とするブロック）で、「あまり感じない」が最も多くなっている。一方、東京湾に近接すると考えられる横須賀三浦・千葉単独の各ブロックでは「強く感じる」が最も多く、横浜市単独では「やや感じる」が最多数である。大都市圏ではなくかつ東京湾に接する地域で親近感が高いものと考えられる。
- ・上・中・下流別：東京湾に近接する直接流入域（下流）では「強く感じる」が最も多く、感潮域（中流）・順流河川域（上流）では「あまり感じない」が最も多い。なお、各層とも2番目に多いのは「やや感じる」となっている。
- ・類型区分別：岩礁域および干潟残存域では「強く感じる」、湾央浅海および千葉湾央・湾奥では「やや感じる」、湾央・湾奥およびその他では「あまり感じない」がそれぞれ最も多い回答数となっている。それぞれ地域における水際線への近づきやすさが影響している可能性がある。

		Q1-5 日常生活で東京湾を身近に感じる							
		サンプル数	強く感じる	やや感じる	どちらとも いえない	あまり感じ ない	全く感じ ない	無回答	加重平均
基本 分析 軸 2	全 体	672 100.0	129 19.2	190 28.3	73 10.9	213 31.7	65 9.7	2 0.3	0.16
	都県別) 東京都	206 100.0	31 15.0	51 24.8	17 8.3	84 40.8	23 11.2	-	▼ -0.08
	神奈川県	189 100.0	48 25.4	56 29.6	19 10.1	50 26.5	15 7.9	1 0.5	△ 0.38
	千葉県	137 100.0	41 29.9	44 32.1	13 9.5	32 23.4	6 4.4	1 0.7	▲ 0.60
	埼玉県	140 100.0	9 6.4	39 27.9	24 17.1	47 33.6	21 15.0	-	▼ -0.23
	流域別) 横須賀三浦	42 100.0	23 54.8	11 26.2	3 7.1	5 11.9	-	-	▲ 1.24
	横浜市単独	49 100.0	13 26.5	18 36.7	5 10.2	10 20.4	3 6.1	-	△ 0.57
	鶴見川	67 100.0	9 13.4	19 28.4	7 10.4	22 32.8	9 13.4	1 1.5	-0.05
	多摩川	62 100.0	8 12.9	11 17.7	7 11.3	31 50.0	5 8.1	-	▽ -0.23
	東京単独①	41 100.0	6 14.6	10 24.4	4 9.8	14 34.1	7 17.1	-	∴ -0.15
	東京単独②	41 100.0	6 14.6	11 26.8	4 9.8	17 41.5	3 7.3	-	0.00
	荒川	145 100.0	18 12.4	48 33.1	13 9.0	49 33.8	17 11.7	-	∴ 0.01
	中川・綾瀬川	85 100.0	5 5.9	18 21.2	16 18.8	32 37.6	14 16.5	-	▼ -0.38
	江戸川	36 100.0	3 8.3	7 19.4	6 16.7	14 38.9	6 16.7	-	▽ -0.36
	千葉単独	104 100.0	38 36.5	37 35.6	8 7.7	19 18.3	1 1.0	1 1.0	▲ 0.89
	上中下流別) 東京湾直接流入	325 100.0	101 31.1	98 30.2	28 8.6	80 24.6	17 5.2	1 0.3	▲ 0.57
	感潮域	166 100.0	11 6.6	47 28.3	20 12.0	67 40.4	20 12.0	1 0.6	▼ -0.23
	順流河川域	181 100.0	17 9.4	45 24.9	25 13.8	66 36.5	28 15.5	-	▼ -0.24
	順応管理別) 岩礁域	33 100.0	16 48.5	10 30.3	3 9.1	4 12.1	-	-	▲ 1.15
	湾央湾奥	229 100.0	37 16.2	66 28.8	24 10.5	76 33.2	25 10.9	1 0.4	0.06
	湾奥浅海	75 100.0	19 25.3	30 40.0	7 9.3	16 21.3	2 2.7	1 1.3	▲ 0.65
	干潟残存	26 100.0	18 69.2	5 19.2	2 7.7	1 3.8	-	-	▲ 1.54
	千葉湾央湾奥	34 100.0	6 17.6	17 50.0	2 5.9	8 23.5	1 2.9	-	↑ 0.56
	その他	275 100.0	33 12.0	62 22.5	35 12.7	108 39.3	37 13.5	-	▼ -0.20

○東京湾の環境問題への関心度

- ・各分析軸とも層別に関わりなく、一部を除いて「やや関心がある」が最も多く、次いで「非常に関心がある」、「どちらともいえない」の順に回答数が多くなっている。
- ・都県別：回答数の順位に都県の差はなく、回答の選択肢間の比率の差も小さい。
- ・流域ブロック別：多摩川流域および東京単独ブロック①（大田区・世田谷区）で「どちらともいえない」が2番目、「非常に関心がある」が3番目となっているが、両選択肢間の差は小さい。また、鶴見川流域および江戸川流域で「あまり関心がない」が3番目の回答数となっている。
- ・上・中・下流別：回答数の順位に上・中・下流間の差はなく、回答の選択肢間の比率の差も小さい。
- ・類型区分別：干潟残存域のみ「非常に関心ある」が最も多くなっている。

		Q2-3 東京湾の環境問題への関心							
		サンプル数	非常に関心がある	やや関心がある	どちらともいえない	あまり関心がない	全く関心がない	無回答	加重平均
基本 分析 軸 2	全 体	672 100.0	181 26.9	312 46.4	100 14.9	63 9.4	3 0.4	13 1.9	0.92
	都県別) 東京都	206 100.0	49 23.8	91 44.2	41 19.9	20 9.7	1 0.5	4 1.9	0.83
	神奈川県	189 100.0	44 23.3	93 49.2	28 14.8	18 9.5	-	6 3.2	0.89
	千葉県	137 100.0	46 33.6	66 48.2	12 8.8	11 8.0	1 0.7	1 0.7	1.07
	埼玉県	140 100.0	42 30.0	62 44.3	19 13.6	14 10.0	1 0.7	2 1.4	0.94
	流域別) 横須賀三浦	42 100.0	12 28.6	25 59.5	5 11.9	-	-	-	1.17
	横浜市単独	49 100.0	13 26.5	18 36.7	11 22.4	6 12.2	-	1 2.0	0.79
	鶴見川	67 100.0	15 22.4	31 46.3	9 13.4	10 14.9	-	2 3.0	0.78
	多摩川	62 100.0	8 12.9	32 51.6	14 22.6	5 8.1	-	3 4.8	0.73
	東京単独①	41 100.0	8 19.5	20 48.8	9 22.0	4 9.8	-	-	0.78
	東京単独②	41 100.0	11 26.8	21 51.2	4 9.8	4 9.8	-	1 2.4	0.98
	荒川	145 100.0	44 30.3	67 46.2	19 13.1	13 9.0	-	2 1.4	0.99
	中川・綾瀬川	85 100.0	24 28.2	30 35.3	16 18.8	10 11.8	2 2.4	3 3.5	0.78
	江戸川	36 100.0	7 19.4	19 52.8	4 11.1	5 13.9	1 2.8	-	0.72
	千葉単独	104 100.0	39 37.5	49 47.1	9 8.7	6 5.8	-	1 1.0	1.17
	上中下流別) 東京湾直接流入	325 100.0	100 30.8	152 46.8	43 13.2	27 8.3	-	3 0.9	1.01
	感潮域	166 100.0	38 22.9	79 47.6	25 15.1	14 8.4	2 1.2	8 4.8	0.87
	順流河川域	181 100.0	43 23.8	81 44.8	32 17.7	22 12.2	1 0.6	2 1.1	0.80
	順応管理別) 岩礁域	33 100.0	8 24.2	21 63.6	4 12.1	-	-	-	1.12
	湾央湾奥	229 100.0	51 22.3	109 47.6	36 15.7	26 11.4	-	7 3.1	0.83
	湾奥浅海	75 100.0	27 36.0	34 45.3	8 10.7	5 6.7	-	1 1.3	1.12
	干潟残存	26 100.0	15 57.7	10 38.5	1 3.8	-	-	-	1.54
	千葉湾央湾奥	34 100.0	7 20.6	19 55.9	5 14.7	2 5.9	-	1 2.9	0.94
	その他	275 100.0	73 26.5	119 43.3	46 16.7	30 10.9	3 1.1	4 1.5	0.85

○深刻と考える東京湾の環境問題

- ・各分析軸とも層別に関わりなく、「浮遊ゴミ・ゴミの不法投棄」が最も多い。
- ・都県別：東京都のみ順番が逆になるものの、「赤潮・富栄養化」、「生き物・漁獲量の減少」が2番目・3番目となっている。
- ・流域ブロック別：2番目・3番目の回答数となる選択肢が流域ブロックによって異なるが、江戸川の「降雨後の未処理下水の流入」、東京湾単独ブロック②（港区、品川区、目黒区、渋谷区）の「海に触れあう場所が少ない」以外は、「赤潮・富栄養化」と「青潮・貧酸素水塊の発生」に集中している。
- ・上・中・下流別：各層とも、「赤潮・富栄養化」、「生き物・漁獲量の減少」が2番目・3番目となっている。
- ・類型区分別：2番目・3番目の回答数に特定の傾向は見られないが、「赤潮・富栄養化」・「青潮・貧酸素水塊の発生」・「生き物・漁獲量の減少」が3類型以上で挙げられている。

		Q2-4 東京湾での深刻な環境問題									
		サンプル数	赤潮・富栄養化	青潮・貧酸素水塊の発生	浮遊ゴミ・ゴミの不法投棄	降雨後の未処理下水の流入	生き物・漁獲量の減少	海にふれあう場所が少ない	わからない	その他	無回答
基本分析軸2	全体	672	214	154	508	130	219	91	38	16	12
		100.0	31.8	22.9	75.6	19.3	32.6	13.5	5.7	2.4	1.8
	都県別) 東京都	206	73	50	152	34	56	35	16	5	5
		100.0	35.4	24.3	73.8	16.5	↓ 27.2	∴ 17.0	∴ 7.8	2.4	2.4
	神奈川県	189	54	37	149	26	62	28	7	4	5
		100.0	28.6	19.6	78.8	↓ 13.8	32.8	14.8	3.7	2.1	2.6
	千葉県	137	44	40	102	32	46	15	7	3	1
		100.0	32.1	↑ 29.2	74.5	23.4	33.6	10.9	5.1	2.2	0.7
	埼玉県	140	43	27	105	38	55	13	8	4	1
		100.0	30.7	19.3	75.0	△ 27.1	↑ 39.3	∴ 9.3	5.7	2.9	0.7
	流域別) 横須賀三浦	42	11	5	34	7	17	1	-	3	-
		100.0	26.2	↓ 11.9	81.0	16.7	40.5	▽ 2.4	∴ -	△ 7.1	-
	横浜市単独	49	16	16	39	5	15	11	1	-	-
		100.0	32.7	∴ 32.7	79.6	∴ 10.2	30.6	↑ 22.4	2.0	-	-
	鶴見川	67	16	12	53	12	28	9	5	1	1
		100.0	∴ 23.9	17.9	79.1	17.9	∴ 41.8	13.4	7.5	1.5	1.5
	多摩川	62	24	14	45	6	8	13	4	2	4
		100.0	38.7	22.6	72.6	↓ 9.7	▼ 12.9	↑ 21.0	6.5	3.2	▲ 6.5
	東京単独①	41	10	9	29	8	10	6	4	1	1
		100.0	24.4	22.0	70.7	19.5	24.4	14.6	9.8	2.4	2.4
	東京単独②	41	12	7	30	11	13	14	-	-	1
		100.0	29.3	17.1	73.2	26.8	31.7	▲ 34.1	∴ -	-	2.4
	荒川	145	53	34	112	32	53	15	9	4	-
		100.0	36.6	23.4	77.2	22.1	36.6	10.3	6.2	2.8	∴ -
	中川・綾瀬川	85	27	16	61	17	29	7	8	2	4
		100.0	31.8	18.8	71.8	20.0	34.1	∴ 8.2	∴ 9.4	2.4	△ 4.7
	江戸川	36	8	10	26	13	9	6	2	-	-
		100.0	22.2	27.8	72.2	△ 36.1	25.0	16.7	5.6	-	-
	千葉県単独	104	37	31	79	19	37	9	5	3	1
		100.0	35.6	↑ 29.8	76.0	18.3	35.6	∴ 8.7	4.8	2.9	1.0
上中下流別) 東京湾直接流入	325	106	73	249	59	111	49	13	8	2	
	100.0	32.6	22.5	76.6	18.2	34.2	15.1	∴ 4.0	2.5	∴ 0.6	
感潮域	166	51	34	124	36	57	14	12	3	9	
	100.0	30.7	20.5	74.7	21.7	34.3	↓ 8.4	7.2	1.8	▲ 5.4	
順流河川域	181	57	47	135	35	51	28	13	5	1	
	100.0	31.5	26.0	74.6	19.3	28.2	15.5	7.2	2.8	0.6	
順応管理別) 岩礁域	33	10	5	26	5	13	1	-	2	-	
	100.0	30.3	15.2	78.8	15.2	39.4	↓ 3.0	∴ -	∴ 6.1	-	
湾央湾奥	229	65	48	174	38	68	47	11	2	7	
	100.0	28.4	21.0	76.0	16.6	29.7	▲ 20.5	4.8	∴ 0.9	∴ 3.1	
湾奥浅海	75	34	26	54	12	20	8	4	3	-	
	100.0	△ 45.3	△ 34.7	72.0	16.0	26.7	10.7	5.3	4.0	-	
干潟残存	26	5	6	21	6	13	2	-	1	-	
	100.0	∴ 19.2	23.1	80.8	23.1	↑ 50.0	7.7	-	3.8	-	
千葉県湾央湾奥	34	8	11	26	4	7	3	2	1	1	
	100.0	23.5	∴ 32.4	76.5	11.8	∴ 20.6	8.8	5.9	2.9	2.9	
その他	275	92	58	207	65	98	30	21	7	4	
	100.0	33.5	21.1	75.3	↑ 23.6	35.6	10.9	∴ 7.6	2.5	1.5	

○東京湾の環境が悪化している原因

- ・都県別：共通して「生活排水」が最も多く挙げられ、次いで「工場排水」となっている。千葉県以外の都県では「ヘドロ」の回答数が3番目に多く、千葉県では「高度な都市化」が3番目の回答数として挙げられている。
- ・流域ブロック別：各ブロックとも「生活排水」が1番目または2番目に多い回答数となっている。左記3ブロックでも同選択肢が2番目となっている。また、「工場排水」が1番目から3番目の回答数として全ブロックであげられている。これら以外には、「海底に堆積したヘドロ」および「高度な都市化」が挙げられている。なお、横須賀三浦ブロックでは「砂浜や干潟の減少」が2番目の回答数となっている。
- ・上・中・下流別：層別の差異はなく、「生活排水」、「工場排水」、海底に堆積したヘドロ」の順となっている。
- ・類型区分別：全類型区分で「生活排水」・「工場排水」が挙げられ、岩礁域および干潟残存域以外の各ブロックでは「海底に堆積したヘドロ」が3番目の回答数となっている。岩礁域および干潟残存域では「砂浜や干潟の減少」および「自然の減少」が2番目または3番目の回答数となっているが、比較的自然環境が豊富な地域であることの反映と推定される。

		Q2-5 東京湾の環境が悪化している原因											
		サンプル数	下水道の未整備	海底に堆積したヘドロ	工場排水	生活排水	砂浜や干潟の減少	自然の減少	生物の減少	高度な都市化	わからない	その他	無回答
基本分析軸2	全体	672 100.0	140 20.8	241 35.9	297 44.2	346 51.5	152 22.6	149 22.2	55 8.2	213 31.7	26 3.9	18 2.7	12 1.8
	都県別) 東京都	206 100.0	34 ∴ 16.5	81 39.3	89 43.2	103 50.0	40 19.4	47 22.8	19 9.2	68 33.0	11 5.3	8 3.9	5 2.4
	神奈川県	189 100.0	31 ∴ 16.4	65 34.4	81 42.9	90 47.6	47 24.9	53 ↑ 28.0	13 6.9	57 30.2	8 4.2	5 2.6	4 2.1
	千葉県	137 100.0	39 △ 28.5	39 ↓ 28.5	60 43.8	80 ∴ 58.4	36 26.3	23 ∴ 16.8	12 8.8	42 30.7	2 ∴ 1.5	- ↓ -	2 1.5
	埼玉県	140 100.0	36 ∴ 25.7	56 40.0	67 47.9	73 52.1	29 20.7	26 18.6	11 7.9	46 32.9	5 3.6	5 3.6	1 0.7
	流域別) 横須賀三浦	42 100.0	8 19.0	11 ∴ 26.2	14 ∴ 33.3	16 ↓ 38.1	15 △ 35.7	12 28.6	5 11.9	11 26.2	2 4.8	2 4.8	- -
	横浜市単独	49 100.0	7 14.3	18 36.7	22 44.9	27 55.1	10 20.4	16 ↑ 32.7	2 4.1	19 38.8	- ∴ -	1 2.0	- -
	鶴見川	67 100.0	11 16.4	28 41.8	31 46.3	34 50.7	16 23.9	14 20.9	5 7.5	16 ∴ 23.9	5 ∴ 7.5	1 1.5	2 3.0
	多摩川	62 100.0	10 16.1	17 ∴ 27.4	24 38.7	29 46.8	14 22.6	18 ∴ 29.0	4 6.5	22 35.5	3 4.8	2 3.2	3 ↑ 4.8
	東京単独①	41 100.0	8 19.5	16 39.0	21 51.2	20 48.8	10 24.4	8 19.5	3 7.3	10 24.4	3 7.3	1 2.4	1 2.4
	東京単独②	41 100.0	9 22.0	19 ∴ 46.3	16 39.0	18 43.9	5 ∴ 12.2	12 29.3	3 7.3	18 ↑ 43.9	- ∴ -	2 4.9	1 2.4
	荒川	145 100.0	31 21.4	59 40.7	62 42.8	76 52.4	31 21.4	32 22.1	15 10.3	49 33.8	7 4.8	6 4.1	- ∴ -
	中川・綾瀬川	85 100.0	17 20.0	34 40.0	45 ∴ 52.9	43 50.6	14 ∴ 16.5	14 16.5	6 7.1	24 28.2	4 4.7	3 3.5	3 3.5
	江戸川	36 100.0	11 ∴ 30.6	6 ▽ 16.7	14 38.9	21 58.3	13 ↑ 36.1	7 19.4	4 11.1	15 ∴ 41.7	- -	- -	- -
	千葉単独	104 100.0	28 ∴ 26.9	33 31.7	48 46.2	62 ↑ 59.6	24 23.1	16 ↓ 15.4	8 7.7	29 27.9	2 1.9	- ↓ -	2 1.9
	上中下流別) 東京湾直接流入	325 100.0	71 21.8	113 34.8	138 42.5	167 51.4	77 23.7	80 24.6	29 8.9	103 31.7	11 3.4	10 3.1	3 0.9
	感潮域	166 100.0	28 16.9	63 38.0	74 44.6	93 56.0	35 21.1	29 ∴ 17.5	13 7.8	59 35.5	7 4.2	3 1.8	6 ↑ 3.6
	順流河川域	181 100.0	41 22.7	65 35.9	85 47.0	86 47.5	40 22.1	40 22.1	13 7.2	51 28.2	8 4.4	5 2.8	3 1.7
	順応管理別) 岩礁域	33 100.0	3 ↓ 9.1	10 30.3	13 39.4	14 42.4	11 ∴ 33.3	11 ∴ 33.3	5 ∴ 15.2	6 ↓ 18.2	2 6.1	1 3.0	- -
	湾央湾奥	229 100.0	40 17.5	89 38.9	104 45.4	112 48.9	47 20.5	61 ∴ 26.6	14 6.1	74 32.3	9 3.9	6 2.6	6 2.6
	湾奥浅海	75 100.0	16 21.3	30 40.0	32 42.7	43 57.3	12 ∴ 16.0	16 21.3	5 6.7	27 36.0	2 2.7	3 4.0	- -
	干潟残存	26 100.0	6 23.1	5 ↓ 19.2	10 38.5	15 57.7	14 ▲ 53.8	6 23.1	3 11.5	4 ↓ 15.4	- -	- -	- -
	千葉湾央湾奥	34 100.0	7 20.6	12 35.3	19 ∴ 55.9	18 52.9	3 ↓ 8.8	5 14.7	2 5.9	8 23.5	1 2.9	- -	2 ↑ 5.9
	その他	275 100.0	68 ∴ 24.7	95 34.5	119 43.3	144 52.4	65 23.6	50 ∴ 18.2	26 9.5	94 34.2	12 4.4	8 2.9	4 1.5

○東京湾の水質を悪くしている原因

- ・ 都県別：各都県とも、「生活雑排水を川に流している」および「川や海にゴミを捨てている」が1番目または2番目の回答数となっている。3番目の回答数としては、東京都と神奈川県では「家庭で使った油を下水道に流している」、千葉県・埼玉県では「洗剤を使っている」となっている。
- ・ 流域ブロック別：各流域ブロックとも、「生活雑排水を川に流している」および「川や海にゴミを捨てている」が1番目または2番目の回答数となっている。なお、これらに次いで、「洗剤を使っている」と「家庭で使った油を下水道に流している」が2番目または3番目の回答数として挙げられている。
- ・ 上・中・下流別：各層とも、「生活雑排水を川に流している」、「川や海にゴミを捨てている」の順となっており、3番目の選択肢として東京湾直接流入域（下流）で「家庭で使った油を下水道に流している」、感潮域（中流）および順流河川域（上流）で「洗剤を使っている」がそれぞれ挙げられている。
- ・ 類型区分別：各区分とも、「生活雑排水を川に流している」および「川や海にゴミを捨てている」が1番目または2番目の回答数となっており、3番目の回答数として「洗剤を使っている」または「家庭で使った油を下水道に流している」が挙げられている。

		Q3-2 東京湾の水質を悪くしている原因							
		サンプル数	洗剤を使っている	家庭で使った油を下水道に流している	生活雑排水を川に流している	川や海にゴミを捨てている	その他	わからない	無回答
基本分析軸2	全体	672 100.0	176 26.2	160 23.8	367 54.6	301 44.8	25 3.7	44 6.5	13 1.9
	都県別) 東京都	206 100.0	50 24.3	58 ∴ 28.2	105 51.0	89 43.2	3 ↓ 1.5	16 7.8	6 2.9
	神奈川県	189 100.0	47 24.9	34 ↓ 18.0	88 ▽ 46.6	99 △ 52.4	9 4.8	13 6.9	4 2.1
	千葉県	137 100.0	39 28.5	33 24.1	95 ▲ 69.3	54 39.4	6 4.4	4 ↓ 2.9	1 0.7
	埼玉県	140 100.0	40 28.6	35 25.0	79 56.4	59 42.1	7 5.0	11 7.9	2 1.4
	流域別) 横須賀三浦	42 100.0	9 21.4	4 ▽ 9.5	18 ∴ 42.9	26 △ 61.9	2 4.8	2 4.8	1 2.4
	横浜市単独	49 100.0	16 32.7	7 ∴ 14.3	22 ∴ 44.9	23 46.9	4 ↑ 8.2	3 6.1	2 4.1
	鶴見川	67 100.0	10 ▽ 14.9	13 19.4	37 55.2	37 ↑ 55.2	1 1.5	5 7.5	1 1.5
	多摩川	62 100.0	22 ↑ 35.5	17 27.4	25 ▽ 40.3	25 40.3	2 3.2	6 9.7	1 1.6
	東京単独①	41 100.0	11 26.8	15 ↑ 36.6	13 ▼ 31.7	15 36.6	- -	5 ∴ 12.2	1 2.4
	東京単独②	41 100.0	12 29.3	9 22.0	23 56.1	22 53.7	1 2.4	- ↓ -	1 2.4
	荒川	145 100.0	34 23.4	46 △ 31.7	84 57.9	57 ∴ 39.3	6 4.1	10 6.9	2 1.4
	中川・綾瀬川	85 100.0	23 27.1	16 18.8	47 55.3	39 45.9	3 3.5	9 ∴ 10.6	3 3.5
	江戸川	36 100.0	6 ∴ 16.7	8 22.2	30 ▲ 83.3	17 47.2	1 2.8	- ∴ -	- -
	千葉単独	104 100.0	33 ∴ 31.7	25 24.0	68 △ 65.4	40 ∴ 38.5	5 4.8	4 3.8	1 1.0
	上中下流別) 東京湾直接流入	325 100.0	90 27.7	74 22.8	161 ↓ 49.5	152 46.8	14 4.3	19 5.8	7 2.2
	感潮域	166 100.0	39 23.5	43 25.9	99 ∴ 59.6	76 45.8	6 3.6	11 6.6	2 1.2
	順流河川域	181 100.0	47 26.0	43 23.8	107 59.1	73 40.3	5 2.8	14 7.7	4 2.2
	順応管理別) 岩礁域	33 100.0	8 24.2	3 ▽ 9.1	14 ∴ 42.4	22 △ 66.7	1 3.0	2 6.1	- -
	湾中央湾奥	229 100.0	61 26.6	54 23.6	106 ▽ 46.3	110 48.0	8 3.5	16 7.0	5 2.2
	湾奥浅海	75 100.0	22 29.3	22 29.3	46 61.3	32 42.7	1 1.3	2 ∴ 2.7	1 1.3
	干潟残存	26 100.0	6 23.1	4 15.4	17 65.4	9 34.6	2 7.7	2 7.7	- -
	千葉湾中央湾奥	34 100.0	11 32.4	8 23.5	21 61.8	14 41.2	1 2.9	2 5.9	1 2.9
	その他	275 100.0	68 24.7	69 25.1	163 ∴ 59.3	114 41.5	12 4.4	20 7.3	6 2.2

○東京湾の水質を良くするために出来ること

- ・一部を除き、各分析軸の各層とも「家庭からの排水に気をつける」、「川や海にゴミを捨てない」および「家庭で使った油を下水度に流さない」に回答が集中しており、各選択肢間の差異も小さい。
- ・都県別：回答数の順位は各都県とも上記に同様であり、回答数の傾向にも差異は見られない。
- ・流域ブロック別：中川・綾瀬川流域で「環境学習への参加」が3番目の回答数として挙げられている。
- ・上・中・下流別：回答数の順位は各層とも上記に同様であり、回答数の傾向にも差異は見られない。
- ・類型区分別：各類型とも「家庭からの排水に気をつける」が1番目または2番目の回答数となっている。左記以外には「川や海にゴミを捨てない」および「家庭で使った油を下水度に流さない」が挙げられており、湾奥浅海域では「川部屋海辺の清掃等のボランティア活動参加」、干潟残存域では「浄化槽の設置」が3番目の回答数となっている。

		Q3-2-1 水質を良くするために出来る事												
		サンプル数	家庭からの排水に気を付ける	下水道への接続	浄化槽の設置	家庭で使った油を下水道に流さない	川や海にゴミを捨てない	川辺や海辺の清掃等のボランティア活動参加	環境学習への参加	節水	東京湾で捕れた魚介類を食べる	出来ることはない	その他	無回答
基本 分析軸 2	全 体	672 100.0	483 71.9	83 12.4	87 12.9	322 47.9	432 64.3	85 12.6	67 10.0	48 7.1	20 3.0	1 0.1	7 1.0	9 1.3
	都県別) 東京都	206 100.0	150 72.8	14 ▽ 6.8	21 10.2	112 ↑ 54.4	133 64.6	23 11.2	25 12.1	17 8.3	2 1.0	1 0.5	- △ 2.6	5 2.4
	神奈川県	189 100.0	134 70.9	27 14.3	18 9.5	93 49.2	132 69.8	16 8.5	17 9.0	13 6.9	3 1.6	-	5 2.1	4 2.1
	千葉県	137 100.0	98 71.5	20 14.6	31 ▲ 22.6	57 27.8	81 59.1	23 16.8	11 8.0	8 5.8	7 5.1	-	-	-
	埼玉県	140 100.0	101 72.1	22 15.7	17 12.1	60 42.9	86 61.4	23 16.4	14 10.0	10 7.1	8 5.7	-	2 1.4	-
	流域別) 横須賀三浦	42 100.0	28 66.7	8 19.0	4 9.5	14 33.3	31 73.8	4 9.5	3 7.1	1 2.4	1 2.4	-	1 2.4	1 2.4
	横浜市単独	49 100.0	38 77.6	3 6.1	3 6.1	23 46.9	35 71.4	6 12.2	7 14.3	3 6.1	2 4.1	-	2 4.1	1 2.0
	鶴見川	67 100.0	45 67.2	14 △ 20.9	9 13.4	37 55.2	44 65.7	4 6.0	3 4.5	6 9.0	-	-	1 1.5	1 1.5
	多摩川	62 100.0	44 71.0	5 8.1	5 8.1	34 54.8	45 72.6	5 8.1	7 11.3	3 4.8	-	-	1 1.6	3 4.8
	東京単独①	41 100.0	32 78.0	3 7.3	4 9.8	26 △ 63.4	28 68.3	3 7.3	3 7.3	3 7.3	1 2.4	1 ▲ 2.4	-	1 2.4
	東京単独②	41 100.0	28 68.3	6 14.6	6 14.6	21 51.2	27 65.9	4 9.8	6 14.6	4 9.8	-	-	-	-
	荒川	145 100.0	110 75.9	14 9.7	16 11.0	75 51.7	81 ▽ 55.9	25 17.2	14 9.7	15 10.3	5 3.4	-	1 0.7	1 0.7
	中川・綾瀬川	85 100.0	57 67.1	10 11.8	8 9.4	34 40.0	57 67.1	11 12.9	13 15.3	5 5.9	4 4.7	-	1 1.2	1 1.2
	江戸川	36 100.0	29 80.6	7 19.4	3 8.3	14 38.9	22 61.1	5 13.9	4 11.1	3 8.3	2 5.6	-	-	-
	千葉単独	104 100.0	72 69.2	13 12.5	29 ▲ 27.9	44 42.3	62 59.6	18 17.3	7 6.7	5 4.8	5 4.8	-	-	-
	上中下流別) 東京湾直接流入	325 100.0	232 71.4	37 11.4	40 12.3	163 50.2	210 64.6	38 11.7	33 10.2	23 7.1	10 3.1	1 0.3	4 1.2	5 1.5
	感潮域	166 100.0	123 74.1	10 ▽ 6.0	15 9.0	79 47.6	105 63.3	19 11.4	21 12.7	19 △ 11.4	5 3.0	-	2 1.2	1 0.6
	順流河川域	181 100.0	128 70.7	36 ▲ 19.9	32 ↑ 17.7	80 44.2	117 64.6	28 15.5	13 7.2	6 ▽ 3.3	5 2.8	-	1 0.6	3 1.7
	順応管理別) 岩礁域	33 100.0	21 63.6	5 15.2	3 9.1	13 39.4	24 72.7	4 12.1	3 9.1	- 3.0	1 3.0	-	-	3 3.0
	湾央湾奥	229 100.0	166 72.5	28 12.2	24 10.5	126 △ 55.0	156 68.1	19 ▽ 8.3	23 10.0	19 8.3	3 1.3	1 0.4	4 1.7	4 1.7
	湾奥浅海	75 100.0	47 62.7	8 10.7	7 9.3	46 △ 61.3	43 57.3	12 16.0	8 10.7	7 9.3	1 1.3	-	-	1 1.3
	干潟残存	26 100.0	18 69.2	5 19.2	9 ▲ 34.6	6 ▽ 23.1	15 57.7	6 23.1	2 7.7	2 7.7	4 ▲ 15.4	-	-	-
	千葉湾央湾奥	34 100.0	27 79.4	3 8.8	11 ▲ 32.4	17 50.0	21 61.8	6 17.6	2 5.9	- 3.0	-	-	-	-
	その他	275 100.0	204 74.2	34 12.4	33 12.0	114 ▽ 41.5	173 62.9	38 13.8	29 10.5	20 7.3	11 4.0	-	3 1.1	3 1.1

○東京湾に望む将来像

- 一部を除き、各分析軸の各層とも「水がきれいな海」が最も多くなっている。2番目・3番目の回答数としては「たくさんの生き物が生息する海」および「砂浜や干潟など多くの自然がある海」が多い。
- 都県別：東京都で、「都市と自然が調和した海」が3番目の選択肢として挙げられている。
- 流域ブロック別：2番目・3番目の回答数として、「いやな臭いのしない海」（東京単独①）、「気軽に散策や休息ができる海」（鶴見川、東京単独②、江戸川）、「都市と自然が調和した海」（多摩川、東京単独②、江戸川）が得られている。
- 上・中・下流別：感潮域（中流）で、3番目の回答数として「都市と自然が調和した海」が挙げられている。
- 類型区分別：3番目の回答数として、湾奥浅海域で「気軽に散策や休息ができる海」、干潟残存域で「漁業や養殖業が盛んな海」が挙げられている。

		Q4-1 望む東京湾の将来像											
		サンプル数	水がきれいな海	嫌な臭いのしない海	砂浜や干潟など多くの自然がある海	たくさんの生き物が生息する海	漁業や養殖業が盛んな海	気軽に散策や休息ができる海	スポーツやレジャーを楽しめる海	行き交う船が多い活動的な海	都市と自然が調和した海	その他	無回答
基本 分析 軸 2	全体	672 100.0	466 69.3	156 23.2	281 41.8	308 45.8	125 18.6	194 28.9	49 7.3	16 2.4	232 34.5	4 0.6	7 1.0
	都県別) 東京都	206 100.0	151 73.3	57 27.7	78 37.9	83 40.3	28 13.6	66 32.0	12 5.8	5 2.4	78 37.9	2 1.0	5 2.4
	神奈川県	189 100.0	134 70.9	43 22.8	80 42.3	94 49.7	27 14.3	56 29.6	13 6.9	6 3.2	57 30.2	2 1.1	2 1.1
	千葉県	137 100.0	88 64.2	31 22.6	64 46.7	62 45.3	36 26.3	40 29.2	10 7.3	1 0.7	50 36.5	-	-
	埼玉県	140 100.0	93 66.4	25 17.9	59 42.1	69 49.3	34 24.3	32 22.9	14 10.0	4 2.9	47 33.6	-	-
	流域別) 横須賀三浦	42 100.0	33 78.6	8 19.0	16 38.1	22 52.4	3 7.1	12 28.6	1 2.4	-	9 21.4	1 2.4	1 2.4
	横浜市単独	49 100.0	41 83.7	11 22.4	21 42.9	27 55.1	6 12.2	9 18.4	6 12.2	1 2.0	17 34.7	1 2.0	1 2.0
	鶴見川	67 100.0	39 58.2	18 26.9	25 37.3	31 46.3	15 22.4	25 37.3	6 9.0	4 6.0	20 29.9	-	-
	多摩川	62 100.0	42 67.7	13 21.0	29 46.8	23 37.1	10 16.1	18 29.0	2 1.6	1 3.2	27 43.5	1 1.6	2 3.2
	東京単独①	41 100.0	31 75.6	19 46.3	13 31.7	20 48.8	6 14.6	6 14.6	5 12.2	-	11 26.8	-	1 2.4
	東京単独②	41 100.0	30 73.2	10 24.4	14 34.1	15 36.6	2 4.9	16 39.0	3 7.3	-	21 51.2	-	-
	荒川	145 100.0	106 73.1	29 20.0	61 42.1	64 44.1	26 17.9	50 34.5	8 5.5	4 2.8	46 31.7	-	1 0.7
	中川・綾瀬川	85 100.0	54 63.5	15 17.6	36 42.4	43 50.6	19 22.4	18 21.2	9 10.6	4 4.7	31 36.5	1 1.2	1 1.2
	江戸川	36 100.0	23 63.9	10 27.8	15 41.7	15 41.7	7 19.4	13 36.1	2 5.6	1 2.8	15 41.7	-	-
	千葉単独	104 100.0	67 64.4	23 22.1	51 49.0	48 46.2	31 29.8	27 26.0	8 7.7	-	35 33.7	-	-
	上中下流別) 東京湾直接流入	325 100.0	234 72.0	78 24.0	130 40.0	151 46.5	57 17.5	102 31.4	23 7.1	6 1.8	105 32.3	2 0.6	4 1.2
	感潮域	166 100.0	113 68.1	35 21.1	76 45.8	76 45.8	32 19.3	49 29.5	12 7.2	5 3.0	55 33.1	1 0.6	1 0.6
	順流河川域	181 100.0	119 65.7	43 23.8	75 41.4	81 44.8	36 19.9	43 23.8	14 7.7	5 2.8	72 39.8	1 0.6	2 1.1
	順応管理別) 岩礁域	33 100.0	27 81.8	7 21.2	12 36.4	19 57.6	3 9.1	9 27.3	1 3.0	-	6 18.2	-	-
	湾中央湾奥	229 100.0	162 70.7	64 27.9	91 39.7	107 46.7	32 14.0	66 28.8	20 8.7	6 2.6	80 34.9	1 0.4	2 0.9
	湾奥浅海	75 100.0	53 70.7	19 25.3	28 37.3	34 45.3	13 17.3	32 42.7	4 5.3	1 1.3	24 32.0	-	1 1.3
	干潟残存	26 100.0	17 65.4	2 7.7	15 57.7	12 46.2	13 50.0	7 26.9	3 11.5	-	5 19.2	-	-
	千葉湾中央湾奥	34 100.0	24 70.6	12 35.3	17 50.0	16 47.1	5 14.7	8 23.5	1 2.9	-	12 35.3	-	-
	その他	275 100.0	183 66.5	52 18.9	118 42.9	120 43.6	59 21.5	72 26.2	20 7.3	9 3.3	105 38.2	3 1.1	4 1.5

○東京湾再生への取組みの認知

- ・各分析軸の各層とも「知らない」が7割から9割を占めており、層別の傾向は見られない。

		Q5-1 東京湾再生への取組みの認知				
		サンプル数	知っている	知らない	無回答	
基本分析軸2	全 体	672	121	542	9	
		100.0	18.0	80.7	1.3	
	都県別)	東京都	206	25	176	5
		100.0	▽ 12.1	↑ 85.4	∴ 2.4	
		神奈川県	189	26	162	1
		100.0	∴ 13.8	↑ 85.7	0.5	
		千葉県	137	35	100	2
		100.0	△ 25.5	▽ 73.0	1.5	
		埼玉県	140	35	104	1
		100.0	△ 25.0	↓ 74.3	0.7	
	流域別)	横須賀三浦	42	9	33	-
		100.0	21.4	78.6	-	
		横浜市単独	49	6	42	1
		100.0	12.2	85.7	2.0	
		鶴見川	67	5	62	-
		100.0	▽ 7.5	△ 92.5	-	
		多摩川	62	11	51	-
		100.0	17.7	82.3	-	
		東京単独①	41	3	38	-
		100.0	↓ 7.3	↑ 92.7	-	
		東京単独②	41	5	35	1
		100.0	12.2	85.4	2.4	
		荒川	145	29	112	4
		100.0	20.0	77.2	∴ 2.8	
		中川・綾瀬川	85	18	66	1
		100.0	21.2	77.6	1.2	
		江戸川	36	5	30	1
		100.0	13.9	83.3	2.8	
	千葉単独	104	30	73	1	
	100.0	▲ 28.8	▼ 70.2	1.0		
	上中下流別) 東京湾直接流入	325	56	263	6	
	100.0	17.2	80.9	1.8		
	感潮域	166	28	136	2	
	100.0	16.9	81.9	1.2		
	順流河川域	181	37	143	1	
	100.0	20.4	79.0	0.6		
順応管理別)	岩礁域	33	7	26	-	
	100.0	21.2	78.8	-		
	湾中央湾奥	229	25	202	2	
	100.0	▼ 10.9	▲ 88.2	0.9		
	湾奥浅海	75	14	57	4	
	100.0	18.7	76.0	▲ 5.3		
	干潟残存	26	9	17	-	
	100.0	△ 34.6	▽ 65.4	-		
	千葉湾中央湾奥	34	7	26	1	
	100.0	20.6	76.5	2.9		
	その他	275	59	214	2	
	100.0	∴ 21.5	77.8	0.7		

○行政が行うべき取り組み

- ・一部を除き、各分析軸の各層とも「下水道の高度処理施設の整備」が最も多く、次いで、「海底のヘドロの除去」となっている。
- ・都県別：1番目・2番目の回答数は各都県とも共通であるが、3番目の回答数として、東京都・埼玉県では「森林の整備・保全」、神奈川県・千葉県・埼玉県では「海面を浮遊するゴミの回収」が挙げられている。
- ・流域ブロック別：各ブロックとも「下水道の高度処理施設の整備」が最も多く、「海底のヘドロの除去」が2番目または3番目の回答数として挙げられている。なお、2番目の回答数として多摩川流域では「森林の整備・保全」、江戸川流域では「合流式下水道の改善」が挙げられている。
- ・上・中・下流別：1番目・2番目の回答数は各層とも共通であるが、3番目の回答数として、東京湾直接流入域（下流）では「森林の整備・保全」、感潮域（中流）では「海面を浮遊するゴミの回収」が挙げられている。
- ・類型区分別：各区分とも、「下水道の高度処理施設の整備」が1番目または2番目の回答数となっているが、岩礁域では「海面を浮遊するゴミの回収」、干潟残存域では「森林の整備・保全」が最も多い回答数となっている。比較的自然環境が残存している場所では、その維持や改善が求められる傾向がある。

	Q5-2 行政が積極的に行うべき取組														
	サンプル数	水質総量規制	合流式下水道の改善	下水道の高度処理施設の整備	浄化槽の整備	河川直接浄化施設の整備	森林の整備・保全	河川の清掃活動	海底のヘドロの除去	海面を浮遊するゴミの回収	海岸の清掃活動	干潟や浅場の整備	過去の土砂採取跡(深掘跡)の埋め戻し	モニタリング	HPによるモニタリングデータの発信
全 体	672	104	120	357	79	121	153	113	219	153	63	84	22	8	8
都県別)	100.0	15.5	17.9	53.1	11.8	18.0	22.8	16.8	32.6	22.8	9.4	12.5	3.3	1.2	1.2
東京都	206	33	38	122	19	39	50	24	75	44	16	21	6	3	5
	100.0	16.0	18.4	↑ 59.2	9.2	18.9	24.3	▽ 11.7	36.4	21.4	7.8	10.2	2.9	1.5	∴ 2.4
神奈川県	189	26	25	94	18	26	45	38	66	50	22	25	8	4	2
	100.0	13.8	↓ 13.2	49.7	9.5	∴ 13.8	23.8	20.1	34.9	26.5	11.6	13.2	4.2	2.1	1.1
千葉県	137	25	26	70	22	25	26	24	35	27	16	19	4	1	-
	100.0	18.2	19.0	51.1	∴ 16.1	18.2	19.0	17.5	↓ 25.5	19.7	11.7	13.9	2.9	0.7	∴ -
埼玉県	140	20	31	71	20	31	32	27	43	32	9	19	4	-	1
	100.0	14.3	∴ 22.1	50.7	14.3	22.1	32.9	19.3	30.7	22.9	6.4	13.6	2.9	∴ -	0.7
流域別)	42	7	8	17	4	4	11	8	14	15	5	7	-	1	-
横須賀三浦	100.0	16.7	19.0	↓ 40.5	9.5	∴ 9.5	26.2	19.0	33.3	△ 35.7	11.9	16.7	-	2.4	-
横浜市単独	49	9	3	27	6	5	6	8	15	10	7	7	3	1	1
	100.0	18.4	▽ 6.1	55.1	12.2	∴ 10.2	↓ 12.2	16.3	30.6	20.4	14.3	14.3	6.1	2.0	2.0
鶴見川	67	5	7	33	7	14	20	15	27	20	8	7	3	2	1
	100.0	↓ 7.5	∴ 10.4	49.3	10.4	20.9	∴ 29.9	22.4	∴ 40.3	∴ 29.9	11.9	10.4	4.5	∴ 3.0	1.5
多摩川	62	6	16	34	6	9	19	12	19	9	4	7	2	-	2
	100.0	9.7	∴ 25.8	54.8	9.7	14.5	∴ 30.6	19.4	30.6	∴ 14.5	6.5	11.3	3.2	-	∴ 3.2
東京単独①	41	4	7	25	4	8	10	4	16	9	2	5	2	-	1
	100.0	9.8	17.1	61.0	9.8	19.5	24.4	9.8	39.0	22.0	4.9	12.2	4.9	-	2.4
東京単独②	41	7	8	24	2	7	11	4	12	11	6	3	2	1	2
	100.0	17.1	19.5	58.5	∴ 4.9	17.1	26.8	9.8	29.3	26.8	14.6	7.3	4.9	2.4	△ 4.9
荒川	145	25	29	80	15	34	38	24	48	28	6	15	4	2	1
	100.0	17.2	20.0	55.2	10.3	↑ 23.4	26.2	16.6	33.1	19.3	▽ 4.1	10.3	2.8	1.4	0.7
中川・綾瀬川	85	16	15	44	12	15	12	14	33	22	9	14	2	-	-
	100.0	18.8	17.6	51.8	14.1	17.6	↓ 14.1	16.5	38.8	25.9	10.6	16.5	2.4	-	-
江戸川	36	3	9	28	3	8	3	4	8	8	4	5	-	-	-
	100.0	8.3	25.0	▲ 77.8	8.3	22.2	▽ 8.3	11.1	∴ 22.2	22.2	11.1	13.9	-	-	-
千葉単独	104	22	18	45	20	17	23	20	27	21	12	14	4	1	-
	100.0	∴ 21.2	17.3	▽ 43.3	△ 19.2	16.3	22.1	19.2	∴ 26.0	20.2	11.5	13.5	3.8	1.0	-
上中下流別) 東京湾直接流入	325	52	52	173	32	56	78	48	97	71	34	41	10	6	4
	100.0	16.0	16.0	53.2	9.8	17.2	24.0	14.8	29.8	21.8	10.5	12.6	3.1	1.8	1.2
感潮域	166	27	28	88	18	33	33	27	68	42	11	22	7	1	2
	100.0	16.3	16.9	53.0	10.8	19.9	19.9	16.3	△ 41.0	25.3	6.6	13.3	4.2	0.6	1.2
順流河川域	181	25	40	96	29	32	42	38	54	40	18	21	5	1	2
	100.0	13.8	∴ 22.1	59.6	↑ 16.0	17.7	23.2	∴ 21.0	29.8	22.1	9.9	11.6	2.8	0.6	1.1
順応管理別) 岩礁域	33	7	6	11	3	4	7	6	11	14	5	5	-	1	-
	100.0	21.2	18.2	▽ 33.3	9.1	12.1	21.2	18.2	33.3	▲ 42.4	15.2	15.2	-	3.0	-
湾央湾奥	229	30	32	126	20	37	55	38	80	55	25	26	12	4	5
	100.0	13.1	∴ 14.0	55.0	∴ 8.7	16.2	24.0	16.6	34.9	24.0	10.9	11.4	↑ 5.2	1.7	∴ 2.2
湾奥浅海	75	13	14	47	6	18	12	8	23	11	7	7	1	2	-
	100.0	17.3	18.7	↑ 62.7	8.0	∴ 24.0	∴ 16.0	∴ 10.7	30.7	↓ 14.7	9.3	9.3	1.3	2.7	-
干潟残存	26	3	4	9	5	6	10	5	5	3	7	7	2	-	-
	100.0	11.5	15.4	↓ 34.6	19.2	23.1	↑ 38.5	19.2	∴ 19.2	∴ 11.5	▲ 26.9	△ 26.9	7.7	-	-
千葉湾央湾奥	34	9	7	13	7	1	4	9	8	10	3	3	1	-	-
	100.0	↑ 26.5	20.6	↓ 38.2	∴ 20.6	▽ 2.9	∴ 11.8	∴ 26.5	23.5	29.4	8.8	8.8	2.9	-	-
その他	275	42	57	151	38	55	65	47	92	60	16	36	6	1	3
	100.0	15.3	20.7	54.9	13.8	20.0	23.6	17.1	33.5	21.8	▽ 5.8	13.1	2.2	0.4	1.1

基本分析軸 2

○参加したい取組み

- ・一部を除き、分析軸の各層とも「ゴミ清掃」の回答数が最も多く、次いで「環境学習・体験学習」と、回答が集中する傾向となっている。
- ・都県別：回答数1番目・2番目は各都県共通であるが、3番目の回答数として、神奈川県・埼玉県では「水質監視のモニター」、東京都では「海や海岸のパトロール」が挙げられている。千葉県では無回答が3番目である。
- ・流域ブロック別：東京湾単独②（港区、品川区、目黒区、渋谷区）で「環境学習・体験学習」が最も多いほかは、「ゴミ清掃」が最も多くなっている。「環境学習・体験学習」は、東京湾単独①②以外の流域ブロックでは2番目の回答数となっている。なお、東京湾単独①（大田区、世田谷区）は2番目以下の回答が分散している。
- ・上・中・下流別：各層とも回答数1番目・2番目は共通であるが、感潮域（中流）と順流河川域（上流）では3番目の回答数として「水質監視のモニター」、海に近接する東京湾直接流入域（下流）では「海や海岸のパトロール」が挙げられている。
- ・類型区分別：各区分とも回答数が最も多いのは「ゴミ清掃」となっているが、干潟残存域では無回答が同数の1番目となっており、2番目・3番目も他の区分とは異なり「海や海岸のパトロール」および「事業の立案・計画」となっている。

		Q6-1-2 参加した・したい取組									無回答
		サンプル数	水質監視のモニター	ゴミ清掃	各種施設の運営・管理	環境学習・体験学習	各種イベントの運営・管理	事業の立案・計画	海や海岸のパトロール	その他	
基本分析軸2	全 体	417 100.0	74 17.7	187 44.8	46 11.0	132 31.7	47 11.3	46 11.0	68 16.3	6 1.4	71 17.0
	都県別) 東京都	127 100.0	22 17.3	50 39.4	18 14.2	44 34.6	21 ↑ 16.5	16 12.6	23 18.1	3 2.4	21 16.5
	神奈川県	110 100.0	24 21.8	52 47.3	7 ∴ 6.4	33 30.0	14 12.7	11 10.0	23 ∴ 20.9	-	21 19.1
	千葉県	89 100.0	11 ∴ 12.4	42 47.2	8 9.0	24 27.0	8 9.0	10 11.2	10 ∴ 11.2	1 1.1	18 20.2
	埼玉県	91 100.0	17 18.7	43 47.3	13 14.3	31 34.1	4 ▽ 4.4	9 9.9	12 13.2	2 2.2	11 12.1
	流域別) 横須賀三浦	31 100.0	8 25.8	16 51.6	3 9.7	6 ∴ 19.4	5 16.1	2 6.5	7 22.6	-	7 22.6
	横浜市単独	28 100.0	7 25.0	15 53.6	2 7.1	11 39.3	2 7.1	5 17.9	5 17.9	-	2 ∴ 7.1
	鶴見川	33 100.0	6 18.2	14 42.4	- ▽ -	12 36.4	5 15.2	3 9.1	6 18.2	-	8 24.2
	多摩川	40 100.0	8 20.0	14 35.0	3 7.5	12 30.0	3 7.5	3 7.5	10 ∴ 25.0	1 2.5	9 22.5
	東京単独①	24 100.0	3 12.5	11 45.8	5 ∴ 20.8	5 20.8	6 △ 25.0	5 ∴ 20.8	3 12.5	1 4.2	4 16.7
	東京単独②	24 100.0	1 ↓ 4.2	7 ∴ 29.2	4 16.7	11 ∴ 45.8	6 △ 25.0	4 16.7	6 25.0	-	4 16.7
	荒川	91 100.0	18 19.8	41 45.1	16 △ 17.6	32 35.2	10 11.0	7 7.7	14 15.4	2 2.2	8 ▽ 8.8
	中川・綾瀬川	57 100.0	12 21.1	27 47.4	5 8.8	19 33.3	2 ↓ 3.5	7 12.3	7 12.3	1 1.8	11 19.3
	江戸川	20 100.0	2 10.0	9 45.0	2 10.0	7 35.0	5 ↑ 25.0	3 15.0	- ▽ -	-	3 15.0
	千葉県単独	69 100.0	9 13.0	33 47.8	6 8.7	17 24.6	3 ↓ 4.3	7 10.1	10 14.5	1 1.4	15 21.7
	上中下流別) 東京湾直接流入	208 100.0	33 15.9	93 44.7	26 12.5	54 ↓ 26.0	30 ∴ 14.4	25 12.0	40 19.2	2 1.0	40 19.2
	感潮域	101 100.0	18 17.8	42 41.6	11 10.9	40 ↑ 39.6	8 7.9	9 8.9	14 13.9	2 2.0	16 15.8
	順流河川域	108 100.0	23 21.3	52 48.1	9 8.3	38 35.2	9 8.3	12 11.1	14 13.0	2 1.9	15 13.9
	順応管理別) 岩礁域	24 100.0	6 25.0	12 50.0	2 8.3	5 20.8	5 ∴ 20.8	1 4.2	5 20.8	-	5 20.8
	湾央湾奥	127 100.0	20 15.7	54 42.5	13 10.2	43 33.9	21 ↑ 16.5	18 14.2	25 19.7	1 0.8	22 17.3
	湾奥浅海	51 100.0	10 19.6	22 43.1	9 ∴ 17.6	14 27.5	7 13.7	4 7.8	8 15.7	-	8 15.7
	干潟残存	21 100.0	1 ∴ 4.8	8 38.1	1 4.8	1 ▽ 4.8	2 9.5	3 14.3	4 19.0	-	8 △ 38.1
	千葉湾央湾奥	19 100.0	3 15.8	11 57.9	- ∴ -	9 ∴ 47.4	1 5.3	1 5.3	3 15.8	-	2 10.5
	その他	175 100.0	34 19.4	80 45.7	21 12.0	60 34.3	11 ▽ 6.3	19 10.9	23 13.1	5 ∴ 2.9	26 14.9

○港湾事業に関する認知

- ・都県別：各都県とも「防波堤の整備」が最も多い。東京都・神奈川県では「ひとつも知らない」が2番目、「岸壁の整備」が3番目の回答数となっている。一方、千葉県・埼玉県では「岸壁の整備」が2番目となっており、3番目としてそれぞれ「人工干潟・藻場などの整備」および「海面を浮遊するゴミや油の回収」が挙げられている。
- ・流域ブロック別：鶴見川・多摩川を除く各ブロックで、「防波堤の整備」が最も多い回答数となっている。鶴見川では最も多い回答は「ひとつも知らない」であり、横浜市単独ブロックでも「ひとつも知らない」が「防波堤の整備」と並んで最も多い回答数となっている。なお、多摩川・江戸川では「岸壁の整備」が最も多い回答数となっている。
- ・上・中・下流別：東京湾直接流入域（下流）と順流河川域（上流）では「防波堤の整備」が最多数であるが、感潮域（中流）では「ひとつも知らない」が最多となっている。
- ・類型区分別：湾央湾奥域で「ひとつも知らない」が最も多くなっている他は、「防波堤の整備」の回答数が最も多い。各区分の2番目以下の回答数は分散している。

		Q7-1 港湾整備事業の認知												
		サンプル数	航路・泊地の整備	防波堤の整備	岸壁の整備	臨港道路の整備	人工干潟・藻場などの整備	海底のヘドロの除去	覆砂によるヘドロの封じ込め	海面を浮遊するゴミや油の回収	緑地の整備	ひとつも知らない	その他	無回答
基本分析軸2	全体	672	110	262	205	113	157	129	14	162	115	199	1	26
		100.0	16.4	39.0	30.5	16.8	23.4	19.2	2.1	24.1	17.1	29.6	0.1	3.9
	都県別) 東京都	206	36	73	58	41	43	53	8	51	46	68	-	5
		100.0	17.5	35.4	28.2	19.9	20.9	△ 25.7	↑ 3.9	24.8	△ 22.3	33.0	-	2.4
	神奈川県	189	29	70	61	20	35	25	1	42	22	69	-	5
		100.0	15.3	37.0	32.3	▽ 10.6	∴ 18.5	▽ 13.2	∴ 0.5	22.2	▽ 11.6	△ 36.5	-	2.6
	千葉県	137	24	66	48	20	41	24	3	32	18	25	-	10
		100.0	17.5	△ 48.2	35.0	14.6	↑ 29.9	17.5	2.2	23.4	13.1	▼ 18.2	-	△ 7.3
	埼玉県	140	21	53	38	32	38	27	2	37	29	37	1	6
		100.0	15.0	37.9	27.1	↑ 22.9	27.1	19.3	1.4	26.4	20.7	26.4	↑ 0.7	4.3
	流域別) 横須賀三浦	42	6	23	16	5	9	6	-	7	4	11	-	1
		100.0	14.3	△ 54.8	38.1	11.9	21.4	14.3	-	16.7	∴ 9.5	26.2	-	2.4
	横浜市単独	49	9	16	15	5	9	9	-	14	4	16	-	1
		100.0	18.4	32.7	30.6	10.2	18.4	18.4	-	28.6	↓ 8.2	32.7	-	2.0
	鶴見川	67	8	23	20	8	10	9	1	10	6	32	-	1
		100.0	11.9	34.3	29.9	11.9	∴ 14.9	13.4	1.5	↓ 14.9	↓ 9.0	▲ 47.8	-	1.5
	多摩川	62	14	18	21	9	14	10	1	19	17	18	-	5
		100.0	∴ 22.6	∴ 29.0	33.9	14.5	22.6	16.1	1.6	30.6	△ 27.4	29.0	-	↑ 8.1
	東京単独①	41	6	16	11	8	7	9	-	10	9	15	-	-
		100.0	14.6	39.0	26.8	19.5	17.1	22.0	-	24.4	22.0	36.6	-	∴ -
	東京単独②	41	5	13	10	7	2	11	-	11	8	12	-	2
		100.0	12.2	31.7	24.4	17.1	▼ 4.9	26.8	-	26.8	19.5	29.3	-	4.9
	荒川	145	24	55	38	34	41	31	7	35	31	44	1	5
		100.0	16.6	37.9	26.2	△ 23.4	∴ 28.3	21.4	△ 4.8	24.1	∴ 21.4	30.3	↑ 0.7	3.4
	中川・綾瀬川	85	14	32	26	17	24	19	2	24	18	24	-	1
		100.0	16.5	37.6	30.6	20.0	28.2	22.4	2.4	28.2	21.2	28.2	-	∴ 1.2
	江戸川	36	8	16	16	8	8	5	1	8	6	5	-	3
		100.0	22.2	44.4	↑ 44.4	22.2	22.2	13.9	2.8	22.2	16.7	▽ 13.9	-	∴ 8.3
	千葉単独	104	16	50	32	12	33	20	2	24	12	22	-	7
		100.0	15.4	↑ 48.1	30.8	∴ 11.5	△ 31.7	19.2	1.9	23.1	∴ 11.5	↓ 21.2	-	∴ 6.7
上中下流別) 東京湾直接流入	325	54	137	105	45	73	60	5	75	52	98	-	10	
	100.0	16.6	42.2	32.3	∴ 13.8	22.5	18.5	1.5	23.1	16.0	30.2	-	3.1	
感潮域	166	25	53	45	38	37	34	3	41	32	54	-	7	
	100.0	15.1	↓ 31.9	27.1	△ 22.9	22.3	20.5	1.8	24.7	19.3	32.5	-	4.2	
順流河川域	181	31	72	55	30	47	35	6	46	31	47	1	9	
	100.0	17.1	39.8	30.4	16.6	26.0	19.3	3.3	25.4	17.1	26.0	∴ 0.6	5.0	
順応管理別) 岩礁域	33	5	18	13	3	7	4	-	4	3	9	-	1	
	100.0	15.2	↑ 54.5	39.4	9.1	21.2	12.1	-	∴ 12.1	9.1	27.3	-	3.0	
湾央湾奥	229	34	76	66	30	35	39	1	56	35	85	-	6	
	100.0	14.8	↓ 33.2	28.8	∴ 13.1	▼ 15.3	17.0	↓ 0.4	24.5	15.3	△ 37.1	-	2.6	
湾奥浅海	75	15	36	28	14	27	16	4	17	15	18	-	2	
	100.0	20.0	∴ 48.0	∴ 37.3	18.7	▲ 36.0	21.3	△ 5.3	22.7	20.0	24.0	-	2.7	
干潟残存	26	5	17	8	2	9	4	1	5	4	6	-	1	
	100.0	19.2	▲ 65.4	30.8	7.7	∴ 34.6	15.4	3.8	19.2	15.4	23.1	-	3.8	
千葉湾央湾奥	34	4	14	7	1	10	6	1	12	2	4	-	2	
	100.0	11.8	41.2	20.6	▽ 2.9	29.4	17.6	2.9	∴ 35.3	↓ 5.9	▽ 11.8	-	5.9	
その他	275	47	101	83	63	69	60	7	68	56	77	1	14	
	100.0	17.1	36.7	30.2	▲ 22.9	25.1	21.8	2.5	24.7	∴ 20.4	28.0	0.4	5.1	

○港湾事業で積極的に実施すべき取り組み

- ・一部を除き、「海底のヘドロの除去」、「海面を浮遊するゴミの回収」、「人工干潟・藻場などの整備」の3選択肢が共通している。
- ・都県別：選択された回答は上記の3つに集中しているが、神奈川県では「海面を浮遊するゴミの回収」が最多となっている。
- ・流域ブロック別：選択された回答は上記の3つに集中しているが、横浜市単独では、「海面を浮遊するゴミの回収」が「海底のヘドロの除去」と同数の最多となっており、3番目の回答数として「緑地の整備」が挙げられている。また、千葉単独では「水質モニタリング」が3番目の回答数となっている。
- ・上・中・下流別：選択された回答は上記の3つに集中しており、層別の差異も見られない。
- ・類型区分別：干潟残存域のみ、「人工干潟・藻場などの整備」が最も多い回答となっており、3番目の回答数として「緑地の整備」が挙げられている。

		Q7-3 積極的に実施するべき取組											
		サンプル数	人工干潟・藻場などの整備	海底のヘドロの除去	覆砂によるヘドロの封じ込め	海面を浮遊するゴミの回収	緑地の整備	水質モニタリング	環境情報データの発信	シンポジウム・セミナー	その他	無回答	
基本分析軸2	全体	672	292	433	76	370	195	122	105	28	8	26	
		100.0	43.5	64.4	11.3	55.1	29.0	18.2	15.6	4.2	1.2	3.9	
	都県別)	東京都	206	85	148	29	108	63	45	33	10	1	6
		100.0	41.3	△ 71.8	14.1	52.4	30.6	∴ 21.8	16.0	4.9	0.5	2.9	
		神奈川県	189	81	117	20	121	56	34	23	7	3	6
		100.0	42.9	61.9	10.6	△ 64.0	29.6	18.0	∴ 12.2	3.7	1.6	3.2	
		千葉県	137	65	77	12	69	37	23	23	6	3	8
		100.0	47.4	▽ 56.2	8.8	50.4	27.0	16.8	16.8	4.4	2.2	5.8	
		埼玉県	140	61	91	15	72	39	20	26	5	1	6
		100.0	43.6	65.0	10.7	51.4	27.9	14.3	18.6	3.6	0.7	4.3	
	流域別)	横須賀三浦	42	16	23	2	28	11	7	5	-	-	3
		100.0	38.1	∴ 54.8	∴ 4.8	∴ 66.7	26.2	16.7	11.9	∴ -	-	-	7.1
		横浜市単独	49	21	32	8	32	12	11	7	1	1	-
		100.0	42.9	65.3	16.3	∴ 65.3	24.5	22.4	14.3	2.0	2.0	∴ -	
		鶴見川	67	29	46	7	43	22	13	6	2	1	2
		100.0	43.3	68.7	10.4	∴ 64.2	32.8	19.4	∴ 9.0	3.0	1.5	3.0	
		多摩川	62	28	34	5	32	22	7	11	7	1	3
		100.0	45.2	∴ 54.8	8.1	51.6	35.5	∴ 11.3	17.7	▲ 11.3	1.6	4.8	
		東京単独①	41	16	29	9	18	12	8	9	2	-	2
		100.0	39.0	70.7	△ 22.0	∴ 43.9	29.3	19.5	22.0	4.9	-	4.9	
		東京単独②	41	18	32	5	22	17	15	4	1	-	-
		100.0	43.9	↑ 78.0	12.2	53.7	↑ 41.5	▲ 36.6	9.8	2.4	-	∴ -	
		荒川	145	55	98	19	77	40	26	27	5	1	5
		100.0	∴ 37.9	67.6	13.1	53.1	27.6	17.9	18.6	3.4	0.7	3.4	
		中川・綾瀬川	85	43	60	9	47	22	12	13	3	1	3
		100.0	∴ 50.6	70.6	10.6	55.3	25.9	14.1	15.3	3.5	1.2	3.5	
		江戸川	36	13	24	4	18	12	4	6	4	1	-
		100.0	36.1	66.7	11.1	50.0	33.3	11.1	16.7	△ 11.1	2.8	-	
	千葉単独	104	53	55	8	53	25	19	17	3	2	8	
	100.0	∴ 51.0	▽ 52.9	7.7	51.0	24.0	18.3	16.3	2.9	1.9	△ 7.7		
上中下流別)	東京湾直接流入	325	139	196	38	178	94	65	49	12	6	14	
	100.0	42.8	∴ 60.3	11.7	54.8	28.9	20.0	15.1	3.7	1.8	4.3		
	感潮域	166	76	124	16	94	41	28	24	6	-	6	
	100.0	45.8	▲ 74.7	9.6	56.6	24.7	16.9	14.5	3.6	∴ -	3.6		
	順流河川域	181	77	113	22	98	60	29	32	10	2	6	
	100.0	42.5	62.4	12.2	54.1	33.1	16.0	17.7	5.5	1.1	3.3		
順応管理別)	岩礁域	33	12	19	2	22	9	4	4	-	-	2	
	100.0	36.4	57.6	6.1	∴ 66.7	27.3	12.1	12.1	-	-	6.1		
	湾中央湾奥	229	99	155	32	133	74	50	31	10	3	5	
	100.0	43.2	67.7	14.0	58.1	32.3	∴ 21.8	13.5	4.4	1.3	∴ 2.2		
	湾奥浅海	75	32	43	7	39	16	16	12	3	3	2	
	100.0	42.7	∴ 57.3	9.3	52.0	∴ 21.3	21.3	16.0	4.0	△ 4.0	2.7		
	干潟残存	26	15	13	2	8	9	3	5	-	-	3	
	100.0	∴ 57.7	∴ 50.0	7.7	▽ 30.8	34.6	11.5	19.2	-	-	△ 11.5		
	千葉湾中央湾奥	34	15	17	3	24	9	7	6	1	-	1	
	100.0	44.1	↓ 50.0	8.8	↑ 70.6	26.5	20.6	17.6	2.9	-	2.9		
	その他	275	119	186	30	144	78	42	47	14	2	13	
	100.0	43.3	67.6	10.9	52.4	28.4	15.3	17.1	5.1	0.7	4.7		

○東京湾再生に対する下水道の役割への認識

- ・一部を除き、各分析軸の各層とも回答が「下水道の高度処理」に集中している。
- ・都県別：東京都・神奈川県では「わからない」が2番目の回答数となっており、千葉県では「わからない」が最多となっている。
- ・流域ブロック別：千葉単独を除く各ブロックで、「下水道の高度処理」が最も多く、2番目・3番目の回答数として「わからない」および「下水道の水洗化普及拡大」が挙げられている。なお千葉単独ブロックでは「わからない」が最多となっている。
- ・上・中・下流別：各層とも「下水道の高度処理」が最多であるが、感潮域（中流）では3番目の回答数として「合流式下水道の改善」が挙げられている。
- ・類型区分別：干潟残存域では「下水道の水洗化普及」が最多、千葉湾中央湾奥では「わからない」が最多となっているほかは、「下水道の高度処理」が最も多い。

		Q8-2 一番役立つと思う施策							
		サンプル数	下水道の水洗化普及拡大	下水の高度処理	合流式下水道の改善	どれも役立っていない	わからない	「下水道」の整備効果を知らない	無回答
基本 分析軸 2	全体	672 100.0	136 20.2	247 36.8	65 9.7	5 0.7	153 22.8	38 5.7	28 4.2
	都県別) 東京都	206 100.0	32 ↓ 15.5	87 ∴ 42.2	15 7.3	-	52 25.2	12 5.8	8 3.9
	神奈川県	189 100.0	37 19.6	72 38.1	18 9.5	2 1.1	43 22.8	9 4.8	8 4.2
	千葉県	137 100.0	31 22.6	33 ▼ 24.1	17 12.4	2 1.5	37 27.0	7 5.1	10 ↑ 7.3
	埼玉県	140 100.0	36 ∴ 25.7	55 39.3	15 10.7	1 0.7	21 ▽ 15.0	10 7.1	2 ∴ 1.4
	流域別) 横須賀三浦	42 100.0	7 16.7	14 33.3	7 ∴ 16.7	-	8 19.0	1 2.4	5 △ 11.9
	横浜市単独	49 100.0	14 ∴ 28.6	20 40.8	2 ∴ 4.1	2 ▲ 4.1	10 20.4	1 2.0	- ∴ -
	鶴見川	67 100.0	9 ∴ 13.4	24 35.8	8 11.9	-	17 25.4	6 9.0	3 4.5
	多摩川	62 100.0	15 24.2	24 38.7	2 ↓ 3.2	-	16 25.8	4 6.5	1 1.6
	東京単独①	41 100.0	8 19.5	16 39.0	2 4.9	-	12 29.3	3 7.3	- ∴ -
	東京単独②	41 100.0	6 14.6	17 41.5	6 14.6	-	9 22.0	1 2.4	2 4.9
	荒川	145 100.0	24 16.6	63 ↑ 43.4	15 10.3	-	30 20.7	8 5.5	5 3.4
	中川・綾瀬川	85 100.0	22 ∴ 25.9	34 40.0	6 7.1	1 1.2	14 ∴ 16.5	6 7.1	2 2.4
	江戸川	36 100.0	7 19.4	11 30.6	3 8.3	-	9 25.0	5 △ 13.9	1 2.8
	千葉単独	104 100.0	24 23.1	24 ▼ 23.1	14 ∴ 13.5	∴ 1.9	28 26.9	3 2.9	9 △ 8.7
	上中下流別) 東京湾直接流入	325 100.0	65 20.0	118 36.3	33 10.2	3 0.9	80 24.6	10 ▽ 3.1	16 4.9
	感潮域	166 100.0	31 18.7	71 ∴ 42.8	16 9.6	-	31 18.7	12 7.2	5 3.0
	順流河川域	181 100.0	40 22.1	58 ∴ 32.0	16 8.8	2 1.1	42 23.2	16 ↑ 8.8	7 3.9
	順応管理別) 岩礁域	33 100.0	6 18.2	13 39.4	6 ↑ 18.2	-	5 15.2	1 3.0	2 6.1
	湾央湾奥	229 100.0	44 19.2	91 39.7	19 8.3	2 0.9	56 24.5	12 5.2	5 ∴ 2.2
	湾奥浅海	75 100.0	14 18.7	25 33.3	8 10.7	-	22 ∴ 29.3	3 4.0	3 4.0
	干潟残存	26 100.0	8 ∴ 30.8	6 ∴ 23.1	4 15.4	-	6 23.1	-	2 7.7
	千葉湾央湾奥	34 100.0	6 17.6	6 ▽ 17.6	6 ∴ 17.6	1 ∴ 2.9	11 ∴ 32.4	2 5.9	2 5.9
	その他	275 100.0	58 21.1	106 38.5	22 8.0	2 0.7	53 ∴ 19.3	20 7.3	14 5.1

○下水道整備による河川の変化

- 各分析軸の各層とも、「川の水質が向上し、長期的には今よりきれいになる」と「川の水質が向上し、多様な生き物が育つ」が1番目または2番目の回答数となっている。
- 都県別：3番目の回答数として、東京都では「川が清流になる」、千葉県では「現状の川を維持することができる」が得られている。神奈川県では「わからない」が3番目の回答数となっている。
- 上・中・下流別：各層とも「わからない」が3番目の回答数となっている。
- 類型区分別：「川の水質が向上し、長期的には今よりきれいになる」と「川の水質が向上し、多様な生き物が育つ」が1番目または2番目の回答数となっている。湾奥浅海域・干潟残存域・千葉湾央湾奥域では「現状の川を維持することができる」が3番目の回答数となっている。

		Q8-2-1 下水道整備による川の変化									
		サンプル数	川が清流になる	川の水質が向上し、多様な生き物が育つ	川水質が向上し長期的には今よりきれい	現状の川を維持することができる	なにも変わらない	よごれを集めて流す為、川が汚れる	わからない	その他	無回答
基本分析軸2	全体	672 100.0	24 3.6	254 37.8	291 43.3	28 4.2	4 0.6	6 0.9	39 5.8	1 0.1	25 3.7
	都県別) 東京都	206 100.0	9 4.4	77 37.4	87 42.2	8 3.9	-	3 1.5	14 6.8	-	8 3.9
	神奈川県	189 100.0	5 2.6	76 40.2	81 42.9	6 3.2	3 ↑ 1.6	-	11 5.8	1 △ 0.5	6 3.2
	千葉県	137 100.0	6 4.4	52 38.0	54 39.4	10 ↑ 7.3	1 0.7	2 1.5	8 5.8	-	4 2.9
	埼玉県	140 100.0	4 2.9	49 35.0	69 △ 49.3	4 2.9	-	1 0.7	6 4.3	-	7 5.0
	流域別) 横須賀三浦	42 100.0	1 2.4	15 35.7	20 47.6	-	-	-	2 4.8	-	4 △ 9.5
	横浜市単独	49 100.0	-	17 34.7	25 51.0	1 2.0	1 △ 2.0	-	4 8.2	-	1 2.0
	鶴見川	67 100.0	3 4.5	30 44.8	21 △ 31.3	5 △ 7.5	2 △ 3.0	-	4 6.0	1 ▲ 1.5	1 1.5
	多摩川	62 100.0	3 4.8	31 △ 50.0	22 35.5	2 3.2	-	-	3 4.8	-	1 1.6
	東京単独①	41 100.0	-	12 29.3	24 △ 58.5	1 2.4	-	-	3 7.3	-	1 2.4
	東京単独②	41 100.0	2 4.9	14 34.1	20 48.8	1 2.4	-	-	2 4.9	-	2 4.9
	荒川	145 100.0	7 4.8	56 38.6	65 44.8	4 2.8	-	2 1.4	8 5.5	-	3 2.1
	中川・綾瀬川	85 100.0	2 2.4	27 31.8	39 45.9	4 4.7	-	1 1.2	4 4.7	-	8 ▲ 9.4
	江戸川	36 100.0	2 5.6	12 33.3	15 41.7	-	-	1 2.8	4 △ 11.1	-	2 5.6
	千葉単独	104 100.0	4 3.8	40 38.5	40 38.5	10 ▲ 9.6	1 1.0	2 1.9	5 4.8	-	2 1.9
	上中下流別) 東京湾直接流入	325 100.0	11 3.4	113 34.8	157 ↑ 48.3	11 3.4	1 0.3	3 0.9	17 5.2	-	12 3.7
	感潮域	166 100.0	6 3.6	63 38.0	71 42.8	7 4.2	1 0.6	2 1.2	11 6.6	-	5 3.0
	順流河川域	181 100.0	7 3.9	78 △ 43.1	63 △ 34.8	10 5.5	2 1.1	1 0.6	11 6.1	1 △ 0.6	8 4.4
	順応管理別) 岩礁域	33 100.0	1 3.0	12 36.4	17 51.5	-	-	-	1 3.0	-	2 6.1
	湾央湾奥	229 100.0	6 2.6	87 38.0	105 45.9	8 3.5	3 △ 1.3	-	14 6.1	1 0.4	5 2.2
	湾奥浅海	75 100.0	2 2.7	27 36.0	37 49.3	3 4.0	-	1 1.3	3 4.0	-	2 2.7
	干潟残存	26 100.0	1 3.8	11 42.3	9 34.6	3 ↑ 11.5	-	1 △ 3.8	1 3.8	-	-
	千葉湾央湾奥	34 100.0	1 2.9	13 38.2	11 △ 32.4	5 ▲ 14.7	1 ↑ 2.9	-	2 5.9	-	1 2.9
	その他	275 100.0	13 4.7	104 37.8	112 40.7	9 3.3	-	4 1.5	18 6.5	-	15 △ 5.5

○下水道整備による東京湾の変化

- ・分析軸の各層とも「水質が向上し、東京湾も少しはきれいになる」が最も多く、次いで「美しく多様な生物が生息する東京湾が再生」が2番目となっており、一部を除き、「東京湾の現状を維持することができる」が3番目の回答数となっている。
- ・流域ブロック別：多摩川流域では「わからない」が3番目の回答数となっている。
- ・上・中・下流別：感潮域（中流）で「わからない」が3番目の回答数となっている。
- ・類型区分別：干潟残存域で「わからない」が3番目の回答数となっている。

		Q8-2-2 下水道整備による東京湾の変化								
		サンプル数	美しく多様な生物が生息する湾が再生	水質向上、東京湾も少しはきれいになる	東京湾の現状を維持することができる	なにも変わらない	よごれを集めて流す為、東京湾が汚れる	わからない	その他	無回答
基本分析軸2	全体	672	178	372	52	4	5	37	3	21
		100.0	26.5	55.4	7.7	0.6	0.7	5.5	0.4	3.1
	都県別) 東京都	206	56	112	15	-	2	11	2	8
		100.0	27.2	54.4	7.3	-	1.0	5.3	1.0	3.9
	神奈川県	189	53	102	15	2	1	9	1	6
		100.0	28.0	54.0	7.9	1.1	0.5	4.8	0.5	3.2
	千葉県	137	34	74	15	1	1	10	-	2
		100.0	24.8	54.0	∴ 10.9	0.7	0.7	7.3	-	1.5
	埼玉県	140	35	84	7	1	1	7	-	5
		100.0	25.0	60.0	5.0	0.7	0.7	5.0	-	3.6
	流域別) 横須賀三浦	42	13	24	2	-	-	1	-	2
		100.0	31.0	57.1	4.8	-	-	2.4	-	4.8
	横浜市単独	49	10	27	7	1	-	3	-	1
		100.0	20.4	55.1	↑ 14.3	∴ 2.0	-	6.1	-	2.0
	鶴見川	67	20	31	6	1	1	4	1	3
		100.0	29.9	∴ 46.3	9.0	1.5	1.5	6.0	∴ 1.5	4.5
	多摩川	62	22	35	1	-	-	3	-	1
		100.0	∴ 35.5	56.5	↓ 1.6	-	-	4.8	-	1.6
	東京単独①	41	7	27	2	-	-	2	1	2
		100.0	∴ 17.1	∴ 65.9	4.9	-	-	4.9	↑ 2.4	4.9
	東京単独②	41	13	22	3	-	-	2	-	1
		100.0	31.7	53.7	7.3	-	-	4.9	-	2.4
	荒川	145	36	85	9	-	2	8	-	5
		100.0	24.8	58.6	6.2	-	1.4	5.5	-	3.4
	中川・綾瀬川	85	23	45	7	1	1	4	-	4
		100.0	27.1	52.9	8.2	1.2	1.2	4.7	-	4.7
	江戸川	36	8	21	3	-	-	3	1	-
		100.0	22.2	58.3	8.3	-	-	8.3	△ 2.8	-
	千葉県単独	104	26	55	12	1	1	7	-	2
		100.0	25.0	52.9	∴ 11.5	1.0	1.0	6.7	-	1.9
	上中下流別) 東京湾直接流入	325	80	186	28	1	2	17	1	10
		100.0	24.6	57.2	8.6	0.3	0.6	5.2	0.3	3.1
感潮域	166	43	98	8	-	2	9	1	5	
	100.0	25.9	59.0	∴ 4.8	-	1.2	5.4	0.6	3.0	
順流河川域	181	55	88	16	3	1	11	1	6	
	100.0	30.4	↓ 48.6	8.8	↑ 1.7	0.6	6.1	0.6	3.3	
順応管理別) 岩礁域	33	10	20	2	-	-	-	-	1	
	100.0	30.3	60.6	6.1	-	-	∴ -	-	3.0	
湾央湾奥	229	60	127	18	2	1	12	2	7	
	100.0	26.2	55.5	7.9	0.9	0.4	5.2	0.9	3.1	
湾奥浅海	75	14	46	10	-	1	2	-	2	
	100.0	∴ 18.7	61.3	↑ 13.3	-	1.3	2.7	-	2.7	
干潟残存	26	10	11	1	-	-	4	-	-	
	100.0	∴ 38.5	∴ 42.3	3.8	-	-	△ 15.4	-	-	
千葉湾央湾奥	34	9	17	4	1	-	2	-	1	
	100.0	26.5	50.0	11.8	↑ 2.9	-	5.9	-	2.9	
その他	275	75	151	17	1	3	17	1	10	
	100.0	27.3	54.9	6.2	0.4	1.1	6.2	0.4	3.6	

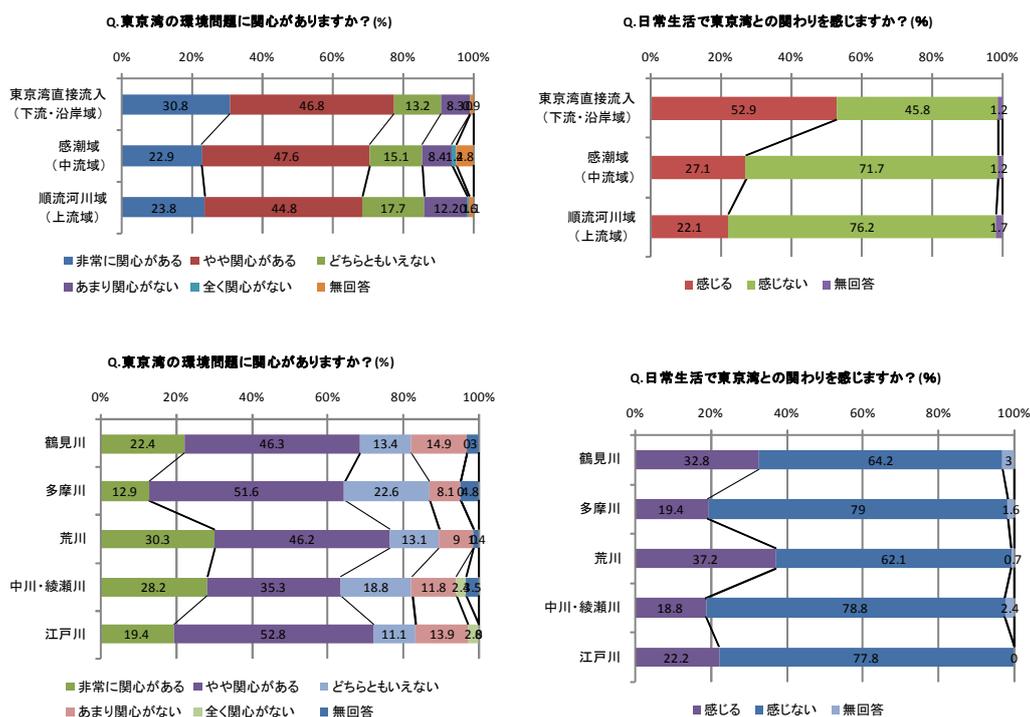
(3) アンケート結果の整理

前述で示した各設問の回答結果の中から、特徴的な事項について整理した結果を以下に示す。

1) 東京湾流域住民の東京湾への関心と日常生活東京湾との関わり

回答者の73%が東京湾の環境問題に関心があり、東京湾に接して暮らす河川下流域または沿岸域の住民の方がやや関心度が高くなる傾向がある。一方、東京湾に近接して生活する東京湾直接流入域の住民の約半数（52.9%）が日常生活において東京湾との関わりを感じているものの、それ以外の地域では7割以上が関わりを感じていない。これを代表的な流入河川の流域別にみると、河川によりやや差異はあるものの、60%以上の住民が東京湾の環境問題に関心があるものの、60%以上の住民が東京湾との関わりを感じていない。

多くの住民が東京湾の環境問題に関心を持っているものの、日常生活との関わりの方から捉えている住民は少ないと考えられる。

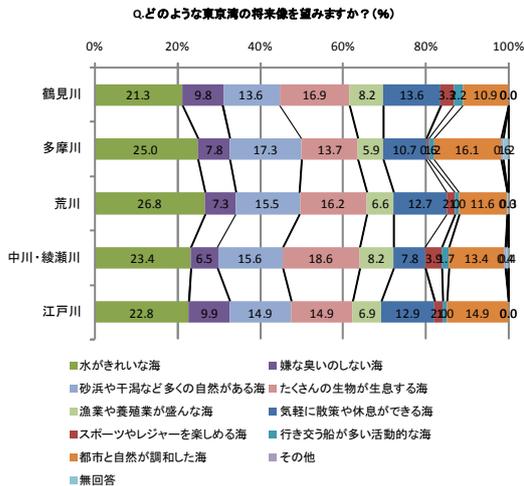
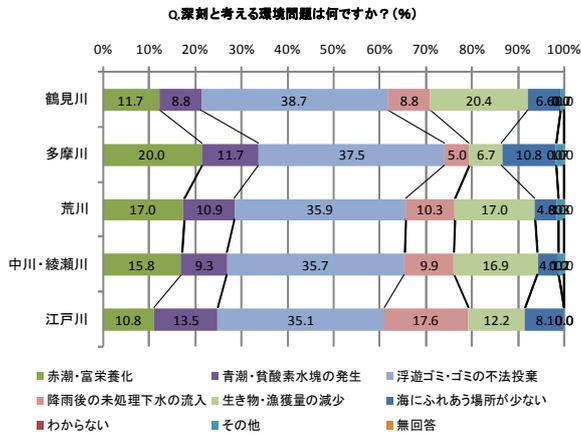
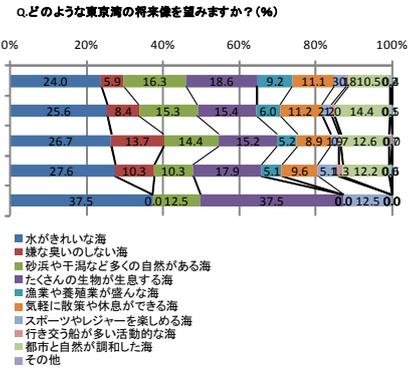
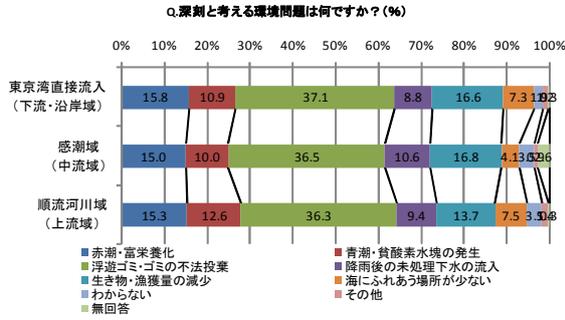


2) 東京湾流域住民が抱く東京湾へのイメージ

深刻と思う環境問題は、生活圈と東京湾との距離に関わりなく「浮遊ゴミ・ゴミの不法投棄」に集中しており、望む将来像も「水がきれいな海」に集中している。代表的な流入河川の流域別にみても同様の傾向となっている。

住民が抱く東京湾像が、海岸に大量に打上げられたゴミや、魚類の大量死等の

マスコミ報道により形成された固定的なイメージとして浸透している可能性があり、環境の回復に伴う生息魚類の増加や人工海浜の整備のような東京湾の実像に関する情報の不足が推察される。



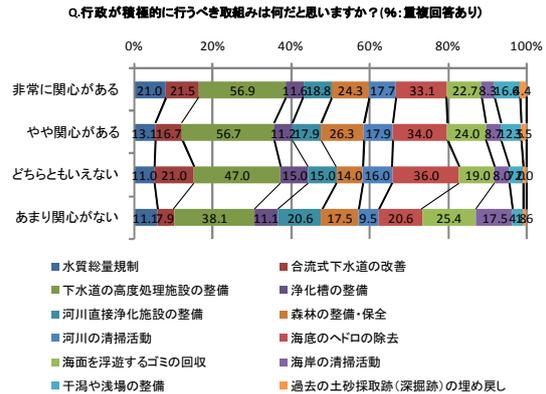
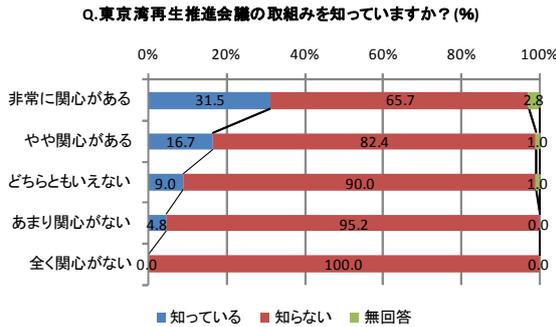
魚類の大量死



大量の漂着ゴミ

3) 東京湾再生の取組みへの認知

東京湾再生推進会議による東京湾再生への取組みに対しては、東京湾の環境問題への関心度が高い住民ほど認知している割合が高いものの、過半数が「知らない」と回答している。こうした傾向を反映して、行政が積極的に行うべき取組みへの回答は関心度に関わりなく下水道の高度処理（38.1～56.9%）や海底のヘドロ除去（20.6～36.0%）といった共通の項目に集中する傾向を示している。



4) 行政の取組みへの参加

行政の取組みへの参加を呼びかけられた場合、東京湾の環境問題への関心度が高い住民でも「内容に応じて参加」が多く、関心度が低くなるにつれて「どちらともいえない」および「わからない」の割合が高くなる。参加したい取組みとしては、「ゴミ清掃」(36.8～46.4%)と「環境学習・体験学習」(26.3～34.9%)の割合が高い。住民は行政の取組みへの参加呼びかけに対して、比較的参加しやすいものまたは楽しめるものを求めていると考えられる。

